

2021年度版

学修のてびき 2021

京都精華大学

← KYOTO SEIKA UNIVERSITY

2017～2020年度入学生向け

2021年度版

学修のてびき 2021

京都精華大学

← KYOTO SEIKA UNIVERSITY

2017～2020年度入学生向け

1 はじめに 004

建学の理念・教育理念	005
教育目標と3つのポリシー	006
沿革	007
学部・研究科の構成	008
年間の流れ	009
ダイバーシティ推進宣言	010

2 学生生活 011

学生生活の基礎知識	012
大学メールアドレス	016
セイカ・ポータル	018
経済的支援	022
学生生活の支援	025
学内のルール	027
緊急事態発生時の対応・事前対策	029
ケガ・体調不良時の対応	030
様々なトラブルを防ぐために	031

3 キャリア支援 033

セイカのキャリア支援	034
------------	-----

4 国際交流 039

セイカの国際交流	040
----------	-----

5 教 学 042

授業科目	043
卒業・修了・進級	047
履修登録	048
授業	050
単位修得	053

6 カリキュラム 059

全学共通カリキュラム	060
------------	-----

芸術学部	072
造形学科	072

デザイン学部	078
イラスト学科 イラストコース	081
ビジュアルデザイン学科 グラフィックデザインコース/ デジタルクリエイションコース	084

プロダクトデザイン学科 プロダクトコミュニケーションコース	088
ライフクリエイションコース	092
建築学科 建築コース	097

マンガ学部	101
マンガ学科 カートゥーンコース	105
ストーリーマンガコース	108
キャラクターデザインコース	111
新世代マンガコース	114
アニメーション学科 アニメーションコース	117

ポピュラーカルチャー学部	121
ポピュラーカルチャー学科 音楽コース/ファッションコース	121

人文学部	129
総合人文学科	129

7 大学院 138

教育方針 139
博士前期課程・修士課程 143
博士後期課程 153

8 資格課程 158

資格課程の概要 159
教職課程 160
博物館学芸員課程 180
図書館司書課程 182

9 諸規程 184

京都精華大学 学則 185
京都精華大学大学院 学則 190
京都精華大学 学位規程 193
京都精華大学 履修規程 195
京都精華大学 各種試験およびレポート等における
不正行為に関する規程 201
京都精華大学大学院 博士前期課程および修士課程
学位審査規則 202
京都精華大学大学院 博士後期課程
学位審査規則 203

10 施設 206

キャンパスマップ 207
学内施設 208
学外施設 218

1

はじめに

INTRODUCTION >

建学の理念・教育理念

京都精華大学の理念

京都精華大学は、1968年にリベラルな政治学者であった初代学長岡本清一を中心まったく新しい大学の創造をめざすべく誕生しました。岡本清一は、学長就任の条件として、「教育の基本方針に関する覚書」を提示しました。この覚書には、京都精華大学の建学の理念ともいえる「人間尊重」「自由自治」がうたわれています。

「人間尊重」「自由自治」を基盤とし、新しい人類史の展開に対して責任を負い、世界に尽力する人材の育成を使命としてきた京都精華大学では、学生、教員、職員がすべて人格的に平等であり、全員が大学の創造に参加しています。

● 教育の基本方針に関する覚書

1. 京都精華短期大学は、人間を尊重し、人間を大切にすることを、その教育の基本理念とする。この理念は日本国憲法および教育基本法を貫き、世界人権宣言の背骨をなすものである。
2. 京都精華短期大学は特定の宗教による教育を行わない。しかし諸宗教の求めてきた真理と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
3. 学生に対しては、師を敬うことが教えられる。師を敬うことなくして、人格的感化と学問的指導を受けることはできないからである。そして敬師の教育を通じて、父母と隣人に対する敬愛の心を養う。
4. 教員の学生に対する愛情責任は、親の子に対するそれが無限であるように、無限でなければならない。職員もまた教員に準じて教室外教育の一斑の責任を負う。
5. 学内における学生の自由と自治は尊重され、その精神の涵養がはかれる。従って学生は、学内の秩序と環境の整頓に対して責任を負わなければならない。
6. 礼と言葉の紊れが、新しい時代にむかって正され、品位のない態度と言葉とは、学園から除かななければならない。
7. かくしてわが京都精華短期大学における教育の一切は、新しい人類史の展開に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成にささげられる。

教育理念

初代学長岡本清一の建学理念は、その時々を担う人々によって新しい理解が加えられ、時には議論の対象となってきました。2003年春、建学理念の継承と再生を図るため、京都精華大学はあらためてその使命と基本理念を明らかにしました。

● 京都精華大学の使命

1. 京都精華大学は、人間を尊重し人間を大切にすることを教育の基本とし、学問・芸術によって、人類社会に尽くそうとする自立した人間の形成を目的とする。
2. 京都精華大学は、社会に責任を負う自立した人間の形成という目的のために、恒に現実の社会的視点を維持し、広く社会に貢献する活動を行う。
3. 京都精華大学は、教員、職員、学生によって一個の有機的社会を構成し、この大学社会における人間的な交流を基礎にして教育を行う。

● 京都精華大学の基本理念

1. 京都精華大学は、広く国内外に開かれた教育を行う。人間が国家、宗教、民族の対立を乗り越えて共に生きるためには、その価値観の違いを超えて人間的な信頼関係を創出しなければならず、国家、宗教、民族を超えた人間的な交流の体験が必須である。
2. その教育において、特定の宗教・思想による教化を行わない。しかし、歴史を通じて人類が求めてきた普遍的な価値と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
3. その教育は、共生を目指し、なお自立する人間の形成を目的とするために、現実の人間の問題を扱う学問・芸術の探求に基づき行わなければならない。その知的資源の創造的な編成と運用は、広く国内外に貢献することを目指さなければならない。
4. そのように現実社会に対する建設的批判と貢献を目指す、京都精華大学の教育と研究の活動は、また恒に現実と対峙し社会的視点を維持する大学の経営によって保障されねばならない。
5. 京都精華大学は、教員、職員、学生に開かれた大学社会を組織し、この社会を人格的平等主義に基づき運営する。各構成員が自覚的に選択した価値観は、対等にこれを尊重し、特定の価値観の絶対化は、人間の自由を抑圧し個人の自立を妨げるものとして、これを拒否する。
6. この大学社会は、構成員の自己啓発と相互の建設的批判によって日々刷新され、新たな教育と研究の土壌を形成する。品位のない態度と言葉は、この大学社会から除かれなければならない。構成員間の身分差別は、本学の理念とは無縁である。
7. すべての構成員は、この大学社会の規範に従うことが求められるとともに、新しい大学の創造に参加する権利を有する。

教育目標と3つのポリシー

教育目標（目指すべき人材像）

京都精華大学は、日本国憲法および教育基本法を貫き、世界人権宣言の背骨をなす「人間尊重」を教育の基本とし、「自由自治」を建学の理念としています。この考えのもと、社会の課題を克服し、全人類が幸福に共生する地球社会を築く人間の形成を目標としています。私たちはこの目標を実現するために、以下に定める能力・資質を備え、それらを総合的に発揮できる人間を育成します。

	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)
1 知識・理解・技能	<p>1 多様性を理解する力 人類の文化、社会と自然に関する幅広い知識と多角的な視点を身につけている</p> <p>2 専門知を活用する力 特定の学問分野における知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている</p>	<p>1 高等学校の教育課程における基礎学力・技能を有している</p>	<p>京都精華大学は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、全学教養科目、全学専門科目、学部専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。</p> <p>教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。</p> <p>1 教育内容</p> <p>(1)全学教養科目 全学教養科目は、専門教育を相対化しその社会的意義と本質を捉える力を伸ばすため、様々な学問領域にわたる教養科目を配置します。</p> <p>(2)全学専門科目 全学専門科目(副専攻、コラボレーション)では、芸術・文化の専門性に加えて、専門的能力を社会に展開し、役立てるための科目を配置します。</p> <p>(3)学部専門科目 学部専門科目では、専門分野の基礎から専門的知識・技能や主体的に取り組む態度を修得し、それらを総合的に活用する力を養うため、体系的に科目を配置します。</p>
2 思考・判断・表現	<p>1 論理的に思考し判断する力 自ら設定した課題について、多角的な視点から論理的かつ客観的に分析・考察し、解決できる</p> <p>2 考えを表現する力 修得した知識・技能・態度を基に、知性と感性を適切に表現できる</p> <p>3 多様な人とコミュニケーションする力 社会的な文脈を判断して、他者に自分の考えを伝達できる</p>	<p>1 身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて思考できる</p> <p>2 他者の意見を理解し、自分の考えをわかりやすく表現できる</p>	<p>2 教育方法</p> <p>(1)学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。</p> <p>(2)授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。</p> <p>(3)学修ポートフォリオの作成指導により、学生の自律的な学修を支援します。</p>
3 関心・意欲・態度	<p>1 他者と協働する力 自らの個性や適性を活かして行動し、目標を持って多様な人々と協働できる</p> <p>2 社会と他者に貢献する力 修得した知識や技能を適用し、社会の課題解決に貢献できる</p>	<p>1 新しい領域や多様な人々に対して先入観なく向き合い、生涯にわたって学習を継続する意欲がある</p> <p>2 学びたい学部・学科の知識や経験を社会で活かしたいという目的意識を持っている</p>	<p>3 学修成果の評価</p> <p>本学では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「学部・学科レベル」「科目レベル」の2つのレベルで把握し、評価します。</p> <p>各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。</p> <p>①学部・学科レベルの評価は、学部学科所定の教育課程における卒業要件達成状況(単位取得、GPA)、進級要件達成状況(単位取得、GPA)により行います。</p> <p>②科目レベルの評価は、シラバスで提示された科目の学修目標に対する評価により行います。</p>

沿革

京都精華大学は、1968年に英語英文科、美術科の2学科をもつ短期大学として開学しました。1979年に美術学部を有する4年制の大学となってからは、1989年に人文学部の開設、2006年にデザイン学部、マンガ学部の開設、2013年にポピュラーカルチャー学部を開設するなど、学問の領域をつねに広げてきました。2018年には創立50周年を迎え、今後も新たな挑戦を続けていきます。

1968年	4月	京都精華短期大学開学。 美術科・英語英文科を設置。
1973年	4月	美術科デザインコースにマンガクラスを設置。
1979年	4月	京都精華大学開学。美術学部造形学科、美術学部デザイン学科を設置。
1989年	4月	人文学部人文学科を設置。
1991年	4月	京都精華大学大学院を設置(美術研究科造形専攻・デザイン専攻)。
1993年	4月	大学院人文学研究科を設置。
2000年	4月	人文学部に環境社会学科を設置。 芸術学部デザイン学科にビジュアル・コミュニケーションデザイン分野・ 映像分野・プロダクトコミュニケーション分野を設置。 芸術学部マンガ学科(ストーリーマンガ分野・カートゥーンマンガ分野)を設置。
2003年	4月	人文学部に社会メディア学科・文化表現学科を設置。 大学院芸術研究科に博士後期課程を設置。
2006年	4月	デザイン学部(ビジュアルデザイン学科・プロダクトデザイン学科・建築学科)を設置。 マンガ学部(マンガ学科・マンガプロデュース学科・アニメーション学科)を設置。 芸術学部素材表現学科・メディア造形学科を設置。
	11月	京都国際マンガミュージアムを開設(京都市との共同事業)。
2009年	4月	人文学部を再編し、総合人文学科を設置。
2010年	4月	大学院芸術研究科を再編し、デザイン研究科デザイン専攻修士課程・ 建築専攻修士課程およびマンガ研究科マンガ専攻修士課程を設置。
2012年	4月	大学院マンガ研究科に博士後期課程を設置。
2013年	4月	ポピュラーカルチャー学部ポピュラーカルチャー学科を設置。 ビジュアルデザイン学科を再編し、イラスト学科を設置。 マンガ学科にギャグマンガコース・キャラクターデザインコースを設置。
2017年	4月	芸術学部造形学科・素材表現学科・メディア造形学科を再編し、造形学科を設置。 マンガ学科に新世代マンガコースを設置。
2021年	4月	ポピュラーカルチャー学部と人文学部を再編し、メディア表現学部と国際文化学部を設置。 人間環境デザインプログラムを開設。 プロダクトデザイン学科にファッションコースを設置。

学部・研究科の構成

※2017～2020年度入学生の学部構成です。

芸術学部

造形学科

- 洋画専攻
- 日本画専攻
- 立体造形専攻
- 陶芸専攻
- テキスタイル専攻
- 版画専攻
- 映像専攻

デザイン学部

イラスト学科

- イラストコース

ビジュアルデザイン学科

- グラフィックデザインコース
- デジタルクリエイションコース

プロダクトデザイン学科

- プロダクトコミュニケーションコース
- ライフクリエイションコース

建築学科

- 建築コース

マンガ学部

マンガ学科

- カートゥーンコース
- ストーリーマンガコース
- キャラクターデザインコース
- 新世代マンガコース

アニメーション学科

- アニメーションコース

ポピュラーカルチャー学部

ポピュラーカルチャー学科

- 音楽コース
- ファッションコース

人文学部

総合人文学科

- 文学専攻
- 歴史専攻
- 社会専攻

大学院

人文学研究科 修士課程

芸術研究科 博士前期課程／博士後期課程

デザイン研究科 修士課程

マンガ研究科 博士前期課程／博士後期課程

※2021年度からの学部構成は次のとおりです。

国際文化学部

人文学科／グローバルスタディーズ学科

メディア表現学部

メディア表現学科

芸術学部

造形学科

デザイン学部

イラスト学科／ビジュアルデザイン学科／
プロダクトデザイン学科／建築学科

マンガ学部

マンガ学科／アニメーション学科

[学部横断プログラム]

人間環境デザインプログラム

年間の流れ

	行事	セメスター制(前期・後期)	クォーター制(1Q・2Q・3Q・4Q)
4月	入学式		
	新入生ガイダンス	新入生前期履修登録	新入生1Q・2Q履修登録
		前期授業開始	1Q授業開始
5月		前期履修取消	1Q履修取消
6月			2Q履修登録変更
			2Q授業開始
7月			2Q履修取消
8月	夏季休暇		
9月	夏季休暇		
	3Q/後期ガイダンス	後期履修登録	3Q・4Q履修登録
10月		後期授業開始	3Q授業開始
		後期履修取消	3Q履修取消
	学園祭		
11月			4Q履修登録変更
12月			4Q授業開始
	冬季休業		
1月			4Q履修取消
2月	卒業・修了展		
	春季休暇		
3月	春季休暇		
	卒業式		
	在学生ガイダンス	在学生前期履修登録	在学生1Q・2Q履修登録

詳細は、「セイカ・ポータル」および大学Webサイトに掲示された「学年暦(大学カレンダー)」で確認してください。

ダイバーシティ推進宣言

京都精華大学とダイバーシティ

京都精華大学は、ダイバーシティという言葉がまだ日本社会に浸透していなかった大学設立時から、様々な差異をもつすべての大学構成員が尊重され人格的に平等であることを、教育の基本として歩んできました。大学を取り巻く社会が世界規模で大きく変わりゆくなかで、2016年にダイバーシティ推進宣言を発表し、その基本となる考え方を改めて表明。そして2018年、ダイバーシティ推進の具体的なコンセプトとともに、学内でのダイバーシティの明確な定義と推進内容について盛り込んだ、新たな宣言文を策定しました。

ダイバーシティ推進コンセプト

『違いとともに成長する』

ダイバーシティ推進宣言2018

京都精華大学は、自由自治を建学理念に掲げ、世界人権宣言にもとづく人間尊重を教育の基本理念とする大学として、学生・教員・職員をはじめとする全構成員が、互いの差異を通じてともに成長してゆく組織を目指します。そのために、本学ではダイバーシティを「多様なバックグラウンドや属性を持つ人々が違いを受容し合い、対等に機会が開かれること」と定義し、これを推進します。

年齢、人種、性別、身体的特徴、性表現など表面的に認識されやすいものから、国籍、宗教、家庭環境、出自、働き方、性自認、性的指向など表面からは認識されにくいものまで、私たちは1人1人異なる属性を複数持っているはずで、誰もが多様で差異がある、という考えに立ち、一部のバックグラウンドや属性を理由にした不自由、差別や排除がないキャンパス環境を、修学・教育・研究・就労の観点から活動方針に沿って着実に整えます。

本学の考えるダイバーシティ推進とは、制度や仕組みの整備のみを指すものではありません。人間の多様性に触れる機会を学内の様々な場面で継続的に設けることで、共生の意識を醸成します。違いを理解しようとするプロセスで生まれる「価値観の変化」や「他者への想像力」こそが新しい発見や思考につながり、構成員全体の創造性を高めると考えるからです。変化し続け不安定さが増す今後の世界において、新しい価値をもたらすことができる大学であるために、ここにダイバーシティのさらなる推進を宣言します。

2018年4月 学長 ウスビ サコ

在学生に向けた具体的な取組み

- 誰でも参加できる、多様性に関する知識や理解を深めるイベントを年内に複数回開催しています。
- 性別違和、通称名使用などの事由による学籍簿の氏名・性別記載変更を認めています。
- 定期健康診断で、性別違和や健康上の事情を抱える人を対象に専用の時間帯を設けています。
- 大学で発行する全ての証明書に性別の記載はありません。
- 誰でも利用できる「みんなのトイレ」を学内24カ所に設置しています。
- 学食のメニューに食肉表示を記載しています。
- 障がいのある学生の学修支援を行っています。

2 学生生活

◀ CAMPUS LIFE

学生生活の基礎知識

1. 事務局各種窓口案内

学生生活の様々な場面において、事務局の職員がサポートします。各部署の事務取り扱い時間、取り扱い内容は以下の通りです。

事務取り扱い時間(授業期間)

月～金曜日 9:00～18:00

土曜日 9:00～17:30

※授業期間外の事務取り扱い時間は「セイカ・ポータル」に掲示します。

取り扱い内容

窓口	取り扱い内容	場所	連絡先
[学生グループ] 学生支援チーム キャリア支援チーム 障害学生支援室	各種相談(学生生活・進路・海外留学・休退学・復学など)／各種証明書発行(学生証・学割・健康診断書など)／各種紹介(アルバイト・住まい)／奨学金／学生教育研究災害傷害保険／国民年金保険料学生納付特例の申請／拾得・遺失物届／車両一時乗り入れ申請／課外活動(クラブ・サークル活動)／教室・学外施設利用の申請／就職活動支援(求人情報の閲覧、進路就職ガイダンス、企業説明会)／障害学生支援／留学生支援／国際学生寮(修交館)など	本館 1階	学生支援チーム TEL:075-702-5101 キャリア支援チーム TEL:075-702-5130 障害学生支援室 TEL:075-702-5268
[教学グループ] 教務チーム	各種相談(授業・履修・成績など)／各種証明書発行(在学証明書・成績証明書・卒業見込み証明書など)／授業・試験情報／資格課程に関する相談・申請、大学コンソーシアム京都(単位互換)科目申込／転学部・転学科・転コース相談など	本館 1階	TEL:075-702-5119
[学長室グループ]	公開講座／情報館事務等	本館 2階	(※)
[グローバル推進グループ]	国際交流プログラム支援	本館 4階	(※)

(※)2021年2月末時点で調整中です。最新情報は、大学Webサイトで確認してください。

2. 学籍

(1)学籍 学籍とは学校における籍のことです。本学の学籍を有するとは、本学に在籍している学生であることを示しています。

(2)学籍番号 一人ひとりの学生に学籍番号が付与されます。

例 **221** **G** **001**
 入学年度 (2021年度) 個人番号
 学科・コース(右記参照)

2017年度以降入学生

G 造形 F イラスト V グラフィックデザイン Q デジタルクリエイション
 D プロダクトコミュニケーション R ライフクリエイション A 建築
 M カートゥーン N ストーリーマンガ S 新世代マンガ
 K キャラクターデザイン Y アニメーション
 Z 音楽 B ファッション L 総合人文

※編入生は221の次に各学科・コース記号が入り、2年次生は21番から3年次生は31番から始まります。大学院はM(修士)またはD(博士)がつきます。

(3) 学生証

学生証は本学の学生である身分を証明するものです。したがって、常に携帯し、確認を求められた場合はただちに提示してください。学内では事務局窓口で各種手続きを行う場合や情報館への入館、各種証明書発行の際などに必要です。また、学外では通学定期券購入や本学が提携する美術館などの文化施設で特別優待を受ける際に提示が求められます。学生証を紛失した場合は速やかに学生支援チームで再発行の申請をしてください。申請方法については、P.14「各種証明書の発行方法」を参照してください。

(4) 学籍情報の変更

学生の個人情報、入学試験出願時の情報に基づき、本学のデータベースに登録されています。入学後、個人情報に変更が生じた際は、以下の方法で変更の手続きを行ってください。

① 住所・電話番号・学費支弁者・保証人などの変更 (帰省先の住所・電話番号を含む)

学生生活支援総合サイト「セイカ・ポータル(※P.18参照)」から手続きを行ってください。

② 氏名の変更

学生本人の氏名変更は、学生支援チームで手続きを行ってください。

※性別違和、通称名使用の希望などの事由による氏名・性別表記の記載変更についても、学生支援チームに問い合わせてください。

(5) 学籍の異動と学籍に関する諸制度

① 休学

休学とは、学生が疾病またはその他の事由により、3カ月以上就学することができない場合、学長の許可を得て、当該学期に大学を休むことです。

【休学を願い出る際の留意点】

- ・ 休学をするためには、休学をしようとしている学期以前の学費が完納されている必要があります。
- ・ 休学期間中の学費は、半期10,000円です。ただし、休学手続き期限は、前期:3月31日、後期:9月30日であり、当該期限を過ぎると通常の授業料が発生します(期限日が事務取り扱い日でない場合は、直前の事務取り扱い日を期限日とします)。休学期間については学修状況も踏まえ、手続き前に担当教員とよく相談してください。
- ・ 休学期間は半期(前期・後期)または1年間です。ただし、特別の理由がある場合は継続して1年(連続で2年)を限度に延長することができます。なお、兵役による休学のみ休学期間を連続で3年間まで認めます。
- ・ 休学期間満了日の2週間前までに「復学願」「休学願」「退学願」のいずれかの提出がない場合は除籍となります。必ず手続きを行ってください。

② 復学

復学とは、休学期間の満了に伴い、大学に復帰することです。

③ 退学

退学とは、学生が疾病、その他の事由によって大学を辞めることです。

④ 除籍

除籍とは、大学の決定により学生の身分を失うことです。学則に定められている除籍の主な理由は次の通りです。

- ・ 所定の在学年限(最長8年間)を超える場合(ただし、休学期間などを除く)
- ・ 所定の授業料等学費の納付を怠り、その督促を受けてもこれを納付しない場合
- ・ 休学期間の満了に伴い、復学の手続きを行わない場合

⑤ 再入学

本学を退学した者、または除籍となった者は、退学または除籍の日より2年以内であれば再度入学することができます。再入学審査の結果、大学がこれを許可すれば再度本学の学籍を有することができます。なお、再入学については入学金が免除されます。

休学・復学・退学に関する申請・手続きについて

休学・復学・退学の申請・手続きの詳細については、大学Webサイトを参照してください。

また、休学・退学を検討する必要がある場合は、早期に担当教員、または学生支援チームに相談してください。

3. 大学Webサイトでの情報取得について

大学Webサイトにも施設利用や各種申請手続き、奨学金情報など大学生活に関する基本情報を掲載しています。PCとスマートフォンに対応していますので、必要に応じて情報を確認してください。



「京都精華大学 在学生の方」 <https://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/>

4. 通学

通学に際しては、公共交通機関、スクールバス、自転車などを利用してください。自動車による通学は認められません。

(1) 通学定期券を購入するには

公共交通機関の通学定期券を購入する際には、各機関の窓口で学生証の裏面に貼付された「通学証明書」を提示してください。通学証明書は毎年更新が必要です。例年4月に学生支援チームで配布しますので、必ず貼り替えてください。

(2) スクールバス

無料で利用できるスクールバスは、地下鉄「国際会館」駅と大学の間を運行しています。授業がない日曜日・祝日・施設使用禁止日は運行しません。また、大学行事や長期休暇中などは運行ダイヤが変わりますので、その都度、大学Webサイトやバス停で時刻表を確認してください。

(3) 自転車・バイクによる通学

自転車・バイクによる通学に際しては、学内の駐輪場を利用してください。所定の場所以外での駐輪は認められていません。また、盗難を防ぐために自転車・バイクは必ず施錠し、ヘルメットやそのほかの付属品は持ち歩くようにしてください。

(4) 自動車の一時乗り入れ

制作材料・資材の搬入などにより、自動車の乗り入れが必要な場合は、学生支援チームにて「車両一時乗り入れ票」の発行を受け、一時的に駐車することができます。手続きの際には学生証の提示が必要となります。

5. 各種証明書の発行方法

証明書は、本館1階に設置の「証明書自動発行機」にて発行を申し込むことができます。申し込みの際は「学生証」もしくは「セイカ・ポータルのユーザーIDとパスワード」が必要となります。

※本学が発行するすべての証明書に性別の記載はありません。

表記	証明書	手数料	発行時期	手続き方法	注意事項
日本語版	在学証明書	200円	即時発行	不要	
	健康診断書	200円	即時発行	不要	学内の定期健康診断を受診した人に対してのみ発行
	成績証明書	200円	即時発行	不要	
	卒業見込証明書	200円	即時発行	不要	卒業年次生のみ発行
	修了見込証明書	200円	即時発行	不要	修了年次生のみ発行
	各種資格取得見込証明書	200円	申込から1週間後		
英語版	在学証明書	500円	申込から1週間後	証明書自動発行機より「納付書」を発行のうえ、教務チーム窓口にて申込	パスポートのコピーが必要となります
	成績証明書	500円	申込から1週間後		パスポートのコピーが必要となります
	卒業見込証明書	500円	申込から1週間後		卒業年次生のみ発行 パスポートのコピーが必要となります
	修了見込証明書	500円	申込から1週間後		卒業年次生のみ発行 パスポートのコピーが必要となります
	学割証	無料	即時発行	不要	有効期間:発行日より3カ月間 発行可能枚数:年間1人あたり10枚まで
	学生証の再発行	1000円	申込から2~3日後	証明書自動発行機より「申込書」を発行のうえ、学生支援チーム窓口にて申込	学生証が手元に無くても 申込書の出力が可能です

6. 学費について

学費納入期日

前期1期	前期2期	後期1期	後期2期
4月30日	7月31日	10月31日	1月31日

学費の口座自動振替を利用する方は、各月の26日に一括で引き落とされます。

学費納入を困難にする経済的事情が発生したときは速やかに身近な教職員や学生支援チームに相談してください。

授業料

学部		芸術学部	デザイン学部	マンガ学部	ポピュラーカルチャー学部	人文学部
前期	1期	387,500円	394,750円	394,750円	394,750円	271,500円
	2期	387,500円	394,750円	394,750円	394,750円	271,500円
後期	1期	387,500円	394,750円	394,750円	394,750円	271,500円
	2期	387,500円	394,750円	394,750円	394,750円	271,500円
合計		1,550,000円	1,579,000円	1,579,000円	1,579,000円	1,086,000円

大学院		博士前期課程・修士課程		博士後期課程
		実技系 芸術・デザイン・マンガ研究科	理論系 人文学・芸術・デザイン・マンガ研究科	芸術・マンガ研究科
前期	1期	262,500円	187,500円	187,500円
	2期	262,500円	187,500円	187,500円
後期	1期	262,500円	187,500円	187,500円
	2期	262,500円	187,500円	187,500円
合計		1,050,000円	750,000円	750,000円

※学部生・大学院生ともに、初年度のみ入学金200,000円と学費をあわせて納入します。

※本学卒業生・修士生は、博士前期課程・修士課程、博士後期課程の入学金が免除されます。

学費の延納手続きについて

やむを得ない事情により、学費納入期日までに支払いができない場合は、経理チームからの案内を「セイカ・ポータル」で確認し、所定の期間内に延納願を提出してください。延納期日を過ぎても学費が未納であり、督促を受けても学費が納入されない場合は、学費未納による除籍となります。

大学メールアドレス

1. 大学メールアドレス (Gmail) の付与

在学中は、学生一人ひとりに京都精華大学メールアドレス(Gmail、～@stu.kyoto-seika.ac.jp)が付与されます。教員や事務局に連絡する際は、こちらの大学メールアドレスから送信してください。また、この大学メールアドレスは、みなさんに連絡するための情報として教職員で共有しています。大学からの重要なお知らせが届きますので、毎日1回必ず確認してください。

メールアドレスカード

京都精華大学メールアドレスカード
220A000 セイカ タロウ

京都精華大学Webサービス(履修登録等)
ユーザID: s220a000 パスワード: [blacked out]

京都精華大学メール(Gmail)
ユーザー名: s220a000 パスワード: [blacked out]
メールアドレス: s220a000@stu.kyoto-seika.ac.jp

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ 0123456789

京都精華大学メール(Gmail)用
[ユーザー名]、[パスワード]
[メールアドレス]

注意

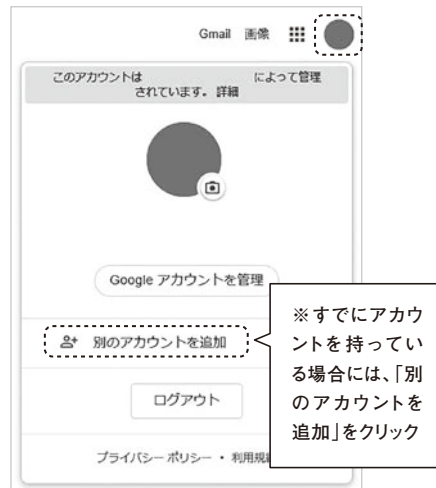
『京都精華大学メールアドレスカード』には、個人の「京都精華大学Webサービス」用のユーザID・パスワードおよび、「京都精華大学メール(Gmail)」用のメールアドレス・パスワードが記載されています。大変重要な情報ですので、各自で厳重に管理してください。これらが第三者に漏れるとメールを読まれたり、成りすましてメールを使用されたりする危険性があります。万が一、メールアドレスカードを紛失した場合は、すみやかに情報管理窓口(対峰館1館)までご相談ください。

2. 大学メールアドレスの確認方法

(1) パソコンで確認する場合

- ① 任意のWebブラウザでGoogleのトップページにアクセスします。
- ② 画面右上のログインボタンをクリックするとログイン画面が表示されます。

※すでにアカウントを持っている場合には、
アイコンから「別のアカウントを追加」をクリックしてください。

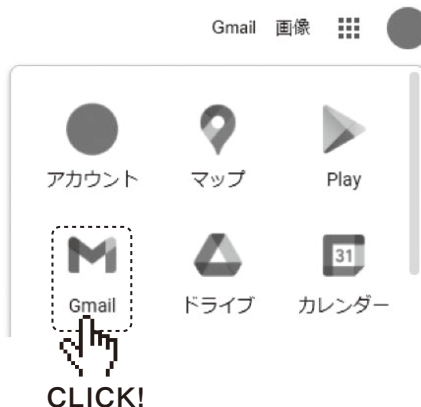


- ③ 以降は画面の案内に従い『京都精華大学メールアドレスカード』に記載されている「京都精華大学メール(Gmail)」の【メールアドレス】と【パスワード】を入力し、【次へ】をクリックします。

以下を入力し **次へ** をクリック
メール:
「京都精華大学メール(Gmail)」のメールアドレス
パスワード:
「京都精華大学メール(Gmail)」のパスワード



- ④ メニューよりGmailをクリックしてください。



(2) スマートフォンおよびタブレットで確認する場合

Webブラウザでパソコン使用時と同様にアクセスするか、無料のメールアプリを活用することをおすすめします。

セイカ・ポータル

1. セイカ・ポータルとは

「セイカ・ポータル」とは、本学学生専用の学生生活支援総合サイトです。履修登録手続きを行うほか、学生生活や授業、進路、就職支援に関する重要な情報が掲載されていますので、必ず1日1回はログインして情報を確認してください。

「セイカ・ポータル」の主な機能は以下のとおりです。

(1) 履修登録・履修取消

履修登録および履修取消の手続きは「セイカ・ポータル」で行います。
手続き期間を過ぎると履修登録・取消ができなくなりますので、期間内に忘れず手続きを行ってください。

(2) 時間割の確認

履修登録手続き後、決定した時間割はいつでも「セイカ・ポータル」で確認することができます。
履修登録した授業科目と自分の時間割に誤りがないか、必ず履修登録期間後に確認してください。

(3) 成績、単位修得状況の確認

各学期に履修した授業科目の成績、およびその学期までの単位修得状況は、
学期末に「セイカ・ポータル」で確認することができます。

(4) 休講・補講・教室変更情報の確認

履修登録を行った授業が休講になった場合の情報、休講になった授業の補講に関する情報を確認できます。
また、履修登録を行った授業の教室が何らかの事情により変更になった場合も変更後の教室を「セイカ・ポータル」で確認できます。
休講・補講・教室変更の情報はメール（～@stu.kyoto-seika.ac.jpのアドレス）で受け取ることもできます。

(5) 学修ポートフォリオの蓄積

ディプロマ・ポリシーに対応した7種の能力がどれだけ身についているかをレーダーチャート形式で確認できます。
その他、これまでの単位修得状況やGPAの推移などを一括して確認できます。

(6) 学びと成長シートの作成

各学期の開始時にアドバイザー教員との面談を実施しています。
面談に先立って、卒業後および当該学期の目標を「セイカ・ポータル」より入力します。

(7) その他授業に関する情報の確認

オリエンテーションの案内など授業全体に関わる情報のほか、
課題の提出締め切りなど履修登録を行った授業科目に関する情報が確認できます。

(8) 学生生活に関する情報の確認

健康診断や奨学金説明会の案内、施設の利用や各種イベント情報など学生生活に関する情報が「セイカ・ポータル」に掲載されます。

(9) 就職や進路などキャリア関係の情報の確認

キャリアガイダンスや企業説明会、就職試験対策講座の案内など、就職や進路決定に役立つ情報が掲載されます。

(10) アンケートへの回答

「セイカ・キャンパスライフ・アンケート」や「授業評価アンケート」など、アンケートへの回答を「セイカ・ポータル」で行います。

2. 利用上の注意

「セイカ・ポータル」の利用にあたってはいくつかの注意点がありますので、必ず以下に目を通してから利用してください。

(1) 利用環境について

「セイカ・ポータル」は、パソコンおよびスマートフォンやタブレット型端末で利用することができます。



(2) 利用が勧められているブラウザソフトを使ってください

ブラウザソフト(インターネットでホームページなどを閲覧するときに使うソフトウェア)は、Internet Explorer 11、Google Chrome、Safari、Firefox、Microsoft Edge の利用をおすすめしています。それ以外のソフトでは表示位置がずれるなど、うまく機能しないことがあります。

(3) 0:00～6:00の間は「セイカ・ポータル」を利用できません

毎日0:00～6:00の時間帯は、データのバックアップを行いますので、「セイカ・ポータル」を利用することはできません。

(4) 30分間、操作ボタンをクリックしないと、ページの有効期限が切れ、再度ログインが必要となります

履修登録手続き中にページの有効期限が切れると、情報が正しく登録されません。定期的に「チェック」ボタンをクリックするといった対処方法を取ってください。

3. セイカ・ポータルへのログイン

(1) セイカ・ポータルへのアクセス

Internet Explorer 11、Google Chrome、Safari、Firefox、Microsoft Edgeなどのブラウザソフトを立ち上げて、以下のURLにアクセスしてください。ログイン画面が表示されます。

<https://portal.kyoto-seika.ac.jp/>

(サイト上でログイン後にスマホ版とPC版を切替可能です)

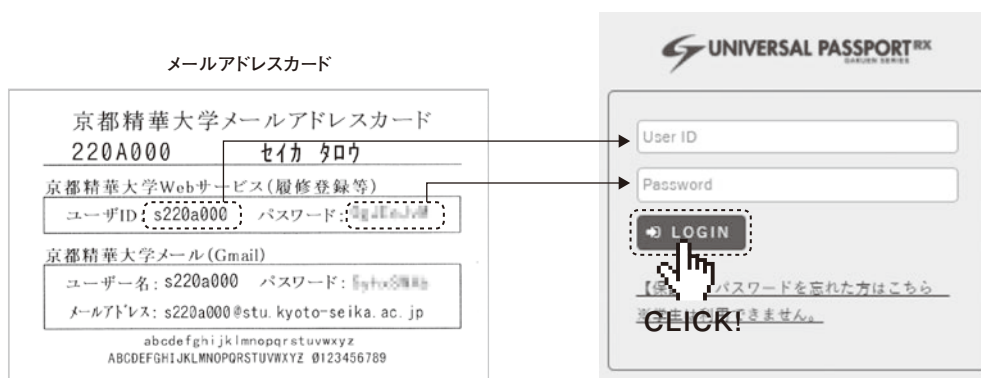


QRコード

(2) セイカ・ポータルへのログイン

入学時に配布された名刺サイズの「メールアドレスカード」に記載されたユーザーIDとパスワードをログイン画面の所定ボックスに入力して、「LOGIN」ボタンをクリックしてください。

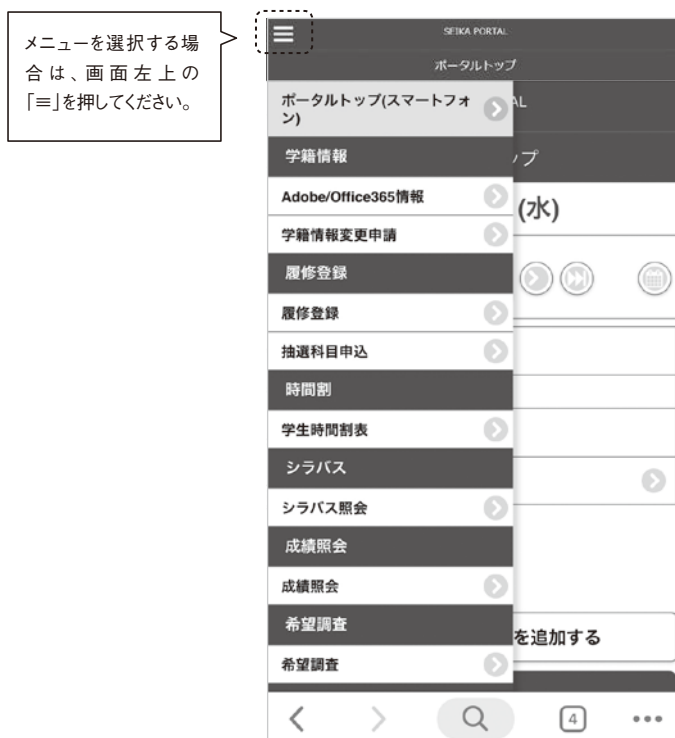
※「メールアドレスカード」を紛失した場合は、情報管理窓口で再発行の手続きを行ってください。



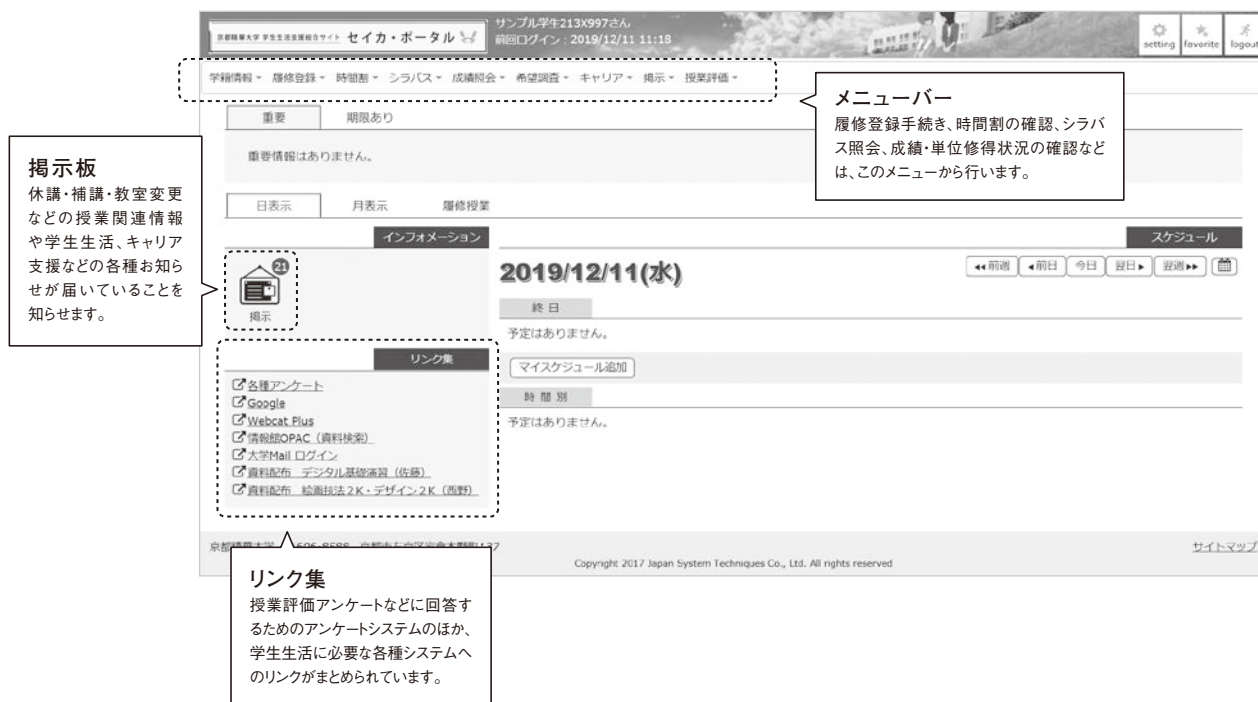
(3) スマホ版のログイン後のトップ画面は以下のような構成となっています。



(メニュー表示画面)



(4) PC版のログイン後のトップ画面(以降、トップ画面)は以下のような構成となっています。



※ログイン後にスマホ版とPC版の切り替えはできません。一度ログアウトし、再度ログインしてください。

4. セイカ・ポータルのマニュアル揭示

各種機能の操作マニュアルは、セイカ・ポータルの掲示板および  アイコンより確認できます。

(1) 掲示板で確認する

以下の手順で確認してください。

PC版 「掲示板」▶ キーワード検索窓にて「セイカ・ポータル利用マニュアル」と入力 ▶ 「検索」ボタンをクリック

スマホ版 「掲示板」▶ 「検索する」バー右の「+」ボタンをクリック ▶
 キーワード検索窓にて「セイカ・ポータル利用マニュアル」と入力 ▶ 「検索」ボタンをクリック

(2) マークより確認する

右上にマークが表示されているページは、表示しているページに関連した各機能のマニュアルが揭示されています。履修登録などのマニュアルを揭示していますので必要に応じて確認してください。

経済的支援

1. 奨学金制度

奨学金は減免・給付型と貸与型と大別されます。減免・給付型とは、返済の必要のない奨学金で、貸与型は返済しなければならない奨学金です。また、奨学金には本学が独自に設けている制度と、国やそのほか地方自治体などが設けている制度があります。

(1) 京都精華大学独自の奨学金

奨学金の種類	金額(年間)	対象	採用人数	選考基準(抜粋)	時期
経済支援 給付奨学金 減免	250,000円	経済的な理由で 修学が困難な学生 2018年度 入学生 国内学生 全学部	各入学年度 ごとに 最大50名	●家計:世帯の構成と収入の状況を審査し、困窮度の高い者から採用 ●成績:標準的な単位数を前年度中に修得していること(1年あたり31単位)、進級していること	要項公表:5月下旬 申込締切:6月下旬 採否決定:7月下旬
成績優秀者 給付奨学金 減免	250,000円	優秀な成績を修めた4年生 2018年度 入学生 国内学生 全学部	10名程度	●家計:なし ●成績:前年度GPAを審査し、学部・学年の上位1%以内の者	採否決定:6月上旬 ※採用者のみ 通知します
ファミリー在籍 支援給付奨学金 減免	200,000円	親子・兄弟姉妹が同年度に 本学に在籍する場合に 後から入学する学生 2018年度 入学生 国内学生 全学部・ 研究科	若干名	●家計:世帯の構成と収入の状況を審査し、困窮度の高い者から採用 ●成績:すべての重複在籍者が標準的な単位数を前年度中に修得していること(1年あたり31単位)、進級していること	要項公表:5月下旬 申込締切:6月下旬 採否決定:7月下旬
借入利子 補助奨学金 給付	最大 50,000円 貸与を受けた ローンの当年 度中に支払った 利子相当額	学費支弁者が提携教育ローン を利用している学生 2018年度 入学生 国内学生 全学部・ 研究科	若干名	●家計:世帯の構成と収入の状況を審査し、困窮度の高い者から採用 ●成績:標準的な単位数を前年度中に修得していること(1年あたり31単位)、進級していること	要項公表:12月下旬 申込締切:1月下旬 採否決定:2月下旬
家計急変学生の ための奨学金 減免	最大 500,000円	学費支弁者の家計に 急変が発生した学生 2020年度 以前入学生 国内学生 全学部	20名程度	●家計:入学以降に解雇・離別・破産・急病・風水害などの家計急変の事由が発生した学生を対象に、困窮度・緊急度を総合的に審査 ●成績:なし	【1期】 要項公表:7月下旬 申込締切:8月下旬 採否通知:9月下旬 【2期】 要項公表:12月下旬 申込締切:1月下旬 採否通知:2月下旬
自然災害等の 被災者に対する 学費減免等 救済措置 減免	給付: 最大半期学費	災害救助法の適用地域に 本人もしくは学費支弁者が 居住する学生 入学年度の 制限なし 国内学生・ 留学生 全学部・ 研究科	不定	●家計:被災状況と家計、国や地方公共団体による支援状況、学内外の奨学金利用状況を総合的に審査 ●成績:なし	災害発生時
短期奨学貸付金 貸与(無利子)	最大 30,000円	学生生活維持のために 緊急の出費を要する学生 入学年度の 制限なし 国内学生・ 留学生 全学部・ 研究科	不定	●30,000円を上限として貸付を行います ●家計・成績による選考はなく随時受付を行います。休学中の学生は申請ができません ●貸付金は貸与から6カ月以内に返還する必要があります	随時

※募集時期は変更する可能性があります。「セイカポータル」の掲示を確認してください。

奨学金の種類	金額	対象	採用人数	選考基準(抜粋)	時期
交換留学奨学金 給付	200,000円	本学の海外協定校へ 交換留学を行う学生 2020年度以前入学生 国内学生・留学生 全学部・研究科	最大9名	●家計:なし ●成績等:GPA、TOEFLスコア、志望理由書に基づき書類選考	要項公表:4月上旬 申込締切:7月下旬 採否決定:8月下旬
海外プログラム履修学生貸与金 貸与(無利子)	学生が負担する費用の半額	本学の海外プログラムに参加する学生 ※プログラム実施学期終了から1年以内に返還できる者 2016年度以降2020年度以前入学生 国内学生・留学生 全学部・研究科	不定	●家計・成績の選考基準:なし ●貸与金はプログラム実施学期終了から1年以内に返還する必要があります	要項公表:4月上旬 申込締切:7月下旬 採否決定:8月下旬
人文学部フィールドスタディーズ海外履修奨励奨学金 給付	100,000円	「フィールドスタディーズ1~6」を海外において履修する3年生 2016年度以降2020年度以前入学生 国内学生・留学生 人文学部	最大29名	●家計:なし ●成績等:GPA、TOEFLスコア、志望理由書に基づき書類選考	要項公表:4月上旬 申込締切:12月上旬 採否決定:12月中旬
私費外国人留学生学費減免 減免	学部:年間学費の25%相当額 博士前期・修士課程:40%相当額 博士後期課程:80%相当額	私費外国人留学生 ※学部は2~4年生のみ、研究科は全学年 2017年度以降2020年度以前入学生 留学生 全学部・研究科	学部:2~4年に在学する私費外国人留学生の70%を上限 博士前期・修士課程1年生、博士後期課程:資格を満たす者全員 博士前期・修士課程2年:資格を満たす者のうち成績上位25名	●家計:所定の基準を満たすこと ●成績:所定単位数の修得、GPA2.5以上(学部・博士前期、修士課程) / 所定単位数の修得、GPA3.0以上、研究の進捗が良好であること(博士後期課程)	要項公表:5月中旬 申込締切:6月中旬 採否決定:7月中旬
私費留学生給付奨学金 給付	学部: 360,000円(月額30,000円) 研究科: 504,000円(月額42,000円)	私費外国人留学生 ※学部は2~4年生のみ、研究科は全学年 2016年度以前入学生 留学生 全学部・研究科	学部:2~4年に在学する私費外国人留学生の70%を上限 研究科:資格を満たす者全員	●家計:文部科学省外国人留学生学修奨励費と同額以上の奨学金を受給していないこと ●成績:所定の単位数を修得していること、前年度成績GPA2.5以上であること	要項公表:5月中旬 申込締切:6月中旬 採否決定:7月中旬
私費外国人留学生学修奨励給付奨学金 減免	500,000円	優秀な成績を修めた学部2~4年生および博士前期、修士課程2年生 2017年度以降2020年度以前入学生 留学生 全学部・博士前期、修士課程	学部: 最大10名 博士前期・修士課程: 最大5名	●家計:なし ●成績:所定の単位数を修得し、前年度GPAが3.0以上の学生から上位の者を採用	採否決定:6月上旬 ※採用者のみ 通知します
大学院学費減免 減免	年間学費の80%相当額	博士後期課程に在学する経済的に修学困難な学生 2020年度以前入学生 国内学生 博士後期課程	資格を満たす者全員	●家計:主たる家計支持者の収入が基準額以下であること(給与所得者:841万円、それ以外:355万円) ●成績:2・3年生は所定単位数の修得、GPA3.0以上、研究の進捗が良好であること	要項公表:5月中旬 申込締切:6月中旬 採否決定:7月中旬
博士後期課程研究奨励奨学金 減免	750,000円	本奨学金の申請前年度に、当該年度の日本学術振興会特別研究員DC1・DC2の書類選考に合格するも、面接審査において不採用となった学生 2020年度以前入学生 国内学生・留学生 博士後期課程	資格を満たす者全員	●家計:なし ●成績:2・3年生は所定単位数の修得、GPA3.0以上、研究の進捗が良好であること	対象者確認:4月上旬 採否決定:7月下旬

※募集時期は変更する可能性があります。「セイカポータル」の掲示を確認してください。

(2) 日本学生支援機構奨学金

経済的理由によって修学が困難な学生を支援する国の教育事業です。返済不要の給付型奨学金と、卒業後に返還が必要な貸与型奨学金があります。例年4月に申込説明会を実施しますので、希望者は「セイカ・ポータル」を確認し、必ず出席するようにしてください。

なお、給付型奨学金の採用者は授業料等減免も同時に受けることができます(高等教育の修学支援新制度)。

	奨学金の種類	金額(月額を以下から選択)	対象	利用実績 (2020年9月時点)	選考基準(成績)
学部	第一種 貸与(無利子)	20,000円~40,000円、最高月額 54,000円 (自宅通学・1万円単位で選択) 20,000円~50,000円、最高月額 64,000円 (自宅外通学・1万円単位で選択) ※最高月額を選択するためには 一定の家計基準を満たす必要があります	経済的理由により修学が困難で、 人物・学業が優秀な学生 入学年度の制限なし 日本人 全学部	341人 (在学生の10.4%が利用)	●GPA上位3分の1以上 ●留年状態にないこと
	第二種 貸与(有利子)	20,000円~120,000円 (1万円単位で選択)	経済的理由により修学に 困難がある学生 入学年度の制限なし 日本人 全学部	692人 (在学生の21.1%が利用)	●学修に意欲があり学業を確実に修了できる見込があると認められること ●留年状態にないこと
	修学支援新制度 (給付奨学金+授業料減免) 給付	[給付奨学金] 12,800円~42,500円(自宅通学) 25,300円~75,800円(自宅外通学) ※家計により定められます [授業料等減免] 233,400円~700,000円(授業料) ※家計により定められます	住民税非課税世帯及び それに準ずる世帯の学生 保護者の死亡や解雇、被災などによる 家計急変があった学生 入学年度の制限なし 日本人 全学部	236人 (在学生の7.2%が利用)	●GPA上位2分の1以上 または標準単位数修得のうえ 学修計画書提出
	旧制度 給付奨学金 (2019年以前の申込) 給付	30,000円~40,000円	特に経済的に 厳しい状況にある学生 2019年度以前入学者 日本人 全学部	6人 (在学生の0.2%が利用)	募集停止
研究科	第一種 貸与(無利子)	博士前期:50,000円、88,000円 博士後期:80,000円、122,000円	経済的理由により修学が困難で、 成績が特に優れる学生 入学年度の制限なし 日本人 全研究科	4人 (在学生の2.5%が利用)	●将来、高度の専門性を要する職業等に必要能力を備えて活躍することができる人と認められる人 ●留年状態にないこと
	第二種 貸与(有利子)	50,000円、80,000円 100,000円、130,000円、150,000円	経済的理由により修学が困難で、 成績が優れる学生 入学年度の制限なし 日本人 全研究科	2人 (在学生の1.3%が利用)	●学修に意欲があり学業を確実に修了できる見込があると認められること ●留年状態にないこと

(3) その他

各地方公共団体・民間育英団体が運営する奨学金制度については、学生支援チームに問い合わせてください。

2. 学資ローン

民間の金融機関や日本政策金融公庫など国の金融機関が、個人を対象に資金使途を教育関連費用に限定したローン制度を設けています。制度の詳細については、大学Webサイトを参照してください。

3. 国民年金学生納付特例制度

現在、日本国内に住むすべての人は20歳になった時から国民年金の被保険者となり、保険料の納付が義務づけられています。所得の少ない学生については、申請により在学中の保険料の納付が猶予される「学生納付特例制度」が設けられています。本制度の手続きは学生支援チームで行うことができます。

学生生活の支援

1. 教員に相談するには

本学の専任教員に相談・質問がある場合は、オフィスアワーを利用することができます。オフィスアワーとは、指定された時間帯であれば、教員の研究室を訪れ、授業に関する質問や学生生活に関する相談などを行うことができる制度です。各教員が設けているオフィスアワーの時間帯は、「セイカ・ポータル」もしくは教務チームで確認することができます。

2. 学生相談室(カウンセリング・フリールーム)

「気分が落ち込む」「悩みや心理的な不調がある」といったとき、身近に悩みごとや困りごとを相談できる人がいないとき、本館3階にある学生相談室で臨床心理士の資格を持ったカウンセラーに相談することができます。また精神科クリニック等を教えてほしいという場合にも、こちらで相談を受け付けています。カウンセリングは予約制ですので、右の2つの方法のどちらかで申し込んでください。

また、学生相談室には「フリースペース」があります。「授業の合間にちょっと休みたい」「横になって静かにボーっとしたい」といったときにくつろぎスペースとして利用できますので、気軽にたずねてみてください。開室時間は平日10:30～18:00です。臨時的閉室などは学生相談室前の掲示などで確認してください。

1. 専用アドレス gakusou2020@kyoto-seika.ac.jp にメールを送信する

2. 「予約申込票」を記入し、学生相談室前のポストに投函する

※メールには「氏名・学籍番号・学部・学年・相談したいこと・来室可能な曜日と時間帯」を記載してください。

※「予約申込票」は学生相談室前や本館1階の学生支援チーム前などに置いてあります。

3. なんでも相談窓口

「どこに相談したらいいかわからない」「一度話を聴いてほしい」といったときには体育館3階の「なんでも相談窓口」を利用することができます。授業のこと、生活のこと、人間関係のこと、将来のことなど、皆さんの大学生活のさまざまな悩みや疑問の解決に向けて、社会福祉士の資格を持ったキャンパスソーシャルワーカーがお手伝いします。また必要に応じて環境調整を行ったり、学内外の相談窓口や支援機関を案内します。予約なしでも相談できますが、予約を取ってもらうこともできます。メールは nandemo@kyoto-seika.ac.jp です。ほかにポータル配信なども随時行っていますので、確認のうえ、気軽に“なんでも”相談してください。

4. ハラスメントに関する相談窓口

ハラスメントとは、言葉や行為により、相手方に不利益や不快感を与え、その尊厳を傷付けることを意味します。本学では、ハラスメントに関する学内相談窓口を設置しています。また、相談者のプライバシー保護を優先し、秘密を厳守します。

●電話・Eメール相談窓口 ハラスメント相談室

[学生支援チーム] 受付時間 9:00～17:00(月曜日～金曜日)
TEL 075-702-5265 E-mail gsoudan@kyoto-seika.ac.jp

[総務チーム] 受付時間 9:00～17:00(月曜日～金曜日)
TEL 075-702-5336 E-mail soudan@kyoto-seika.ac.jp

●手紙による相談窓口

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137番地
京都精華大学 学生支援チームまたは総務チーム
ハラスメント相談室 宛

5. 障害学生支援

障害学生支援の窓口として「障害学生支援室」を設置し、障害があるなどの理由により修学上何らかの支援が必要な学生の相談に応じ、必要に応じた修学支援を行っています。困りごとはあるけれど、必要な支援が具体的に分からない場合も、ぜひ相談してください。また、講義の情報保障(ノートテイク、字幕制作など)について、在学生の学生サポーターが担っています。障害学生支援室では、学生サポーターの募集・養成を随時行っており、「セイカ・ポータル」等で案内しますので、サポート活動に興味のある方はご参加ください。

●連絡先 TEL 075-702-5268 E-mail shien@kyoto-seika.ac.jp ●場所 本館1階 学生支援チーム内

6. 定期健康診断

春季オリエンテーション期間中に学内で定期健康診断を無料で受診することができます。自身の健康状態の確認のために必ず受診してください。とりわけ教職課程の介護等体験対象者や就職活動を控えた3・4年生は、体験先や企業に健康診断書を提出する必要があります。

定期健康診断を受けず、後で健康診断の必要が生じた場合は自費(15,000円程度)で受診することになります。

健康診断の日程は学部・学年別に指定されます。ただし、性別違和や健康上の理由などで別日程の受診を希望する人を対象に専用の時間帯を設けていますので、希望者は学生支援チームに相談してください。

7. 動物園・美術館・映画館などの優待

(1) 学生証の提示により無料・優待価格で利用できる施設

京都国立近代美術館／国立国際美術館／京都国立博物館／奈良国立博物館／細見美術館／茶道資料館／
京都市動物園(学生支援チームで無料入場券を配布)／京都国際マンガミュージアム

※詳細は大学Webサイトで確認してください

(2) 京都市キャンパス文化パートナーズ制度

本学は京都市キャンパス文化パートナーズ制度に加入しています。同制度は、京都市が学生に対して文化芸術に対する理解を深める機会を与えるものです。本学の学生は、この制度に登録・入会すると、学生証と会員証の提示により、次の文化施設を利用する場合に優待を受けることができます。文化施設や登録・入会手続(無料)方法などの詳細は、京都市Webサイトで確認してください。

URL <http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000111091.html>

元離宮二条城／無鄰菴／京都市京セラ美術館(主催展に限る)／岩倉具視幽棲旧宅／京都市学校歴史博物館／
大谷大学博物館／京都工芸繊維大学美術工芸資料館／京都大学総合博物館／立命館大学国際平和ミュージアム／
龍谷大学龍谷ミュージアム／京都市青少年科学センター／京都伝統産業ふれあい館／京都万華鏡ミュージアム姉小路館／
大西清右衛門美術館／京都紋り工芸館／高台寺掌美術館／島津製作所創業記念資料館／西陣くらしの美術館富田屋／
藤森神社宝物殿／宮井ふろしき・袱紗ギャラリー／霊山歴史館(幕末維新ミュージアム)

8. 無償で利用できるソフトウェア

本学は各種ソフトウェア会社と独自のライセンス契約を結んでいるため、在籍する学生はすべて以下のソフトウェアを無償で使用できます。

(1) Adobe Creative Cloud 「After Effects」「Illustrator」「InDesign」「Photoshop」など

(2) Microsoft Office 「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」など

※上記ソフトウェアを利用できるのは、在学期間中に限られます。 ※ソフトウェアの利用に関する詳細は、情報管理窓口(対峰館1階)にお問い合わせください。

9. アルバイトの紹介

大学では学生の皆さんへ安心できるアルバイト情報を提供しています。アルバイトの紹介方法は下記の二通りです。

(1) インターネットを利用したアルバイト情報の閲覧・申込み

利用登録には大学で交付するE-mailアドレスが必要です。アルバイト情報紹介システム <https://www.aines.net/kyoto-seika> から、E-mailアドレスを使用し、登録を行うとIDとパスワードを取得できます。登録後は24時間いつでもアルバイト情報を閲覧することができます。

※大学のE-mailアドレスを取得していない方は、情報管理担当(対峰館1階)にて手続きを行ってください。

(2) 本館前掲示板でのアルバイト情報の閲覧・申込み

学生支援チーム掲示板に学内アルバイトの求人票を掲示しています。
紹介を受けたい求人票の番号を学生支援チームへ申し出て「紹介状」を受け取ってください。

※(1)のアルバイト紹介システムとは異なる求人情報を掲示しています。

10. 住まいの紹介

1人暮らしを始めるにあたり、住まいを探す際には、本学が提携している業者の紹介を受けることができます。

株式会社 フラットエージェンシー 北大路駅前店 ☎ 0120-44-0669 営業時間 10:00~18:00 定休日 水曜日(2月~3月は無休)

11. 学外アトリエ「the SITE」

本学が所有するレンタルスペースです。京都市左京区に所有する校舎をリノベーションし、アトリエ・事務所・店舗として貸し出しています。

学外アトリエ「the SITE」 所在地 京都市左京区田中東春菜町30番地3

アクセス 叡山電鉄叡山本線「元田中」「茶山」駅 徒歩5分 賃料 4.5万円から13万円+消費税(共益費8,000円+消費税)

問い合わせ先 総務チーム TEL 075-702-5131

学内のルール

1. 忘れ物・落とし物の取り扱い

学内で忘れ物・落とし物をした場合、または拾得した場合は、学生支援チームへ届け出てください。持ち主が判明した場合は本人に連絡をします。また、持ち主が分からない拾得物は、3カ月間を限度に保管します。

※キャッシュカードやクレジットカードなどを紛失した場合は、速やかに最寄りの交番へ届け出るとともに、銀行または発行会社に必ず連絡してください。

2. 郵便物の取り扱い

学生個人宛の郵便物や宅配便などは受け付けません。自宅でも受け取るよう手配してください。

3. 京都精華大学環境方針

本学では、2018年4月1日にウズビ・サコ学長のもと、以下の環境方針を策定しています。

(1) 基本理念

京都精華大学は「自由自治」を教育理念とし、芸術・文化の教育を通して、あたらしい社会と文化の創造に取り組んでいる。本学は、その活動を基盤として、ひとつひとつが自然と調和し、自由と平和を享受できる未来の実現をめざす。これは、自然環境、社会環境、生活環境といった人間をとり巻くあらゆる次元での環境において追求されるものである。そのために、大学の教育活動によって、環境に関する意識を醸成するとともに、様々な実践をとり入れて、人類史の展開に尽くそうとする人間の育成をはかる。

(2) 基本方針

- ① 京都精華大学の教員・職員・学生および常駐する委託会社社員を含めた全員が協力し、自然環境と共生した人間を含めた生物にとって健康かつ安全で快適なキャンパス空間の創造につとめる。
- ② 大学の教育活動を通じ、学生の環境意識を形成し、一人ひとりが責任と自覚を持ち、自発的に行動できる人間の育成につとめる。
- ③ 大学が社会的存在であることをふまえ、学生の社会的成長をうながすための、社会に開かれた教育プログラムを設定し、展開する。
- ④ あらゆる活動において、使用エネルギーの削減、資源の有効利用など、エネルギー効率を高める方策に積極的に取り組み、また環境汚染を予防するための関連法規などを遵守する。

4. 快適なキャンパスライフのためにできること

快適なキャンパスライフを維持するために、本学の構成員として実行してください。

(1) ごみ分別は「義務」です

- ① 日常のごみは、種類別に分別廃棄する
 - ② 制作ごみは、朝夕館横の集積場に分別廃棄する
- ※P.28「京都精華大学ごみ分別表」参照
※正しく分別しないと回収を断られることがあります。
※特に「紙ごみ」と「プラスチックごみ」を「燃えるごみ」に入れるケースが目立ちます。

(2) 限りある資源やエネルギーは大切に

- ① 教室や実習室はこまめに消灯、エアコンや換気扇のスイッチもOFF
- ② 冷房は28℃、暖房は20℃設定にする
- ③ トイレの暖房便座は必ずふたを閉める
- ④ 余ったペンキや溶剤類は、流しや水路に流さず、ウエスで拭き取り、「燃えるごみ」に出す
- ⑤ 「プラスチックごみ」、「缶・ペットボトル」、「紙ごみ」はリサイクルのため分別してごみに出す

(3) 安全で快適なキャンパスを作り、守る



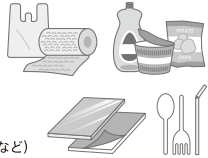









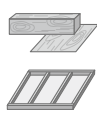






- ① 実習室や設備などは整理整頓し、きれいに使う
 - ② バイクは専用駐車場にとめる(キャンパス内乗り入れ禁止)
 - ③ 自転車は押して歩く(キャンパス内走行禁止)
 - ④ 指定喫煙場所以外は禁煙(歩きタバコ、ポイ捨て禁止)
- ※P.207キャンパスマップ参照
⑤ 点字ブロックの上や付近に物を置かない(一時的であってもダメ)

5.ごみの分別について

大学から出すごみは分別することが義務となっています。大学の構成員として、以下の分別表に従ったごみの分別を行ってください。正しく分別しない場合、ごみ回収を断られることがあります。不明な点は下記担当(施設・情報管理チーム 施設管理担当)までご連絡、ご相談ください。

京都精華大学ごみ分別表

適切に分別しましょう
～混ぜればごみ、分ければ資源～

 <p>プラスチック</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ビニール類 (ビニール紐・PPバンド・梱包材など) ●プラスチック製容器・包装※1 (カップ・キャップ・フィルム・ラベルなど  が付いたもの) ●発泡スチロール※2 ●スチレンボード※2 ●プラスチック製品 (クリアファイル・ペン・ディスク・ラミネートされたものなど) 	<p>※1: ・飲食物がついた容器は、洗うか汚れをふき取ること ・インク類の空容器は朝夕館の集積場へ</p> <p>※2: ・細かく削ったものは透明ビニール袋にまとめること ・サイズが大きいものは朝夕館の集積場へ</p>	
 <p>缶・ペットボトル</p>	<p>●飲料用の缶・ペットボトル</p>  <p>⚠ 次のものはリサイクル不可のため燃えるごみへ ・飲料残しやごみは入れないこと ・溶剤缶やスプレー缶は朝夕館の集積場へ ・菓子缶などはごみ箱前に置くこと</p>	<p>飲食用ガラスびん</p> <p>専用回収箱へ</p>  <p>⚠ 溶剤類のびんは朝夕館の集積場へ ・割れたびんは袋に入れごみ箱の前に置くこと</p>	
 <p>紙・紙製品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●コピー用紙・メモ用紙 ●ハガキ・チラシ・ポスター ●封筒 ●画用紙 ●包装紙・紙袋・紙箱・紙筒 ●ボール紙・クラフト紙 <p>⚠ 次のものはリサイクル不可のため燃えるごみへ 紙コップ・紙パック・写真・ビニールコート紙・シール・圧着はがき・和紙・金紙・銀紙・汚れた紙類など</p>	<p>古紙回収となるもの</p> <p>ごみ箱の横にまとめて置く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●段ボール ●新聞紙、雑誌、書籍 ●シュレッダーごみ 	<p>機密書類</p> <p>段ボールに詰め、封をせず 施設管理担当まで</p>  <p>⚠ クリップやファイル、機密性のないチラシや封筒などは入れないこと</p>
 <p>燃えるごみ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生ごみ ●わりばし ●紙コップ・紙パック ●合成紙・粘着紙(写真・光沢紙・粘着シールなど) ●感熱紙(レシート・カーボン紙など) ●耐油紙(ハラフィン紙・トレーシングペーパーなど) ●汚れた紙類(使用済みティッシュ類・食品や油で汚れた紙皿やシートなど) ●布(ウエス・ぞうきん・不織布など) ●その他(輪ゴム・ガムテープなど) 	<p>⚠ 汚れたプラスチックは、洗うか汚れを拭き取りプラスチックへ</p> <p>実習室内のごみ箱も「燃えるごみ」と同様です。</p> 	
<p>ごみ箱に廃棄できないもの 朝夕館の集積場に分別してください</p> <p>朝夕館の搬入は 9:00~16:00  搬入時には必ず用務員さんに声をかけてください</p>			
<p>廃プラスチック</p> <p>※上記ごみ箱に入らないサイズの大きいもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発泡スチロール ●スタイロフォーム ●樹脂制作物 ●FRP制作物 <p>⚠ プラスチック以外の素材は取り除くこと</p>	<p>木くず</p> <ul style="list-style-type: none"> ●パネル ●コンパネ ●看板  <p>⚠ 木以外の素材は取り除くこと</p> <p>⚠ おがくずは透明ビニール袋にまとめ突明館前へ</p>	<p>陶磁器・ガラスくず</p>  <p>⚠ 包装紙などは取り除くこと</p>	
<p>溶剤類の缶・びん</p>  <p>⚠ 少量残っている場合はウエス等で拭き取ること ・スプレー缶は使い切り穴をあけて中を空に</p>	<p>石膏くず</p>  <p>⚠ 液状の石膏は乾燥させること</p>	<p>電化製品・大型ごみに関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコン ●パソコン・プリンター ●大型ごみ(畳・ソファなど) <p>※家電リサイクル料金がかります</p> <p>⚠ 処理を希望される場合は、事前に施設管理担当まで(個人所有物は大学では処理できません)</p>	
<p>廃蛍光灯</p> 	<p>電池類</p> <p>専用回収箱へ</p> 	<p>⚠ その他、各学科・コースで特有なもの(廃液など)は個別に回収しています</p>	
<p>金属くず</p> 			

【施設・情報管理チーム 施設管理担当】 TEL:075-702-5228

緊急事態発生時の対応・事前対策

1. キャンパス内で火災・地震が発生した際の対応

(1) 火災が発生した(火災を発見した)場合

- ① 大声で周囲に知らせ、火災報知機を押す。または通報する。

施設・情報管理チーム TEL 075-702-5228
警備棟 TEL 075-722-3729 消防署 TEL 119

- ② 廊下または実習室内に設置してある消火器や消火栓で初期消火をする。

消火器の使用法

1. 安全栓(黄色いリング)を抜く
2. ホースを外し、火元に向ける
3. レバーを強く握り、放射する(消火器の放射時間は15秒!)
4. 1本で消せない場合は周囲に応援を呼ぶ

- ③ 初期消火できない場合は、安全な場所へ避難する。

避難にはエレベーターを使わず、必ず階段を使うこと。
煙が発生している場合は、身をかがめて低い姿勢になり、ハンカチで口を覆うなど煙を吸い込まないようにすること。

(2) 地震が発生した場合

- ① 丈夫な机の下に避難し、衣類やかばんなどで頭を守るなど身の安全を図る。
- ② 窓や扉を開けるなど出口を確保する。
- ③ 必ず火を止め、万一出火した場合は初期消火をする。
- ④ 扉を開けたままにし、負傷者を優先し、安全な場所へ避難する(すぐに外に出ないこと)。

●避難場所はグラウンドです。

※火災予防のため日ごろから消火器や消火栓、防火扉の前には物を置かないでください。

※廊下や階段、非常口は避難経路となるため日ごろから物を置かないよう心がけてください。

2. 災害に備えた対策・基礎知識

(1) 日頃の対策

被害や不安を少しでも軽減するために以下の対策をしておきましょう。

- ① 避難場所の確認(大学付近および自宅周辺など)
- ② 家族との連絡方法および待ち合わせ場所の確認
- ③ 災害用伝言サービスの確認と登録(事前登録が必要な場合があります)
- ④ 帰宅ルートおよび所要時間の確認
- ⑤ 転倒防止対策や緊急時アイテムの確認
- ⑥ 大学および友人などへの連絡方法の確認およびリスト整備

(3) 家族への連絡方法

① NTT災害用伝言ダイヤルサービス

地震など大災害発生時、電話がつながりにくい状況になったときに、提供されるサービスです。

●伝言の録音方法

- ①「171」へ電話をかけます。ガイダンスが流れます。
- ②「1」をダイヤル。
- ③市外局番+自宅電話番号。

●伝言の再生方法

- ①「171」へ電話をかけます。ガイダンスが流れます。
- ②「2」をダイヤル。
- ③市外局番+被災地の人の電話番号。

※被災地の人も、被災地以外の人も利用方法は同じです。

②携帯各社の災害用伝言板サービス

携帯電話各社でも災害発生時に「災害用伝言板」などのサイトが利用できるようになります。事前登録が必要な場合もありますので、利用方法を確認しておきましょう。

(4) 大学への安否報告

災害が発生した場合、大学は学生の安否確認を行います。災害発生時に登録していない場合は、連絡可能になり次第いずれかの方法で学生支援チームに連絡してください。その際には、学籍番号、氏名、現在の状況を知らせてください。

学生支援チーム TEL 075-702-5101
E-mail gakusei@kyoto-seika.ac.jp

ケガ・体調不良時の対応

1. 学内でのケガ・体調不良

学内でケガをした場合や体調が悪くなった場合は、保健室を利用することができます。保健室には看護師が常駐し、応急手当や健康に関するアドバイスをしています。

保健室 (本館1階)	開室時間 (授業期間中のみ)	月～金	10:00～17:00(閉室時間11:30～12:30)
		土	10:00～14:30(閉室時間11:30～12:30)

2. 最寄りの医療機関

本学では、以下の医療機関と提携し、学生の保健管理や健康診断を行っています。

丹羽内科医院(校医)

京都市左京区岩倉三宅町360(叡山電車「八幡前」駅下車、北へ徒歩5分) TEL 075-781-5221

診察時間 9:00～12:00、17:00～19:00 休診日 木曜・日曜・祝日・土曜午後 URL <http://www.niwanaika.net>

また、校医以外の最寄りの医療機関については、学生支援チームで紹介していますので、必要に応じて問い合わせてください。

3. 学内で負傷者を発見したら

学内で負傷者を発見したときは、慌てずに周りの人に知らせ、協力して応急手当をするとともに、教職員に連絡し、指示を仰いでください。緊急時に備え、本学ではAED(自動体外式除細動器)をキャンパスおよび学外施設に設置しています。AEDは、心肺停止者が心室細動状態か否かを自動的に判断し、必要に応じて電気ショックを与える医療機器です。キャンパス内に4カ所、学外施設に3カ所設置しており、誰でも利用できます。

AED設置場所

(1)キャンパス内 ※P.207キャンパスマップ参照

①本館1階 ②体育館1階 ③情報館2階 ④警備棟

(2)学外施設

①京都国際マンガミュージアム ②丹後学舎 ③朽木学舎



4. 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険

本学では、全学生が入学時に「学生教育研究災害傷害保険」および「学研災付帯賠償責任保険」に加入しています。

講義や実習、課外(クラブ)活動、通学中の事故によるケガの治療、他人にケガをさせたり、器物を破損してしまったときの賠償には、一定条件の下に保険金が支払われます。そのような場合は、速やかに学生支援チームに連絡してください。

●学生教育研究災害傷害保険

国内外における正課中(講義、実習、演習)、学校行事、課外活動(クラブ・サークル、インターンシップ、ボランティア活動)などの教育研究活動中、学内施設利用中、通学中の事故によるケガを治療した場合、一定条件のもとに保険金が支払われます。

●学研災付帯賠償責任保険

国内外における正課中(講義、実習、演習)、学校行事、課外活動(クラブ・サークル、インターンシップ、ボランティア活動)またはその往復において、他人にケガをさせた場合や、他人の器物を破損させてしまった場合、一定条件のもとに保険金が支払われます。

※インターンシップを保険対象とするためには、事前にキャリア支援チームに届出書を提出する必要があります。

様々なトラブルを防ぐために

1. 飲酒・喫煙時の注意 (20歳未満の飲酒・喫煙は違法です)

(1) 飲酒

2010年に発生した学生の飲酒死亡事故以降、学内外を問わず大学施設内では飲酒はできません。(一部時間帯のREATAを除く)

①アルコールハラスメントはやめましょう。イッキ飲み、罰ゲーム、上下関係で飲酒を強要する、その雰囲気をつくる、大量に飲ませて酔いつぶす、酔ってからむなど、すべてがアルコールハラスメントであり、人権侵害です。命を失うケースもあり、傷害などの犯罪に発展する可能性のある極めて悪質かつ危険な行為です。絶対にやめましょう。

②飲酒運転はやめましょう。お酒を飲んで、車・バイク・自転車を運転することは法律で固く禁止されています。また、飲酒運転は本人だけでなく第三者にも迷惑や被害を与える大きな事故につながります。また、お酒を飲んでる人の運転を制止する立場にありながら止めなかった人も処罰の対象となることがあります。絶対にやめましょう。

(2) 喫煙

すべての人が快適に過ごせるキャンパスづくりのために、キャンパスは指定場所以外全面禁煙です。喫煙の際には、タバコを吸わない人に煙を吸わせることや、不快な思いをさせることがないように、周囲に配慮し、マナーを守ってください。歩きタバコ、吸いがらのポイ捨てはやめましょう。本学における特定屋外喫煙場所はP.207のキャンパスマップに記載されています。

2. 薬物乱用の防止

大麻や覚せい剤、麻薬などの違法薬物を使用することは犯罪です。

違法薬物はその乱用だけでなく所持も禁止されており、例えば、大麻所持の場合は5年以下の懲役に処せられます。

特に近年は青少年による大麻事犯が増加傾向にあり、2019年には本学学生6人が大麻取締法違反(所持)の罪で逮捕・起訴されました。インターネット等において「有害性がない」などの誤った情報が氾濫していますが、大麻の乱用は、青少年期に構築される脳・神経系の正常な発達及び成熟に障害を起こす可能性が強く示唆されており、10代の頃から使い始めると依存症になる危険が高まることが報告されています。

違法薬物はただ一度の使用でもあなたの人生を台無しにし、家族や友人などあなたに関わる周囲の人も傷つける恐れがあります。自ら使用しないことが大切ですが、他者から誘われた場合もしっかりと断り、必ず自分を守ってください。もし、あなたの周囲で使用の可能性がある場合はすぐに学生支援チームか教職員へ相談してください。大学に相談することは友人やクラスメイトを裏切る行為だと自身を責めることはありません。薬物乱用を止めないことのほうが、その人の人生を悪化させる恐れがあるからです。

また、「合法ドラッグ」や「合法ハーブ」といった危険ドラッグに関する事故やトラブルも社会問題化しています。身体への影響がなく安全であるかのように誤解されていますが、危険度は麻薬と同じ、またはそれ以上です。

薬物は絶対に買わない、使わない、かかわらないようにして自分を守ってください。

違法薬物に関するメールでの相談窓口 gakusei@kyoto-seika.ac.jp

3. ネット上のマナーおよび個人情報の取り扱いに関する注意

インターネットは、情報の収集や交流など、私たちの生活に欠かせないツールですが、一方で無防備な書き込みによるトラブルやフィッシング詐欺など、多くの社会問題も起きています。インターネット上の発言は、全世界の人に見られる可能性があり、一度書き込んだ内容を完全に削除することはできません。特に近年はSNSをきっかけにした学生間のトラブルが数多く発生しています。鍵やブロックをしても友人などを通じて相手に伝わる場合がありますので、個人情報や他人の人権を傷つける発言など、無防備・無責任な書き込みをしないよう気をつけましょう。また、芸術・表現を学ぶ学生としての自覚を持ち、著作権や肖像権の正しい理解と配慮を心がけましょう。

4. 悪徳商法・悪質団体への注意

路上での「キャッチセールス」や下宿への「訪問販売」で高値で不要な物を売りつけられる、「宗教活動」に言葉巧みに誘い込まれる、「街頭アンケート」に答えたために後々までしつこくつきまとわれる、「学生ローン」を借りて元金の何倍もの返済に追われることになるなど、身の回りには様々な危険な誘いがあります。甘い言葉、うまい話にはくれぐれも注意してください。たとえ勧誘やセールスが執拗でも、毅然とした態度で断ることが大切です。万一、トラブルに巻き込まれてしまったときや不審に思ったときはすぐに学生支援チームに相談してください。

「訪問販売」に代表されるような、冷静に判断できないまま契約をしてしまいがちな販売方法に対して、「クーリング・オフ制度」が設けられています。具体的には、特定の取引について、契約日を含む8日間以内（「マルチ商法」では20日間以内）であれば解約できる制度です。「クーリング・オフ制度」により商品を解約したい場合は、商品には絶対に手をつけずに、「解約通知」を簡易書留郵便で契約先へ送付してください。また「解約通知」は郵送する前にコピーをとり保管してください。「クーリング・オフ制度」を適用できる取引の詳細については、以下のサイトに掲載されています。

独立行政法人国民生活センター URL <http://www.kokusen.go.jp>

3

キャリア
支援

CAREER SUPPORT >

セイカのキャリア支援

1. セイカのキャリア支援の考え方

「好きや得意を仕事に」を本気で支援

セイカのキャリア支援のコンセプトは「好きや得意を仕事に」です。大学を卒業すれば、基本的には社会に出て毎日多くの時間を仕事に使うこととなります。であれば、好きなことや得意なことにつながっている仕事の方が、より幸せに生きられるはず。それをただの理想ではなく一人ひとりが実現できるよう本気で支援するのが、セイカのキャリア支援です。

卒業後の進路にはいくつかのケースがあります。

学んできた内容を
活かす仕事に就く

専攻とは直結していないが
自分の特徴を活かせる
仕事に就く

自分で仕事をつくる
(作家、マンガ家、
イラストレーターなど)

など

どの進路を選ぶにしても優劣はありません。むしろどういう仕事のかたち、働き方に関心が向くかは、4年間の学生生活の間に大きく変化するものです。専攻分野にとらわれすぎする必要もありません。専門資格が必須の仕事を除けば、専攻を問わずやってみたい!と思う仕事にいくらでも挑戦できる時代です。

そして、セイカではどの進路に対してもサポート体制を整えています。窓口対応だけでなく、授業や年間に多数実施するイベント・講座を通して、あらゆる角度からみなさんが自由な進路選択ができるよう支援していきます。

2. 進路を考えるときのヒント

進路選択に必要なのは自分だけの「経験」

どんな仕事のかたちを希望するとしても、仕事を探す際には「自分がどんな人間で何をやってきたか、何をしたいか」を伝えることが必要になります。つまり、進路を考えるには「自分自身の経験をどれだけ掘り下げられるか」が肝心になるのです。自由度の高い大学生時代に、好きなことややってみたいことに思い切り挑戦する経験をひとつでもふたつでも積むことが、大学生活で一番大事なことだと言えるかもしれません。そうした経験を積み重ねていけば、自分の傾向や将来の仕事の方向性が自ずと見えてくるはずですよ。

アンテナを張っていれば、セイカには学部を問わず誰でも参加・挑戦できるチャンスがたくさん転がっています。進路は自分のために自分で選び取るもの。人に流されたり合わせたりするのではなく、少しでも気になるものは積極的に参加してみてください。挑戦も失敗も含め「経験しないと学べないこと」こそが、あなただけの糧になります。

表現の学びは武器になる

「自己アピールできないことがない」という相談を受けることがありますが、実は、表現を学ぶセイカの学生は無意識に多くの力を身につけています。「絵画」に取り組んでいるなら観察力や集中力が、「デザイン」ならコンセプトから考える企画力が、「マンガ」なら発想力や忍耐力が、「論文」なら客観性や分析力が…、といった具合に、各学部の日々の学びを通して自然に養われる力があります。

今のあなたは何が好きですか？ 何が得意ですか？ そして、周囲の人々や世界がどうなるとうれしいですか？ 進路・就職のことを考えるとき、まずはこれを自分に問いかけてみてください。

3. 各学年別のステップとやっておくべきこと

進路選択に向けてどんな準備をしていけばいいのかを学年ごとに見ていきましょう。

	各学年別のステップとやっておくべきこと	キャリア支援チームからの一言アドバイス
1年生	1年目は、授業で基礎知識や技術をどんどん吸収するインプットがメインの時期です。興味関心をもったことは積極的に参加、挑戦しておく、それが後々進路を考えるときの資源になります。活動内容は、経過や結果を必ずデータで記録して!	 <p>吸収し基礎を固める時期。 失敗も成長の糧。 自由にどんどん挑戦してみる事が大事。</p> <p>キャリア支援チーム 公式キャラクター「うまび」</p>
2年生	授業課題はもちろん、課外プロジェクト、サークルやアルバイトなど課外活動にも力を入れられる時期。この時期に「〇〇に力を入れてがんばった!」と言える経験をつくっておくことが大事です。PCスキルも苦手分野は克服しておきましょう。	 <p>挑戦を蓄積する時期。 学内外の活動に幅をもたせ、好きなことに思い切り打ち込んで。</p>
3年生	進路ガイダンスが始まり、将来と自分について考え向き合う時期。情報収集と自分自身の考えを明確にできるかどうかで明暗を分けます。関心がある業界や仕事があれば積極的にインターンシップに参加するとよいでしょう。	 <p>進路と向き合う時期。 情報収集と自分自身の考えを言葉にする時間をつくろう。</p>
4年生	就職希望者は前半から活動が本格化。卒論、卒制と活動が重なってくるので、早めの行動が肝心。作家など就職以外の進路を希望する場合はとくに、活動を継続していきける環境を在学中にどれだけ整えられるかが大切になります。困ったとき、迷ったときはキャリア支援チームへ相談を!	 <p>活動本格化、早めの行動が成功のカギ。 相談はどんな些細なことでもウエルカム!</p>

4. 活用しよう! 大学のキャリア支援

本学では、みなさんのキャリアに役立つさまざまなサポートを行っています。目的に合わせて積極的に利用してください。

学生グループ キャリア支援チーム

本館1階

(1) 進路・就職に関する個別相談

進路・就職に関する個別相談を受けられます。就職活動をはじめ進路についての悩みだけでなく、履歴書・エントリーシートの添削や面接指導、ポートフォリオのチェックも可能です。

対応時間 月～金 10:30～17:30 (1回30分)

※相談希望日の前日18時までにキャリア支援チームで予約してください。初回は申込不要です。

(2) その他の窓口で受けられるサポート

先輩の作品ポートフォリオ閲覧	クリエイティブ職で内定を決めた先輩のポートフォリオを閲覧できます。ゲーム、アニメーション、広告、グラフィック、プロダクトなど多様な進路に対応したポートフォリオが揃っています。
就職関連書籍の貸し出し	様々な進路や働き方を考えるための書籍、業界や職種の解説本、ポートフォリオ制作の参考書籍、筆記試験対策本などをカウンターで借りられます。
履歴書の購入	大学オリジナルの履歴書を1部30円(封筒付き)で購入できます。
適職診断ゲーム	セイカ生の進路をもとにキャリア独自に製作した適職診断カード「セイカミライカード」を使って、ゲーム感覚で適職診断ができます。自分に向いている仕事が見つからず悩んでいる人は一度、窓口まで来てください。

(3) 窓口以外で受けられるサポート

「セイカ・ポータル」、 学内メールを通じた情報発信	「セイカ・ポータル」、学内メールを通じてキャリア支援チーム主催の講座・ガイダンスをはじめ、学外のインターンシップ、就職・進路に関するイベントなどについての情報を随時配信しています。必要な情報をしっかりチェックしましょう。
就職活動体験レポート閲覧	卒業生の就職活動体験レポートをキャリア支援サイトで閲覧することができます。
キャリア関連イベントの実施 (事前予約制)	さまざまな業界の現場からゲストを招いた業界研究会を、年間通じて数多く実施しています。学部・学年問わず参加できるので、関心があれば早期から知識や理解を深められます。
キャリア支援サイト (3年生以降対象)	大学に届くインターンシップ、求人情報を確認することができます。

5. 一番使える!セイカ生に合わせた各種ガイダンス

本学では1年を通じて、進路選択や就職活動に役立つさまざまな内容の講座やガイダンスを実施しています。とくに進路・就職ガイダンスは参加率の高い人ほど内定率も高いため、積極的に参加しましょう。

(1) すべての就職希望者のための総合支援

就職を目指す学生のために以下のような大学オリジナルの講座・ガイダンスを実施しています。一部、学年を限定したイベントがありますが、希望者は参加できます。詳細は「セイカ・ポータル」で確認してください。

進路・就職ガイダンス	業界や職種の理解、仕事の探し方、履歴書の書き方、面接対策など就職活動に必要な基本的な知識が身につきます。
企業説明会(単独・合同)	人事・採用担当者を大学に招き、会社の紹介や採用スケジュール、求める人物像などを説明してもらいます。このイベントで内定が出るケースが増えています。
内定した先輩との交流イベント	就職が内定した4年生から就職活動の“生”の体験談が聞けます。
筆記試験対策講座	採用試験で実施されることの多い「筆記試験」は、苦手意識をもつセイカ生も多いのでは? 頻出問題の解法をわかりやすく解説します。

(2) クリエイティブ系職種を目指す人に特化した支援

ゲームクリエイター、Webデザイナー、グラフィックデザイナーなどクリエイティブ系の職種を目指す学生を対象に以下の講座・ガイダンスを実施しています。

ポートフォリオ対策講座&個別指導	クリエイティブ系の職種で必須の「ポートフォリオ(PR作品集)」。ゲーム業界、広告デザイン業界などで活躍する現役のデザイナーを招き、ポートフォリオ制作のポイントをわかりやすく説明します。また現役クリエイターに直接、アドバイスをもらえる個別の指導・相談も。
ポートフォリオ道場(3年生対象)	3年生の夏季休暇期間中に作品ポートフォリオを完成させ、現役クリエイターを前に、講評をいただくイベントです。早期にポートフォリオを作ることができるため、就活が本格化するまでに余裕をもって動くことができます。参加者の卒業後の進路決定率、実施後の評価が高いイベントです。

(3) 就職以外の進路を目指す人を支援

マンガ家など企業就職以外の働き方を希望する学生のためのサポートプログラムも実施しています。

マンガ講評会	マンガ編集者を大学に招き、マンガ作品を講評・指導してもらいます。夏と冬の年2回開催される合同講評会では、大手出版社を中心に多数の編集部が来学します。
フリーランス、アーティスト スタートアップ志望者向け講座	フリーランスやアーティストとして生計を立てる卒業生や起業家などを中心に招き、活動方法などをお話いただく講座や、公募紹介講座を実施しています。

6. セイカならではの特色あるサポート

本学の学生に合わせてつくられた、セイカ独自の特色あるサポートを紹介します。

① 京都精華大学オリジナルキャリア手帳

無数の卒業生たちの進路を支援してきたキャリア支援チーム。そんなチームスタッフが経験をもとに書き下ろした、進路就職ノウハウ情報つきの手帳を、3年生全員に無料配布しています。必要な基本情報はもちろんセイカ生の興味関心に合わせた内容が盛り込まれており、活動の際に携帯しやすいサイズとデザインになっています。ダイアリー機能もあるので手帳としても活用できます。



② 適職診断ができる『セイカミライカード』

セイカのキャリア科目担当教員がオリジナルで開発・デザイン制作した適職診断ゲーム『セイカミライカード』を使って、いつでも適職診断をすることができます。ゲーム感覚で受けられるので、「どんな仕事があるかわからない」「何が向いているのか知りたい」という人にはうってつけ。友達と一緒にやってみるのも○。進路について考えるときの一つのきっかけとして活用してみてもいい。



③ 先輩たちの豊富なポートフォリオ

デザイナーなどクリエイティブ職の採用試験で最も大きなウエイトを占める作品審査。そこで提出する自分自身の作品ポートフォリオについて、早めからリアルにイメージをもてるよう、実際に内定先に提出したポートフォリオを毎年先輩たちから集めています。業界、職種も幅広く、これだけ多くのポートフォリオ事例が実物で見られるのはセイカならではの! 学部学年不問、誰でもいつでも自由に閲覧可能です。



キャリアに役立つ科目も要チェック!

カリキュラムのなかにも、キャリアを考えるうえで役立つ科目がたくさんあります。

1. キャリア科目

『コミュニケーション実践演習』『職業研究』『インターンシップ』『ポートフォリオ演習』など、進路選択に直結する科目を目的に合わせて履修しましょう。

2. 汎用性が高いスキルはPC・デジタル関連と語学!

仕事内容や業界を問わずワードなどのPCスキルは必須です。クリエイティブ職であれば、デジタルソフトの操作スキルが必要です。ウェブのスキルも需要UP中。語学力はあって損なし! 苦手部分を早めに授業でスキルアップしておきましょう。

3. 社会、経済、ビジネスへの理解を深める科目

筆記試験や面接時に必要となる時事・ビジネスに関する知識。『現代社会の諸問題』『産業論』などの科目を通して、世界や社会で起こっているトピックスへの理解を深めましょう。

INTERNATIONAL EXCHANGE >

4

国際交流

セイカの国際交流

本学では1968年の開学時より国際交流に力を入れてきました。芸術系の学部がある大学としては全国でもトップクラスの留学生数、協定校数を有するほか、国際交流に関わる充実した制度が整っているため、学内にいながらして海外の文化を感じることも可能です。しかしながら、皆さん自身が実際に現地へ足を運び、見て、話し、聞いて得られる「経験」に勝るものはありません。学生の間にはぜひ一度は海を渡り、現地の文化に触れ、人と交流することで、自身の世界、可能性を広げてください。

1. 海外での国際交流

1) 交換留学 ※芸術、デザイン、マンガ、ポピュラーカルチャー学部対象

本学に在籍したまま1学期の間、海外の協定校で学ぶことができる制度です。本学の規定授業料を納めれば、留学先協定校での授業料は免除されます。また、現地で取得した単位は帰国後に卒業要件単位として認定されるので4年間の卒業が可能です。留学先では正規の学生として扱われ、現地の学生と同等に指導されます。本学の協定校リストには世界トップレベルの大学が名前を連ねています。現地の学生や教員と知り合えるこの機会をぜひ利用してください。

(1) 交換留学期間と出願時期

交換留学期間と学内出願時期は次のとおりです。記載のない学期に交換留学へ行くことはできません。いくつかの理由から学部生は3年次後期(秋出発)の留学が推奨されます。

所属	交換留学期間	出願時期(目安)	
学部	3年次前期(春出発)	前年度の7月下旬	
	3年次後期(秋出発)	前年度の1月下旬	※推奨
	4年次前期(春出発)	前年度の7月下旬	
大学院	2年次前期(春出発)	前年度の7月下旬	

(2) 交換留学に行くための条件

交換留学の希望者は、所定の出願期間に書類提出を済ませ、学内選考を受けたくうえで、本学による大学推薦を得る必要があります。出願条件は次のとおりです。

- ①参加動機が明確で十分な成績(1学期あたり平均18単位以上を修得)を有する。
- ②出願時にTOEFL-ITP415点以上(TOEFL-iBT34点以上)のスコアを提出できる。
- ③出願前に所属分野の専任教員と交換留学に関する相談を済ませ承認を得ている。

(3) 早めに準備しておくべきこと

求められてもすぐには準備できないことがいくつかありますので、予めお伝えします。

- ①語学力:前掲のTOEFLスコアの基準をクリアできるように語学力向上に努めてください。
- ②留学費用:欧米圏で80~120万円、アジア圏で30~40万円を目安に資金準備計画を立ててください。

(4) 備考

- この制度を利用できるのは在学中に1回限りです。
- 時期によっては交換留学生を受け入れない協定校もあります。
- 学部生と比較すると大学院生の交換留学先候補は限定されます。
- 学内選考の結果、大学推薦を得られても、留学希望先から受入を断られる場合があります。
- 留学生の受入にあたっては学内出願条件以外の条件を指定する協定校もあります。

2) 海外留学型フィールドプログラム ※人文学部対象

人文学部では、3年次の1学期間、キャンパスをはなれ国内外のフィールドでの学習を通じ、それぞれの社会や文化を構成する人々の歴史的背景、価値観への理解を深め、人間や社会の多様性と普遍性に触れ、自己や社会を広い視野から批判的・相対的に捉える力を身につけることを目指すフィールドプログラムを実施します。

このうち、海外留学型は、アジア圏と欧米・大洋州圏の大学を拠点に実施します。プログラム開始時には教員も同行するアジア圏の各プログラム前半では、現地の語学をはじめ、現地の歴史、文化と社会を学び、演習地について多面的・多角的な理解を深めます。教員が同行しない欧米・大洋州圏のプログラムは語学学習が中心となります。

いずれのプログラムも受入機関での授業終了後(一部派遣先では授業と並行して)、自ら設定した課題のフィールドワークを行いません。

詳細については別途、フィールドプログラム全体説明会等の機会を通じて案内します。

3) 海外ショートプログラム

正課科目の授業として取り扱われる短期の海外研修プログラムです。海外ショートプログラムには、次の3種類があります。

(1) 教員引率型(1~2週間)

研修先の事情に通じた本学専任教員が、現地に同伴・引率して直接指導をおこないます。

[過去の実績例] タイ、台湾、イタリア、フィンランド、フランス、マリなど

[費用目安] アジア圏 15万円～、ヨーロッパ圏 25万円～

(2) スタディーツアー参加型(1~4週間)

特色あるテーマに基づき、個々人が関心と目的意識をもって主体的にツアーに参加します。

[過去の実績例] ボランティア活動、イタリアものづくり研修、ニューヨークアート研修など

[費用目安] アジア圏 10万円～、欧米圏 30万円～

(3) 語学特化型(2~4週間)

語学を修得するという目的に特化して、決められた生活環境のなかで勉強に励みます。

[過去の実績例] 英語(アメリカ、アイルランド、ニュージーランド、フィリピン)、フランス語、韓国語

[費用目安] 英語研修 28万円～、フランス語研修 55万円、韓国語研修 15万円

長期で行われる交換留学やフィールドスタディへのステップとして、また在学中の海外経験として、ぜひ積極的に参加してください。

2. 学内での国際交流

1) グローバルコモンズ

京都精華大学は留学生の比率が高く、学生のバックグラウンドは多彩です。キャンパス内での多文化交流や異文化理解のための共同スペースであるグローバルコモンズでは、英語をはじめとする多彩な言語によるコミュニケーションや講演会、ワークショップなどの国際交流イベントを開催します。語学力に自信がなくても不安に感じることはありません。気軽に国際交流を楽しみましょう。

2) 海外からのビジターとの交流

京都精華大学では、世界各国の教育機関などから、日本語や日本文化の研修、交換留学、視察旅行などを目的としたビジターやゲストを多数受け入れています。ぜひ彼らと交流する機会を見逃さないようにしてください。

重要

交換留学および海外ショートプログラムに関心のある方は、別刷の専用冊子を参照してください。
また、国際交流担当部署のスタッフと積極的にコミュニケーションを図り、情報の収集に努めるようにしてください。

5 教 学

← ACADEMIC MATTERS

授業科目

1. 大学の授業とは

大学では、それぞれの授業のシラバス(授業概要および計画を示したもの)を見て、学びたい授業を自身で選び、自分専用の時間割を作ります。各学部・学科・コース・専攻ごとに体系化された教育内容があり、様々な科目で構成されています。みなさんは自分の所属している学科・コース・専攻のカリキュラムに沿って授業を選ぶことになります。

2. 2学期(セメスター)制

本学では、2020年度以前入学生の科目および大学院、資格課程の科目においては、1年を前期と後期に分ける2学期(セメスター)制を採用しており、セメスターごとに科目が開講されます。2021年度の学期は右の通りです。

前期	2021年4月1日から2021年9月30日
後期	2021年10月1日から2022年3月31日

3. 4学期(クォーター)制

本学では、2021年度以降入学生の科目においては、1年を1Q、2Q、3Q、4Qに分ける4学期(クォーター)制を採用しており、クォーターごとに科目が開講されます。2021年度の学期は右の通りです。

1 Q	2021年4月1日から2021年6月6日
2 Q	2021年6月7日から2021年9月30日
3 Q	2021年10月1日から2021年12月2日
4 Q	2021年12月3日から2022年3月31日

※2020年度以前入学生の一部の科目についても、4学期(クォーター)制が運用されることがあります。

4. 開講期間による科目の分類

科目は開講期間によって以下のように分類できます。

(1) 通常授業

セメスター開講科目	前期もしくは後期の15週間、毎週開講される授業
クォーター開講科目	1Q、2Q、3Qもしくは4Qの7.5週間、毎週開講される授業 なお、7.5週間とは、通常90分の授業が、8週目の授業のみ45分授業となることを意味します。
通年授業	1年間(前期、後期の合計もしくは1Qから4Qの合計30週間)、毎週開講される授業

※各年度の授業開講期間および授業日は、「セイカ・ポータル」および大学Webサイトに掲示された学年暦(大学カレンダー)を参照してください。

(2) 集中授業

毎週決まった曜日・時間に開講するのではなく、夏季休暇期間、春季休暇期間中の数日間や、不定期に開講する授業です。開講日程は授業によって異なりますので、各科目のシラバスで確認してください。

5. 履修条件による授業科目の分類

科目の中には、卒業するために履修が必須となるものや自由に選択して履修できるものがあります。

(1) 必修科目

卒業要件として、必ず履修してその単位を修得しなければならない科目です。

(2) 選択必修科目

卒業要件として指定された科目群の中から選択して履修し、所定の単位数または科目数を修得しなければならない科目です。

(3) 選択科目

指定された科目群の中から、自身の目的や興味関心に応じて自発的に選択して履修する科目です。

どの科目が「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に該当するかは、P.60以降の卒業要件表、「科目一覧」で確認してください。

6. 授業形態による科目の分類

科目は授業形態によって、以下の5種類に分類できます。

(1) 講義

担当教員が自身の研究実績や知見に基づき、履修者にテーマに沿った解説をする事を基本的なスタイルとする授業形態です。質問やコメント・ペーパーなどを活用した双方向授業による場合も多く見られます。

(2) 演習

同じテーマに取り組む比較的少人数の履修者とそれを指導する教員によって成立する授業形態です。あるテーマについて討議をする、グループで1つのプロジェクトの完成を目指して制作に取り組むなど、複数人で課題に取り組む授業形態が多く見られます。

(3) 実習

講義や演習で培った知識、技術を活かし、実際に制作や活動に取り組むような授業形態です。

(4) 学外実習

さまざまな学外の団体等で、それまでの知識や経験を活かし、実際に現地での活動を体験する授業形態です。

(5) 成果評定

卒業論文、卒業研究、卒業制作など学修の成果を評価して単位を認定する科目です。

7. 実務経験を有する教員による科目について

科目の中には、実務経験を有する教員がその経験を活かし担当する科目、学外から多様な企業等で活躍する方々を講師に迎え実施する科目、企業とのコラボレーション授業、インターンシップなど、実践的教育から構成される科目を配置しています。各科目の詳細はシラバスの「実務経験／実践的教育」欄で確認してください。シラバスのキーワード検索で【実務経験／実践的教育】と入力し該当科目を抽出することができます。

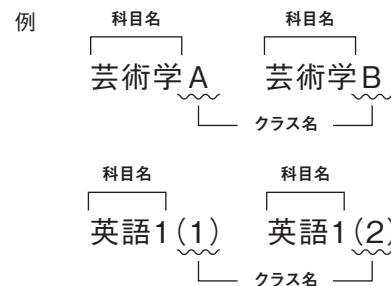
8. クラス

クラスとは、教育上の効果を考慮して、受講者を適切な人数のグループに分けたものです。

科目名の後に続く“A”“B”“C”および“(1)”“(2)”“(3)”はクラス名を表します。

右の例の場合、AクラスとBクラスの授業、(1)クラスと(2)クラスの授業は、クラスは異なりますが、同じ科目のため、重複して履修することはできません。また、科目によっては、学科やコース・専攻ごとにクラスが決められているものもあります。

なお、この「学修のてびき」カリキュラムページの科目一覧には、クラスが表示されていません。各科目のクラスについては、「セイカ・ポータル」に掲示される「授業科目一覧」を参照してください。



9. シラバス

シラバスとは、各科目について、その内容と計画を解説した概要のことです。科目名、担当教員名、開講期、単位数、科目の目的や到達目標、具体的な授業計画が説明されています。また、成績評価の方法・基準、教科書・参考文献、履修条件などについても書かれています。シラバスをよく読み、科目を履修登録してください。

10. 科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、カリキュラム(教育課程)を体系的に理解することを目的に、本学で開講しているすべての科目にコード(番号)を付けたものです。

科目ナンバリングコードは、各科目の対象とする学部・学科・コース、開講形態、履修可能な年次などを表しています。

コードはP.67以降の「科目一覧」およびシラバスの各科目のページに記載されていますので、履修科目の選択の際、何年生から履修できるのか、どのような順序で履修すればよいのかを判断するのに活用してください。

たとえば、全学教養科目のキャリア科目群で、1年生から履修できる講義科目の「ライフデザイン」は以下のようなコードが付けられています。

C	C	A	1	0	0	1	1	0	1
① 開講 学部 など	② 学問分野 (コース、課程、 科目群など)	③ 開講 形態		④ 整理番号			⑤ 履修 開始 年次	⑥ クラス番号	

科目ナンバリングコード

① 開講学部など	コード
芸術	A
デザイン	D
マンガ	M
ポピュラーカルチャー	P
人文	H
全学共通	C
大学院	G

③ 開講形態		コード
基礎	講義	1
	演習・実習	2
専門	講義	3
	演習・実習	4
大学院 ・資格	講義	5
	演習・実習	6
その他(成果評定等)		9

⑤ 履修開始年次	コード
年次不問	0
学部1年次	1
学部2年次	2
学部3年次	3
学部4年次	4
大学院M1年次	5
大学院M2年次	6
大学院D1年次	7
大学院D2年次	8
大学院D3年次	9

② 学問分野	コード
造形学科共通	FA
イラスト	IL
グラフィックデザイン	GD
デジタルクリエイション	DC
プロダクトコミュニケーション	PC
ライフクリエイション	LC
建築	AR
カートゥーン	CT
ストーリーマンガ	SM
新世代マンガ	NG
キャラクターデザイン	CD
アニメーション	AN
音楽	MU
ファッション	FS
総合人文	CH
VD学科共通	VD
PD学科共通	PD
学部内共通	GS

② 学問分野	コード
人文学研究科(M)	MH
芸術研究科(M)	MA
デザイン研究科(M)	MD
マンガ研究科(M)	MM
大学院共通基盤(M)	MC
芸術研究科(D)	DA
マンガ研究科(D)	DM
セイカ学	SE
語学	FL
ITリテラシー	IT
表現理論	ET
表現技法	AT
自然科学	NS
社会科学	SS
人文科学	HU
人間科学	HS
現地演習	FW
キャリア	CA
副専攻	MI
コラボレーション	CO
資格(教職)	QT
資格(学芸員)	QM
資格(司書)	QL
資格(その他)	QA
単位認定	ZZ

11. 単位制度

すべての科目には単位数が設定されています。単位とは、科目を修得するために必要な学修量(時間)を数で表したもので、「1単位の科目」は「45時間の学修を必要とする内容(自学自習時間を含む)」をもって構成することが標準となっています。

$$1 \text{ 単位} = \text{授業時間} + \text{予習・復習、課題への取り組み} = 45 \text{ 時間}$$

1回の授業は90分ですが、制度上これを2時間の学修時間として計算します。

各科目の単位数は、この授業時間と自学自習時間、および1単位あたりの学修量をもとに、次のように計算します。

学期制	授業科目の分類	1週あたりの学修量	1学期あたりの授業週数	1学期あたりの学修量	1単位あたりの学修量	単位数
セメスター制	講義 人文学部の演習	授業2時間[実質90分] +自学自習4時間=6時間	15週	90時間 (6時間×15週)	45時間	2
	外国語/ 実習/演習	授業2時間[実質90分] +自学自習1時間=3時間	15週	45時間 (3時間×15週)	45時間	1
クォーター制	講義 人文学部の演習	授業2時間[実質90分] +自学自習4時間=6時間	7.5週	45時間 (6時間×7.5週)	45時間	1
	外国語/ 実習/演習	授業4時間[実質180分] +自学自習2時間=6時間	7.5週	45時間 (6時間×7.5週)	45時間	1

学修量には、大学の教室で行われる授業だけでなく、予習・復習、課題への取り組み(作品制作、レポート作成等)など自主的な学習が含まれます。自主的な学習の内容については、各科目のシラバス内「授業外学習の指示(予習・復習・課題等)」を参照してください。

12. 履修登録上限単位数

大学での学修は、授業時間以外にも予習復習といった自学自習の時間も含めて考えられています。

学修時間をしっかりと確保するために、本学では以下のとおり、履修登録上限単位数を定めています。

芸術学部、デザイン学部、マンガ学部、ポピュラーカルチャー学部、人文学部

前期	後期	年間
24単位	24単位	48単位

※資格課程専門科目は、履修登録上限単位に含まれません。

※前期に修得できなかった単位分を上乗せして後期に履修登録することはできません。

※前年度に修得できなかった単位分を上乗せして履修登録することはできません。

卒業・修了・進級

卒業・修了・進級要件とは

(1) 進級要件

「進級要件」とは、次の学年に進級するために必要とされる条件のことです。

進級するためには、各学科・コース、各学年に設置・開講されている進級要件科目の単位を修得する必要があります。したがって、進級要件科目の単位を修得できない場合は、次の学年に進級することができません(=「留年」となります)。また、休学をした場合も進級することができず、「留年」となります。

(2) 卒業要件

「卒業要件」とは、所属学部を卒業するために必要とされる条件のことです。

以下3点の要件を満たせば、卒業が認定され、「卒業証書」とともに学士の学位が授与されます。

- ① 本学に設置されている学部で4年以上在学すること(編入学生は別に定める)。
※休学の期間は、在学期間には含まれません。
- ② 所属学科・所属コースが定める卒業要件にしたがって、卒業に必要な単位を修得すること。
- ③ 学費等が完納されていること。

● 授与される学位の種類

芸術学部:学士(芸術) / デザイン学部:学士(芸術) / マンガ学部:学士(芸術) / ポピュラーカルチャー学部:学士(芸術)
人文学部:学士(人文)

(3) 修了要件

「修了要件」とは、所属大学院研究科を修了するために必要とされる条件のことです。

以下3点の要件を満たせば、修了が認定され、「修了証書」とともに修士または博士の学位が授与されます。

- ① 本学に設置されている大学院研究科に
修士・博士前期課程は2年以上、博士後期課程は3年以上在学すること。
※休学の期間は、在学期間には含まれません。
- ② 所属研究科が定める修了要件にしたがって、修了に必要な単位を修得すること。
- ③ 学費等が完納されていること。

● 授与される学位の種類

【博士前期課程・修士課程】

人文学研究科:修士(人文学) / 芸術研究科:修士(芸術) / デザイン研究科:修士(芸術) / マンガ研究科:修士(芸術)

【博士後期課程】

芸術研究科:博士(芸術) / マンガ研究科:博士(芸術)

※各研究科・学部・学科・コースの卒業・修了・進級要件は、それぞれのカリキュラム紹介ページを参照してください。

履修登録

1. 履修登録とは

「履修登録」とは、受講し単位を修得しようとする科目を決め、各科目の受講を申請することです。前期後期の各学期初めに履修登録期間(学年暦参照)が定められ、「セイカ・ポータル」により学生自身で登録手続きを行います。科目の登録にあたっては、所属する学部、学科、コース、専攻、学年に指定されている必修科目と卒業・修了要件を確認したうえで、履修できる科目を確認し、シラバスをよく読み、学びたい内容や身に付けたい力を考えるようにしてください。

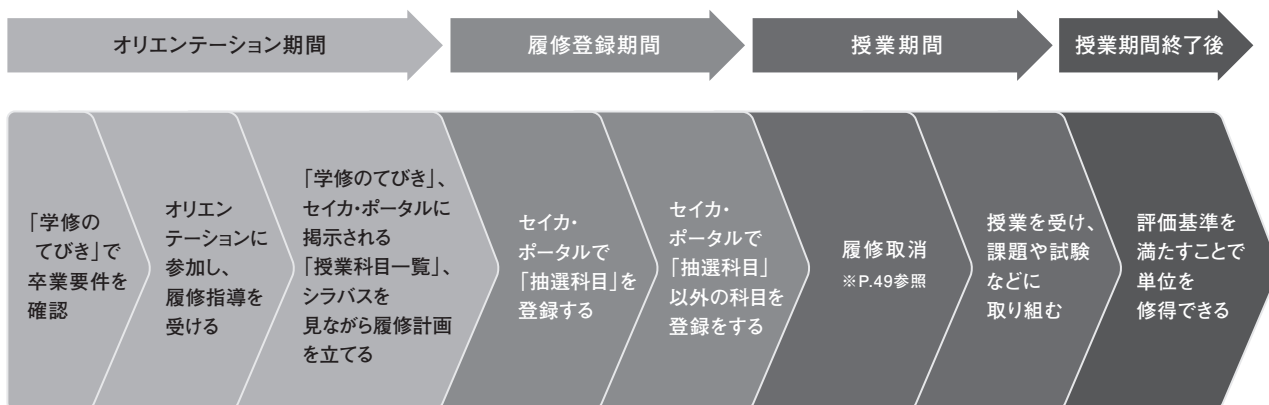
履修登録の原則

- 同一曜日同一講時に履修できる科目は1科目です。曜日講時が重複する複数の科目を履修登録することはできません。(日程が重複する複数の集中授業も同時に履修登録できません)
- 単位を修得した科目を再度履修することはできません。
- 不合格になった科目は、再度履修登録することができます。
- 1学期に登録できる単位数には上限があり、それ以上は履修登録できません(P.46参照)。
- 各科目には開講最低人数基準が定められており、履修登録学生数が次の人数に満たない場合は、原則として当該科目を開講しません。
講義、語学、実習科目 5人／演習科目 3人 ※履修登録の結果、登録した科目が開講されない場合、教務チームより登録した学生に連絡します。

2. 履修登録から単位修得までの流れ

履修登録から単位修得までは以下の手順で進みます。

前期開始前には前期開講科目(1Q開講科目・2Q開講科目を含む)および通年科目を、後期開始前には後期開講科目(3Q開講科目・4Q開講科目を含む)を履修登録します。集中授業も同様です。



3. 履修登録手続き

履修登録手続きは、「セイカ・ポータル」で行います。手続きの際は以下の事項に注意してください。

- 各学期開講科目の詳細（科目担当者およびクラス、開講曜日講時など）は、『学修のてびき』のカリキュラムページに記載していません。「セイカ・ポータル」に掲示される「授業科目一覧」を参照してください。
- 登録期間内に手続きを行ってください。期間内に行わないと、その学期の科目の受講資格は認められません。
- 履修登録期間終了後、正しく登録されているかどうか、自身で確認してください。誤った履修登録を放置すると、正しい科目の受講資格が認められず、単位が修得できなくなります。
- 必修科目は進級や卒業に関わるため、必ず履修登録してください。
- 卒業制作など、成果に対して単位を認定する科目も履修登録が必要です。
- 同一科目でクラス指定のある授業科目は、指定されたクラスで履修登録してください。
- 授業期間開始後に、選抜や申込みにより受講生を決定する科目は、個別の指示により別途登録を行う場合があります。

4. 抽選科目

施設設備の状況や学習計画を考慮し、受講できる人数に定員を設けている科目は、抽選によって登録者を決定します。受講を希望する場合は、抽選科目申込期間中に「セイカ・ポータル」による手続きを行ってください。

5. 履修取消

授業の内容や難易度が学生の認識と違っていた場合などに、不合格などの評価によってGPA (P.55参照)が低下することを回避するために、学期途中に履修している科目の登録を取り消すことを認める制度です。履修取消の手続き方法や期間等の詳細は、各学期中に「セイカ・ポータル」でお知らせします。なお、履修を取り消した科目に替えて、別の科目を追加登録することはできません。また、履修取消が認められない場合もあります。

授 業

1. 通常授業時間

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時	6 講時
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

2. 休講・補講・休校

(1) 休講

病気など授業担当者の都合や、自然災害などに伴い、授業が行われないことを休講といたします。
 授業が休講になった場合は、「セイカ・ポータル」でお知らせします。
 また、担当教員から休講の連絡がなく、授業開始時間から30分経過しても授業が開始されないときは休講となる場合があります。

(2) 補講

授業が休講になった場合、授業回数の不足を補うために補講を行います。
 補講は原則各学期に設けられている「補講日」に行われますが、各科目の具体的な日時、教室については「セイカ・ポータル」でお知らせします。

(3) 休校

気象警報の発令および公共交通機関の運休などの理由により、すべての授業が行われないことを休校といたします。
 代替の授業日を設ける場合があります。

3. 暴風警報・特別警報・交通機関運休等による休校・休講措置

以下のいずれかに該当する場合、休校・休講措置がとられます。

(1) 気象庁が発表する気象警報において、「京都府南部」(もしくはその細分区域である「南丹・京丹波」、「京都・亀岡」、「山城中部」、「山城南部」のいずれかの地域)に暴風警報もしくは特別警報が発令されたとき。

注意事項

- 大雨洪水警報は休校・休講要件とはなりませんので注意してください。
- 特別警報の種類は問いません。特別警報は都道府県単位で発令されます。(1)は京都府に特別警報が発令された場合を指しますが、それ以外の地域に特別警報が発令された場合、発令地域にいる学生においては個別に公欠扱いとしますので、通学が可能になった後、教務チームに申し出てください。特別警報が発令された場合、発令地域にいる学生は、各自ただちに命を守る行動をとってください。

(2) JR 在来線(米原～神戸)、叡山電鉄(鞍馬線)、京都市営地下鉄、および京阪電鉄(本線)、阪急電鉄(京都線)、近畿日本鉄道(京都線)のいずれかが運休になり、なおかつバスなどの代替手段がないとき。

注意事項

- 交通機関での事故などによる一時的な運転見合わせの際には休校・休講措置をとりません。
- 上記指定以外の交通機関各線の運休は休校・休講要件とはなりません。

(3) その他の事情により、休校・休講が適切であると学長が判断するとき

休校・休講の判断基準

- 気象警報、交通機関の運休状況を以下の時刻にて確認し、基準に従い判断してください。
- 気象警報、交通機関の運休状況は、警報解除、運行再開が発報された時刻が基準となります。何時に発報されたかを必ず確認し、基準に従ってください。

① 気象警報

基準時刻	条件	休校・休講の措置
午前 7時	警報が解除されている	平常授業実施
	警報が解除されていない	午前中休講
午前 9時	警報が解除されている	3講時より平常授業実施
	警報が解除されていない	終日休校

② 交通機関運行の状況

基準時刻	条件	休校・休講の措置
午前 7時	運行が再開されている	平常授業実施
	運行が再開されていない	午前中休講
午前 9時	運行が再開されている	3講時より平常授業実施
	運行が再開されていない	終日休校

※9:00よりも後に警報発令または運行休止となった場合は、その時点から休校となります。

4. 授業への参加

(1) 出席・欠席

授業への出席は、科目に定められた単位を修得するために必要な前提条件の一つです。授業を欠席すると、必要な学修機会を失い、各科目の目的、到達目標を達成できず、単位修得が認められないことがあります。

(2) 授業中のマナー

- ① 授業中の私語は禁止です。
- ② 遅刻はしないでください。やむを得ない事情で遅刻をした場合は、授業の妨げにならないよう静かに教室に入室してください。また、授業担当教員に断りなく途中退室はしないでください。
- ③ 授業担当教員の指示により、もしくは、授業担当教員の許可を得て授業のために使用する場合を除き、携帯電話・スマートフォン・PC・タブレット端末などの使用を禁止します。授業中は電源を切るか、マナーモードにしてください。
- ④ 特別な理由がある場合を除き、授業の撮影・録画・録音は原則禁止です。必要場合は、必ず授業担当教員の許可を得てください。
- ⑤ 飲食は原則禁止としますが、授業担当教員の指示に従ってください。

5. 学修成果の確認週間

授業の最終週に、1週間の「学修成果の確認週間」を設けます。この期間では、実習・演習科目を中心に授業内に制作した作品の発表や展示、フィールドワーク報告会、研究・論文発表会といった各学期の学修成果のアウトプットを行います。また、講義でも授業内に実施した筆記試験やレポートなど取り組んだ課題に対する科目担当者からの振り返りを行う場合があります。自身の学修の成果を確認し、科目によっては発表などを行うことにより、表現力、コミュニケーション力、プレゼンテーション能力が高まるほか、他者からの評価を受けることで新たな発見を生み、次への学修、研究活動、表現活動につなげていく機会となります。

6. 授業評価アンケート

本学では、学生の意見を取り入れながら授業改善に取り組んでいます。学期ごとに授業評価アンケートを実施しますので、履修している科目に対して責任ある評価と率直な意見を聞かせてください。FD委員会(授業内容および方法の改善を図るための組織)で授業評価アンケートの結果を共有し、本学の教育計画に反映させていきます。

7. 公欠

授業欠席の理由が、本学の定める事由に該当する場合、公欠(公的な理由がある欠席)が認められる場合があります。公欠の事由に該当する場合は、以下に指定する書類・文書を持参のうえ、教務チームで「公欠届」を提出してください。科目担当者に対しては、手続き完了時に窓口で受け取る「公欠届」のコピーを手渡して事情を説明してください。 ※集中授業においては、その授業形態の性質により公欠が適用されないことがあります。

(1) 忌引

①必要となる書類・文書

葬儀案内状

※提出が困難な場合は、保証人による理由書(書式自由)でもかまいません。ただし、保証人の署名・捺印が必要となります。

②届出の期限

忌引期間終了後1週間以内

③公欠期間

本人と故人との関係に応じて、右記の通りとします。

故人との関係	日数
1親等の血族(父母・子)または配偶者	7日
2親等の直系血族(自分の祖父母・兄弟姉妹)	3日
1親等の姻族(配偶者の父母)	
上記以外の3親等以内の血族(伯父母・叔父母・甥姪)	1日
2親等以内の姻族(配偶者の祖父母・兄弟姉妹)	

(2) 通学経路の交通機関が事故などにより不通になった場合

①必要となる書類・文書

各種交通機関が発行する遅延・不通などの理由を証明する文書(延着証明書・遅延証明書など)

※延着証明書・遅延証明書は各種交通機関の駅で受け取ることができるほか、交通機関のホームページから入手できる場合もあります。

②届出の期限 交通機関が遅延・不通となった日から1週間以内

(3) 教育実習・博物館実習・介護等体験

①必要となる書類・文書 教育実習・博物館実習・介護等体験の日程がわかる書類(窓口で複写後、返却)

②届出の期限 教育実習・博物館実習・介護等体験が終了した日から1週間以内

(4) 学校感染症

『学校保健安全法』に定める感染症は以下の通りです。また、公欠期間は『学校保健安全法施行規則』に定められた感染症の出席停止期間に準じます。

学校保健安全法に定める感染症

第一種:エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)及び特定鳥インフルエンザ(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成十年法律第百十四号)第六条第三項第六号に規定する特定鳥インフルエンザをいう。次号及び第十九条第二号イにおいて同じ)

第二種:インフルエンザ(特定鳥インフルエンザを除く)、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎

第三種:コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第六条第七項から第九項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症は、前項の規定にかかわらず、第一種の感染症とみなす。

①必要となる書類・文書 医師による診断書

②届出の期限 完治後1週間以内

(5) 裁判員制度による裁判への参加

①必要となる書類・文書 裁判所が発行する証明書

②届出の期限 裁判所での用務が終了した日から1週間以内

(6) 外国人留学生の在留申請等手続き

①必要となる書類・文書 ・入国管理局の申請受付票コピー ・新たに許可を受けた在留カード(窓口で複写後、返却)

②届出の期限 申請手続き日から1週間以内

入国管理局の申請受付票コピーの場合:申請後1週間以内/新たに許可を受けた在留カードの許可年月日提示の場合:許可後1週間以内

③公欠期間 申請日(1日)および許可日(1日)

8. 長期欠席になる場合

病気やそのほかのやむを得ない事由により長期間欠席せざるを得ない場合は、すみやかに教務チームと所属学科・コース・専攻の教員に連絡してください。科目担当者から医師による診断書などの証明書の提示が求められる場合があるため、証明書は各自手配しておいてください。何の連絡もなく、長期間の無断欠席が続くと、就学の意思がないものと判断されます。

単位修得

1. 単位を修得するには

科目に定められた単位を修得するには、次の3点に取り組み、各科目において定められた評価基準を満たす必要があります。

- ①その科目の履修登録をしていること。
- ②その科目について、修得に必要な時間数分の授業に出席し、自学自習を行うこと。
- ③その科目の学修の成果を把握するために必要な筆記試験の受験、レポート・作品などの提出を行うこと。

上記②③における学修の成果を「成績」として総合的に評価します。

2. 成績評価基準

成績評価の基準は以下のとおりです。

評価	合 格					不 合 格	
	S	A	B	C	N	F	K
点数	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	認定	59点以下	評価対象外

※成績評価「N」とは

「N」は認定の意味で、本学入学・編入学前に所属していた教育機関で、本学の科目と同等の学修を行ったと判断した場合や、外部の公的機関が実施する試験で一定の基準以上のスコアを取った場合(P.56・57)、大学コンソーシアム京都の単位互換科目を修得した場合など、本学における単位修得が認められた場合につけられます。

※成績評価「K」とは

「K」は評価対象外という意味です。授業の出席状況や受講態度が悪い、試験を受験しなかった等、担当教員が「受講放棄」と判断した場合につけられます。この場合、再試験や成績訂正の対象にはなりません。

※成績保留「H」とは(2018年度以前入学生)

成績評価「H」は、合格点に達せず、一時的に成績評価が保留となっている状態です。「H」がついた場合は、必ず担当教員もしくは教務チームへ問い合わせてください。担当教員から提示される保留解除のための課題(追加レポート、作品の提出など)に取り組み、指定期日までに提出し、合格と評価された場合は、保留が解除され「C」以上の評価に訂正されます。ただし、「H」評価のまま放置していた場合、一定期間を過ぎると不合格評価に訂正されます。

3. 各種試験およびレポート等における不正行為 (P.201規程参照)

成績評価方法として、各種試験を行う場合があります。また、科目によっては、レポート等の提出を求める場合があります。

(1)各種試験およびレポート等とは

各種試験	学期末試験、追試験、再試験、授業時間内に実施される中間テストや小テスト
レポート等	授業内で指示された課題レポート・課題作品や学期末のレポート試験、卒業論文・卒業制作、修士論文・修士作品、博士論文

(2) 不正行為への処分

不正行為と判定した場合、行為の重大性や悪質性により、当該科目の成績評価を0点とするか、当該学期の全履修科目の成績評価を0点とするか等を決定します。

(3) 「各種試験」における不正行為

各種試験において、不正と判断される行為は以下の通りです。

- ① 私語や態度不正を注意しても改めないとき
- ② 不正に物品や教科書・ノートの貸し借りをしたとき
- ③ 許可された以外のものを参照したとき。また、他人のノートのコピーや、コピーを貼りつけたノートを持ち込んだとき
- ④ 代人受験をしたとき、またはそれをさせたとき
- ⑤ 答案用紙を他の受験者としり代えたとき、またはそれに応じたとき
- ⑥ 他の受験者の答案用紙を見たり解答を聞いたりしたとき、またはそれに応じたとき
- ⑦ 監督者の指示に従わないとき
- ⑧ その他、教務委員会において不正と判断されたとき

(4) 「レポート等」における不正行為

レポート等において、不正と判断される行為は以下の通りです。

- ① 他人の著作物を剽窃・流用・コピーしたとき
- ② インターネット上に掲載されている第三者の著作物を、引用元などの記載をせずにそのまま流用したとき
- ③ その他、教務委員会において不正と判断されたとき

4. レポート等の提出

レポート等の提出における注意点は、以下の通りです。

- ① 提出期限を厳守してください。期限に遅れた場合は、提出を受け付けません。
- ② 提出先は、各科目担当教員からの指示に従ってください。

5. 各種試験の受験およびレポート提出ができなかった場合

以下のやむを得ない理由によって、各種試験の受験およびレポート提出ができなかった場合は、担当教員に申し出てください。担当教員が専任教員でないなど、連絡が取れない場合は、欠席後1週間以内に教務チームに相談してください。

理由	必要書類
病気、ケガ	医師の診断書(試験日を含んだ日程が記載されたもの)
交通機関の遅延	交通機関が発行する遅延証明書または事故証明書
忌引(原則として3親等以内)	葬儀案内状または保証人の証明(押印のこと)
就職活動に伴う採用試験 (採否に関わらないセミナーや説明会は除く)	採用試験を行ったことを証明する書類
裁判員制度による裁判への参加	裁判所が発行する証明書
学外実習、教育実習、博物館実習、介護等体験	教務チーム担当者が実習を行ったことを証明する書類
その他	理由を証明できる書類

6. 再試験 (2018年度以前入学生対象)

履修登録した科目の成績が合格点に達しないため、卒業単位が不足(8単位以内)する卒業年次の学生に対し、当該年度に履修した科目に限り、学部と担当教員が認めた場合のみ再試験を実施します。再試験の注意点は以下の通りです。

- ①成績評価が「K」の科目は再試験の対象になりません。
- ②再試験対象者には教務チーム担当者より連絡があり、再試験を希望する場合は「再試験願」の提出が必要となります。
- ③再試験の受験には1科目につき、5,000円の受験料が必要です。

7. GPA 制度

(1) GPA制度とは

GPA(Grade Point Average)とは、履修科目の成績の平均を数値で表すもので、修得単位数という学修の“量”だけでなく、“質”(内容)を表す指標であり、学修の成果を総合的に判断するデータとなります。この数値を活用することで、学修の到達度が明確になり、自身の努力目標を具体的に設定できるといった効果が期待できます。

(2) GPAの算出方法

GPAは科目ごとの成績評価に対してグレードポイント(GP)をつけて、全履修登録科目の平均を算出します。成績を4点満点の基準で点数化し(S=4、A=3、B=2、C=1、F=0、K=0)、各科目の単位数を掛け合わせます。

GPAの計算式は以下の通りです。

$$\frac{(Sの単位数合計 \times 4) + (Aの単位数合計 \times 3) + (Bの単位数合計 \times 2) + (Cの単位数合計 \times 1)}{\text{履修登録科目すべての単位数合計 (N、未評価科目、資格課程専門科目を除く)}}$$

※GPAは小数点第4位以下を四捨五入し、小数点第3位までの数値で表します。

(3) 履修取消

授業の内容や難易度が学生の認識と違っていた場合などに、不合格などの評価によってGPAが低下することを回避するために、学期途中で履修している科目の登録を取り消すことを認める制度です。履修取消の手続き方法や期間等の詳細は、各学期中に「セイカ・ポータル」でお知らせします。なお、履修を取り消した科目に替えて、別の科目を追加登録することはできません。また、履修取消が認められない場合もあります。

(4) GPAの運用

入学からの通算GPAは「セイカ・ポータル」で確認することができます。また、算出されたGPAは、海外の教育機関への留学や奨学金の受給などの判定の基礎資料として使われるほか、履修指導などに活用されます。

8. 成績・単位修得状況の確認

(1) 成績・単位修得状況の確認方法

各学期に履修した科目の成績は、以下の時期に「セイカ・ポータル」で確認することができます。その学期までの単位修得状況も「セイカ・ポータル」で確認できますので、次の履修計画を立てるために、必ず確認してください。

セメスター開講科目	前期:8月中旬		後期:2月下旬	
クォーター開講科目	1Q:6月中旬	2Q:8月中旬	3Q:12月中旬	4Q:2月下旬

(2) 成績に関する問い合わせ

各科目の成績について疑問・質問がある場合は、翌学期開始後1カ月以内に担当教員に問い合わせてください。
担当教員が専任教員ではない場合、教務チームに備えている「成績質問票」に必要事項を記入し、提出してください。結果は後日、回答します。

(3) 学費支弁者への成績通知

学費支弁者は「セイカ・ポータル」を通じて学生の単位修得状況を確認することができます。

9. 大学コンソーシアム京都単位互換制度

(1) 単位互換制度とは

大学コンソーシアム京都の単位互換制度は、京都地域の大学および短期大学が相互に単位互換協定を締結し、これらの大学に所属する学生が他大学の授業を受講し、修得した単位をその学生が所属する大学の単位として認定できるようにする制度です。約45の加盟大学が提供する特色ある科目を履修することにより、自分の興味関心や視野を広げることができます。

本学では、この制度で修得した単位を「大学コンソーシアム認定」として認定(成績評価「N」)します。(ただし、卒業要件単位には含まれません。)

(2) 出願手続

単位互換制度で提供される授業の履修を希望する学生(2年生・3年生のみ)は、前期のオリエンテーション期間中に教務チーム窓口で必要な出願手続を行ってください。

10. 編入学による単位の認定

本学に編入学した場合、他大学等(短期大学等を含む)で修得した単位のうち、2年次編入学生は30単位を上限に、3年次編入学生は62単位を上限に卒業に必要な単位として認定(成績評価「N」)します。ただし、一部の単位が認定されない場合があります。

11. 入学前に修得した単位の認定

下に該当する学生は、他大学、短期大学等で修得した単位を本学で修得した単位として認定することがあります。

- ① 大学、短期大学等を卒業し、1年次から本学に入学した場合
- ② 他大学、短期大学等を中途退学し、1年次から本学に入学した場合

本人の申請に基づき、修得した科目および単位内容を審査したうえで単位認定(成績評価「N」)しますので、希望者は右の書類を揃えて期限までに教務チームへ提出してください。

なお認定単位数は、大学コンソーシアム京都単位互換制度、海外留学制度により認定される単位を含んで30単位を上限とします。

提出書類

- ① 出身大学、短期大学、高等専門学校または専修学校の既修得単位を証明する成績証明書または単位修得証明書
- ② 既修得科目のシラバス

提出期限

入学年度の4月20日

(本学の事務取扱日でないときは、直後の事務取扱日)

やむを得ない事由により期限までに書類が提出できない場合は、必ず提出期限までに教務チームへ相談してください。

単位認定の時期

入学年度の5月下旬

12. TOEICスコアによる単位の認定(2017年度入学生対象)

TOEICスコアによって「英語1」「英語2」「英語3」「英語4」の単位認定を行います。

単位認定を行う基準スコアはTOEIC公開テスト及びTOEIC IPテストのものとします。

単位認定基準

基準スコア	認定科目	認定単位数
500	英語1	2単位
550	英語2	2単位
600	英語3	2単位
650	英語4	2単位

単位認定の方法

以下①、②の書類を教務チームに提出してください。

① 基準スコア以上のTOEIC Official Score Certificate(公開テストの認定証)、またはTOEIC Institutional Program Score Report(IPテストの認定証)

② TOEIC単位認定申し込み用紙

(用紙は教務チームに準備していますので事前に取りにきてください)

申請受付後、本学の承認を経て、単位認定が決定されます。

注意事項

※TOEICスコアは2年以内に取得したものを有効とします(TOEICスコアの有効期限が2年間であるため)。詳しくは教務チームまで問い合わせてください。

13. 外部の資格試験による語学科目単位認定 (2018年度以降入学生対象)

以下の資格試験によって語学科目の単位認定を行います。

単位認定基準

対象科目	成績基準(スコア/級)	授業科目	認定単位数
英語科目	TOEIC 650点以上	英語1 英語2 英語3 英語4	8単位
	TOEFL(PBT) 520点以上		
	TOEFL(CBT) 190点以上		
	TOEFL(iBT) 68点以上		
	英検 準1級以上		
	IELTS 6点以上		
	TOEIC 600点以上	英語1 英語2 英語3	6単位
	TOEFL(PBT) 500点以上		
	TOEFL(CBT) 173点以上		
	TOEFL(iBT) 61点以上		
	IELTS 5.5点以上	英語1 英語2	4単位
	TOEIC 550点以上		
	TOEFL(PBT) 480点以上		
	TOEFL(CBT) 157点以上		
	TOEFL(iBT) 54点以上		
	IELTS 5点以上	英語1	2単位
TOEIC 500点以上			
TOEFL(PBT) 470点以上			
TOEFL(CBT) 150点以上			
TOEFL(iBT) 32点以上			
IELTS 4.5点以上			
	その他の資格試験	応相談	
日本語科目	日本語能力試験 N1以上	日本語1 日本語2	4単位

※TOEFLにおける「CBT」はコンピューター方式のテスト、「PBT」はペーパー方式のテスト、「iBT」はインターネット方式のテストのことです。

単位認定の方法

(1)以下の①②の書類を

教務チームへ提出してください。

- ①該当する資格試験の資格または成績証明書類
(窓口で複写後、返却)
- ②英語または日本語の単位認定申込用紙

(2)申請受付後、認定を行います。

ただし、受付後、担当教員による面談を行う場合があります。また、1年生の場合には英語または日本語のプレースメントテストのスコアも勘案して決定する場合があります。

14. 転学部・転学科・転コース制度

この制度は、本学内での転籍を希望する学生が、選考試験に合格すれば、志願する学部、学科、コースの2年次、もしくは3年次に転籍することができるものです。募集を行う学部、学科、コースおよび募集人数は、在籍している学生数などを考慮し、毎年決定します(学部、学科、コースによっては受け入れができないことがあります)。出願手続きや日程、選考に関する詳細については、7月頃に「セイカポータル」に掲示される「転学部・転学科・転コース試験出願要項」を確認してください。

試験の出願資格は以下の通りです。

3年次への転学部・転学科・転コース

本学に在籍している2年次修了者および年度末までに2年次修了見込みの学部生で、62単位以上修得または年度末までに修得見込みの者。

2年次への転学部・転学科・転コース

本学に在籍している1年次修了者および年度末までに1年次修了見込みの学部生で、30単位以上修得または年度末までに修得見込みの者。

科目表の見方

科目ナンバリングコード

各科目の対象とする学部・学科・コース、授業形態、履修可能な年次などを表したコードです。▶詳しくはP.45

科目名

その科目の名称を表しています。

必修/選択

その科目が必修科目か、選択必修科目か、選択科目かを表しています。▶詳しくはP.44

授業形態

授業の形態によって講義、演習、実習、学外実習、成果評定に分類しています。▶詳しくはP.44

単位数

その科目を修得することで得られる単位数を表しています。▶詳しくはP.46、53

配当年次

その科目を履修できる年次を表しています。

ディプロマポリシー(学位授与の方針)との相関

その授業を修得した時に身につけることができる能力・資質を表しています。

※「学修のてびき」には、クラス名が記載されていません。「セイカ・ポータル」に掲示される「授業科目一覧」を参照してください。

例

科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			3 関心・意欲・態度	
						1	2	1	2	3	1	2
MGS30011	キャラクター造形論1	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●			●	
MGS30031	キャラクター造形論2	選択	講義	2	1・2・3・4		●		●	●		●
MGS30051	風刺画論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
MGS30071	物語キャラクター論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●					
MGS30091	脚本概論1	選択	講義	2	1・2・3・4		●		●			
MGS30111	脚本概論2	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●		●			
MGS30131	マンガ表現史1	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●					
MGS30151	マンガ表現史2	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●		
MGS30171	編集概論1	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●					
MGS30191	編集概論2	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●					
MGS30251	アニメーション作品作家研究1	選択	講義	2	1・2・3・4		●			●		
MGS30271	アニメーション作品作家研究2	選択	講義	2	1・2・3・4		●			●		
MGS30372	海外コミックマンガ論	選択	講義	2	2・3・4	●	●					
MGS30392	比較マンガ論	選択	講義	2	2・3・4	●	●					
MGS30452	マンガ業界論	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●				
MGS35113	メディア文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●		
MGS35123	メディア産業論	選択	講義	2	2・3・4	●	●					
MGS30592	新世代マンガ総合講座	選択	講義	2	2・3・4		●				●	●
MAN30311	日本アニメーション史	選択	講義	2	2・3・4	●	●					
MAN30411	世界アニメーション史	選択	講義	2	2・3・4	●	●					

CURRICULUM >

6

カリキュラム

P060 全学共通カリキュラム

P072 芸術学部

P078 デザイン学部

P101 マンガ学部

P121 ポピュラーカルチャー学部

P129 人文学部

2017年度以降入学生

全学共通カリキュラム

カリキュラム(教育課程)の構成

2017年度以降入学生のカリキュラム(教育課程)は

5学部の学生が共通で履修する「**全学共通教育科目(全学教養科目、全学専門科目) P.67~**」と
学部、学科ごとに編成された「**学部専門教育科目 P.76~**」に分けて開設されています。

科目区分		履修年次				取得 単位数	卒業に要する 単位(計)
		1年次	2年次	3年次	4年次		
全学共通 教育科目 (SEEK) P.67~	全学教養科目 P.67~					30単位 以上	1 2 4 単位 以上
	全学 専門科目 P.70~	副専攻	各科目群の 講義(概論) 科目	各科目群の 講義・演習科目		14単位 以上	
		コラボ レーション		コラボ レーション 概論	演習・実習科目		
学部専門教育科目(主専攻) P.76~						80単位 以上	

「全学教養科目」では、幅広い知識と多角的な視点を養うための科目を設置し、「学部専門教育科目」においては専門的なスキルや知識、思考方法を身につけるための科目を設置しています。また、学部・学科において身につけた専門的な能力を社会に展開し、活用するためのアイデアや手法を実践的に学ぶための「全学専門科目」を開講します。これら本学独自のカリキュラムにより、4年間で身につけた芸術、文化の専門的なスキル、知識、思考方法を卒業後の社会で活用することが可能になります。

全学共通教育科目(SEEK)

全学共通教育科目(SEEK:Socially Engaged Educational Key)は、京都精華大学の教育目標である「社会の課題を克服し、全人類が幸福に共生する地球社会を築く人間の形成」の実現のために、幅広い知識と多角的な視点を身につけ、そして身につけた知識や技能を適用し、社会の課題解決に貢献することを目的に設置されています。5学部すべての学生が履修できる科目であり、「全学教養科目」と「全学専門科目(副専攻、コラボレーション)」から構成されています。全学共通教育科目を履修することで身につく力は、どの学部の学生にも必要となる知識、教養であり、学部専門教育科目をより強く展開するための有機的発想、手法の源となります。

1. 全学教養科目 30単位以上修得

全学教養科目は、芸術、文化を学修するうえで必要な基礎知識や基本的なスキルを修得し、幅広い視野と深い思考力を身につけることができます。「セイカ学」「語学」「ITリテラシー」「表現理論」「表現技法」「自然科学」「社会科学」「人文科学」「人間科学」「現地演習」「キャリア」の11の科目群から構成されています。それぞれの科目群から所属学部・学科・コース・専攻での学びとの関連性、自分の興味・関心、将来の進路などに応じて、4年間で30単位以上修得できるよう履修してください。

全学教養科目 科目群

(1) セイカ学	京都精華大学で学ぶための基礎をつくる科目群。本学の学生になるための導入教育である「大学入門」、本学の教育の基本である「日本国憲法」や「人権」のほか、建学の理念である「自由自治」について考える科目が設置されています。
(2) 語学	自分を表現し、他者とコミュニケーションを取るためのツールである日本語(ことば演習)、英語のほか中国語、タイ語、フランス語などの「読む」「書く」「聞く」「話す」能力を高める科目が設置されています。
(3) ITリテラシー	インターネット利用のマナーなどネットワーク社会における情報倫理に関する知識や、メール・SNSなどのコミュニケーションツールに関する知識、技術を身につける「情報リテラシー」のほか、文書作成ソフト、表計算ソフト、映像編集ソフトの使い方を身につける科目、簡単なプログラミングを学ぶ科目などを設置しています。
(4) 表現理論	表現活動を行うための基盤となる知識や理論を身につける科目群。美術史、音楽史といった歴史を学ぶ科目や、デザイン論、メディア論、写真論などそれぞれの領域に関する体系的な知識を身につける科目で構成されています。
(5) 表現技法	この科目群では、絵画、写真、マンガ、音楽など、5学部の特色を取り入れた入門的・基本的な制作スキルを身につける科目を設置しています。自分の所属学部・学科・コース・専攻で身につけられる制作スキル以外の表現方法を修得することで、表現の幅を広げることができます。
(6) 自然科学	「自然科学」とは、「自然」に属するもろもろの対象を取り扱い、その法則性を明らかにする学問です。この科目群では、自然科学そのものから、生物学、数学、地球と宇宙などに触れる科目を通じて人間が自然をどのように捉えてきたかを学び、人間の自然観と、それが生み出してきた表現を考える基礎となる知識を身につけることができます。
(7) 社会科学	社会は様々な面から構成されています。一つひとつを取り出してみると、経済、政治、法、道徳といった分野がありますが、これらは相互に密接に関連しており、私たちの生活を形成しています。この科目群には「政治学」「法学」「経済学」「ジェンダー論」などの科目が設置されており、多様な側面から私たちの社会生活を理解することで、社会の構造を多方面から学びとることができます。
(8) 人文科学	「人文科学」とは、人間が生み出したものすべてについて探究する学問です。この科目群では、「哲学」「宗教史」「倫理学」「言語学」「文学概論」などを学ぶことから、人間が築いてきた歴史や生み出してきた哲学、思想、文学などを通して「人間」を見つめ、専門科目での学びへとつなげていきます。
(9) 人間科学	「人間科学」とは、「人間とは何か」という問題を人間の行動や人間関係、身体などの側面から科学的に研究する比較的新しい学問です。この科目群では、教育学、心理学、健康科学などの分野を扱うほか、スポーツ実習、身体文化演習では体を動かすことで身体の構造・感覚、所作と文化の関連を学び取ることができます。
(10) 現地演習	国内または海外のフィールドを選定し、担当教員による事前学習の後、歴史、文化、自然、環境、ライフスタイル、社会問題などのテーマに沿って、現地にて約1週間から4週間の実地研修、地域研究を行います。現地での見学、交流、体験、語学研修を通して、各フィールドに対する知識、理解を体験的に深めていき、そこから日本あるいは世界を相対視することを目的としています。
(11) キャリア	自分の進路を自らデザインし、それを実現するための基礎力を身につける科目群です。コミュニケーション力を高める科目や、様々な業界で働く先輩から仕事のリアルを聞く科目、自分の生き方としてキャリアを考える科目などが設置されています。

2. 全学専門科目(副専攻、コラボレーション) 14単位以上修得

全学専門科目は、学部・学科・コース・専攻での学びで身につけた専門的な能力を社会に展開し、役立てるための有機的な発想や手法を学ぶ科目です。全学専門科目は「副専攻」と「コラボレーション」の2つの科目群から構成されています。各学部で学修する専門的な知識、思考、技能と合わせることで、より強く、幅広い応用力が身につきます。

(1) 副専攻

「国際」「環境」「福祉」「ソーシャルデザイン」といった現代社会において重要と考えられるテーマに対して、学部・学科・コース・専攻での学びで身につけた専門的な能力を活かし、課題や問題を解決するための知識、アイデア、手法を身につける科目群です。同一の副専攻科目群から5科目10単位(ただし概論科目と演習科目は必修)以上を修得すれば、該当する副専攻を修了したと認定し、「副専攻修了証」を授与します。副専攻の修了は任意です。また、複数の副専攻群から自分の興味・関心、将来の進路などに応じて、幅広く科目を履修することもできます。

副専攻の履修のしかた	<p>例1: 特定の副専攻を深く学ぶ</p> <p>「社会福祉概論」(福祉) 2単位 ※概論科目:必修 「障がい者福祉論」(福祉) 2単位 「児童・家庭福祉論」(福祉) 2単位 「高齢化社会論」(福祉) 2単位 「地域福祉演習」(福祉) 2単位 ※演習科目:必修</p> <p>▼</p> <p>副専攻群「福祉」から5科目10単位修得したため、副専攻「福祉」を修了。「副専攻修了証」が授与されます。</p>	<p>例2: 多様な副専攻から広く学ぶ</p> <p>「ビジネス概論」(ビジネス) 2単位 「コミュニティ論」(ソーシャルデザイン) 2単位 「地域創生論」(ソーシャルデザイン) 2単位 「ツーリズム形態論」(観光) 2単位 「観光資源」(観光) 2単位 「コンテンツビジネス論」(コンテンツマネジメント) 2単位 「文化政策論」(コンテンツマネジメント) 2単位</p> <p>▼</p> <p>「副専攻修了証」は授与されませんが、このような履修も可能です。</p>
------------	---	--

副専攻科目 科目群

① 国際	今日の社会において、国際理解、異文化理解の重要性はますます高まっています。「国際」科目群は異文化理解、国際社会の諸問題、国際ボランティアなどの視点から展開する講義科目と、実際にフィールド調査を行い、渡航計画を立てる演習によって構成されており、この副専攻での学びにより、グローバル社会における芸術、文化の役割を考える多角的な視点が身につきます。
② 環境	今日、人類の経済・社会活動に起因する環境問題が世界中で顕在化しています。「環境」科目群では、現代社会の抱える諸問題を正しく理解し、その改善・解決方法について検討する科目から構成されています。この副専攻での学びにより、真に豊かな暮らしとは何かについて考え、次世代の利益や要求を充足する能力を損なわない範囲内で環境を利用し、生活をしていくための知識、思考方法を身につけます。
③ 京都 伝統文化	「京都伝統文化」科目群では、京都を中心に発展した日本の伝統的な文化や芸術の特質と意義への深い理解に基づき、集大成として京都の伝統工芸、伝統産業の現場で直接指導を受ける「京都の伝統産業演習」を行います。この副専攻での学びにより、文化・芸術の源流と現代の京都で学ぶ自らを結びつけ、表現活動や研究活動を深化させることができます。
④ ビジネス	「ビジネス」科目群では、営利・非営利を問わず、組織の活動目的を実現させるために必要となるマーケティングや統計学、財務といったビジネスに関する基礎知識を身につけたうえで、自らの表現活動、研究活動を現実的にどのようにビジネスに結びつけていけるか、実際にビジネスモデルをつくり上げるまでを実践的に学びます。
⑤ ソーシャル デザイン	私たちが暮らす社会は、少子高齢化や経済格差などさまざまな課題を抱えています。この科目群では、コミュニティやライフスタイルなどに関する知識を得たうえで、学部・学科・コース・専攻で身につけた芸術、文化の専門性を活かして、現代社会の諸問題を解決するためのアイデア、手法を学びます。
⑥ 福祉	現代の日本では、あらゆる人がその尊厳を守られ、幸福に生きていくために必要な制度が整備されています。「福祉」科目群では、障がい者、高齢者、児童、家庭、司法、地域という視点から福祉制度の現状を把握します。「地域福祉演習」では、地域の抱えている問題を福祉の現場から学び、その解決方法をこれまで自分が学んできた知識やスキルを活かして考えます。この科目群での学びは、人間が生きていくうえで必要な諸制度を学修し、よりよい社会のあり方について考えることにつながります。
⑦ 観光	観光は現在の日本における重要な成長分野であり、本学の教育領域である芸術、文化は観光に対し、深い関わりを持ちます。「観光」科目群では、経済や法律、心理などの側面から観光について理解した後、「ホスピタリティ演習」で京都における観光ビジネスの現場でもてなしやサービスについて実践的に学びます。
⑧ コンテンツ マネジメント	「コンテンツマネジメント」科目群では、近年、地域や国という枠組みを超えて世界中に広がるコンテンツに関して、ビジネス、政策、知的財産権、鑑賞と批評といった側面から学修します。そのうえで「コンテンツプランニング演習」で、人を楽しませるアイデア、デザインについて考え、それを伝えるためのプランを生み出し、企画書、デザイン制作に取り組みます。この科目群での学びにより、自らの表現活動、研究活動の意義や価値を理解し、発信する力を身につけることができます。

副専攻演習科目の履修条件

<履修条件>

① 演習科目と同一分野の概論科目の単位を修得している者

② 演習科目と同一分野の講義科目(概論科目以外)を2科目(4単位)以上修得している者

(京都伝統文化は前年度終了時に「和の文化論」「京都の伝統工芸講座1」「京都の伝統工芸講座2」すべての単位を修得している者)

※2年生が「海外フィールドスタディ演習」を履修する場合の特例措置

「国際」分野固有の目的(海外留学)により、2年から演習を履修できるように設定している。したがって、2年生に限り「海外フィールドスタディ演習」履修の必須条件を概論科目の単位修得のみとする。(3~4年生の履修については、他の副専攻と同様の条件とする。)

※ただし、演習科目は定員制(上限25名・抽選科目)です。

(2) コラボレーション

「学生連携」「社会連携」「学内活性」などをテーマに、様々な学部・学科・コース・専攻の学生と教職員が交じり合い、それぞれの専門性を活かしながらテーマ発見→企画立案・実施→成果発表までを行うプロジェクト授業です。社会的なテーマを背景としたプロジェクトを通して、自身の専門スキルの役割の発見や、それらを社会の中で活かすための知識や手法を実践のなかで学びます。また、他ジャンルとのスキルの融合などによる、独自の活動の発見、新たな表現の可能性について考察する視点を身につけます。

これまで実施したコラボレーションプロジェクト

スムーズなコミュニケーションを
考えるプロジェクト

新しいコミュニケーションの形を生み出すプロダクトの企画、制作をおこなうプロジェクト。コロナの影響で遠隔授業を受けた学生が、対面の環境になった時にストレスのないコミュニケーションで、より良い学生生活を促すための「カードゲーム」を企画しました。また、販売することを前提として現在、検証、広報などをおこなっています。

西陣織[和工房 明月]との
新サービス開発

和装の帯を手掛ける[和工房 明月]とのコラボレーション。絹織物に写真や図案を織り込む技術に着目し、写真をカードサイズの西陣織に仕立てるオーダーメイドサービス「おもいで織り」を発案。高級な西陣織を身近に感じながら愛用できるサービス開発をおこないました。価格設定や作業工程などのサービスに必要な要件も考案し、実際の商品化に向けて活動を続けています。

台所プロジェクト

建設中の新明窓館(仮)に設置される調理設備を備えた現代的な“台所”の設計企画立案を行います。鞍馬山の風倒木や裏山の粘土など地域の資源を最大限活用したインテリアや器のデザイン設計とともに、様々な交流と学内活性を生み出す仕組みの考案など、本学のシンボルとなる台所づくりを目指し現在も継続活動中。

※今後開講するプロジェクトは年度ごとに異なります

4年間の履修計画

4年間で全学共通教育科目(SEEK)、学部専門教育科目をどのように履修していくのか、履修計画の例を紹介します。

以下に紹介しているのは一例ですので、学生のみなさんは、これを参考に自分の目的、将来の目標に合わせて履修登録を行ってください。

各授業科目の詳しい内容は、「セイカポータル」からシラバスを参照してください。



ケース1 芸術学部造形学科所属 Aさん

「アートで病院を楽しく温かな空間にし、患者さんやその家族、病院で働く人々を癒すことができたら・・・」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位数			
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数		合計		
全学共通教育科目	全学 教養科目	大学入門	必修	2	人権論	選択	2	現代社会の諸問題	選択	2			30			
		ことば演習	必修	2	生物学	選択	2	ジェンダー論	選択	2						
		英語1	必修	2	社会学	選択	2	倫理学	選択	2						
		英語2	必修	2	哲学	選択	2	身体文化演習	選択	1						
		芸術学	選択	2	健康学	選択	2	スポーツ実習1	選択	1						
		美学概論	選択	2												
全学 専門科目				ソーシャルデザイン概論	選択	2	社会福祉概論	選択	2	児童・家庭福祉論	選択	2	地域福祉演習	選択	2	14
							障がい者福祉論	選択	2	高齢化社会論	選択	2	国際ボランティア論	選択	2	
学部専門教育科目	専門 基礎科目	基礎ゼミ	必修	2									14			
		絵画基礎	必修	3												
		彫刻基礎	必修	3												
		デザイン基礎	必修	3												
		工芸基礎	必修	3												
	専門 実習科目				造形基礎1(版画専攻)	必修	4	造形実習1(版画専攻)	必修	4	卒業研究実習1(シルクスクリーンゼミ)	必修	3	38		
					造形基礎2(版画専攻)	必修	4	造形実習2(版画専攻)	必修	4	卒業研究実習2(シルクスクリーンゼミ)	必修	3			
					造形基礎3(版画専攻)	必修	4	造形実習3(版画専攻)	必修	4						
					造形基礎4(版画専攻)	必修	4	造形実習4(版画専攻)	必修	4						
メチエ 教育科目	版画基礎1	選択	2									8				
	版画基礎2	選択	2													
	版画基礎3	選択	2													
	版画基礎4	選択	2													
専門 演習科目 専門 講義科目	現代美術基礎講座2	選択	2	現代社会システム論	選択	2	アートマネジメント論	選択	2			16				
				現代アートプロジェクト演習1	選択	2	造形演習1	選択	2							
				美術工芸史2	選択	2	工芸2	選択	2							
				ドローイング	選択	2										
卒業研究									卒業研究	必修	4	4				



ケース2 芸術学部造形学科所属 Bさん

「地域振興型アートに興味がある。卒業後は国際的に活躍するアーティストになりたい!」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位数	
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数		合計
全学共通教育科目	全学 教養科目	大学入門	必修	2	Academic Communication Skills1	選択	2	身体表現論	選択	2			30	
		ことば演習	必修	2	Academic Communication Skills2	選択	2	メディア論	選択	2				
		英語1	必修	2	西洋美術史	選択	2	視覚文化論	選択	2				
		英語2	必修	2	色彩学	選択	2							
		芸術学	選択	2	生物学	選択	2							
		美学概論	選択	2										
		美術史	選択	2										
全学 専門科目				異文化理解とアイデンティティ	選択	2	地域創生論	選択	2	海外フィールドスタディ演習	選択	2	14	
				ライフスタイル論	選択	2	国際社会論	選択	2	鑑賞と批評	選択	2		
学部専門教育科目	専門 基礎科目	基礎ゼミ	必修	2								14		
		絵画基礎	必修	3										
		彫刻基礎	必修	3										
		デザイン基礎	必修	3										
		工芸基礎	必修	3										
	専門 実習科目				造形基礎1(映像専攻)	必修	4	造形実習1(映像専攻)	必修	4	卒業研究実習1(ワイデオートゼミ)	必修	3	38
					造形基礎2(映像専攻)	必修	4	造形実習2(映像専攻)	必修	4	卒業研究実習2(ワイデオートゼミ)	必修	3	
					造形基礎3(映像専攻)	必修	4	造形実習3(映像専攻)	必修	4				
					造形基礎4(映像専攻)	必修	4	造形実習4(映像専攻)	必修	4				
メチエ 教育科目	映像基礎1	選択	2									8		
	洋画基礎2	選択	2											
	版画基礎3	選択	2											
	映像基礎4	選択	2											
専門 演習科目 専門 講義科目				現代美術論	選択	2	芸術評論	選択	2	アートマネジメント論	選択	2	16	
				映像論	選択	2								
				映像メディア表現1	選択	2	映像メディア表現2	選択	2	写真表現	選択	2		
				現代アートプロジェクト演習2	選択	2								
卒業研究									卒業研究	必修	4	4		

ケース 3 デザイン学部ビジュアルデザイン学科デジタルクリエイションコース所属 Cさん



「ゲームやプログラミングに興味がある。京都の未来の観光を考えるコラボレーション授業を履修する中で、観光の知識をもっと増やしたいと思うようになった」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位数	
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数		合計
全学共通教育科目	全学 教養科目	大学入門	必修	2	色彩学	選択	2	日本史	選択	2			124	
		ことば演習	必修	2	サウンド演習	選択	1	視覚文化論	選択	2				
		英語1	必修	2	自然科学概論	選択	2	クリエイティブの現場	選択	2				
		英語2	必修	2	スポーツ実習1	選択	1							
		芸術学	選択	2	職業研究	選択	2							
		デザイン論	選択	2										
	マンガ文化論	選択	2											
全学 専門科目				コラボレーション概論	選択	2	コラボレーション実習1	選択	2	コンテンツビジネス論	選択	2	14	
				コンテンツマネジメント概論	選択	2	コラボレーション実習2	選択	2					
学部専門 教育科目	学部専門 講義科目			デザイン論特講1	選択必修	2	デザイン論特講4	選択必修	2				76	
				デザインレクチャーズ	選択必修	2								
	コース専門 教育科目	ビジュアルデザイン基礎1	必修	2	クリエイション1	必修	3	プロジェクト1	必修	3	テーマ研究1	必修		1
		ビジュアルデザイン基礎2	必修	2	クリエイション2	必修	3	プロジェクト2	必修	3	テーマ研究2	必修		1
		ビジュアルデザイン基礎3	必修	2	クリエイション3	必修	3	プロジェクト3	必修	1	テーマ研究3	必修		2
		ビジュアルデザイン基礎4	必修	2	クリエイション4	必修	3	プロジェクト4	必修	3	テーマ研究4	必修		1
		ビジュアルデザイン基礎5	必修	2	クリエイション5	必修	3	プロジェクト5	必修	3	テーマ研究5	必修		1
		ビジュアルデザイン基礎6	必修	2	クリエイション6	必修	3	プロジェクト6	必修	1	テーマ研究6	必修		2
		デザインスキル1	選択必修	2	デザイン2	選択	2	デザインスキル5	選択	2				
		デザインスキル2	選択必修	2	デザイン3	選択	2	デザインスキル6	選択	2				
		デザインスキル3	選択必修	2	デザイン6	選択	2	デザインスキル8	選択	2				
卒業研究									卒業制作	必修	4	4		

ケース 4 マンガ学部マンガ学科新世代マンガコース所属 Dさん



「同じ学年のみんなとマンガ作品を掲載するWebサイトを制作。将来的にはマンガ配信アプリにしたい」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位数	
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数		合計
全学共通教育科目	全学 教養科目	大学入門	必修	2	日本史	選択	2	映画芸術論	選択	2			30	
		ことば演習	必修	2	メンタルヘルス	選択	2	ポートフォリオ演習	選択	1				
		英語1	必修	2	地球と宇宙の科学	選択	2	科学史	選択	2				
		英語2	必修	2	文化人類学	選択	2							
		情報リテラシー	選択	1										
		芸術学	選択	2										
		ストリート文化論	選択	2										
		生物学	選択	2										
		コミュニケーション実践演習	選択	2										
全学 専門科目				コンテンツマネジメント概論	選択	2	コンテンツビジネス論	選択	2	コンテンツプランニング演習	選択	2	14	
				文化政策論	選択	2	知的財産権概論	選択	2	ライフスタイル論	選択	2		
学部専門 教育科目	コース専門 教育科目	絵画技法1	必修	3	脚本実習1	必修	3	表現技法3	必修	3	自由制作	必修	3	45
		絵画技法2	必修	3	脚本実習2	必修	3	表現技法4	必修	3	卒業制作実習	必修	6	
		ネームドリル実習1	必修	3	制作実習1	必修	3		必修	3				
		ネームドリル実習2	必修	3	制作実習2	必修	3		必修	3				
	学部共通 専門科目	基礎デジタル演習1	必修	2	新世代マンガ総合講座	必修	2	シナリオ技法1	選択	2	メディア産業論	選択	2	32
		基礎デジタル演習2	必修	2	キャラクター造形論1	選択	2	シナリオ技法2	選択	2				
		マンガ表現史1	必修	2	キャラクター造形論2	選択	2	編集実践演習	選択	2				
		マンガ表現史2	必修	2	デジタル演習1	選択	2	コラボレーション演習1	選択	2				
		マンガ業界論	必修	2	デジタル演習2	選択	2	コラボレーション演習2	選択	2				
卒業研究									卒業制作	必修	3	3		



ケース 5 ポピュラーカルチャー学部ポピュラーカルチャー学科ファッションコース所属 Eさん

「着る人にもつくる人にもやさしいファッションって何かを考えたら、環境についてもっと詳しくなりたいと思った」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数		合計	
全学共通教育科目	全学 教養科目	大学入門	必修	2	ストリート文化論	選択	2	現代社会の諸問題	選択	2			30		
		ことば演習	必修	2	メディア論	選択	2	文化人類学	選択	2					
		英語1	必修	2	ジェンダー論	選択	2	身体論	選択	2					
		英語2	必修	2	西洋思想史	選択	2								
		自由論	選択	2											
		シチズンシップスタディーズ	選択	2											
	全学 専門科目		自然科学概論	選択	2										
			持続可能な社会	選択	2	環境社会学	選択	2	生活環境学	選択	2	環境社会演習	選択	2	14
			ソーシャルデザイン概論	選択	2	環境経済学	選択	2	ライフスタイル論	選択	2				
学部専門教育科目	専門 講義科目	ポピュラーカルチャー原論	必修	2	文化批評	選択	2	アパレル素材論	選択	2			124		
		ファッション論	選択	2	日本服飾史	選択	2	造形論	選択	2					
		ファッション史	選択	2											
	専門 演習科目	基礎演習1(グラフィックデザイン)	選択	2	基礎演習2(写真)	選択	2	制作演習6(プリント)	選択	2	応用演習5(パターン1)	選択	2	80	
		基礎演習6(パターン1)	選択	2	基礎演習8(縫製1)	選択	2	制作演習8(ニット)	選択	2	応用演習6(パターン2)	選択	2		
		基礎演習7(パターン2)	選択	2	基礎演習9(縫製2)	選択	2	応用演習3(ファッションPR)	選択	2					
					制作演習7(染織)	選択	2								
	専門 実習科目	基礎実習1(リサーチ&デザイン)	必修	3	制作実習1(パターン)	必修	3	応用実習1	選択必修	3	自由制作1	必修	3		
		基礎実習2(ファッションデザイン)	必修	3	制作実習2(ファッションデザイン)	必修	3	応用実習3	選択必修	3	自由制作2	必修	3		
		基礎実習3(リサーチ&デザイン)	必修	3	制作実習3(パターン)	必修	3				卒業制作1	必修	3		
		基礎実習4(ファッションデザイン)	必修	3	制作実習4(ファッションデザイン)	必修	3				卒業制作2	必修	3		



ケース 6 人文学部総合人文学科文学専攻所属 Fさん

「文学専攻では源氏物語を研究。源氏物語の中に出てきた「薫物(たきもの)合わせ」に興味を持ち、自分の手でお香を作ってみることで学びを深めたいと思った」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数		合計	
全学共通教育科目	全学 教養科目	大学入門	必修	2	中国語1	必修	2	色彩学	選択	2			30		
		ことば演習	必修	2	中国語2	必修	2	文芸創作演習	選択	1					
		発展ことば演習	必修	2	美学概論	選択	2								
		英語1	必修	2	工芸概論	選択	2								
		英語2	必修	2	日本史	選択	2								
		日本国憲法	選択	2	東洋史	選択	2								
	全学 専門科目		生物学	選択	2	身体文化演習	選択	1							
			和の文化論	選択	2	京都の習俗	選択	2	現代日本文化と世界	選択	2	京都のまちづくり	選択	2	14
						京都の伝統工芸講座1	選択	2			京都の伝統産業演習(お香)	選択	2		
						京都の伝統工芸講座2	選択	2							
学部専門教育科目	哲学 概論	哲学概論1	必修	2	地域学	必修	2						20		
		哲学概論2	必修	2	現場学	必修	2								
		人文学概論1	必修	2	社会創造概論	必修	2								
		人文学概論2	必修	2											
		初年次演習1	必修	2											
		初年次演習2	必修	2											
		フィールドワーク概論	必修	2											
	創造実践 科目群				社会創造演習	必修	2	フィールド・スタディーズ1	必修	2			16		
					ICT・メディア演習	必修	2	フィールド・スタディーズ2	必修	2					
								フィールド・スタディーズ3	必修	2					
								フィールド・スタディーズ4	必修	2					
								フィールド・スタディーズ5	選択	2					
								フィールド・スタディーズ6	選択	2					
	専門研究 科目群				文学概論	必修	2	文学専門演習3	必修	2	卒業研究演習1	必修	2	24	
					日本文学研究	必修	2	文学専門演習4	必修	2	卒業研究演習2	必修	2		
					日本語学概論	必修	2	日本中古文講読	選択	2	卒業論文	必修	2		
					文学専門演習1	必修	2	日本中世文学講読	選択	2					
					文学専門演習2	必修	2								
	展開 科目群				日本文学史	選択	2	書道	選択	2	京都の歴史1	選択	2	20	
					口承文学	選択	2	日本文化史	選択	2	京都の歴史2	選択	2		
				漢文学	選択	2	日本芸能史	選択	2	企業論	選択	2			
							詩歌論	選択	2						

全学共通教育科目 科目一覧

1. 全学教養科目

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
(1) セイ カ学	CSE10011	大学入門	必修	講義	2	1	●		●			●	
	CSE10031	自由論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			●	●
	CSE10051	人権論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			●	●
	CSE10071	日本国憲法	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			●	●
	CSE10091	シチズンシップ・スタディーズ	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			●	●
	CFL21511	ことば演習	必修	演習	2	1	●				●	●	
(2) 語 学	CFL21521	発展ことば演習 ※人文学部のみ必修	選択	演習	2	1・2・3・4	●				●	●	
	CFL20011	英語1	必修	演習	2	1	●				●	●	
	CFL20021	英語2	必修	演習	2	1	●				●	●	
	CFL20031	英語3	選択	演習	2	2・3・4	●				●	●	
	CFL20041	英語4	選択	演習	2	2・3・4	●				●	●	
	CFL20112	Business English1	選択	演習	2	2・3・4	●				●	●	
	CFL20122	Business English2	選択	演習	2	2・3・4	●				●	●	
	CFL20132	Academic Communication Skills1	選択	演習	2	2・3・4	●				●	●	
	CFL20142	Academic Communication Skills2	選択	演習	2	2・3・4	●				●	●	
	CFL21011	日本語1	必修	演習	2	1	●				●	●	
	CFL21021	日本語2	必修	演習	2	1	●				●	●	
	CFL21032	上級日本語1	選択	演習	2	2・3・4	●				●	●	
	CFL21042	上級日本語2	選択	演習	2	2・3・4	●				●	●	
	CFL25012	中国語1	選択	演習	2	2・3・4	●				●	●	
	CFL25022	中国語2	選択	演習	2	2・3・4	●				●	●	
	CFL26012	韓国語1	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL26022	韓国語2	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL27012	タイ語1	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL27022	タイ語2	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL29012	ベトナム語1	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL29022	ベトナム語2	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL28012	インドネシア語1	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL28022	インドネシア語2	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL22012	フランス語1	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL22022	フランス語2	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL23012	ドイツ語1	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL23022	ドイツ語2	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL24012	イタリア語1	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL24022	イタリア語2	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL24512	スペイン語1	選択	演習	2	2・3・4	●				●		
	CFL24522	スペイン語2	選択	演習	2	2・3・4	●				●		

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
(3) ITリテラシー	CIT20011	情報リテラシー	選択	演習	1	1・2・3・4	●				●		
	CIT20031	ビジネスソフト演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●				●		
	CIT20051	画像ソフト演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●				●		
	CIT20071	動画ソフト演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●				●		
	CIT20091	編集ソフト演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●				●		
	CIT20111	プログラミング演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●				●		
(4) 表現理論	CET10011	芸術学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10031	美学概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10051	美術史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10071	日本美術史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10091	東洋美術史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10111	西洋美術史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10131	工芸概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10151	デザイン論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10171	色彩学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10191	視覚文化論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10211	音楽史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10231	身体表現論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10251	マンガ文化論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10271	ストリート文化論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10291	演劇論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10311	サブカルチャー論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10331	メディア論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10351	映画芸術論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10371	写真論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CET10391	印刷論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
CET10411	広告論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
CET10431	素材論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
(5) 表現技法	CAT20011	絵画演習	選択	演習	2	1・2・3・4	●			●			
	CAT20031	写真技法演習	選択	演習	2	1・2・3・4	●			●			
	CAT20051	マンガ制作演習	選択	演習	2	1・2・3・4	●			●			
	CAT20071	サウンド演習	選択	演習	2	1・2・3・4	●			●		●	
	CAT20091	立体造形演習	選択	演習	2	1・2・3・4	●			●			
	CAT20111	デザイン演習	選択	演習	2	1・2・3・4	●			●			
	CAT20131	デジタル作画演習	選択	演習	2	1・2・3・4	●			●			
	CAT20151	工芸演習	選択	演習	2	1・2・3・4	●			●			
	CAT20171	編集演習	選択	演習	2	1・2・3・4	●			●			
	CAT20191	文芸創作演習	選択	演習	2	1・2・3・4	●			●			

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関							
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現		
							1	2	1	2	3	1	2	
(6) 自然科学	CNS10011	自然科学概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CNS10031	生物学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CNS10051	科学史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CNS10071	数学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CNS10091	物理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CNS10111	生命科学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
(7) 社会科学	CNS10131	地球と宇宙の科学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CSS10011	政治学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CSS10031	法学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CSS10051	社会学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CSS10071	経済学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CSS10091	産業論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CSS10111	平和学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CSS10131	ジェンダー論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CSS10151	現代社会の諸問題	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		●			
CSS10171	表現と法	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●						
(8) 人文科学	CHU10011	宗教史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10031	東洋思想史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10051	西洋思想史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10071	哲学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10091	日本文学概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10111	世界文学概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10131	日本史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10151	東洋史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10171	西洋史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10191	考古学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10211	民俗学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10231	言語学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10251	地理学概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHU10271	文化人類学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
CHU10291	倫理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●						
(9) 人間科学	CHS10011	心理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHS10031	健康学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHS10051	身体論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHS10071	教育学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHS10091	メンタルヘルス	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●					
	CHS20011	身体文化演習	選択	演習	2	1・2・3・4	●		●					
	CHS21011	スポーツ実習1	選択	実習	2	1・2・3・4	●					●		
	CHS21021	スポーツ実習2	選択	実習	2	1・2・3・4	●					●		

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
(10) 現地演習	CFW90011	国内ショートプログラム1	選択	演習	2	1・2・3・4	●		●		●	●	
	CFW90021	国内ショートプログラム2	選択	演習	2	1・2・3・4	●		●		●	●	
	CFW90031	国内ショートプログラム3	選択	演習	2	1・2・3・4	●		●		●	●	
	CFW91011	海外ショートプログラム1	選択	演習	2	1・2・3・4	●		●		●	●	
	CFW91021	海外ショートプログラム2	選択	演習	2	1・2・3・4	●		●		●	●	
	CFW91031	海外ショートプログラム3	選択	演習	2	1・2・3・4	●		●		●	●	
(11) キャリア	CCA20011	コミュニケーション実践演習	選択	演習	1	1・2・3・4	●				●	●	
	CCA10011	ライフデザイン	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CCA10031	職業研究	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	CCA10212	クリエイティブの現場	選択	講義	2	2・3・4			●		●	●	●
	CCA21012	キャリアのためのデッサン	選択	演習	2	2・3・4	●						●
	CCA21032	ポートフォリオ演習	選択	演習	1	2・3・4	●				●		
	CCA90012	インターンシップ	選択	演習	2	1・2・3・4			●			●	●

2. 全学専門科目 (1) 副専攻

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
① 国際	CMI30011	異文化理解とアイデンティティ	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			●	●
	CMI30032	グローバル・スタディーズ	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI30052	国際社会論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI30072	現代日本文化と世界	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI30092	国際ボランティア論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI40113	海外フィールドスタディ演習	選択	演習	2	2・3・4			●		●	●	●
② 環境	CMI31011	持続可能な社会	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			●	●
	CMI31032	環境社会学	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI31052	環境政策学	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI31072	環境経済学	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI31092	生活環境学	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI41113	環境社会演習	選択	演習	2	3・4			●		●	●	●
③ 京都伝統文化	CMI32011	和の文化論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			●	●
	CMI32032	京都の伝統工芸講座1	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI32052	京都の伝統工芸講座2	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI32072	京都の習俗	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI32092	京都のまちづくり	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI42113	京都の伝統産業演習	選択	演習	2	3・4	●		●		●	●	●

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
④ ビジネス	CMI33011	ビジネス概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			●	●
	CMI33032	イノベーション論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI33052	ファイナンス論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI33072	マーケティング論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI33092	ビジネス統計学	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI43113	ビジネスモデル演習	選択	演習	2	3・4	●		●		●	●	●
⑤ ソーシャルデザイン	CMI34011	ソーシャルデザイン概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			●	●
	CMI34032	NPO・NGO論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI34052	コミュニティ論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI34072	地域創生論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI34092	ライフスタイル論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI44113	ソーシャルデザイン演習	選択	演習	2	3・4	●		●		●	●	●
⑥ 福祉	CMI35011	社会福祉概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			●	●
	CMI35032	障がい者福祉論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI35052	児童・家庭福祉論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI35072	司法福祉論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI35092	高齢化社会論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI45113	地域福祉演習	選択	演習	2	3・4	●		●		●	●	●
⑦ 観光	CMI36011	ツーリズム形態論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			●	●
	CMI36032	観光経済	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI36052	観光資源	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI36072	観光心理	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI36092	観光法規	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI46113	ホスピタリティ演習	選択	演習	2	3・4	●		●		●	●	●
⑧ コンテンツマネジメント	CMI37011	コンテンツマネジメント概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●			●	●
	CMI37032	コンテンツビジネス論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI37052	文化政策論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI37072	知的財産権概論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI37092	鑑賞と批評	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	●
	CMI47113	コンテンツプランニング演習	選択	演習	2	3・4			●		●	●	●

2. 全学専門科目 (2) コラボレーション

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
コラボレーション	CC030012	コラボレーション概論	選択	講義	2	2・3・4	●		●			●	
	CC041113	コラボレーション実習1	選択	実習	2	3・4			●		●	●	●
	CC041123	コラボレーション実習2	選択	実習	2	3・4			●		●	●	●
	CC041133	コラボレーション実習3	選択	実習	2	3・4			●		●	●	●
	CC041143	コラボレーション実習4	選択	実習	2	3・4			●		●	●	●

芸術学部 造形学科

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム構造

学部の教育目標

- 芸術学部は、自立した思考力によって新たな表現を創造するクリエイターの資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行います。

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	DP2	DP3
<p>1.多様性を理解する力</p> <p>文化の多様性、人間と芸術の関係を理解し、自らの社会的役割を認識できる</p> <p>2.専門知を活用する力</p> <p>芸術分野に関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている</p>	<p>1.論理的に思考し判断する力</p> <p>多角的な視点から対象や事象の本質を捉え、論理的かつ客観的に分析・考察し、自らの解釈を持って判断できる</p> <p>2.考えを表現する力</p> <p>他者の心に訴え、行動を喚起する造形力を備えている</p> <p>3.多様な人とコミュニケーションする力</p> <p>文化や芸術の社会的意義を認識し、建設的・創造的な情報を発信できる</p>	<p>1.他者と協働する力</p> <p>自らの個性や適性を活かして行動し、目標を持って多様な人々と協働できる</p> <p>2.社会と他者に貢献する力</p> <p>芸術に関する知識や技能で社会や他者に働きかけ、精神的価値の向上による新しい社会のあり方を提案できる</p>

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

芸術学部は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、全学教養科目、全学専門科目、学部専門教育科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系をわかりやすく明示します。

芸術学部専門科目の教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1 教育内容

学部専門教育科目では、芸術を学ぶうえで基盤となる知識や教養を身につけるための専門講義科目を開講します。1年次に基礎を学ぶ科目を配当し、2年次以降には専門性を深める手助けとなる科目を配当します。

さらに、芸術に関わる技術や表現手法を学ぶ実技系の科目群として、専門基礎科目、メチエ教育科目、専門実習科目、専門演習科目を開講します。

専門基礎科目は、基礎的な造形表現により芸術を学ぶ上での体幹となる「感覚、感性」や「発見、発想」を起こす力を養います。基礎ゼミは、教員と学生、学生同士のコミュニケーションを軸に芸術を学ぶ意義を共有し、学生個々の芸術活動の方向性を導きます。メチエ教育科目では、創作するための多様な技術や表現手段を体験し、その基礎となる能力を身につかせます。専門実習科目は、制作・研究に取り組むことで技術力・表現力・思考力を磨きます。専門演習科目は、主に表現と社会との関わりに主眼を置いて科目を編成しています。

2 教育方法

- (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
- (3) 学修ポートフォリオの作成指導により、学生の自律的な学修を支援します。

3 学修成果の評価

芸術学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況(単位取得、GPA)により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況(単位取得、GPA)により、総合的評価を行います。卒業制作(必修)は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。

カリキュラムマップ



芸術学部 造形学科 卒業要件

(全学共通教育科目 (44単位以上)) + (学部専門教育科目 (80単位以上)) = 124単位以上

科目区分	必修科目				必修・選択必修科目以外		卒業に要する単位(計)
	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	卒業に要する単位	備考	
全学共通教育科目	全学教養科目	大学入門	1年	2単位	2単位	22単位以上 必修の「大学入門」・「ことば演習」・「英語1」・「英語2」に加え、22単位以上を修得する必要がある。	30単位以上
		ことば演習	1年	2単位	6単位		
		英語1(※1)	1年	2単位			
		英語2(※1)	1年	2単位			
全学専門科目					14単位以上	14単位以上	
学部専門教育科目	専門基礎科目	○ 基礎ゼミ	1年	2単位	14単位		卒業に要する単位 124単位以上
		○ 絵画基礎	1年	3単位			
		○ 工芸基礎	1年	3単位			
		○ 彫刻基礎	1年	3単位			
		○ デザイン基礎	1年	3単位			
	専門実習科目	○ 造形基礎1	2年	4単位	38単位		
		○ 造形基礎2	2年	4単位			
		○ 造形基礎3	2年	4単位			
		○ 造形基礎4	2年	4単位			
		○ 造形実習1	3年	4単位			
		○ 造形実習2	3年	4単位			
		○ 造形実習3	3年	4単位			
		○ 造形実習4	3年	4単位			
	卒業研究実習1	卒業研究実習1	4年	3単位			
卒業研究実習2		4年	3単位				
メチエ教育科目					8単位以上	原則1年次に8単位修得すること。	
専門講義科目 専門演習科目					16単位以上	専門講義科目、専門演習科目のうちから、16単位以上を修得する必要がある。	
卒業研究	卒業研究	4年	4単位	4単位			

【留意事項】

(※1) 留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。

【進級要件】

- 1年次から2年次: 上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。
- 2年次から3年次: 上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。
- 3年次から4年次: 上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。

芸術学部 造形学科 カリキュラムマップ

	専門講義科目	必修実技科目	メテ工科目・ 専門演習科目
1年次	<p>造形芸術を学ぶ基礎的な能力を鍛える「体幹教育」と多様な技術や表現手段を体験する「メテ工教育」、「基礎ゼミ」での個性にあわせた少人数指導により、「基礎・体験・道標」を軸に表現することの「おもしろさ」と基礎となる能力を養う。</p> <p>現代美術基礎講座1・2(各2) 美術史特論1・2・3(各2) 美術工芸史1・2(各2)</p>	<p>基礎ゼミ(2) 体幹教育プログラム</p> <p>絵画基礎(3) 工芸基礎(3) 彫刻基礎(3) デザイン基礎(3)</p>	<p>メテ工教育科目(各2)</p> <p>洋画基礎1・2・3・4 日本画基礎1・2・3・4 立体基礎1・2・3・4 陶芸基礎1・2・3・4 染織基礎1・2・3・4 版画基礎1・2・3・4 映像基礎1・2・3・4</p>
2年次より専攻に所属(洋画・日本画・立体造形・陶芸・テキスタイル・版画・映像)			
2年次	<p>1年次で身につけた能力を基礎に、7つの領域(専攻)の中から自身が興味・関心あるコースを選択。専門教育への基礎的な導入と実践によってメテ工、表現力、思考力を磨きはじめる。</p> <p>現代社会システム論(2) 映像論(2) メディアアート論(2) 現代美術論(2) 芸術表象論(2) 芸術と哲学(2) アートマネジメント論(2) 美術解剖学(2) 視覚認知論(2) 芸術と精神分析(2) 芸術評論(2)</p>	<p>造形基礎1(4) 造形基礎2(4) 造形基礎3(4) 造形基礎4(4)</p>	<p>専門演習科目(各2)</p> <p>表現研究1・2・3 鑑賞演習1・2 現代アートプロジェクト演習1・2・3・4 基礎デッサン ドローイング 工芸1・2・3・4 造形演習1・2 映像メディア表現1・2・3 写真表現</p>
3年次	<p>2年次に引き続き、所属する専攻の専門教育をさらに実践する。技術力、表現力、思考力を深めるとともに創造力と社会への発信力を養い、自身の専門性、造形芸術における方向性を確認していく。</p>	<p>造形実習1(4) 造形実習2(4) 造形実習3(4) 造形実習4(4)</p>	<p>専門演習科目(各2)</p> <p>表現研究4・5・6 映像メディア表現4 図法製図</p>
4年次	<p>専攻の枠組みを越えて、各教員が開講する多種多様なゼミを選択、所属し、3年間の学びで培った能力をさらに先鋭化させる。制作、研究、集大成としての卒業制作に開花させていながら、自身を社会へ、進学へと繋げていく。</p>	<p>卒業研究実習1(3) 卒業研究実習2(3) 卒業研究(4)</p> <p>ゼミ例</p> <p>絵画技法／視覚芸術／ 絵画についての研究と実践／ 日本画／彫刻／陶芸／ 空間造形／型染め／ 繊維造形／シルクスクリーン／ 型染め／写真、CG／ リトグラフ／銅版画／木版画／ アートアニメーション／ ビデオアート／サウンドアート、 インタラクティブアート／ デジタルメディア表現／ キュレーション／美学／etc.</p>	

()内は単位数

芸術学部 造形学科 専門教育科目 科目一覧

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
専門講義科目	AFA30011	現代美術基礎講座1	選択	講義	2	1		●	●			●	
	AFA30031	現代美術基礎講座2	選択	講義	2	1		●	●			●	
	AFA30051	美術史特論1	選択	講義	2	1	●			●			●
	AFA30071	美術史特論2	選択	講義	2	1	●			●			●
	AFA30091	美術史特論3	選択	講義	2	2	●			●			●
	AFA30111	美術工芸史1	選択	講義	2	2	●			●			●
	AFA30131	美術工芸史2	選択	講義	2	2	●			●			●
	AFA30152	現代社会システム論	選択	講義	2	2・3		●	●				●
	AFA30172	映像論	選択	講義	2	2・3		●		●			●
	AFA30192	メディアアート論	選択	講義	2	2・3		●		●			●
	AFA30212	現代美術論	選択	講義	2	2・3		●		●			●
	AFA30232	芸術表象論	選択	講義	2	2・3	●	●		●			●
	AFA30252	芸術と哲学	選択	講義	2	2・3		●		●			●
	AFA30272	アートマネジメント論	選択	講義	2	3・4		●	●			●	
	AFA30292	美術解剖学	選択	講義	2	3・4		●		●			●
	AFA30312	視覚認知論	選択	講義	2	3・4		●		●			●
	AFA30332	芸術と精神分析	選択	講義	2	3・4		●		●			●
	AFA30352	芸術評論	選択	講義	2	3・4		●		●			●
専門演習科目	AFA41012	表現研究1	選択	演習	2	2		●		●	●	●	
	AFA41032	表現研究2	選択	演習	2	2		●		●	●	●	
	AFA41052	表現研究3	選択	演習	2	3		●		●		●	
	AFA41073	表現研究4	選択	演習	2	3		●		●		●	
	AFA41093	表現研究5	選択	演習	2	3・4		●		●		●	
	AFA41113	表現研究6	選択	演習	2	3・4		●		●		●	
	AFA41132	現代アートプロジェクト演習1	選択	演習	2	2	●		●			●	●
	AFA41152	現代アートプロジェクト演習2	選択	演習	2	2	●		●			●	●
	AFA41172	現代アートプロジェクト演習3	選択	演習	2	3	●		●			●	●
	AFA41192	現代アートプロジェクト演習4	選択	演習	2	3	●		●			●	●
	AFA41212	鑑賞演習1	選択	演習	2	2・3	●		●			●	
	AFA41232	鑑賞演習2	選択	演習	2	2・3	●		●			●	
	AFA41252	基礎デッサン	選択	演習	2	2		●		●		●	
	AFA41272	ドローイング	選択	演習	2	2・3		●		●		●	
	AFA41292	工芸1	選択	演習	2	2・3		●		●		●	
	AFA41312	工芸2	選択	演習	2	2・3		●		●		●	
	AFA41332	工芸3	選択	演習	2	2・3		●		●		●	
	AFA41352	工芸4	選択	演習	2	2・3・4		●		●		●	
	AFA41373	図法製図	選択	実習	2	3・4		●		●		●	
	AFA41392	造形演習1	選択	演習	2	3		●		●		●	
	AFA41412	造形演習2	選択	演習	2	3		●		●		●	
	AFA41432	映像メディア表現1	選択	演習	2	2・3		●		●		●	
	AFA41452	映像メディア表現2	選択	演習	2	2・3		●		●		●	
	AFA41472	映像メディア表現3	選択	演習	2	3・4		●		●		●	
	AFA41493	映像メディア表現4	選択	演習	2	3・4		●		●		●	
	AFA41512	写真表現	選択	演習	2	2・3		●		●		●	

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
専門基礎科目	AFA42011	基礎ゼミ	必修	演習	2	1		●				●	
	AFA42031	絵画基礎	必修	実習	3	1	●					●	
	AFA42051	彫刻基礎	必修	実習	3	1	●					●	
	AFA42071	デザイン基礎	必修	実習	3	1	●					●	
	AFA42091	工芸基礎	必修	実習	3	1	●					●	
メチ工教育科目	AFA43011	洋画基礎1	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43031	洋画基礎2	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43051	洋画基礎3	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43071	洋画基礎4	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43091	日本画基礎1	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43111	日本画基礎2	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43131	日本画基礎3	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43151	日本画基礎4	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43171	立体基礎1	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43191	立体基礎2	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43211	立体基礎3	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43231	立体基礎4	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43251	陶芸基礎1	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43271	陶芸基礎2	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43291	陶芸基礎3	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43311	陶芸基礎4	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43331	染織基礎1	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43351	染織基礎2	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43371	染織基礎3	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43391	染織基礎4	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43411	版画基礎1	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43431	版画基礎2	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43451	版画基礎3	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43471	版画基礎4	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43491	映像基礎1	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43511	映像基礎2	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43531	映像基礎3	選択	実習	2	1・2		●				●	
	AFA43551	映像基礎4	選択	実習	2	1・2		●				●	
専門実習科目	※各コース別コード	造形基礎1	必修	実習	4	2		●	●	●		●	
	※各コース別コード	造形基礎2	必修	実習	4	2		●	●	●		●	
	※各コース別コード	造形基礎3	必修	実習	4	2		●	●	●		●	
	※各コース別コード	造形基礎4	必修	実習	4	2		●	●	●		●	
	※各コース別コード	造形実習1	必修	実習	4	3		●		●	●	●	
	※各コース別コード	造形実習2	必修	実習	4	3		●		●	●	●	
	※各コース別コード	造形実習3	必修	実習	4	3		●		●	●	●	
	※各コース別コード	造形実習4	必修	実習	4	3		●		●	●	●	
	AFA44174	卒業研究実習1	必修	実習	3	4		●		●	●	●	●
	AFA44194	卒業研究実習2	必修	実習	3	4		●		●	●	●	●
	AFA94214	卒業研究	必修	実習	4	4		●		●	●	●	●

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム構造

学部の教育目標

- デザイン学部は、自立した思考によってグローバル社会および地域社会に現実的に貢献するデザイナー・プランナーの資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行います。

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	DP2	DP3
<p>1.多様性を理解する力 広い教養と多文化理解の力を身につけ、複雑化した現代社会の問題群を横断的に捉えられる</p> <p>2.専門知を活用する力 デザイン分野に関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている</p>	<p>1.論理的に思考し判断する力 時代を的確に察知し、自ら問題点を見つけてその本質を捉え、独自の解答を導き出せる</p> <p>2.考えを表現する力 国際的な視野と感覚を持って、新しい発想のデザインを創造できる</p> <p>3.多様な人とコミュニケーションする力 他者に自らのデザインに関するコンセプトや考え方を明確に伝達できる</p>	<p>1.他者と協働する力 自らの個性や適性を活かして行動し、目標を持って多様な人々と協働できる</p> <p>2.社会と他者に貢献する力 デザインと人間、デザインと社会との関係性を考え、構想力・創造力を駆使して新しい生活や社会を提案できる</p>

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

デザイン学部は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、全学教養科目、全学専門科目、学部専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系をわかりやすく明示します。

デザイン学部専門科目の教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1 教育内容

学部専門科目では、作品を制作するための理論的根拠となる、デザイン領域に関する専門的な理論と歴史などを学ぶことのできる専門講義科目を開講します。さらに、各学科の実技実習および実技演習において、基礎技術を獲得させるとともに、新たな表現手法に対する探究心を喚起し、社会から必要とされるデザインを生み出す力を養います。最終年次には、卒業制作を課します。調査・研究・分析および作品制作・卒業論文作業を通じ、社会に向けた発信力を養います。

2 教育方法

- (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
- (3) 学修ポートフォリオの作成指導により、学生の自律的な学修を支援します。

3 学修成果の評価

デザイン学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況(単位取得、GPA)により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況(単位取得、GPA)により、総合的評価を行います。卒業制作(必修)は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。

カリキュラムマップ

学位(芸術)取得

		全学教養	主専攻				副専攻	コラボレーション
		専門講義科目	学科専門教育科目					
			イラスト学科	ビジュアルデザイン学科	プロダクトデザイン学科	建築学科		
4年次	キャリア	デザインレクチャーズ	卒業制作				環境	
	現地演習	デザインマネジメント論	卒業制作研究	テーマ研究	卒業制作	設計	福祉	
	社会科学	ユニバーサルデザイン論	デザイン演習		テーマ研究	プレゼンテーション演習 など	国際	
	人文学	ランドスケープ論	メディアプレゼンテーション		PC演習		ソーシャルデザイン	
3年次	表現理論	デザイン論特講	イラストレーション	プロジェクトデザイン	プロダクトコミュニケーション	設計	京都伝統文化	
	自然科学	商品開発論	絵本	デザインスキル	ライフクリエイション など	材料実験	コンテンツマネジメント	
	人間科学	デザイン専門英語	デザイン概論	デザイン概論		施工演習	観光	
	セイカ学		ビジュアルデザイン			建築実習	ビジネス	
2年次	大学入門(必修)		メディア表現	グラフィックデザイン	応用デザイン	まちづくりデザイン		
	語学		テンペラ	クリエイションデザイン など	立体造形	設計基礎		
	ITリテラシー		シルクスクリーン		デザイン	仮想空間論		
	表現技法		銅版画/写真		デザイン	仮想空間演習		
1年次			CG演習 など		デザインテクノロジー など	建築材料演習 など		
			日本画	ビジュアルデザイン基礎	基礎デザイン	身体空間論		
			水墨画	デザインスキル	絵画基礎	設計基礎		
			立体表現		立体構成	コンピューター演習		
			デッサン		工芸	製図模型演習		
					京都デザイン など	建築計画 など		

デザイン学部 専門講義科目 科目一覧

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
DGS31012	デザインレクチャーズ	選択	講義	2	2・3・4		●					
DGS31032	デザイン論特講1	選択	講義	2	2・3・4		●					
DGS31052	デザイン論特講2	選択	講義	2	2・3・4		●					
DGS31072	デザイン論特講3	選択	講義	2	2・3・4		●					
DGS31092	デザイン論特講4	選択	講義	2	2・3・4		●					
DGS30332	ユニバーサルデザイン論	選択	講義	2	2・3・4		●					
DGS30613	デザインマネージメント論	選択	講義	2	2・3・4		●					
DGS30493	ランドスケープデザイン論	選択	講義	2	2・3・4		●					
DGS30693	商品開発論	選択	講義	2	2・3・4		●					
DFL21012	デザイン専門英語	選択	講義	2	2・3・4	●						

デザイン学部

イラスト学科 イラストコース

イラスト学科 イラストコース 卒業要件

〔全学共通教育科目(44単位以上)〕+〔学部専門教育科目(80単位以上)〕=124単位以上

科目区分	必修科目				選択必修科目				必修・選択必修科目以外		卒業に要する単位(計)	
	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	卒業に要する単位	備考		
全学共通教育科目	全学教養科目	大学入門	1年	2単位	2単位					22単位以上	必修の「大学入門」・「ことば演習」・「英語1」・「英語2」に加え、22単位以上を修得する必要がある。	30単位以上
		ことば演習	1年	2単位	2単位							
		英語1(※1)	1年	2単位	2単位							
		英語2(※1)	1年	2単位	2単位							
全学専門科目									14単位以上		14単位以上	
学部専門教育科目	学部専門講義科目	デザイン論特講1	2~4年	2単位	6単位以上(※2)	デザイン論特講2	2~4年	2単位	34単位以上	左記必修科目および選択必修科目に加え、34単位以上を修得する必要がある。 ただし、選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位数を選択科目の単位とみなす。	卒業に要する単位 124単位以上	
		デザイン論特講3	2~4年	2単位		デザイン論特講4	2~4年	2単位				
		デザイン論特講4	2~4年	2単位		デザインレクチャーズ	2~4年	2単位				
		ユニバーサルデザイン論	2~4年	2単位		デザインマネジメント論	2~4年	2単位				
		ランドスケープデザイン論	2~4年	2単位		商品開発論	2~4年	2単位				
		デザイン専門英語	2~4年	1単位		イラストレーション1	3年	2単位				
						イラストレーション2	3年	2単位				
						イラストレーション3	3年	2単位				
	コース専門教育科目	イメージ表現1	1年	3単位	24単位	イラストレーション4	3年	2単位				
		イメージ表現2	1年	3単位		絵本1	3年	2単位				
		イメージ表現3	2年	3単位		絵本2	3年	2単位				
		イメージ表現4	2年	3単位		ビジュアルアート1	3年	2単位				
		メディアプレゼンテーション1	4年	2単位		ビジュアルアート2	3年	2単位				
		メディアプレゼンテーション2	4年	2単位		ビジュアルデザイン1	3年	2単位				
		メディアプレゼンテーション3	4年	2単位		ビジュアルデザイン2	3年	2単位				
		メディアプレゼンテーション4	4年	2単位		ビジュアルデザイン3	3年	2単位				
		卒業制作研究1	4年	2単位		ビジュアルデザイン4	3年	2単位				
		卒業制作研究2	4年	2単位								
		卒業制作	4年	4単位		4単位						

【留意事項】

(※1) 留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。
(※2) 「デザイン論特講1~4」のうち、1科目2単位を必修とする。

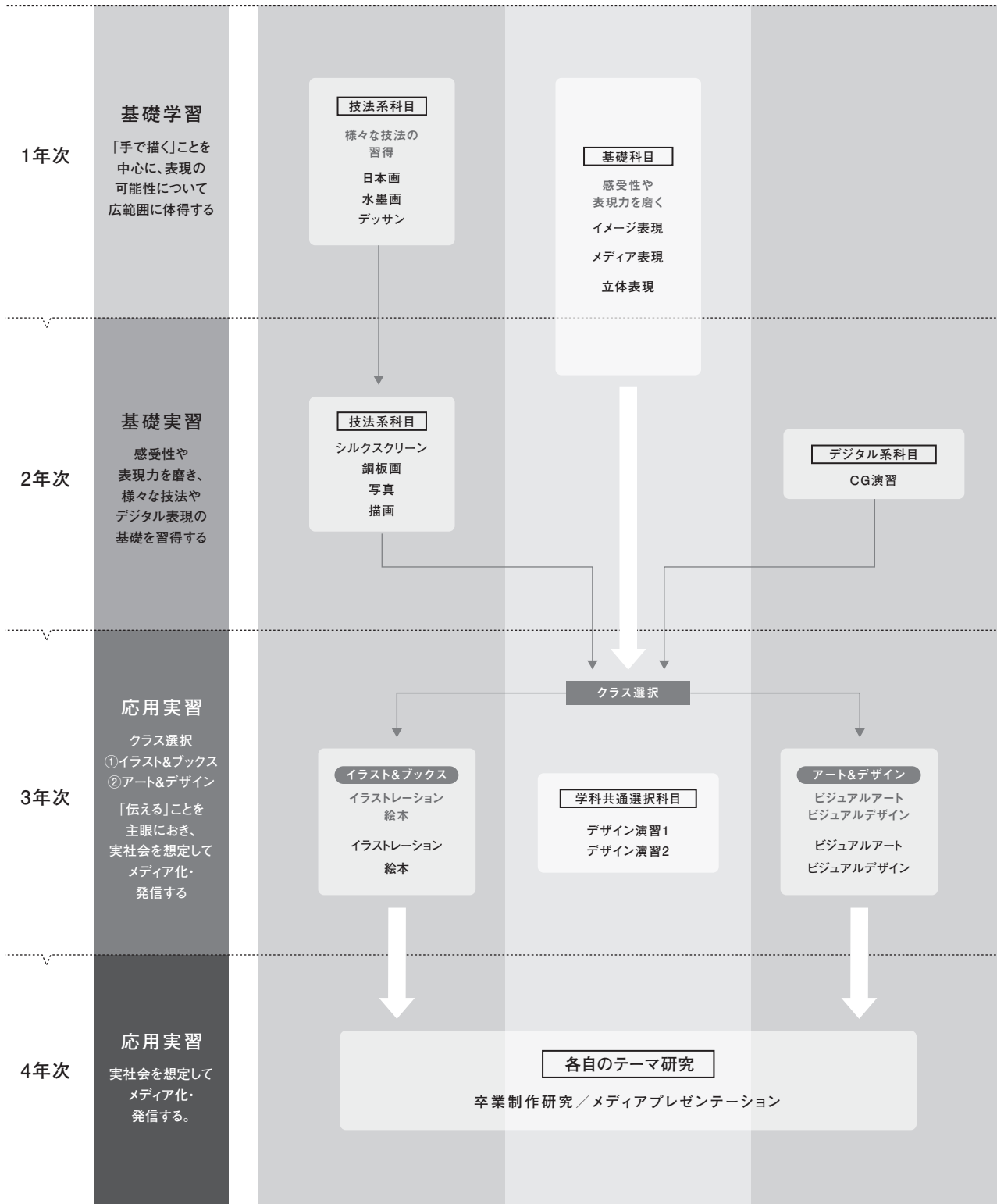
【進級要件】

- 1年次から2年次: 上表に定める必修の実習・演習科目のうち○印の単位をすべて修得すること。
- 2年次から3年次: 上表に定める必修の実習・演習科目のうち○印の単位をすべて修得すること。
- 3年次から4年次: 上表に定める選択必修の実習・演習科目(○印)より12単位以上を修得すること。

イラスト学科 イラストコース カリキュラムマップ

教育目標

- 「描く」と「伝える」ことをイラストの本質とし、様々なメディアにおけるビジュアルコミュニケーションも「描く」行為の延長ととらえ、カリキュラムを配置する。
- 単なる作品制作に留まらず、自らの表現を言葉で説明する機会を持たせることで、言葉に対する知識、感性を養うと共に、メディアの特性を理解し、他者に伝えること(コミュニケーション)の重要性を意識させる課題を設定する。



デザイン学部 イラスト学科 イラストコース
 専門教育科目 科目一覧

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
DIL40011	日本画	選択	実習	3	1				●			
DIL40111	水墨画	選択	実習	3	1				●			
DIL40211	立体表現1	選択	実習	3	1				●	●		
DIL40221	立体表現2	選択	実習	3	1				●	●		
DIL40311	デッサン1	選択	実習	3	1				●			
DIL40321	デッサン2	選択	実習	3	1				●			
DIL40411	イメージ表現1	必修	実習	3	1			●	●	●		
DIL40421	イメージ表現2	必修	実習	3	1			●	●	●		
DIL40432	イメージ表現3	必修	実習	3	2			●	●	●		
DIL40442	イメージ表現4	必修	実習	3	2			●	●	●		
DIL45052	描画	選択	実習	3	2				●			
DIL40612	シルクスクリーン	選択	実習	3	2				●			
DIL40712	銅版画	選択	実習	3	2				●			
DIL40812	写真	選択	実習	3	2				●			
DIL40912	CG演習1	選択	演習	2	2		●	●	●	●		
DIL40922	CG演習2	選択	演習	2	2		●	●	●	●		
DIL41413	イラストレーション1	選択	演習	2	3			●	●	●		
DIL41423	イラストレーション2	選択	演習	2	3			●	●	●		
DIL41433	イラストレーション3	選択	演習	2	3			●	●	●		
DIL41443	イラストレーション4	選択	演習	2	3			●	●	●		
DIL41313	絵本1	選択	演習	2	3			●	●	●		
DIL41323	絵本2	選択	演習	2	3			●	●	●		
DIL41613	ビジュアルデザイン1	選択	演習	2	3			●	●	●		●
DIL41623	ビジュアルデザイン2	選択	演習	2	3			●	●	●		●
DIL41633	ビジュアルデザイン3	選択	演習	2	3			●	●	●		●
DIL41643	ビジュアルデザイン4	選択	演習	2	3			●	●	●		●
DIL41513	ビジュアルアート1	選択	演習	2	3			●	●	●		
DIL41523	ビジュアルアート2	選択	演習	2	3			●	●	●		
DIL41053	デザイン演習1	選択	演習	2	3		●					
DIL41063	デザイン演習2	選択	演習	2	3		●					
DIL41073	デザイン演習3	選択	演習	2	3			●	●	●		●
DIL41083	デザイン演習4	選択	演習	2	3			●	●	●		●
DIL30013	デザイン概論1	選択	講義	2	3		●	●	●	●		
DIL30023	デザイン概論2	選択	講義	2	3		●	●	●	●		
DIL41714	メディアプレゼンテーション1	必修	演習	2	4			●	●	●		●
DIL41724	メディアプレゼンテーション2	必修	演習	2	4			●	●	●		●
DIL41734	メディアプレゼンテーション3	必修	演習	2	4			●	●	●		●
DIL41744	メディアプレゼンテーション4	必修	演習	2	4			●	●	●		●
DIL41814	卒業制作研究1	必修	演習	2	4			●	●	●	●	●
DIL41824	卒業制作研究2	必修	演習	2	4			●	●	●	●	●
DIL90014	卒業制作	必修	演習	4	4							●
DGS40122	工芸	選択	演習	2	2				●	●		
DGS40112	基礎立体・彫塑	選択	演習	2	2				●	●		
DGS33003	現代美術概論	選択	演習	2	2・3・4				●	●		
DGS33001	アートマネジメント論	選択	演習	2	3・4				●	●		

デザイン学部

ビジュアルデザイン学科

グラフィックデザインコース／
デジタルクリエイションコース

ビジュアルデザイン学科 卒業要件

〔全学共通教育科目(44単位以上)〕+〔学部専門教育科目(80単位以上)〕=124単位以上

科目区分	必修科目					選択必修科目					必修・選択必修科目以外		卒業に要する単位(計)
	進級要件	科目名称	年次	単位数	卒業に要する単位	進級要件	科目名称	年次	単位数	卒業に要する単位	卒業に要する単位	備考	
全学共通教育科目	全学 教養科目	大学入門	1年	2単位	2単位						22単位以上	必修の「大学入門」・「ことば演習」・「英語1」・「英語2」に加え、22単位以上を修得する必要がある。	30 単位 以上
		ことば演習	1年	2単位									
		英語1(※1)	1年	2単位									
		英語2(※1)	1年	2単位									
全学 専門科目										14単位以上		14 単位 以上	
学部専門 講義科目						デザイン論特講1	2~4年	2単位		6単位以上(※2)	左記必修科目および選択必修科目に加え、14単位以上を修得する必要がある。 ただし、選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位数を 選択科目の単位とみなす。	卒業に要する単位 124 単位以上	
						デザイン論特講2	2~4年	2単位					
						デザイン論特講3	2~4年	2単位					
						デザイン論特講4	2~4年	2単位					
						デザインレクチャーズ	2~4年	2単位					
						ユニバーサルデザイン論	2~4年	2単位					
						デザインマネージメント論	2~4年	2単位					
						ランドスケープデザイン論	2~4年	2単位					
						商品開発論	2~4年	2単位					
						デザイン専門英語	2~4年	1単位					
	学部専門 教育科目	コース 専門 教育科目	○ ビジュアルデザイン基礎1	1年	2単位	52単位	○ デザインスキル1	1年	2単位				4単位以上
			○ ビジュアルデザイン基礎2	1年	2単位		○ デザインスキル2	1年	2単位				
			○ ビジュアルデザイン基礎3	1年	2単位		○ デザインスキル3	1年	2単位				
			○ ビジュアルデザイン基礎4	1年	2単位		○ デザインスキル4	1年	2単位				
○ ビジュアルデザイン基礎5			1年	2単位									
○ ビジュアルデザイン基礎6			1年	2単位									
○ グラフィックデザイン1/クリエイション1			2年	3単位									
○ グラフィックデザイン2/クリエイション2			2年	3単位									
○ グラフィックデザイン3/クリエイション3			2年	3単位									
○ グラフィックデザイン4/クリエイション4			2年	3単位									
○ グラフィックデザイン5/クリエイション5			2年	3単位									
○ グラフィックデザイン6/クリエイション6			2年	3単位									
○ プロジェクト1			3年	3単位									
○ プロジェクト2			3年	3単位									
○ プロジェクト3			3年	1単位									
○ プロジェクト4			3年	3単位									
○ プロジェクト5			3年	3単位									
○ プロジェクト6			3年	1単位									
○ テーマ研究1			4年	1単位									
○ テーマ研究2			4年	1単位									
○ テーマ研究3			4年	2単位									
○ テーマ研究4			4年	1単位									
○ テーマ研究5	4年	1単位											
○ テーマ研究6	4年	2単位											
	卒業制作	4年	4単位	4単位									

【留意事項】

(※1) 留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。

(※2) 「デザイン論特講1~4」のうち、1科目2単位を必修とする。

【進級要件】

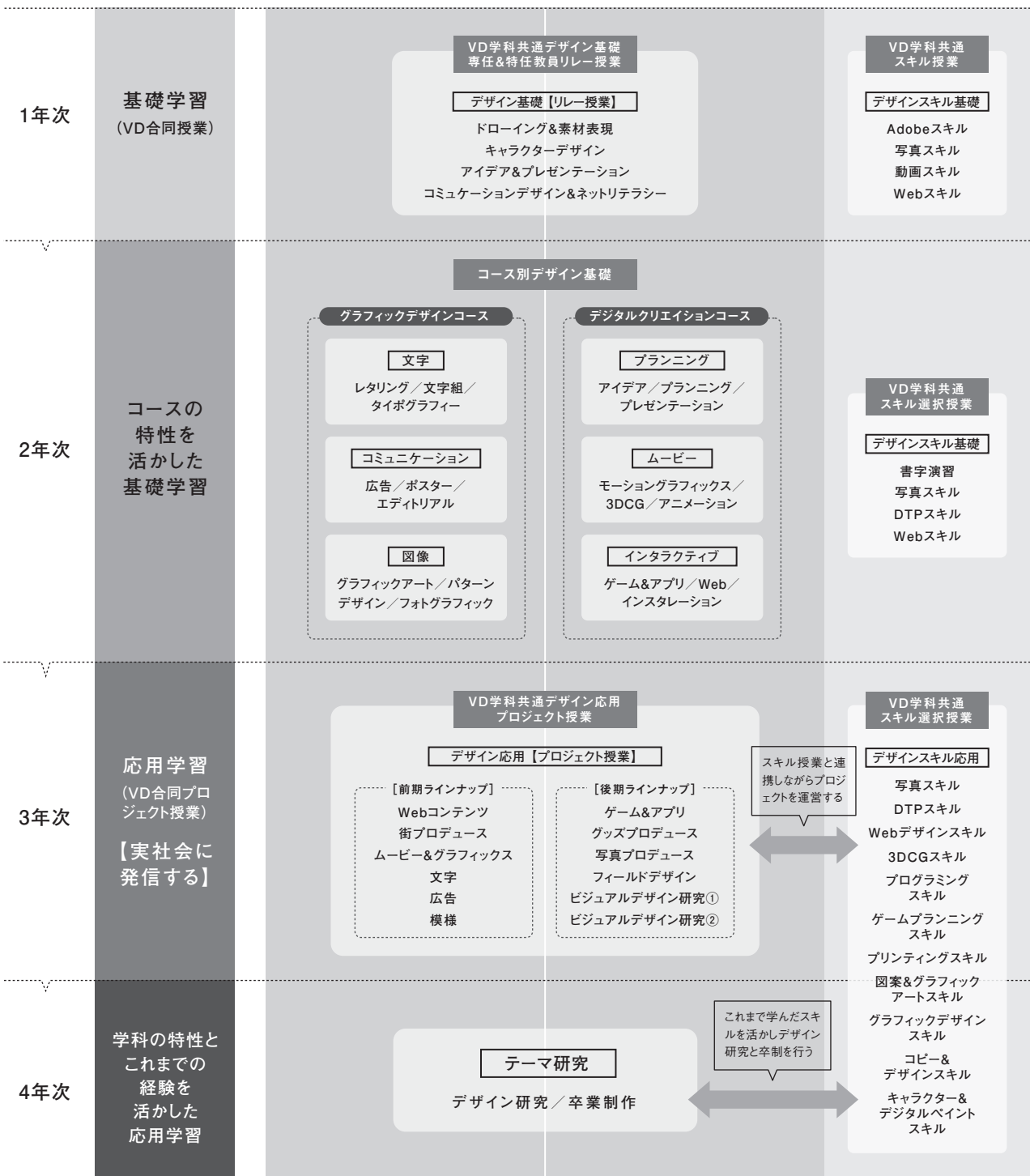
●1年次から2年次:上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得し、かつ選択必修の演習科目(○印)より4単位以上修得すること。

●2年次から3年次:上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。●3年次から4年次:上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。

ビジュアルデザイン学科 カリキュラムマップ

教育目標

<p>グラフィックデザインコース</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ グラフィックデザインはあらゆる視覚情報を表現・可視化するプロセスととらえ、文字や図像(画・写真・文様など)を可視化する際の「定着力」や深く考察された「表現力」、それらをまとめる「編集力」「伝達力」に重きを置いたカリキュラムを配置する。 □ デザインやアートの歴史観に立脚しつつ、京都という立地をいかし「ジャパン・グラフィック」ともいべき独自の視覚伝達の研究・制作について意識的に取り組む。
<p>デジタルクリエイションコース</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ デジタルクリエイションが取り扱う領域は、メディアの変遷やグローバル化によって拡張の一途をたどっている。 □ とくにウェブや写真やムービーなど個々の表現・制作が習得できる科目群を一方に配置し、他方ではグループ制作や共同作業におけるコミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成の習得できる科目群を配置する。



デザイン学部 ビジュアルデザイン学科
専門教育科目 科目一覧

科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
DVD40011	ビジュアルデザイン基礎1	必修	実習	2	1			●	●	●		
DVD40021	ビジュアルデザイン基礎2	必修	実習	2	1			●	●	●		
DVD40031	ビジュアルデザイン基礎3	必修	実習	2	1			●	●	●		
DVD40041	ビジュアルデザイン基礎4	必修	実習	2	1			●	●	●		
DVD40051	ビジュアルデザイン基礎5	必修	実習	2	1			●	●	●		
DVD40061	ビジュアルデザイン基礎6	必修	実習	2	1			●	●	●		
DVD40111	デザインスキル1	選択	演習	2	1		●	●	●	●		
DVD40121	デザインスキル2	選択	演習	2	1		●	●	●	●		
DVD40131	デザインスキル3	選択	演習	2	1		●	●	●	●		
DVD40141	デザインスキル4	選択	演習	2	1		●	●	●	●		
DGD40012	グラフィックデザイン1	必修	実習	3	2			●	●	●		
DGD40022	グラフィックデザイン2	必修	実習	3	2			●	●	●		
DGD40032	グラフィックデザイン3	必修	実習	3	2			●	●	●		
DGD40042	グラフィックデザイン4	必修	実習	3	2			●	●	●		
DGD40052	グラフィックデザイン5	必修	実習	3	2			●	●	●		
DGD40062	グラフィックデザイン6	必修	実習	3	2			●	●	●		
DDC40012	クリエイション1	必修	実習	3	2			●	●	●		
DDC40022	クリエイション2	必修	実習	3	2			●	●	●		
DDC40032	クリエイション3	必修	実習	3	2			●	●	●		
DDC40042	クリエイション4	必修	実習	3	2			●	●	●		
DDC40052	クリエイション5	必修	実習	3	2			●	●	●		
DDC40062	クリエイション6	必修	実習	3	2			●	●	●		
DVD40212	デザイン1	選択	演習	2	2		●					
DVD40222	デザイン2	選択	演習	2	2		●	●	●	●		
DVD40232	デザイン3	選択	演習	2	2			●	●	●		
DVD40242	デザイン4	選択	演習	2	2			●	●	●		
DVD40252	デザイン5	選択	演習	2	2		●	●	●	●		
DVD40262	デザイン6	選択	演習	2	2			●	●	●		
DVD40272	デザイン7	選択	演習	2	2			●	●	●		
DVD40282	デザイン8	選択	演習	2	2			●	●	●		
DVD40313	プロジェクト1	必修	実習	3	3			●	●	●	●	●
DVD40323	プロジェクト2	必修	実習	3	3			●	●	●	●	●
DVD40333	プロジェクト3	必修	実習	1	3			●	●	●	●	●
DVD40343	プロジェクト4	必修	実習	3	3			●	●	●	●	●
DVD40353	プロジェクト5	必修	実習	3	3			●	●	●	●	●
DVD40363	プロジェクト6	必修	実習	1	3			●	●	●	●	●
DVD40413	デザインスキル5	選択	演習	2	3		●	●	●	●		
DVD40423	デザインスキル6	選択	演習	2	3		●	●	●	●		
DVD40433	デザインスキル7	選択	演習	2	3		●	●	●	●		
DVD40443	デザインスキル8	選択	演習	2	3		●	●	●	●		
DVD40533	デザイン概論1	選択	講義	2	3		●					
DVD40543	デザイン概論2	選択	講義	2	3		●					

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位数	配当 年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
※各コース別コード	テーマ研究1	必修	演習	1	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	テーマ研究2	必修	演習	1	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	テーマ研究3	必修	演習	2	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	テーマ研究4	必修	演習	1	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	テーマ研究5	必修	演習	1	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	テーマ研究6	必修	演習	2	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作	必修	成果評定	4	4							●
DGS40122	工芸	選択	演習	2	2				●	●		
DGS40112	基礎立体・彫塑	選択	演習	2	2				●	●		

デザイン学部 プロダクトデザイン学科

プロダクトコミュニケーションコース

プロダクトコミュニケーションコース 卒業要件

〔全学共通教育科目(44単位以上)〕+〔学部専門教育科目(80単位以上)〕=124単位以上

科目区分	必修科目				選択必修科目				必修・選択必修科目以外		卒業に要する単位(計)	
	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	卒業に要する単位	備考		
全学共通教育科目	全学 教養科目	大学入門	1年	2単位	2単位					22単位以上	必修の「大学入門」・「ことば演習」・「英語1」・「英語2」に加え、22単位以上を修得する必要がある。	30 単位 以上
		ことば演習	1年	2単位	6単位							
		英語1(※1)	1年	2単位								
		英語2(※1)	1年	2単位								
全学 専門科目									14単位以上		14単位以上	
学部専門 講義科目						デザイン論特講1	2~4年	2単位	6単位以上(※2)	左記必修科目および選択必修科目に加え、4単位以上を修得する必要がある。 ただし、選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位数を選択科目の単位とみなす。		
						デザイン論特講2	2~4年	2単位				
						デザイン論特講3	2~4年	2単位				
						デザイン論特講4	2~4年	2単位				
						デザインレクチャーズ	2~4年	2単位				
						ユニバーサルデザイン論	2~4年	2単位				
						デザインマネジメント論	2~4年	2単位				
						ランドスケープデザイン論	2~4年	2単位				
						商品開発論	2~4年	2単位				
						デザイン専門英語	2~4年	1単位				
学部専門 教育科目	コース 専門 教育科目	プロダクトカラー論	1年	2単位	40単位	家具史	1~4年	2単位	26単位以上(※3)	4単位以上		
		デザイン法規概論	3~4年	2単位		インテリアデザイン論	2~4年	2単位				
		人間生活工学	3~4年	2単位		近代空間論	2~4年	2単位				
		プランニングと企画	3~4年	2単位		○ デザインマテリアル1	2年	3単位				
		○ 工芸1	1年	3単位		○ デザインマテリアル2	2年	3単位				
		○ 工芸2	1年	3単位		○ デザインマテリアル3	2年	3単位				
		○ 基礎デザイン1	1年	3単位		○ デザインマテリアル4	2年	3単位				
		○ 絵画基礎	1年	3単位		○ プロダクトコミュニケーション1	3年	3単位				
		○ 立体構成	1年	3単位		○ プロダクトコミュニケーション2	3年	3単位				
		○ デザインテクノロジー1	1年	2単位		○ プロダクトコミュニケーション3	3年	3単位				
	○ 京都デザイン	1年	3単位	○ プロダクトコミュニケーション4	3年	3単位						
	○ 基礎デザイン2	2年	3単位	○ プロダクトコミュニケーション5	3年	3単位						
	○ 基礎デザイン3	2年	3単位	○ プロダクトコミュニケーション6	3年	3単位						
	○ 立体造形1	2年	3単位	○ プロダクトコミュニケーション7	3年	3単位						
	○ 立体造形2	2年	3単位	○ プロダクトコミュニケーション8	3年	3単位						
					○ プロダクトデザイン1	3年	3単位					
					○ プロダクトデザイン2	3年	3単位					
					卒業制作テーマ研究1	4年	3単位					
					卒業制作テーマ研究2	4年	3単位					
					卒業制作テーマ研究3	4年	3単位					
				卒業制作研究1	4年	3単位						
				卒業制作研究2	4年	3単位						
				卒業制作研究3	4年	3単位						
	卒業制作・卒業論文	4年	4単位	4単位								

卒業に要する単位 124単位以上

80
単位
以上

【留意事項】

- (※1) 留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。
- (※2) 「デザイン論特講1~4」のうち、1科目2単位を必修とする。
- (※3) コース専門の選択必修科目について以下の通り単位を修得すること。①講義科目から1科目2単位以上 ②2年:「デザインマテリアル1~4」のうち2科目6単位以上 ③3年:「プロダクトコミュニケーション1~8」「プロダクトデザイン1・2」のうち4科目12単位以上 ④4年:「卒業制作テーマ研究1~3」のうち1科目3単位および「卒業制作研究1~3」のうち1科目3単位

【進級要件】

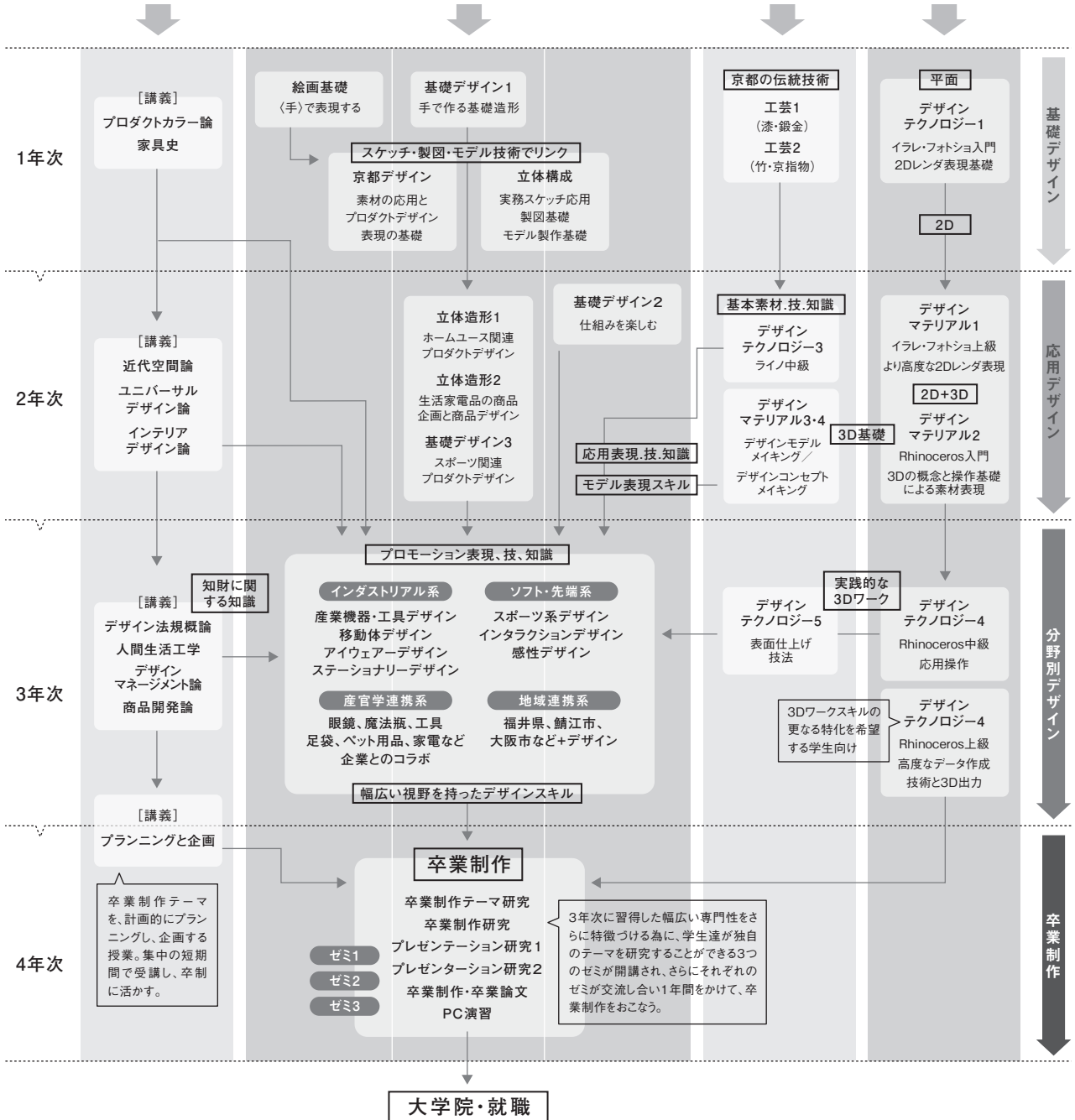
- 1年次から2年次:上表に定める必修の実習・演習科目のうち○印の単位をすべて修得すること。●2年次から3年次:上表に定める必修の実習・演習科目のうち○印の単位をすべて修得すること。●3年次から4年次:上表に定める選択必修の実習・演習科目(○印)より12単位以上を修得すること。

プロダクトコミュニケーションコース カリキュラムマップ

教育目標

- 日々変化する国際環境や産業構造に追従し、時代に即応したインダストリアルデザインを探究する。
- ビジネスとして時代が必要とする製品を創出し、かつ社会に貢献するインダストリアルデザイナーを育てる。
- 地球環境の変化に敏感に反応し、サステナブルな社会と豊かな人間性を育むものづくりを研究する。
- 京都に立地する大学として、京都が有する「伝承」「先進」「環境」のDNAをデザインという行為の中に息づかせ、世界に発信する。

	理論系科目	デザイン系実習科目			素材系演習科目	IT系演習科目
		平面系	立体系	企画系		
1年次	インダストリアルデザイナーに必要な理論・知識を身につける	"美しいものづくり"をするための基本を身につける			様々な素材や表現方法にふれる	2D表現の基礎
2年次	プロダクトデザインの基本と応用を身につける	プロダクトデザインの基本と応用を身につける			各種素材と工作、ワークフロー	実践的な2D表現と3D基礎
3年次		幅広いプロダクトデザインの専門分野を理解する				3D応用と3D上級スキル、GUI
4年次		デザインの総合力を発揮する				



デザイン学部 プロダクトデザイン学科 プロダクトコミュニケーションコース
 専門教育科目 科目一覧

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
※各コース別コード	基礎デザイン1	必修	実習	3	1			●	●	●		
※各コース別コード	基礎デザイン2	必修	実習	3	2			●	●	●		
※各コース別コード	基礎デザイン3	必修	実習	3	2			●	●	●		
※各コース別コード	絵画基礎	必修	実習	3	1			●	●	●		
※各コース別コード	立体構成	必修	実習	3	1			●	●	●		
※各コース別コード	デザインテクノロジー1	選択	実習	2	1		●	●	●	●		
※各コース別コード	デザインテクノロジー2	選択	演習	2	2		●	●	●	●		
※各コース別コード	デザインテクノロジー3	選択	演習	2	2		●	●	●	●		
※各コース別コード	デザインテクノロジー4	選択	演習	2	2・3		●	●	●	●		
※各コース別コード	デザインテクノロジー5	選択	演習	2	2・3		●	●	●	●		
※各コース別コード	デザインテクノロジー6	選択	演習	2	3		●	●	●	●		
※各コース別コード	工芸1	必修	実習	3	1		●	●	●	●		
※各コース別コード	工芸2	必修	実習	3	1		●	●	●	●		
※各コース別コード	京都デザイン	必修	実習	3	1			●	●	●		
※各コース別コード	ワークショップ実習1	選択	実習	2	1・2			●	●	●	●	●
※各コース別コード	ワークショップ実習2	選択	実習	2	3・4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	立体造形1	必修	実習	3	2			●	●	●		
※各コース別コード	立体造形2	必修	実習	3	2			●	●	●		
※各コース別コード	デザインマテリアル1	選択	演習	3	2				●	●		
※各コース別コード	デザインマテリアル2	選択	演習	3	2				●	●		
※各コース別コード	デザインマテリアル3	選択	演習	3	2				●	●		
※各コース別コード	デザインマテリアル4	選択	演習	3	2				●	●		
DPC40813	プロダクトコミュニケーション1	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40823	プロダクトコミュニケーション2	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40833	プロダクトコミュニケーション3	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40843	プロダクトコミュニケーション4	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40853	プロダクトコミュニケーション5	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40863	プロダクトコミュニケーション6	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40873	プロダクトコミュニケーション7	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40883	プロダクトコミュニケーション8	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40813	ライフクリエイション1	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40823	ライフクリエイション2	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40833	ライフクリエイション3	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40843	ライフクリエイション4	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40853	ライフクリエイション5	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40863	ライフクリエイション6	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40873	ライフクリエイション7	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40883	ライフクリエイション8	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPD40113	プロダクトデザイン1	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPD40133	プロダクトデザイン2	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC41414	PC演習	選択	演習	2	4				●			
DLC40914	LC演習	選択	演習	2	4				●			

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
※各コース別コード	卒業制作テーマ研究1	選択	実習	3	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作テーマ研究2	選択	実習	3	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作テーマ研究3	選択	実習	3	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作研究1	選択	実習	3	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作研究2	選択	実習	3	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作研究3	選択	実習	3	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作・卒業論文	必修	成果評定	4	4							●
DPD30011	プロダクトカラー論	必修	講義	2	1		●					
DPD30031	家具史	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DPD30112	インテリアデザイン論	選択	講義	2	2・3・4		●					
DPD30132	近代空間論	選択	講義	2	2・3・4		●					
DPD30213	デザイン法規概論	必修	講義	2	3・4		●					
DPD30233	人間生活工学	必修	講義	2	3・4		●					
DPD30253	プランニングと企画	必修	講義	2	3・4		●					
DLC30011	日本建築史	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DLC30031	西洋建築史	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DLC30071	建築計画	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DLC30111	環境工学	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DLC30131	設備工学	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DLC30191	一般構造	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DLC40111	測量演習	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●	●	●		
DLC40091	建築構法演習	選択	演習	2	1・2・3・4		●	●				
DLC30052	近現代建築史	選択	講義	2	2・3・4		●					
DLC30172	建築力学	選択	講義	2	2・3・4		●					
DLC30152	建築構造	選択	講義	2	2・3・4		●					
DLC30212	伝統建築工法	選択	講義	2	2・3・4		●					
DLC30232	住環境論	選択	講義	2	2・3・4		●	●				
DLC30252	まちづくりデザイン	選択	講義	2	2・3・4		●					
DLC40013	材料実験	選択	実習	2	3・4		●	●				
DLC40033	施工演習	選択	演習	2	3・4		●	●	●			
DLC40053	積算演習	選択	演習	2	3・4		●	●				
DLC40073	建築法規演習	選択	演習	2	3・4		●					

デザイン学部 プロダクトデザイン学科

ライフクリエイションコース

ライフクリエイションコース 卒業要件

〔全学共通教育科目(44単位以上)〕+〔学部専門教育科目(80単位以上)〕=124単位以上

科目区分	必修科目				選択必修科目				必修・選択必修科目以外		卒業に要する単位(計)	
	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	卒業に要する単位	備考		
全学共通教育科目	全学教養科目	大学入門	1年	2単位	2単位					22単位以上	必修の「大学入門」・「ことば演習」・「英語1」・「英語2」に加え、22単位以上を修得する必要がある。	30単位以上
		ことば演習	1年	2単位	6単位							
		英語1(※1)	1年	2単位								
		英語2(※1)	1年	2単位								
全学専門科目									14単位以上		14単位以上	
学部専門教育科目	学部専門講義科目					デザイン論特講1	2~4年	2単位	6単位以上(※2)	左記必修科目および選択必修科目に加え、4単位以上を修得する必要がある。 ただし、選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位数を選択科目の単位とみなす。	卒業に要する単位 124単位以上	
						デザイン論特講2	2~4年	2単位				
					デザイン論特講3	2~4年	2単位					
					デザイン論特講4	2~4年	2単位					
					デザインレクチャーズ	2~4年	2単位					
					ユニバーサルデザイン論	2~4年	2単位					
					デザインマネジメント論	2~4年	2単位					
					ランドスケープデザイン論	2~4年	2単位					
学部専門教育科目	コース専門教育科目				商品開発論	2~4年	2単位	26単位以上(※3)	4単位以上			
						デザイン専門英語	2~4年					1単位
					家具史	1~4年	2単位					
					インテリアデザイン論	2~4年	2単位					
					近代空間論	2~4年	2単位					
					○ デザインマテリアル1	2年	3単位					
					○ デザインマテリアル2	2年	3単位					
					○ デザインマテリアル3	2年	3単位					
					○ デザインマテリアル4	2年	3単位					
					○ ライフクリエイション1	3年	3単位					
					○ ライフクリエイション2	3年	3単位					
					○ ライフクリエイション3	3年	3単位					
				○ ライフクリエイション4	3年	3単位						
				○ ライフクリエイション5	3年	3単位						
				○ ライフクリエイション6	3年	3単位						
				○ ライフクリエイション7	3年	3単位						
				○ ライフクリエイション8	3年	3単位						
				○ プロダクトデザイン1	3年	3単位						
				○ プロダクトデザイン2	3年	3単位						
				卒業制作テーマ研究1	4年	3単位						
				卒業制作テーマ研究2	4年	3単位						
				卒業制作テーマ研究3	4年	3単位						
				卒業制作研究1	4年	3単位						
				卒業制作研究2	4年	3単位						
				卒業制作研究3	4年	3単位						
				卒業制作・卒業論文	4年	4単位	4単位					

【留意事項】

- (※1) 留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。
- (※2) 「デザイン論特講1~4」のうち、1科目2単位を必修とする。
- (※3) コース専門の選択必修科目について以下の通り単位を修得すること。①講義科目から1科目2単位以上 ②2年:「デザインマテリアル1~4」のうち2科目6単位以上 ③3年:「ライフクリエイション1~8」「プロダクトデザイン1・2」のうち4科目12単位以上 ④4年:「卒業制作テーマ研究1~3」のうち1科目3単位および「卒業制作研究1~3」のうち1科目3単位

【進級要件】

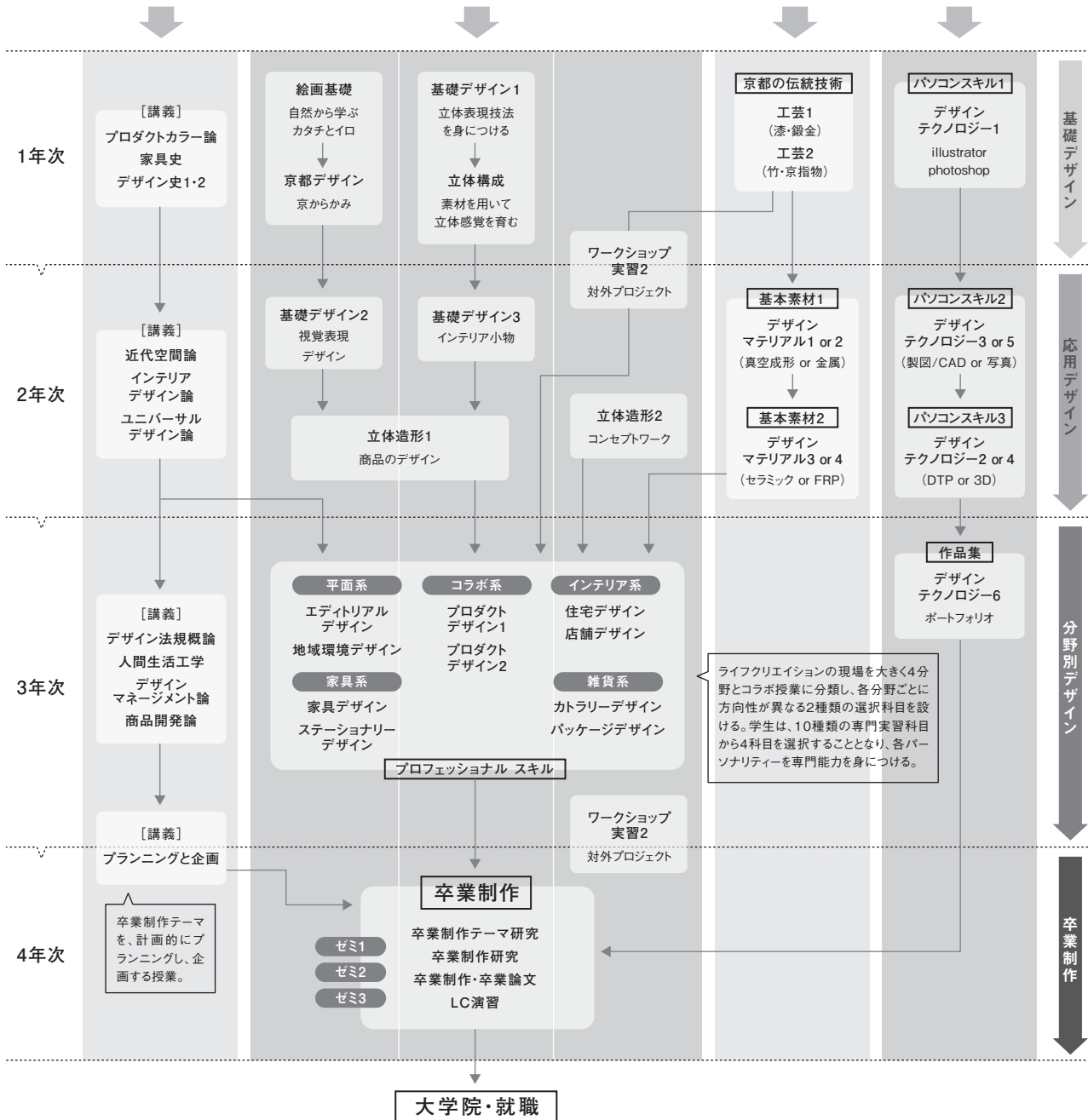
- 1年次から2年次:上表に定める必修の実習・演習科目のうち○印の単位をすべて修得すること。●2年次から3年次:上表に定める必修の実習・演習科目のうち○印の単位をすべて修得すること。●3年次から4年次:上表に定める選択必修の実習・演習科目(○印)より12単位以上を修得すること。

ライフクリエーションコース カリキュラムマップ

教育目標

- 「デザインする」ことの楽しみを知る。
- 私たちのより良い生活を創造する「住まいとくらし(インテリアデザインと生活クリエイト)」のデザインを学ぶ。
- 平面と立体(2次元と3次元)を繋ぐデザインを学ぶことが、このコースの特長。
- 京都に立地する大学として、京都が有する「伝統」「先進」「環境」のDNAをデザインという行為の中に息づかせ、世界に発信する。

	講義系科目	デザイン系実習科目			素材系演習科目	IT系演習科目
		平面系実習科目	立体系実習科目	企画系実習科目		
1年次	ライフクリエーションに必要な理論・知識を身につける	「デザインする心」を身につける			京都の伝統工芸	コンピュータの基礎
2年次		ライフクリエーションの基本と応用を身につける			各種素材の造形	パソコンと写真
3年次		幅広いライフクリエーションの専門分野を理解する				ポートフォリオ
4年次		デザインの総合力を発揮する				



デザイン学部 プロダクトデザイン学科 ライフクリエイションコース
 専門教育科目 科目一覧

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
※各コース別コード	基礎デザイン1	必修	実習	3	1			●	●	●		
※各コース別コード	基礎デザイン2	必修	実習	3	2			●	●	●		
※各コース別コード	基礎デザイン3	必修	実習	3	2			●	●	●		
※各コース別コード	絵画基礎	必修	実習	3	1			●	●	●		
※各コース別コード	立体構成	必修	実習	3	1			●	●	●		
※各コース別コード	デザインテクノロジー1	選択	実習	2	1		●	●	●	●		
※各コース別コード	デザインテクノロジー2	選択	演習	2	2		●	●	●	●		
※各コース別コード	デザインテクノロジー3	選択	演習	2	2		●	●	●	●		
※各コース別コード	デザインテクノロジー4	選択	演習	2	2・3		●	●	●	●		
※各コース別コード	デザインテクノロジー5	選択	演習	2	2・3		●	●	●	●		
※各コース別コード	デザインテクノロジー6	選択	演習	2	3		●	●	●	●		
※各コース別コード	工芸1	必修	実習	3	1		●	●	●	●		
※各コース別コード	工芸2	必修	実習	3	1		●	●	●	●		
※各コース別コード	京都デザイン	必修	実習	3	1			●	●	●		
※各コース別コード	ワークショップ実習1	選択	実習	2	1・2			●	●	●	●	●
※各コース別コード	ワークショップ実習2	選択	実習	2	3・4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	立体造形1	必修	実習	3	2			●	●	●		
※各コース別コード	立体造形2	必修	実習	3	2			●	●	●		
※各コース別コード	デザインマテリアル1	選択	演習	3	2				●	●		
※各コース別コード	デザインマテリアル2	選択	演習	3	2				●	●		
※各コース別コード	デザインマテリアル3	選択	演習	3	2				●	●		
※各コース別コード	デザインマテリアル4	選択	演習	3	2				●	●		
DPC40813	プロダクトコミュニケーション1	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40823	プロダクトコミュニケーション2	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40833	プロダクトコミュニケーション3	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40843	プロダクトコミュニケーション4	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40853	プロダクトコミュニケーション5	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40863	プロダクトコミュニケーション6	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40873	プロダクトコミュニケーション7	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC40883	プロダクトコミュニケーション8	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40813	ライフクリエイション1	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40823	ライフクリエイション2	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40833	ライフクリエイション3	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40843	ライフクリエイション4	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40853	ライフクリエイション5	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40863	ライフクリエイション6	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40873	ライフクリエイション7	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DLC40883	ライフクリエイション8	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPD40113	プロダクトデザイン1	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPD40133	プロダクトデザイン2	選択	実習	3	3			●	●	●	●	●
DPC41414	PC演習	選択	演習	2	4				●			
DLC40914	LC演習	選択	演習	2	4				●			

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
※各コース別コード	卒業制作テーマ研究1	選択	実習	3	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作テーマ研究2	選択	実習	3	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作テーマ研究3	選択	実習	3	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作研究1	選択	実習	3	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作研究2	選択	実習	3	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作研究3	選択	実習	3	4			●	●	●	●	●
※各コース別コード	卒業制作・卒業論文	必修	成果評定	4	4							●
DPD30011	プロダクトカラー論	必修	講義	2	1		●					
DPD30031	家具史	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DPD30112	インテリアデザイン論	選択	講義	2	2・3・4		●					
DPD30132	近代空間論	選択	講義	2	2・3・4		●					
DPD30213	デザイン法規概論	必修	講義	2	3・4		●					
DPD30233	人間生活工学	必修	講義	2	3・4		●					
DPD30253	プランニングと企画	必修	講義	2	3・4		●					
DLC30011	日本建築史	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DLC30031	西洋建築史	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DLC30071	建築計画	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DLC30111	環境工学	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DLC30131	設備工学	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DLC30191	一般構造	選択	講義	2	1・2・3・4		●					
DLC40111	測量演習	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●	●	●		
DLC40091	建築構法演習	選択	演習	2	1・2・3・4		●	●				
DLC30052	近現代建築史	選択	講義	2	2・3・4		●					
DLC30172	建築力学	選択	講義	2	2・3・4		●					
DLC30152	建築構造	選択	講義	2	2・3・4		●					
DLC30212	伝統建築工法	選択	講義	2	2・3・4		●					
DLC30232	住環境論	選択	講義	2	2・3・4		●	●				
DLC30252	まちづくりデザイン	選択	講義	2	2・3・4		●					
DLC40013	材料実験	選択	実習	2	3・4		●	●				
DLC40033	施工演習	選択	演習	2	3・4		●	●	●			
DLC40053	積算演習	選択	演習	2	3・4		●	●				
DLC40073	建築法規演習	選択	演習	2	3・4		●					

ライフクリエーションコース 二級建築士・木造建築士資格取得指定科目一覧(2017年度以降入学生)

指定科目の分類	指定科目	単位数	配当年次	科目種別	二級建築士・木造建築士								
建築設計製図	デザインテクノロジー3	2	2	LCコース専門／選択	3単位以上								
	ライフクリエーション2	3	3	LCコース専門／選必									
	ライフクリエーション6	3	3	LCコース専門／選必									
建築計画 建築環境工学 建築設備	日本建築史	2	1~4	PD学科専門／選択	2単位以上								
	西洋建築史	2	1~4	PD学科専門／選択									
	建築計画	2	1~4	PD学科専門／選択									
	環境工学	2	1~4	PD学科専門／選択									
	設備工学	2	1~4	PD学科専門／選択									
	近代空間論	2	2~4	PD学科専門／選必									
	近現代建築史	2	2~4	PD学科専門／選択									
構造力学 建築一般構造 建築材料	一般構造	2	1~4	PD学科専門／選択	3単位以上								
	建築力学	2	2~4	PD学科専門／選択									
	建築構造	2	2~4	PD学科専門／選択									
	材料実験	2	3・4	PD学科専門／選択									
建築生産	伝統建築工法	2	2~4	PD学科専門／選択	1単位以上								
	施工演習	2	3・4	PD学科専門／選択									
	積算演習	2	3・4	PD学科専門／選択									
建築法規	建築法規演習	2	3・4	PD学科専門／選択	1単位以上								
その他	プロダクトカラー論	2	1	PD学科専門／必修	適宜								
	測量演習	2	1~4	PD学科専門／選択									
	建築構法演習	2	1~4	PD学科専門／選択									
	デザインテクノロジー4	2	2	LCコース専門／選択									
	住環境論	2	2~4	PD学科専門／選択									
	インテリアデザイン論	2	2~4	PD学科専門／選必									
	ランドスケープデザイン論	2	2~4	デザイン学部共通／選必									
	まちづくりデザイン	2	2~4	PD学科専門／選択									
人間生活工学	2	3・4	PD学科専門／選択										
修得単位数 総合計					<table border="1"> <thead> <tr> <th>必要な 実務経験年数</th> <th>必要単位数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0年</td> <td>40単位以上</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>30単位以上</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>20単位以上</td> </tr> </tbody> </table>	必要な 実務経験年数	必要単位数	0年	40単位以上	1年	30単位以上	2年	20単位以上
必要な 実務経験年数	必要単位数												
0年	40単位以上												
1年	30単位以上												
2年	20単位以上												

デザイン学部

建築学科 建築コース

建築学科 建築コース 卒業要件

(全学共通教育科目(44単位以上))+(学部専門教育科目(80単位以上))=124単位以上

科目区分	必修科目				選択必修科目				必修・選択必修科目以外		卒業に要する単位(計)
	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	卒業に要する単位	備考	
全学共通教育科目	全学教養科目	大学入門	1年	2単位	6単位				22単位以上	必修の「大学入門」・「ことば演習」・「英語1」・「英語2」に加え、22単位以上を修得する必要がある。	30単位以上
		ことば演習	1年	2単位							
		英語1(※1)	1年	2単位							
		英語2(※1)	1年	2単位							
全学専門科目								14単位以上		14単位以上	
学部専門教育科目	学部専門講義科目	デザイン論特講1	2~4年	2単位	6単位以上(※2)				2単位以上	左記必修科目および選択必修科目に加え、2単位以上を修得する必要がある。 ただし、選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位数を選択科目の単位とみなす。 なお、一級建築士試験、二級建築士試験・木造建築士試験の受験資格取得希望者は別表に基づく科目の単位を修得する必要がある。	卒業に要する単位 124単位以上 80単位以上
		デザイン論特講2	2~4年	2単位							
		デザイン論特講3	2~4年	2単位							
		デザイン論特講4	2~4年	2単位							
		デザインレクチャーズ	2~4年	2単位							
		ユニバーサルデザイン論	2~4年	2単位							
		デザインマネジメント論	2~4年	2単位							
		ランドスケープデザイン論	2~4年	2単位							
	商品開発論	2~4年	2単位								
	デザイン専門英語	2~4年	1単位								
	コース専門教育科目	○ 設計基礎1	1年	3単位	68単位				2単位以上		
		○ 設計基礎2	1年	3単位							
		コンピューター演習1	1年	2単位							
		身体空間論	1年	2単位							
		製図模型演習	1年	2単位							
		インテリアデザイン論	1年	2単位							
		日本建築史	1年	2単位							
		建築計画	1年	2単位							
		一般構造	1年	2単位							
		西洋建築史	1年	2単位							
		建築構法演習	1年	2単位							
		○ 設計基礎3	2年	3単位							
		○ 設計基礎4	2年	3単位							
コンピューター演習2		2年	2単位								
コンピューター演習3		2年	2単位								
仮想空間論	2年	2単位									
仮想空間演習	2年	2単位									
近現代建築史	2年	2単位									
建築材料演習	2年	2単位									
伝統建築工法	2年	2単位									
○ 設計1	3年	6単位									
○ 設計2	3年	6単位									
設計3	4年	6単位									
設計4	4年	6単位									
卒業制作	4年	4単位	4単位								

【留意事項】

(※1) 留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。

(※2) 「デザイン論特講1~4」のうち、1科目2単位を必修とする。

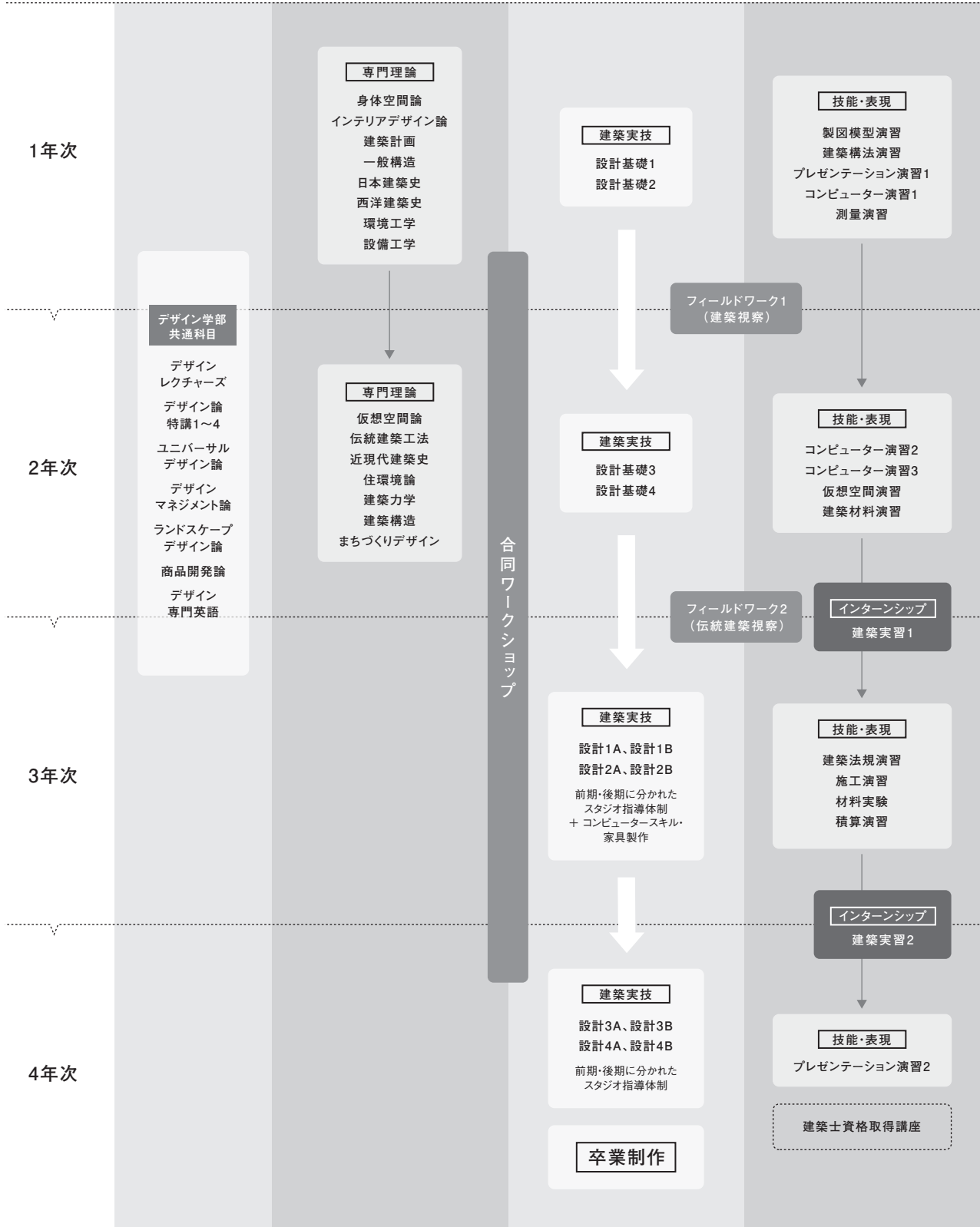
【進級要件】

●1年次から2年次:上表に定める必修の実習・演習科目のうち○印の単位をすべて修得すること。 ●2年次から3年次:上表に定める必修の実習・演習科目のうち○印の単位をすべて修得すること。 ●3年次から4年次:上表に定める必修の実習・演習科目のうち○印の単位をすべて修得すること。

建築学科 建築コース カリキュラムマップ

教育目標

- 建築を中心にした様々な関係する領域について考えるための基礎的な知識と、建築を設計する技術、関係する人たちと円滑にコミュニケーションを取る能力を身につけ、社会に対する創造的な提案と自立した活動を行うことができること。



デザイン学部 建築学科 建築コース
専門教育科目 科目一覧

科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
DAR30111	身体空間論	必修	講義	2	1		●	●				
DAR30211	インテリアデザイン論	必修	講義	2	1		●					
DAR30311	日本建築史	必修	講義	2	1		●					
DAR30812	西洋建築史	必修	講義	2	1		●					
DAR30411	建築計画	必修	講義	2	1		●					
DAR30511	一般構造	必修	講義	2	1		●					
DAR40211	コンピューター演習1	必修	講義	2	1			●	●	●		
DAR40611	測量演習	選択	講義	2	1		●	●	●	●		
DAR31213	環境工学	選択	講義	2	1		●					
DAR31313	設備工学	選択	講義	2	1		●					
DAR40311	製図模型演習	選択	演習	2	1			●	●	●		
DAR40411	プレゼンテーション演習1	選択	演習	2	1			●	●	●		
DAR41212	建築構法演習	必修	演習	2	1		●	●				
DAR40111	設計基礎1	必修	実習	3	1			●	●	●		
DAR40511	設計基礎2	必修	実習	3	1			●	●	●		●
DAR90011	フィールドワーク1	選択	実習	2	1・2		●	●	●	●		
DAR90022	フィールドワーク2	選択	実習	2	1・2		●	●	●	●		
DAR30612	まちづくりデザイン	選択	講義	2	2		●					
DAR31512	住環境論	選択	講義	2	2		●	●				
DAR30822	近現代建築史	必修	講義	2	2		●					
DAR40221	コンピューター演習2	必修	講義	2	2			●	●	●		
DAR40232	コンピューター演習3	必修	講義	2	2			●	●	●		
DAR31012	伝統建築工法	必修	講義	2	2		●					
DAR31113	建築構造	選択	講義	2	2		●					
DAR31413	建築力学	選択	講義	2	2		●					
DAR30712	仮想空間論	必修	演習	2	2		●	●				
DAR41112	建築材料演習	必修	演習	2	2		●	●				
DAR40912	仮想空間演習	必修	演習	2	2			●	●	●		
DAR41814	施工演習	選択	演習	2	3		●	●	●			
DAR41913	建築法規演習	選択	演習	2	3		●					
DAR41714	材料実験	選択	実習	2	3		●	●				
DAR40812	設計基礎3	選択	実習	3	2			●	●	●		●
DAR40822	設計基礎4	選択	実習	3	2			●	●	●		●
DAR41613	設計1	必修	実習	6	3			●	●	●	●	●
DAR41623	設計2	必修	実習	6	3			●	●	●	●	●
DAR41414	積算演習	選択	演習	2	3・4		●	●				
DAR90113	建築実習1	選択	実習	2	3・4			●	●	●	●	●
DAR90124	建築実習2	選択	実習	2	3・4			●	●	●	●	●
DAR40423	プレゼンテーション演習2	選択	演習	2	3・4			●	●	●		
DAR41634	設計3	必修	実習	6	4			●	●	●	●	●
DAR41644	設計4	必修	実習	6	4			●	●	●	●	●
DAR90214	卒業制作	必修	成果評定	4	4							●

建築学科 建築士資格取得指定科目一覧

指定科目の分類	指定科目	単位数	配当年次	建築学科必修	一級建築士		二級建築士 木造建築士	
					必要実務経験年数	必要単位数	必要実務経験年数	必要単位数
建築設計製図	設計基礎2	3	1	○	7単位以上		3単位以上	
	設計基礎3	3	2	○				
	設計基礎4	3	2	○				
	設計1	6	3	○				
	設計2	6	3	○				
	設計3	6	4	○				
	設計4	6	4	○				
建築計画	日本建築史	2	1	○	7単位以上		2単位以上	
	西洋建築史	2	1	○				
	建築計画	2	1	○				
	近現代建築史	2	2	○				
建築環境工学	環境工学	2	1		2単位以上			
建築設備	設備工学	2	1		2単位以上			
構造力学	建築力学	2	2		4単位以上		3単位以上	
	建築構造	2	2					
建築一般構造	一般構造	2	1	○	3単位以上		3単位以上	
	建築講法演習	2	1	○				
建築材料	材料実験	2	3		2単位以上			
建築生産	伝統建築工法	2	2	○	2単位以上		1単位以上	
	施工演習	2	3					
	積算演習	2	3・4					
建築法規	建築法規演習	2	3		1単位以上		1単位以上	
その他	測量演習	2	1		適宜		適宜	
	コンピューター演習1	2	1	○				
	コンピューター演習2	2	2	○				
	コンピューター演習3	2	2	○				
	まちづくりデザイン	2	2					
修得単位数 総合計					2年	60単位以上	0年	40単位以上
					3年	50単位以上	1年	30単位以上
					4年	40単位以上	2年	20単位以上

マンガ学部

マンガ学科／アニメーション学科

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム構造

学部の教育目標

- マンガ学部は、マンガ文化の継承と発展に貢献する資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行います。

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	DP2	DP3
<p>1.多様性を理解する力 多くの事象にわたる幅広い総合的な教養、そして多文化理解の能力を身につけている</p> <p>2.専門知を活用する力 マンガ分野に関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている</p>	<p>1.論理的に思考し判断する力 社会的事象に幅広い関心を持ち、問題の本質を掴んで解決方法を提案できる</p> <p>2.考えを表現する力 テーマや思想を作品に盛り込み、論理的な思考に基づく自己表現ができる</p> <p>3.多様な人とコミュニケーションする力 マンガ・アニメーション表現の可能性を探究し、自分の価値観を他者に伝達できる</p>	<p>1.他者と協働する力 チームワークの重要性を理解し、現場において幅広い対応力を発揮できる</p> <p>2.社会と他者に貢献する力 新たな発想による制作によって、地域や国際社会に働きかける意識と能力を備えている</p>

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

マンガ学部は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、全学教養科目、全学専門科目、学部専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系をわかりやすく明示します。

マンガ学部専門科目の教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1 教育内容

学部専門科目では、作品を制作するための理論的根拠となる、マンガ・アニメーションに関する専門的な理論や歴史などを学ぶことのできる専門講義科目を開講します。さらに、各学科の実技系科目において、基礎技術を獲得させるとともに、新たな表現手法に対する探究心を喚起し、新しい価値を創造する力を養います。

最終年次には、卒業制作を課します。マンガ・アニメーションの作品発表を通じ、表現を創出する力と社会に向けた発信力を養います。

2 教育方法

(1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。

(2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。

(3) 学修ポートフォリオの作成指導により、学生の自律的な学修を支援します。

3 学修成果の評価

マンガ学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

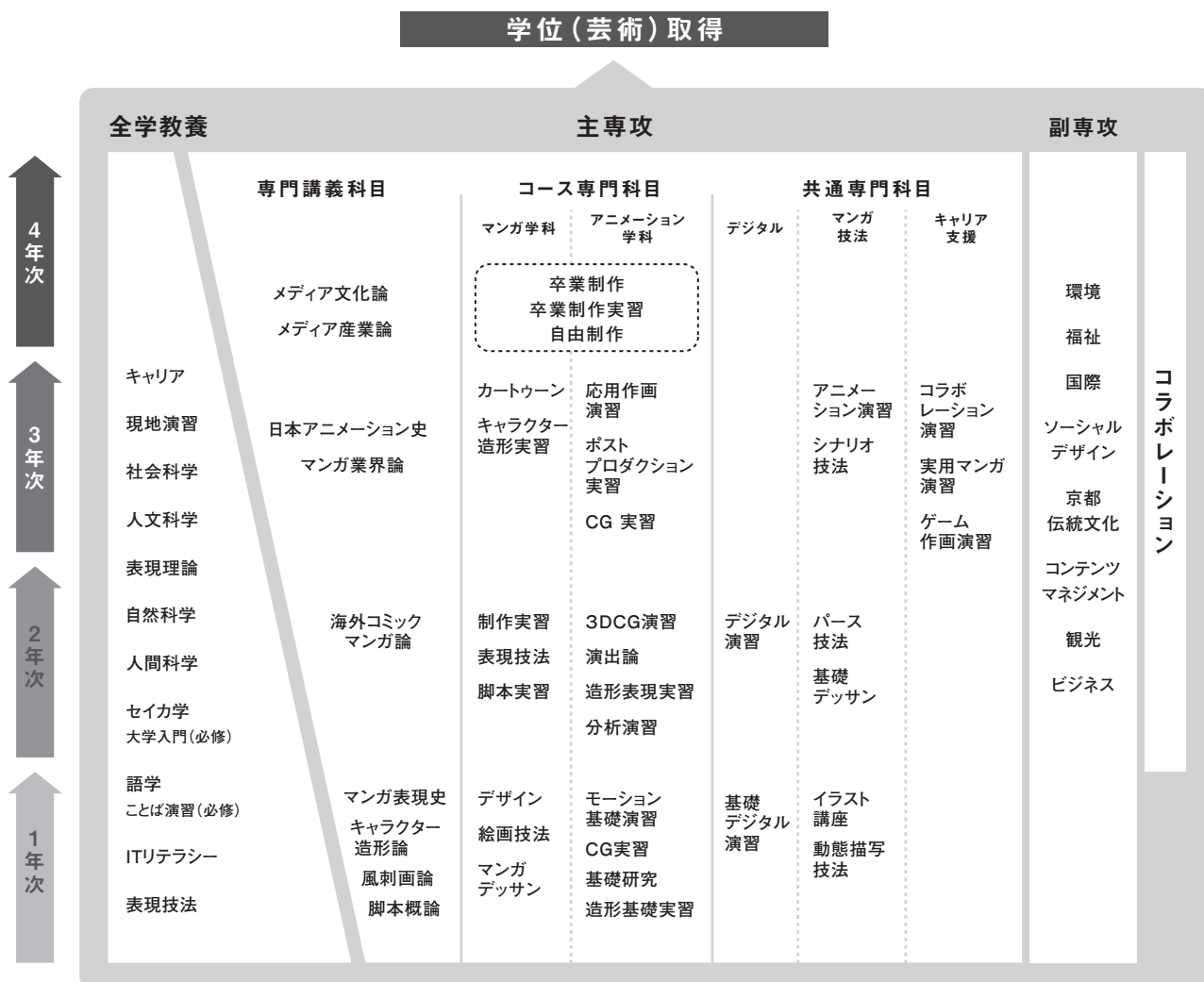
(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況(単位取得、GPA)により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況(単位取得、GPA)により、総合的評価を行います。卒業制作(必修)は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。

カリキュラムマップ



マンガ学部 共通専門教育科目 科目一覧

マンガ学部 共通講義科目

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
マンガ学部 共通講義科目	MGS30011	キャラクター造形論1	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●			●	
	MGS30031	キャラクター造形論2	選択	講義	2	1・2・3・4		●		●	●		●
	MGS30051	風刺画論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●				
	MGS30071	物語キャラクター論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●					
	MGS30091	脚本概論1	選択	講義	2	1・2・3・4		●		●			
	MGS30111	脚本概論2	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●		●			
	MGS30131	マンガ表現史1	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●					
	MGS30151	マンガ表現史2	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●		
	MGS30171	編集概論1	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●					
	MGS30191	編集概論2	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●					
	MGS30251	アニメーション作品作家研究1	選択	講義	2	1・2・3・4		●			●		
	MGS30271	アニメーション作品作家研究2	選択	講義	2	1・2・3・4		●			●		
	MGS30372	海外コミックマンガ論	選択	講義	2	2・3・4	●	●					
	MGS30392	比較マンガ論	選択	講義	2	2・3・4	●	●					
	MGS30452	マンガ業界論	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●				
	MGS35113	メディア文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●		
	MGS35123	メディア産業論	選択	講義	2	2・3・4	●	●					
	MGS30592	新世代マンガ総合講座	選択	講義	2	2・3・4		●				●	●
	MAN30311	日本アニメーション史	選択	講義	2	2・3・4	●	●					
	MAN30411	世界アニメーション史	選択	講義	2	2・3・4	●	●					

※各コースにおいて、必修科目に指定している講義科目があります。所属コースの卒業要件表で確認してください。

マンガ学部 共通実技科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
マンガ学部 共通実技科目	MGS41011	動態描写技法1	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●			
	MGS41021	動態描写技法2	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●			
	MGS41111	イラスト講座	選択	演習	2	2・3・4		●		●			
	MGS40112	デジタル演習1	選択	演習	2	2・3・4		●		●			
	MGS40122	デジタル演習2	選択	演習	2	2・3・4				●			
	MGS41312	パース技法	選択	演習	2	2・3・4		●		●			
	MGS43172	工芸	選択	実習	2	2・3・4	●			●			
	MGS43152	基礎立体・彫塑	選択	実習	2	2・3・4	●			●	●		
	MGS41813	絵本技法1	選択	演習	2	3・4		●		●		●	
	MGS41823	絵本技法2	選択	演習	2	3・4		●		●			
	MGS41913	シナリオ技法1	選択	演習	2	3・4		●		●	●		
	MGS41923	シナリオ技法2	選択	演習	2	3・4		●		●	●		
	MGS43513	実用マンガ演習	選択	演習	2	3・4		●		●			●
	MGS43613	編集実践演習	選択	演習	2	3・4		●					
	MGS43213	コラボレーション演習1	選択	演習	2	3・4		●	●		●	●	
	MGS43223	コラボレーション演習2	選択	演習	2	3・4		●	●		●	●	
	MGS43313	ゲーム作画演習1	選択	演習	2	3・4		●		●		●	●
	MGS43323	ゲーム作画演習2	選択	演習	2	3・4		●		●		●	●
	MGS43713	アニメーション3DCG演習1	選択	演習	2	3・4		●		●			
	MGS43723	アニメーション3DCG演習2	選択	演習	2	3・4		●		●			
	MAN41813	アニメーション創作実習1	選択	実習	3	3・4				●		●	●
	MAN41823	アニメーション創作実習2	選択	実習	3	3・4				●		●	●
	MGS40011	基礎デジタル演習1	必修	演習	2	1・2・3・4		●					
	MGS40021	基礎デジタル演習2	必修	演習	2	1・2・3・4		●					
	MCD40011	キャラクター造形基礎1	選択	演習	2	2・3・4		●		●			
	MCD40021	キャラクター造形基礎2	選択	演習	2	2・3・4		●		●			
	MGS42111	マンガデザイン1	選択	演習	2	2・3・4		●		●			
	MGS42121	マンガデザイン2	選択	演習	2	2・3・4		●		●			
	MGS41212	基礎デッサン1	選択	演習	2	2・3・4	●			●			
	MGS41222	基礎デッサン2	選択	演習	2	2・3・4	●			●			
	MGS41713	アニメーション演習1	選択	演習	2	3・4		●				●	
	MGS41723	アニメーション演習2	選択	演習	2	3・4		●				●	

カートゥーンコース

カートゥーンコース 卒業要件

〔全学共通教育科目(44単位以上)〕+〔学部専門教育科目(80単位以上)〕=124単位以上

科目区分	必修科目					必修科目以外		卒業に要する単位(計)
	進級要件	科目名称	年次	単位数	卒業に要する単位	卒業に要する単位	備考	
全学共通教育科目	全学教養科目	大学入門	1年	2単位	2単位	22単位以上	必修の「大学入門」・「ことば演習」・「英語1」・「英語2」に加え、22単位以上を修得する必要がある。	30単位以上
		ことば演習	1年	2単位	6単位			
		英語1(※1)	1年	2単位				
		英語2(※1)	1年	2単位				
	全学専門科目					14単位以上		14単位以上
学部専門教育科目	学部共通専門教育科目	基礎デジタル演習1(※2)	1~4年	2単位	12単位	26単位以上	学部共通専門教育科目(講義系・実技系)のうちから、左記必修科目に加え、26単位以上を修得する必要がある。	卒業に要する単位 124単位以上
		基礎デジタル演習2(※2)	1~4年	2単位				
		風刺画論(※3)	1~4年	2単位				
		物語キャラクター論(※2)	1~4年	2単位				
		メディア産業論(※3)	2~4年	2単位				
		メディア文化論(※3)	2~4年	2単位				
	コース専門教育科目	○ デッサン1	1年	3単位	39単位			
		○ デッサン2	1年	3単位				
		○ 絵画技法1	1年	3単位				
		○ 絵画技法2	1年	3単位				
		○ クロッキー1	2年	3単位				
		○ クロッキー2	2年	3単位				
		○ 風刺画1	2年	3単位				
		○ 風刺画2	2年	3単位				
		○ カートゥーン1	3年	3単位				
		○ カートゥーン2	3年	3単位				
		○ 自由制作	4年	3単位				
		○ 卒業制作実習	4年	6単位				
		○ 卒業制作	4年	3単位				

【留意事項】

(※1) 留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。

(※2) 「基礎デジタル演習1・2」「物語キャラクター論」は1年次での履修が望ましい。

(※3) 「風刺画論」「メディア産業論」「メディア文化論」は2年次での履修が望ましい。

【進級要件】

- 1年次から2年次: 上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。
- 2年次から3年次: 上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。
- 3年次から4年次: 上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。

カートゥーンコース カリキュラムマップ

		科目区分		
教育課程の目標		共通専門教育科目(講義系) (選択)	共通専門教育科目(実技系) (選択)	コース専門教育科目 (必修)
1年次	デッサン、クロッキーを中心に観察力と画力のトレーニングを行う。また、マンガを学ぶうえで基礎となる、知識や教養を学ぶ講義系科目、デジタルの基礎技術を学ぶ科目を履修する。	風刺画論(※) 物語キャラクター論(※) マンガ表現史1 マンガ表現史2 脚本概論1 脚本概論2 キャラクター造形論1 キャラクター造形論2 編集概論1 編集概論2 マンガ業界論 アニメーション作品作家研究1 アニメーション作品作家研究2	基礎デジタル演習1(※) 基礎デジタル演習2(※) 動態描写技法1 動態描写技法2 マンガデザイン1 マンガデザイン2 キャラクター造形基礎1 キャラクター造形基礎2	デッサン1 デッサン2 絵画技法1 絵画技法2
2年次	さらなる画力の向上とともに、個性的な画風づくりをみにつける。また、共通専門科目では、マンガを学ぶうえで基礎となる、知識や教養を学ぶ講義系科目や画力の向上を促す実技系科目を履修する。	メディア産業論(※) メディア文化論(※) 海外コミック論 比較マンガ論 日本アニメーション史 世界アニメーション史 新世代マンガ総合講座	デジタル演習1 デジタル演習2 パース技法 基礎デッサン1 基礎デッサン2 イラスト講座	クロッキー1 クロッキー2 風刺画1 風刺画2
3年次	希望する領域毎にわかれてゼミ形式で様々な表現技法を学びながら、専門的な課題作品の制作に取り組む。また多様な共通専門科目の履修を通じてコース・学科を超えた教員および学生間の交流を促し、多様な価値観に触れ、表現の幅を広げていく。		アニメーション3DCG演習1 アニメーション3DCG演習2 アニメーション演習1 アニメーション演習2 アニメーション創作実習1 アニメーション創作実習2 絵本技法1/絵本技法2 シナリオ技法1/シナリオ技法2 コラボレーション演習1 コラボレーション演習2 実用マンガ演習 編集実践演習 ゲーム作画演習1 ゲーム作画演習2	カートゥーン1 カートゥーン2
4年次	4年間の学びの集大成である卒業制作に取り組む。			自由制作 卒業制作実習 卒業制作

(※) 必修科目

マンガ学部 マンガ学科 カートゥーンコース
 専門教育科目 科目一覧

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
MCT40011	デッサン1	必修	実習	3	1		●		●			
MCT40021	デッサン2	必修	実習	3	1		●		●			
MCT40111	絵画技法1	必修	実習	3	1		●		●			
MCT40121	絵画技法2	必修	実習	3	1		●		●			
MCT40412	クロッキー1	必修	実習	3	2	●	●					
MCT40422	クロッキー2	必修	実習	3	2	●	●					
MCT40512	風刺画1	必修	実習	3	2	●	●		●			
MCT40522	風刺画2	必修	実習	3	2	●	●		●			
MCT40613	カートゥーン1	必修	実習	3	3		●		●			
MCT40623	カートゥーン2	必修	実習	3	3		●		●	●		
MCT40714	自由制作	必修	実習	3	4			●	●	●	●	●
MCT49014	卒業制作実習	必修	実習	6	4			●	●	●	●	●
MCT90014	卒業制作	必修	成果評定	3	4			●	●	●		

ストーリーマンガコース

ストーリーマンガコース 卒業要件

〔全学共通教育科目(44単位以上)〕+〔学部専門教育科目(80単位以上)〕=124単位以上

科目区分	必修科目					必修科目以外		卒業に要する単位(計)
	進級要件	科目名称	年次	単位数	卒業に要する単位	卒業に要する単位	備考	
全学共通教育科目	全学教養科目	大学入門	1年	2単位	2単位	22単位以上	必修の「大学入門」・「ことば演習」・「英語1」・「英語2」に加え、22単位以上を修得する必要がある。	30単位以上
		ことば演習	1年	2単位	6単位			
		英語1(※1)	1年	2単位				
		英語2(※1)	1年	2単位				
全学専門科目					14単位以上		14単位以上	
学部専門教育科目	学部共通専門教育科目	基礎デジタル演習1(※2)	1~4年	2単位	12単位	20単位以上	学部共通専門教育科目(講義系・実技系)のうちから、左記必修科目に加え、20単位以上を修得する必要がある。	卒業に要する単位 124単位以上
		基礎デジタル演習2(※2)	1~4年	2単位				
		マンガ表現史1(※3)	1~4年	2単位				
		マンガ表現史2(※3)	1~4年	2単位				
		脚本概論1(※2)	1~4年	2単位				
		脚本概論2(※2)	1~4年	2単位				
	コース専門教育科目	○ マンガデッサン1	1年	3単位	45単位			
		○ マンガデッサン2	1年	3単位				
		○ 絵画技法1	1年	3単位				
		○ 絵画技法2	1年	3単位				
		○ 表現技法1	2年	3単位				
		○ 表現技法2	2年	3単位				
		○ 脚本実習1	2年	3単位				
		○ 脚本実習2	2年	3単位				
		○ 表現技法3	3年	3単位				
		○ 表現技法4	3年	3単位				
		○ 脚本実習3	3年	3単位				
		○ 脚本実習4	3年	3単位				
		自由制作	4年	3単位				
卒業制作実習	4年	6単位	3単位					
卒業制作	4年	3単位						

【留意事項】

(※1)留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。

(※2)「基礎デジタル演習1・2」「脚本概論1・2」は1年次での履修が望ましい。

(※3)「マンガ表現史1・2」は1年次もしくは2年次での履修が望ましい。

【進級要件】

- 1年次から2年次:上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。
- 2年次から3年次:上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。
- 3年次から4年次:上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。

ストーリーマンガコース カリキュラムマップ

	教育課程の目標	科目区分		
		共通専門教育科目(講義系) (選択)	共通専門教育科目(実技系) (選択)	コース専門教育科目 (必修/選択)
1年次	マンガ制作の基礎となる効果線や動線描写の訓練、骨格や筋肉を把握したうえで的人物の描き方などを学ぶ。また、共通科目では、マンガを学ぶうえで基礎となる、知識や教養を学ぶ講義系科目、デジタルの基礎技術を学ぶ科目を履修する。	<ul style="list-style-type: none"> マンガ表現史1(※) マンガ表現史2(※) 脚本概論1(※) 脚本概論2(※) 風刺画論 物語キャラクター論 キャラクター造形論1 キャラクター造形論2 編集概論1 編集概論2 マンガ業界論 アニメーション作品作家研究1 アニメーション作品作家研究2 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎デジタル演習1(※) 基礎デジタル演習2(※) 動態描写技法1 動態描写技法2 マンガデザイン1 マンガデザイン2 キャラクター造形基礎1 キャラクター造形基礎2 	<ul style="list-style-type: none"> マンガデッサン1 マンガデッサン2 絵画技法1 絵画技法2
2年次	さらなる画力の向上とともに、ストーリーをネームに変えていく能力を身につける。また、共通専門科目では、マンガを学ぶうえで基礎となる、知識や教養を学ぶ講義系科目や画力の向上を促す実技系科目を履修する。	<ul style="list-style-type: none"> メディア産業論 メディア文化論 海外コミック論 比較マンガ論 日本アニメーション史 世界アニメーション史 新世代マンガ総合講座 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル演習1 デジタル演習2 パース技法 基礎デッサン1 基礎デッサン2 イラスト講座 	<ul style="list-style-type: none"> 表現技法1 表現技法2 脚本実習1 脚本実習2 カラー実習1(選択) カラー実習2(選択)
3年次	希望する領域毎にわかれてゼミ形式で様々な表現技法を学びながら、専門的な課題作品の制作に取り組む。また多様な共通専門科目の履修を通じてコース・学科を超えた教員および学生間の交流を促し、多様な価値観に触れ、表現の幅を広げていく。		<ul style="list-style-type: none"> アニメーション3DCG演習1 アニメーション3DCG演習2 アニメーション演習1 アニメーション演習2 アニメーション創作実習1 アニメーション創作実習2 絵本技法1/絵本技法2 シナリオ技法1/シナリオ技法2 コラボレーション演習1 コラボレーション演習2 実用マンガ演習 編集実践演習 ゲーム作画演習1 ゲーム作画演習2 	<ul style="list-style-type: none"> 表現技法3 表現技法4 脚本実習3 脚本実習4 マンガ制作実務演習(選択) マンガ制作実務研修(選択)
4年次	4年間の学びの集大成である卒業制作に取り組む。			<ul style="list-style-type: none"> 自由制作 卒業制作実習 卒業制作

(※) 必修科目

マンガ学部 マンガ学科 ストーリーマンガコース
 専門教育科目 科目一覧

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
MSM40011	マンガデッサン1	必修	実習	3	1		●		●			
MSM40021	マンガデッサン2	必修	実習	3	1		●		●			
MSM40111	絵画技法1	必修	実習	3	1		●		●			
MSM40121	絵画技法2	必修	実習	3	1		●		●			
MSM40512	表現技法1	必修	実習	3	2		●	●	●			
MSM40522	表現技法2	必修	実習	3	2		●	●	●			
MSM40412	脚本実習1	必修	実習	3	2		●	●	●			
MSM40422	脚本実習2	必修	実習	3	2		●	●	●			
MSM45112	カラー実習1	選択	実習	3	2・3・4	●	●					
MSM45122	カラー実習2	選択	実習	3	2・3・4	●	●					
MSM40533	表現技法3	必修	実習	3	3			●	●	●		
MSM40543	表現技法4	必修	実習	3	3			●	●	●		
MSM40433	脚本実習3	必修	実習	3	3			●		●	●	
MSM40443	脚本実習4	必修	実習	3	3			●		●	●	
MSM45013	マンガ制作実務演習	選択	演習	2	3		●					
MSM45023	マンガ制作実務研修	選択	演習	2	3		●					
MSM40714	自由制作	必修	実習	3	4			●	●	●	●	●
MSM49014	卒業制作実習	必修	実習	6	4			●	●	●	●	●
MSM90014	卒業制作	必修	成果評定	3	4			●	●	●		

キャラクターデザインコース

キャラクターデザインコース 卒業要件

〔**全学共通教育科目(44単位以上)**〕+〔**学部専門教育科目(80単位以上)**〕=124単位以上

科目区分	必修科目				必修科目以外			卒業に要する 単位(計)
	進級 要件	科目名称	年次	単位数	卒業に要する 単位	卒業に要する 単位	備考	
全学共通教育科目	全学教養科目	大学入門	1年	2単位	2単位	22単位 以上	必修の「大学入門」・「ことば演習」・「英語1」・「英語2」に加え、22単位以上を修得する必要がある。	30 単位 以上
		ことば演習	1年	2単位	6単位			
		英語1(※1)	1年	2単位				
		英語2(※1)	1年	2単位				
	全学専門科目					14単位 以上	14単位 以上	
学部専門教育科目	学部共通 専門教育科目	基礎デジタル演習1(※2)	1~4年	2単位	12単位	26単位 以上	学部共通専門教育科目(講義系・実技系)のうちから、左記必修科目に加え、26単位以上を修得する必要がある。	
		基礎デジタル演習2(※2)	1~4年	2単位				
		マンガ表現史1(※3)	1~4年	2単位				
		マンガ表現史2(※3)	1~4年	2単位				
		キャラクター造形論1(※2)	1~4年	2単位				
		キャラクター造形論2(※2)	1~4年	2単位				
	コース 専門教育科目	○ デザイン1	1年	3単位	39単位			
		○ デザイン2	1年	3単位				
		○ 絵画技法1	1年	3単位				
		○ 絵画技法2	1年	3単位				
		○ 表現技法1	2年	3単位				
		○ 表現技法2	2年	3単位				
		○ キャラクター造形実習1	2年	3単位				
		○ キャラクター造形実習2	2年	3単位				
		○ キャラクター造形実習3	3年	3単位				
		○ キャラクター造形実習4	3年	3単位				
		自由制作	4年	3単位				
卒業制作実習	4年	6単位	3単位					
卒業制作	4年	3単位						

卒業に要する単位
124単位以上

80
単位
以上

【留意事項】

(※1) 留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。

(※2) 「基礎デジタル演習1・2」「キャラクター造形論1・2」は1年次での履修が望ましい。

(※3) 「マンガ表現史1・2」は1年次もしくは2年次での履修が望ましい。

【進級要件】

- 1年次から2年次: 上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。
- 2年次から3年次: 上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。
- 3年次から4年次: 上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。

キャラクターデザインコース カリキュラムマップ

		科目区分		
教育課程の目標		共通専門教育科目(講義系) (選択)	共通専門教育科目(実技系) (選択)	コース専門教育科目 (必修)
1年次	デジタル作画技術の基礎を学ぶとともに、討論や対話を通じて、アイデアの見つけ方や発想力を向上させる方法を学ぶ。また、共通科目では、マンガを学ぶうえで基礎となる、知識や教養を学ぶ講義系科目、デジタルの基礎技術を学ぶ科目を履修する。	マンガ表現史1(※) マンガ表現史2(※) キャラクター造形論1(※) キャラクター造形論2(※) 脚本概論1 脚本概論2 風刺画論 物語キャラクター論 編集概論1 編集概論2 マンガ業界論 アニメーション作品作家研究1 アニメーション作品作家研究2	基礎デジタル演習1(※) 基礎デジタル演習2(※) 動態描写技法1 動態描写技法2 マンガデザイン1 マンガデザイン2 キャラクター造形基礎1 キャラクター造形基礎2	デザイン1 デザイン2 絵画技法1 絵画技法2
2年次	さらなる画力の向上とともに、多彩な絵柄を描く力、アイデアを生み出す技術を向上し、応用力を身につける。また、共通専門科目では、マンガを学ぶうえで基礎となる、知識や教養を学ぶ講義系科目や画力の向上を促す実技系科目を履修する。	メディア産業論 メディア文化論 海外コミック論 比較マンガ論 日本アニメーション史 世界アニメーション史 新世代マンガ総合講座	デジタル演習1 デジタル演習2 パース技法 基礎デッサン1 基礎デッサン2 イラスト講座	表現技法1 表現技法2 キャラクター造形実習1 キャラクター造形実習2
3年次	希望する領域毎にわかれてゼミ形式で様々な表現技法を学びながら、専門的な課題作品の制作に取り組む。また多様な共通専門科目の履修を通じてコース・学科を超えた教員および学生間の交流を促し、多様な価値観に触れ、表現の幅を広げていく。		アニメーション3DCG演習1 アニメーション3DCG演習2 アニメーション演習1 アニメーション演習2 アニメーション創作実習1 アニメーション創作実習2 絵本技法1/絵本技法2 シナリオ技法1/シナリオ技法2 コラボレーション演習1 コラボレーション演習2 実用マンガ演習 編集実践演習 ゲーム作画演習1 ゲーム作画演習2	キャラクター造形実習3 キャラクター造形実習4
4年次	4年間の学びの集大成である卒業制作に取り組む。			自由制作 卒業制作実習 卒業制作

(※) 必修科目

マンガ学部 マンガ学科 キャラクターデザインコース
 専門教育科目 科目一覧

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
MCD40111	絵画技法1	必修	実習	3	1		●		●			
MCD40121	絵画技法2	必修	実習	3	1		●		●			
MCD40312	表現技法1	必修	実習	3	2		●	●	●			
MCD40322	表現技法2	必修	実習	3	2		●	●	●			
MCD40412	キャラクター造形実習1	必修	実習	3	2				●		●	
MCD40422	キャラクター造形実習2	必修	実習	3	2		●		●	●		
MCD40433	キャラクター造形実習3	必修	実習	3	3				●	●		
MCD40443	キャラクター造形実習4	必修	実習	3	3				●	●		
MCD40714	自由制作	必修	実習	3	4			●	●	●	●	●
MCD49014	卒業制作実習	必修	実習	6	4			●	●	●	●	●
MCD90014	卒業制作	必修	成果評定	3	4			●	●	●		

新世代マンガコース

新世代マンガコース 卒業要件

〔全学共通教育科目(44単位以上)〕+〔学部専門教育科目(80単位以上)〕=124単位以上

科目区分	進級要件	必修科目				必修科目以外		卒業に要する単位(計)
		科目名称	年次	単位数	卒業に要する単位	卒業に要する単位	備考	
全学共通教育科目	全学教養科目	大学入門	1年	2単位	2単位	22単位以上	必修の「大学入門」・「ことば演習」・「英語1」・「英語2」に加え、22単位以上を修得する必要がある。	30単位以上
		ことば演習	1年	2単位	6単位			
		英語1(※1)	1年	2単位				
		英語2(※1)	1年	2単位				
	全学専門科目					14単位以上	14単位以上	
学部専門教育科目	学部共通専門教育科目	基礎デジタル演習1(※2)	1~4年	2単位	12単位	26単位以上	学部共通専門教育科目(講義系・実技系)のうちから、左記必修科目に加え、26単位以上を修得する必要がある。	卒業に要する単位 124単位以上
		基礎デジタル演習2(※2)	1~4年	2単位				
		マンガ表現史1(※2)	1~4年	2単位				
		マンガ表現史2(※2)	1~4年	2単位				
		マンガ業界論(※2)	1~4年	2単位				
		新世代マンガ総合講座(※3)	2~4年	2単位				
	コース専門教育科目	○ ネームドリル実習1	1年	3単位	39単位			
		○ ネームドリル実習2	1年	3単位				
		○ 絵画技法1	1年	3単位				
		○ 絵画技法2	1年	3単位				
		○ 脚本実習1	2年	3単位				
		○ 脚本実習2	2年	3単位				
		○ 制作実習1	2年	3単位				
		○ 制作実習2	2年	3単位				
		○ 表現技法1	3年	3単位				
		○ 表現技法2	3年	3単位				
		自由制作	4年	3単位				
卒業制作実習	4年	6単位	3単位					
卒業制作	4年	3単位						

【注意事項】

(※1) 留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。

(※2) 「基礎デジタル演習1・2」「マンガ表現史1・2」「マンガ業界論」は1年次での履修が望ましい。

(※3) 「新世代マンガ総合講座」は2年次での履修が望ましい。

【進級要件】

- 1年次から2年次: 上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。
- 2年次から3年次: 上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。
- 3年次から4年次: 上表に定める必修の実習・演習科目の単位をすべて修得すること。

新世代マンガコース カリキュラムマップ

		科目区分		
教育課程の目標		共通専門教育科目(講義系) (選択)	共通専門教育科目(実技系) (選択)	コース専門教育科目 (必修)
1年次	マンガを描くうえで基本となる、ペン技法など作画技術やストーリー作りの基本を学ぶ。デジタル作画技術の基本もあわせて習得する。また、共通科目では、マンガを学ぶうえで基礎となる、知識や教養を学ぶ講義系科目、デジタルの基礎技術を学ぶ科目を履修する。	<ul style="list-style-type: none"> マンガ表現史1(※) マンガ表現史2(※) 脚本概論1 脚本概論2 風刺画論 物語キャラクター論 キャラクター造形論1 キャラクター造形論2 編集概論1 編集概論2 マンガ業界論(※) アニメーション作品作家研究1 アニメーション作品作家研究2 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎デジタル演習1(※) 基礎デジタル演習2(※) 動態描写技法1 動態描写技法2 マンガデザイン1 マンガデザイン2 キャラクター造形基礎1 キャラクター造形基礎2 	<ul style="list-style-type: none"> 絵画技法1 絵画技法2 ネームドリル実習1 ネームドリル実習2
2年次	デジタルコミックを包括するマンガの企画制作ができるようになる。デジタル作画技術のスキルアップをはかる。また、共通専門科目では、マンガを学ぶうえで基礎となる、知識や教養を学ぶ講義系科目や画力の向上を促す実技系科目を履修する。	<ul style="list-style-type: none"> メディア産業論 メディア文化論 海外コミック論 比較マンガ論 日本アニメーション史 世界アニメーション史 新世代マンガ総合講座(※) 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル演習1 デジタル演習2 パース技法 基礎デッサン1 基礎デッサン2 イラスト講座 	<ul style="list-style-type: none"> 脚本実習1 脚本実習2 制作実習1 制作実習2
3年次	クラス別の授業を履修し、取材力、発想力、企画力、技術力、表現力、プレゼンテーション力を鍛える。ネット・デジタル向けのコミックを作成しセルフパブリッシュからマネタイズまでの全行程を独力でできるようになる。また多様な共通専門科目の履修を通じてコース・学科を超えた教員および学生間の交流を促し、多様な価値観に触れ、表現の幅を広げていく。		<ul style="list-style-type: none"> アニメーション3DCG演習1 アニメーション3DCG演習2 アニメーション演習1 アニメーション演習2 アニメーション創作実習1 アニメーション創作実習2 絵本技法1/絵本技法2 シナリオ技法1/シナリオ技法2 コラボレーション演習1 コラボレーション演習2 実用マンガ演習 編集実践演習 ゲーム作画演習1 ゲーム作画演習2 	<ul style="list-style-type: none"> 表現技法1 表現技法2
4年次	4年間の学びの集大成である卒業制作に取り組む。			<ul style="list-style-type: none"> 自由制作 卒業制作実習 卒業制作

(※) 必修科目

マンガ学部 マンガ学科 新世代マンガコース
 専門教育科目 科目一覧

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
MNG40011	絵画技法1	必修	実習	3	1		●		●			
MNG40021	絵画技法2	必修	実習	3	1		●		●			
MNG40111	ネームドリル実習1	必修	実習	3	1		●		●			
MNG40121	ネームドリル実習2	必修	実習	3	1		●		●			
MNG40212	脚本実習1	必修	実習	3	2		●	●	●			
MNG40222	脚本実習2	必修	実習	3	2		●	●	●			
MNG40312	制作実習1	必修	実習	3	2		●		●			
MNG40322	制作実習2	必修	実習	3	2		●		●			
MNG40413	表現技法1	必修	実習	3	2		●	●	●			
MNG40423	表現技法2	必修	実習	3	2		●	●	●			
MNG40714	自由制作	必修	実習	3	4			●	●	●	●	●
MNG49014	卒業制作実習	必修	実習	6	4			●	●	●	●	●
MNG90014	卒業制作	必修	成果評定	3	4			●	●	●		

マンガ学部 アニメーション学科

アニメーションコース

アニメーションコース 卒業要件

〔全学共通教育科目(44単位以上)〕+〔学部専門教育科目(80単位以上)〕=124単位以上

科目区分	必修科目				選択必修科目				必修・選択必修科目以外		卒業に要する単位(計)	
	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	卒業に要する単位	備考		
全学共通教育科目	全学教養科目	大学入門	1年	2単位	2単位					22単位以上	必修の「大学入門」・「ことば演習」・「英語1」・「英語2」に加え、22単位以上を修得する必要がある。	30単位以上
		ことば演習	1年	2単位	2単位							
		英語1(※1)	1年	2単位	2単位							
		英語2(※1)	1年	2単位	2単位							
全学専門科目									14単位以上		14単位以上	
コース専門選択科目									26単位以上	コース専門選択科目、学部共通専門教育科目(講義系・実技系)のうちから、26単位以上を修得する必要がある。	卒業に要する単位 124単位以上 80単位以上	
学部専門教育科目	コース専門教育科目	○ アニメーションモーション基礎演習1	1年	2単位	38単位	○ アニメーション創作実習1	3年	3単位	12単位以上			
		○ アニメーションモーション基礎演習2	1年	2単位		○ アニメーション創作実習2	3年	3単位				
		○ アニメーション基礎研究1	1年	2単位		○ ポストプロダクション実習1	3年	3単位				
		○ アニメーション基礎研究2	1年	2単位		○ ポストプロダクション実習2	3年	3単位				
		○ アニメーション造形基礎実習1	1年	3単位		○ アニメーション造形実践実習1	3年	3単位				
		○ アニメーション造形基礎実習2	1年	3単位		○ アニメーション造形実践実習2	3年	3単位				
		○ アニメーションCG演習1	1年	2単位		○ アニメーションCG実習1	3年	3単位				
		○ アニメーションCG演習2	1年	2単位		○ アニメーションCG実習2	3年	3単位				
		○ アニメーション演出論1	2年	2単位								
		○ アニメーション演出論2	2年	2単位								
		○ アニメーション分析演習1	2年	2単位								
		○ アニメーション分析演習2	2年	2単位								
		自由制作	4年	6単位								
卒業制作実習	4年	6単位										
卒業制作	4年	4単位	4単位									

【留意事項】

(※1) 留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。

【進級要件(2017~2019年度入学生)】

- 1年次から2年次:上表に定める必修の実習・演習科目において、通年で6科目以上の単位を修得すること。
- 2年次から3年次:上表に定める1年次から2年次の必修の実習・演習科目において、2年間で10科目以上の単位を修得すること。
- 3年次から4年次:上表に定める選択必修の実習・演習科目において、4科目以上の単位を修得すること。

【進級要件(2020年度入学生)】

- 1年次から2年次:上表に定める必修の実習・演習科目において、通年で6科目以上の単位を修得すること。
- 2年次から3年次:上表に定める1年次から2年次の必修の実習・演習科目において、2年間で10科目以上の単位を修得すること。
- 3年次から4年次:上表に定める1年次から2年次の必修の実習・演習科目のすべての単位および3年次の選択必修の実習・演習科目において2科目以上の単位を修得すること。

アニメーションコース カリキュラムマップ

科目区分

教育課程の目標	共通専門教育科目 (講義系) (選択)	共通専門教育科目 (実技系) (選択)	アニメーション学科 専門教育科目 (選択)	アニメーション学科 専門教育科目 (必修)
<p>1年次</p> <p>アニメーションの基本構造を理解し、作画の反復訓練を通じて画力と構想力を身につける。また、講義系科目において、アニメーションを学ぶうえで基礎となる、知識や教養を学ぶ。</p>	<p>マンガ表現史1 マンガ表現史12 脚本概論1/脚本概論2 風刺画論 物語キャラクター論 キャラクター造形論1 キャラクター造形論2 編集概論1/編集概論2 マンガ業界論 アニメーション 作品作家研究1 アニメーション 作品作家研究2</p>	<p>動態描写技法1 動態描写技法2</p>	<p>アクションドローイング 基礎1 アクションドローイング 基礎2</p>	<p>アニメーションモーション 基礎演習1 アニメーションモーション 基礎演習2 アニメーション基礎研究1 アニメーション基礎研究2 アニメーション造形 基礎実習1 アニメーション造形 基礎実習2 アニメーション CG演習1 アニメーション CG演習2</p>
<p>2年次</p> <p>アニメーションの「動き」が持つ表現力の深さを理解する。そのうえで、アニメーションの技法を支える絵画表現では基本造形からデフォルメへ、CGでは基本テクニックの習得から自己の表現を探求する。</p>	<p>メディア産業論 メディア文化論 海外コミック論 比較マンガ論 日本アニメーション史 世界アニメーション史 新世代マンガ総合講座</p>	<p>パース技法 イラスト講座</p>	<p>アニメーション 造形表現実習1 アニメーション 造形表現実習2 アニメーション 3DCG演習1 アニメーション 3DCG演習2 ストップモーション アニメーション実習1 ストップモーション アニメーション実習2 アニメーション音響基礎1 アニメーション音響基礎2 アクションドローイング1 アクションドローイング2 シナリオ論1/シナリオ論2</p>	<p>アニメーション演出論1 アニメーション演出論2 アニメーション 分析演習1 アニメーション 分析演習2</p>
<p>3年次</p> <p>これまでの学習成果をもとに自身の適性を見極め、卒業制作の準備に取り組む。前期で作品制作のモチーフやアイデアを検討し、後期は前期の成果を企画書に練り上げる。</p>		<p>絵本技法1 絵本技法2 シナリオ技法1 シナリオ技法2 コラボレーション演習1 コラボレーション演習2 実用マンガ演習 編集実践演習 ゲーム作画演習1 ゲーム作画演習2</p>	<p>応用作画演習1 応用作画演習2 エフェクト技法1 エフェクト技法2 アニメーション演出論3 アニメーション演出論4</p>	<p>アニメーション創作実習1(※) アニメーション創作実習2(※) ポストプロダクション 実習1(※) ポストプロダクション 実習2(※) アニメーション 造形実践実習1(※) アニメーション 造形実践実習2(※) アニメーションCG実習1(※) アニメーションCG実習2(※)</p> <p>*上記科目から4科目 (12単位)以上取得すること。</p>
<p>4年次</p> <p>4年間の学びの集大成である卒業制作に取り組む。</p>				<p>自由制作 卒業制作実習 卒業制作</p>

(※)選択必修科目

マンガ学部 アニメーション学科 アニメーションコース
 専門教育科目 科目一覧

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
MAN30011	アニメーション基礎研究1	必修	演習	2	1	●	●	●			●	
MAN30021	アニメーション基礎研究2	必修	演習	2	1	●	●	●			●	
MAN40011	アニメーションモーション基礎演習1	必修	演習	2	1		●					
MAN40021	アニメーションモーション基礎演習2	必修	演習	2	1		●					
MAN40111	アニメーション造形基礎実習1	必修	実習	3	1		●					
MAN40121	アニメーション造形基礎実習2	必修	実習	3	1		●					
MAN40211	アニメーションCG演習1	必修	演習	2	1		●					
MAN40221	アニメーションCG演習2	必修	演習	2	1		●					
MAN41011	アクションドローイング基礎1	選択	演習	2	1・2・3・4	●	●					
MAN41021	アクションドローイング基礎2	選択	演習	2	1・2・3・4	●	●					
MAN30112	アニメーション演出論1	必修	講義	2	2	●	●	●	●	●		
MAN30122	アニメーション演出論2	必修	講義	2	2	●	●	●	●	●		
MAN40312	アニメーション分析演習1	必修	演習	2	2	●		●	●	●	●	
MAN40322	アニメーション分析演習2	必修	演習	2	2	●		●	●	●	●	
MAN40232	アニメーション3DCG演習1	選択	演習	2	2		●		●			
MAN40242	アニメーション3DCG演習2	選択	演習	2	2		●		●			
MAN41112	アニメーション造形表現実習1	選択	実習	3	2		●	●	●			
MAN41122	アニメーション造形表現実習2	選択	実習	3	2		●	●	●			
MAN41212	ストップモーションアニメーション実習1	選択	実習	3	2		●					
MAN41222	ストップモーションアニメーション実習2	選択	実習	3	2		●					
MAN41312	アニメーション音響基礎1	選択	演習	2	2		●		●			
MAN41323	アニメーション音響基礎2	選択	演習	2	2		●		●			
MAN30513	シナリオ論1	選択	演習	2	2・3・4		●		●			
MAN30523	シナリオ論2	選択	演習	2	2・3・4		●		●			
MAN41512	アクションドローイング1	選択	演習	2	2・3・4	●	●					
MAN41522	アクションドローイング2	選択	演習	2	2・3・4	●	●					
MAN40514	ポストプロダクション実習1	選択必修	実習	3	3		●	●	●	●	●	
MAN40524	ポストプロダクション実習2	選択必修	実習	3	3		●	●	●	●	●	
MAN41613	アニメーション造形実践実習1	選択必修	実習	3	3		●		●		●	
MAN41623	アニメーション造形実践実習2	選択必修	実習	3	3		●		●		●	
MAN41713	アニメーションCG実習1	選択必修	実習	3	3		●		●			
MAN41723	アニメーションCG実習2	選択必修	実習	3	3		●		●			
MAN41813	アニメーション創作実習1	選択必修	実習	3	3		●		●		●	
MAN41823	アニメーション創作実習2	選択必修	実習	3	3		●		●		●	
MAN30133	アニメーション演出論3	選択必修	演習	2	3		●		●	●		●
MAN30143	アニメーション演出論4	選択必修	演習	2	3		●		●	●		●

科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
						1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
						1	2	1	2	3	1	2
MAN30613	エフェクト技法1	選択	演習	2	3		●					
MAN30623	エフェクト技法2	選択	演習	2	3		●					
MAN41533	応用作画演習1	選択	演習	2	3・4	●	●		●	●		
MAN41543	応用作画演習2	選択	演習	2	3・4	●	●		●	●		
MAN40714	自由制作	必修	実習	3	4			●	●	●	●	●
MAN49014	卒業制作実習	必修	実習	6	4			●	●	●	●	●
MAN90014	卒業制作	必修	成果評定	3	4			●	●	●		

ポピュラーカルチャー学部

ポピュラーカルチャー学科 音楽コース／ファッションコース

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム構造

学部の教育目標

- ポピュラーカルチャー学部は、国際的に注目されるポピュラーカルチャー領域において、豊かな人間性を育む文化表現を通して、次世代の産業界の発展に貢献する資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行います。

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	DP2	DP3
<p>1. 多様性を理解する力</p> <p>文化の多様性および文化と自然、人間、社会、個人の関係を理解し、新しい価値を生み出すための知識や技能を身につけている</p>	<p>1. 論理的に思考し判断する力</p> <p>現状を批判的に捉える思考力と、社会の中で公正にふるまう判断力を身につけ、適切な課題設定と課題解決の方向を示すことができる</p>	<p>1. 他者と協働する力</p> <p>多様な他者とその差異を理解し受け止めながら、様々な場面でもともに協働できる</p>
<p>2. 専門知を活用する力</p> <p>ポピュラーカルチャー分野全般および音楽とファッションに関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている</p>	<p>2. 考えを表現する力</p> <p>ポピュラーカルチャーおよび音楽とファッションの歴史性と拡がりを理解し、ポピュラーカルチャーに関わる社会的意味と主体的感性・思想を表現できる</p>	<p>2. 社会と他者に貢献する力</p> <p>ポピュラーカルチャーおよび音楽とファッションに関して獲得した知識・技能を用いて、社会や他者との課題を設定し、解決する姿勢を身につけている</p>
	<p>3. 多様な人とコミュニケーションする力</p> <p>音楽とファッションを巡って、社会的・文化的背景と文脈を理解しながら、多様な人々と公正にコミュニケーションできる</p>	

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ポピュラーカルチャー学部は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、全学教養科目、全学専門科目、学部専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系をわかりやすく明示します。

ポピュラーカルチャー学部専門科目の教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1 教育内容

学部専門科目では、1年次には音楽とファッションに向き合うために必要な基礎能力を身につける基礎実習・基礎演習を開講します。2年次は自分の目指す方向とそのための知識と技能を見極めることができるよう、制作実習・制作演習を開講します。3年次からは選択した専攻別にプロジェクトを用意し、専門的知識を深め、専門的スキルを磨くことのできる応用実習・応用演習を開講します。最終年次には、卒業制作を課します。学生自身が実現したいプロジェクトを計画段階から作り上げるよう指導することで、表現を創出する力を養います。

2 教育方法

- (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
- (3) 学修ポートフォリオの作成指導により、学生の自律的な学修を支援します。

3 学修成果の評価

ポピュラーカルチャー学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況(単位取得、GPA)により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況(単位取得、GPA)により、総合的評価を行います。卒業制作・卒業論文(必修)は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。

カリキュラムマップ



ポピュラーカルチャー学部 卒業要件

〔全学共通教育科目(44単位以上)〕+〔学部専門教育科目(80単位以上)〕=124単位以上

科目区分	必修科目					選択必修科目			必修・選択必修科目以外		卒業に要する単位(計)		
	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	卒業に要する単位	進級要件	科目名称	年次	卒業に要する単位	卒業に要する単位		備考	
全学共通教育科目	全学 教養科目	大学入門	1年	2単位	2単位					22単位以上	必修の「大学入門」・「ことば演習」・「英語1」・「英語2」に加え、22単位以上を修得する必要がある。	30 単位以上	
		ことば演習	1年	2単位	6単位								
		英語1(※1)	1年	2単位									
		英語2(※1)	1年	2単位									
全学 専門科目									14単位以上		14単位以上		
学部専門教育科目	専門 講義科目	ポピュラーカルチャー原論	1年	2単位	38単位					36単位以上	左記必修科目および選択必修科目に加え、36単位以上を修得する必要がある。(※2) ただし、選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位数を選択科目の単位とみなす。	卒業に要する単位 124 単位以上	
		専門 演習科目											
	専門 実習科目	○ 基礎実習1	1年	3単位			○ 応用実習1	3年	3単位				6単位以上
		○ 基礎実習2	1年	3単位			○ 応用実習2	3年	3単位				
		○ 基礎実習3	1年	3単位			○ 応用実習3	3年	3単位				
		○ 基礎実習4	1年	3単位			○ 応用実習4	3年	3単位				
		○ 制作実習1	2年	3単位									
		○ 制作実習2	2年	3単位									
		○ 制作実習3	2年	3単位									
		○ 制作実習4	2年	3単位									
		自由制作1	4年	3単位									
		自由制作2	4年	3単位									
		卒業制作1	4年	3単位									
卒業制作2	4年	3単位											

【留意事項】

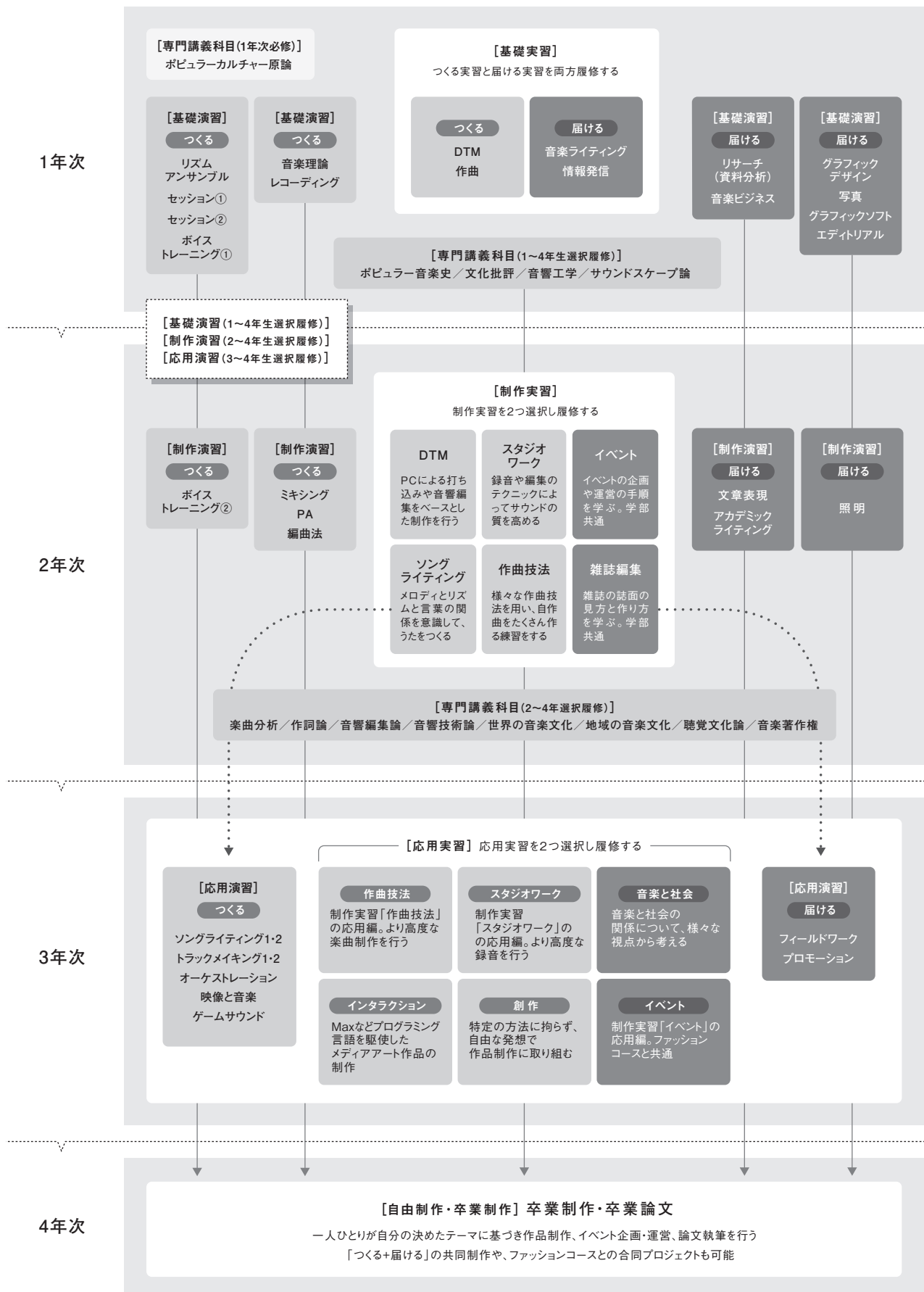
(※1) 留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。
(※2) 学部専門教育科目/必修・選択必修科目以外の科目のうち、専門講義科目から8単位以上、専門演習科目から12単位以上を4年間で修得すること。

【進級要件】①1年次から2年次:上表に定める必修の専門実習科目の単位(基礎実習1~4:計12単位)をすべて修得すること。

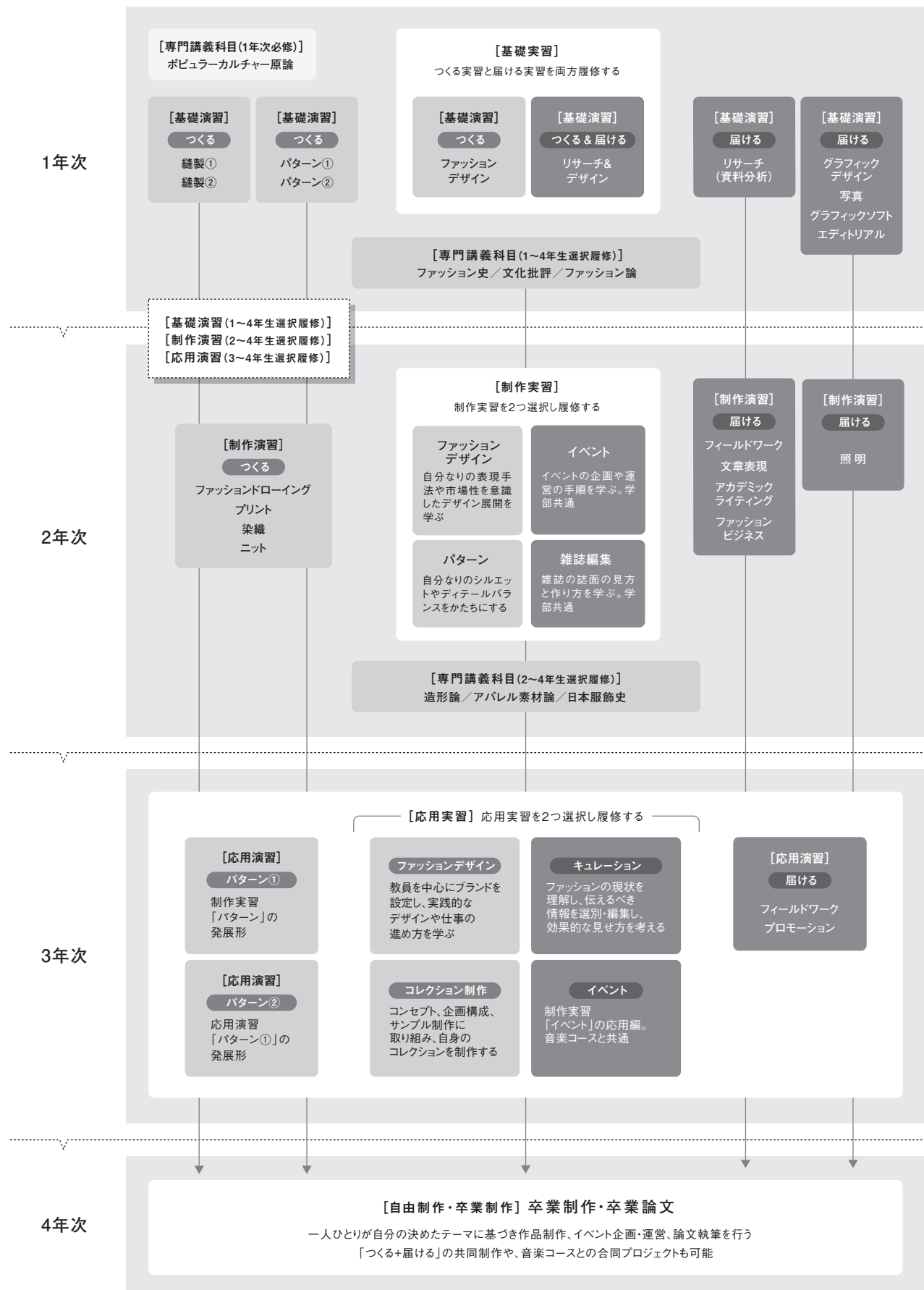
②2年次から3年次:上表に定める必修の専門実習科目の単位(制作実習1~4:計12単位)をすべて修得すること。

③3年次から4年次:上表に定める選択必修の専門実習科目(応用実習1~4:各3単位)より半期3単位以上、通年で6単位以上を修得すること。

ポピュラーカルチャー学部 音楽コース カリキュラムマップ



ポピュラーカルチャー学部 ファッションコース カリキュラムマップ



ポピュラーカルチャー学部 ポピュラーカルチャー学科
 専門教育科目 科目一覧

専門講義科目

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配当 年次	ディプロマ・ポリシーとの相関							
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現		
							1	2	1	2	3	1	2	
専 門 講 義 科 目	PGS30011	ポピュラーカルチャー原論	必修	講義	2	1	●	●	●					
	PGS31012	文化批評	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●					
	PGS30131	ポピュラー音楽史	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●					
	PGS32111	音響工学	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●					
	PGS30151	ファッション史	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●					
	PGS30051	サウンドスケープ論	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●	●					
	PGS30071	ファッション論	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●					
	PGS32132	楽曲分析	選択	講義	2	2・3・4		●	●					
	PGS32152	世界の音楽文化	選択	講義	2	2・3・4		●	●					
	PGS32172	地域の音楽文化	選択	講義	2	2・3・4		●	●					
	PGS32252	造形論	選択	講義	2	2・3・4		●	●					
	PGS32272	アパレル素材論	選択	講義	2	2・3・4		●	●					
	PGS32192	音響編集論	選択	講義	2	2・3・4		●	●					
	PGS32032	音楽著作権	選択	講義	2	2・3・4		●	●					
	PGS32212	音響技術論	選択	講義	2	2・3・4		●	●					
	PGS30292	聴覚文化論	選択	講義	2	2・3・4		●	●					
	PGS32232	作詞論	選択	講義	2	2・3・4		●	●					
	PGS32292	日本服飾史	選択	講義	2	2・3・4		●	●					

専門演習科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
専門演習科目	PGS42111	基礎演習 1	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42121	基礎演習 2	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42131	基礎演習 3	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42141	基礎演習 4	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42151	基礎演習 5	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42161	基礎演習 6	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42171	基礎演習 7	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42181	基礎演習 8	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42191	基礎演習 9	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42201	基礎演習 10	選択	演習	1	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42211	基礎演習 11	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42221	基礎演習 12	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42231	基礎演習 13	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42241	基礎演習 14	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42251	基礎演習 15	選択	演習	1	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42261	基礎演習 16	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●		●	
	PGS42312	制作演習 1	選択	演習	2	2・3・4		●		●		●	
	PGS42322	制作演習 2	選択	演習	2	2・3・4		●		●		●	
	PGS42332	制作演習 3	選択	演習	2	2・3・4		●		●		●	
	PGS42342	制作演習 4	選択	演習	2	2・3・4		●		●		●	
	PGS42352	制作演習 5	選択	演習	2	2・3・4		●		●	●	●	●
	PGS42362	制作演習 6	選択	演習	2	2・3・4		●		●		●	
	PGS42372	制作演習 7	選択	演習	2	2・3・4		●		●		●	
	PGS42382	制作演習 8	選択	演習	2	2・3・4		●		●		●	
	PGS42392	制作演習 9	選択	演習	2	2・3・4		●		●		●	
	PGS42402	制作演習 10	選択	演習	2	2・3・4		●		●		●	
	PGS42412	制作演習 11	選択	演習	2	2・3・4		●		●		●	
	PGS42422	制作演習 12	選択	演習	1	2・3・4		●		●		●	
	PGS42513	応用演習 1	選択	演習	2	3・4				●	●	●	●
	PGS42523	応用演習 2	選択	演習	2	3・4				●		●	
	PGS42533	応用演習 3	選択	演習	2	3・4				●		●	
	PGS42543	応用演習 4	選択	演習	2	3・4				●		●	
	PGS42553	応用演習 5	選択	演習	2	3・4				●		●	
	PGS42563	応用演習 6	選択	演習	2	3・4				●		●	
	PGS42573	応用演習 7	選択	演習	2	3・4				●		●	
	PGS42583	応用演習 8	選択	演習	2	3・4				●		●	
	PGS42593	応用演習 9	選択	演習	2	3・4				●	●	●	●
	PGS42603	応用演習 10	選択	演習	2	3・4				●	●	●	●
	PGS42613	応用演習 11	選択	演習	2	3・4				●		●	
	PGS42623	応用演習 12	選択	演習	2	3・4				●		●	

専門実習科目

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
専 門 実 習 科 目	※各コース別コード	基礎実習 1	必修	実習	3	1	●	●			●	●	
	※各コース別コード	基礎実習 2	必修	実習	3	1	●	●				●	
	※各コース別コード	基礎実習 3	必修	実習	3	1	●	●			●	●	
	※各コース別コード	基礎実習 4	必修	実習	3	1	●	●				●	
	※各コース別コード	制作実習 1	必修	実習	3	2	●	●	●	●	●	●	
	※各コース別コード	制作実習 2	必修	実習	3	2	●	●	●	●	●	●	
	※各コース別コード	制作実習 3	必修	実習	3	2	●	●	●	●	●	●	
	※各コース別コード	制作実習 4	必修	実習	3	2	●	●	●	●	●	●	
	※各コース別コード	応用実習 1	必修	実習	3	3	●	●	●	●	●	●	●
	※各コース別コード	応用実習 2	必修	実習	3	3	●	●	●	●	●	●	●
	※各コース別コード	応用実習 3	必修	実習	3	3	●	●	●	●	●	●	●
	※各コース別コード	応用実習 4	必修	実習	3	3	●	●	●	●	●	●	●
	PGS40214	自由制作 1	必修	実習	3	4	●	●	●	●	●	●	●
	PGS40224	自由制作 2	必修	実習	3	4	●	●	●	●	●	●	●
	PGS40244	卒業制作 1	必修	実習	3	4	●	●	●	●	●	●	●
	PGS40254	卒業制作 2	必修	実習	3	4	●	●	●	●	●	●	●

人文学部 総合人文学科

文学専攻／歴史専攻／社会専攻

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム構造

学部の教育目標

- 人文学部は、国際的な視野と体験を重視し、自立した思考力によって現実の社会と文化に貢献する資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行います。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

DP1	DP2	DP3
<p>1.多様性を理解する力 自文化の成り立ちや他文化との関係を多角的に捉え、世界が抱える諸課題を多角的に理解できる</p> <p>2.専門知を活用する力 人文学分野に関する知識・技能を体系的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている</p>	<p>1.論理的に思考し判断する力 学術調査・研究において、独創的な着眼点や新たな知見をもって、社会的課題に対する創造的な問いを立て、分析・考察し、解決できる</p> <p>2.考えを表現する力 学術調査・研究の成果や自分の知見をまとめる論述能力を身につけている</p> <p>3.多様な人とコミュニケーションする力 社会と文化の変遷を理解し、日本語や外国語を用いて、研究成果や自分の知見を分かりやすく伝達できる</p>	<p>1.他者と協働する力 豊かな人間性を活かし、市民として他者と協働する姿勢を身につけている</p> <p>2.社会と他者に貢献する力 実社会との結びつきを重視した実践力を活かして、現場が抱える様々な課題の解決に尽力できる</p>

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

人文学部は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、全学教養科目、全学専門科目、学部専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系をわかりやすく明示します。

人文学部専門科目の教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1 教育内容

学部専門科目では、1年次には人文学の基本（学びを支える基盤的な知識、思考力）を習得するための、人文学基盤科目群を開講します。2年次以降は、専攻に分かれた専門研究科目群を開講し、当該分野の専門的知識を系統的に習得させます。さらに、1年次からコミュニケーション・プログラム、ソーシャルデザイン・プログラム、フィールド・プログラムからなる創造実践科目群を開講し、社会の課題を解決するための実践的な力を身につけさせます。最終年次には卒業論文の作成を課します。学生が自主的に課題を設定し、その研究計画を構想・実行するよう指導することで、人文学的教養と専門的学識を統合する豊かな論述能力を養います。

2 教育方法

- (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
- (3) 学修ポートフォリオの作成指導により、学生の自律的な学修を支援します。

3 学修成果の評価

人文学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

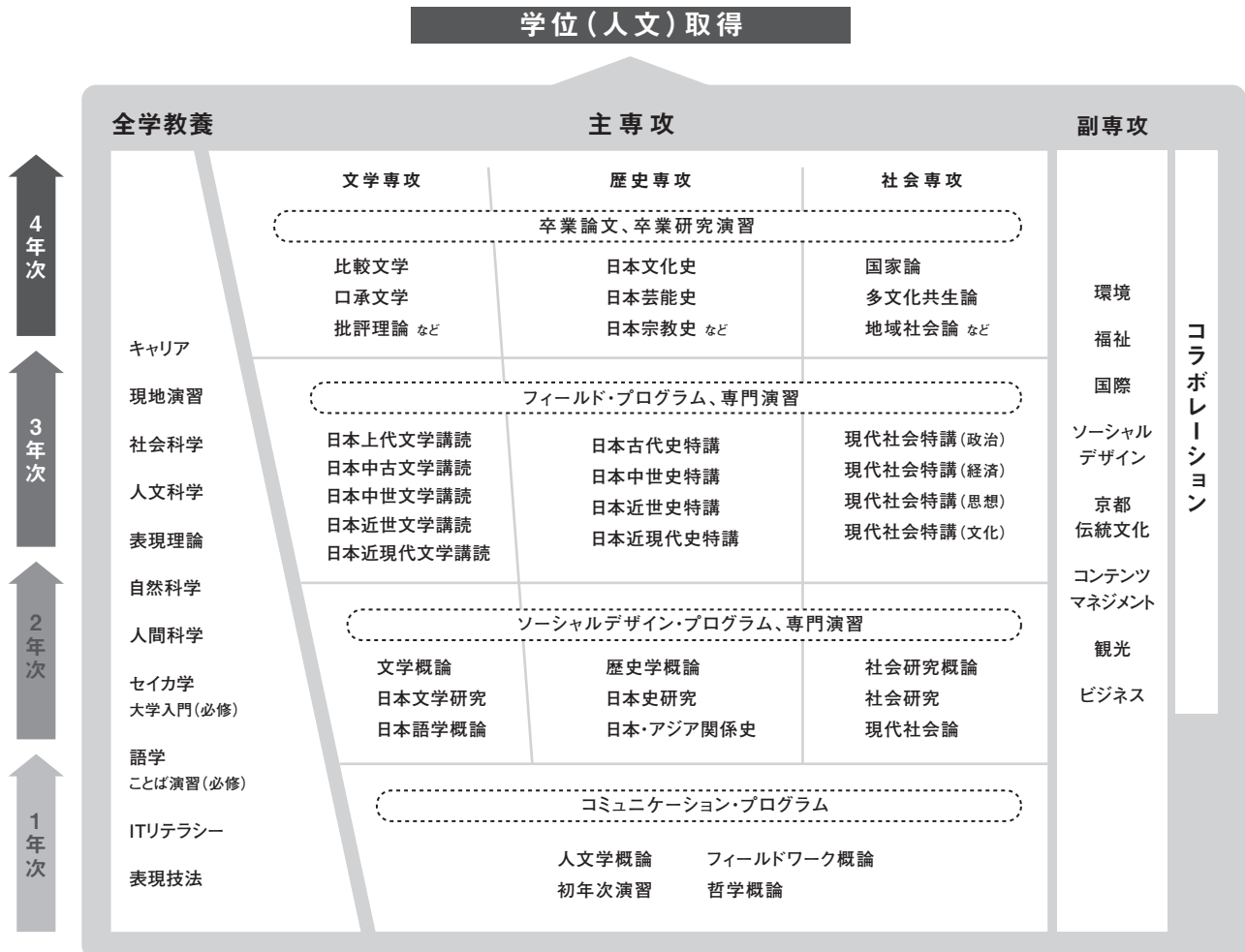
(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況(単位取得、GPA)により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況(単位取得、GPA)により、総合的評価を行います。卒業制作・卒業論文(必修)は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。

カリキュラムマップ



人文学部の学びについて

人文学とは、ひとつの学問領域にとらわれず、多角的な視点から人間と世界の成り立ちを探究する学問です。複雑な問題を多く抱える現代において、人文学が可能にする人間の本質と多様性への理解は、さまざまな問題を解決するカギになります。人文学部のカリキュラ

ムは、時代の要請に応え、人文学的な知見と、その知識を実社会で活かす方法を学ぶことができます。さらに複雑化する社会において、人間はいかに自由な存在として生きられるか。自分自身で考え、自らがのぞむ未来をつくりだせる人材を育てます。

人文学部の3つの特色

1. 「文学」「歴史」「社会」の専攻に分かれ、人間と社会の本質を考察する。

2年次より「文学」「歴史」「社会」の3つの専攻に分かれて、それぞれのアプローチから人間の本質と世界の成り立ちを探求します。専攻では少人数制のゼミに所属し、文献・史料の読解、アンケートや観察調査などに取り組み、専門性を深めます。

2. 卒業後に役立つ実践力をはぐくむ「社会とつながるプログラム」。

すべての学生が取り組む「社会とつながるプログラム」は、自分と社会とのつながりを自覚し、どう関わっていくかを体験的に学ぶものです。自分や他者、異文化を理解する力、課題を解決する力、そのための語学力、デジタルスキルなどを身につけます。

3. よりよい社会をつくりだすための、語学力と教養、課題解決力を習得。

人文学部がめざすのは、自分の所属するコミュニティはもちろん、海外においても、問題が何かを追求し、よりよい未来へと導く人材を育てることです。国籍を問わず、さまざまな人間がともに暮らす時代にこそ、人文学で身につけた力が役立ちます。

人文学部の4年間の学び方

人文学部では、2年次から「文学」「歴史」「社会」の専攻に分かれ、人間と社会への考察を深めます。文献の読み解き方や調査法を習得する中で、人間の価値観の多様性や社会の成り立ちを理解します。さらに、3専攻を横断して「社会とつながるプログラム」のステップを積み重ねることで、社会と自分との関わりを発見し、働きかけ、自分ののぞむ未来をつくり出すスキルを習得することができます。

人文学部のカリキュラムは、全学共通教育科目と専門教育科目の2つに大きく分かれます。

全学共通教育科目群は人文学部で専門的な知識を学ぶうえで、基礎となる知識を得るための科目です。人文学を極めるためには、それを支えるための広大な裾野が必要です。この裾野が広く大きいほど、頂は

高くなります。自分が4年間で成し遂げたいことから逆算し、そのために何を学んでおく必要があるか、しっかりと考えて履修してください。

専門教育科目は、人文学基盤科目群・創造実践科目群・専門研究科目群・展開科目群の4つから成り立っています。人文学基盤科目群は、1・2年次に必修の科目を中心に構成され、人文学の基礎・教養を学ぶ科目です。創造実践科目群は、2年次から分かれる専攻の所属を越えて履修できる科目で、人文学の様々な方法論を獲得することができます。専門研究科目群は、学部専門教育の柱となる科目群で、各専攻で基礎となる理論や方法を学びます。展開科目群は、各専攻における個別・具体的なテーマを深めるための科目で、専攻を越えて履修することができ、自らの問題意識を深めていきます。

専攻について

人文学部では、1年次では学部全体で「人文学部とは何か」「人文学とは何か」を学びます。2年次から、文学、歴史、社会の3つの専攻に所属し、引き続き「社会とつながる実践知」としての共通科目と、各専攻の「専門知」を両立した学びを通じて、新しい総合的な視野から社会を変革していく力を身につけていきます。

各専攻では少人数制の演習ゼミに所属し、文献・史料の読解、アンケートや観察調査などに取り組み、専門性を深め、4年次の「卒業

論文」をめざします。

1年次後期に履修する「人文学概論2」を通じ、各専攻ではどのような学修に取り組むのかを学び、どの専攻に属することが自分自身のよりよい学びにつながるのかを考え、1年次後期終了までに自分が所属する専攻を決定します。一度選択をした専攻は、原則的に変更することができませんので、専攻を選択する際はよく考えてください。

人文学部 総合人文学科 卒業要件

〔全学共通教育科目(44単位以上)〕+〔学部専門教育科目(80単位以上)〕=124単位以上

科目区分	科目群名称	進級要件	必修科目				必修科目以外		卒業に要する単位(計)		
			文学専攻	歴史専攻	社会専攻	卒業に要する単位	卒業に要する単位	備考			
全学共通教育科目	「セイカ学」		大学入門			1年	2単位	2単位	30単位以上		
			○ ことば演習			1年	2単位	16単位以上			
	「語学」	○ 発展ことば演習			1年	2単位	12単位			必修の「大学入門」・「ことば演習」・「発展ことば演習」・「英語1」・「英語2」・「語学科目」に加え、16単位以上を修得する必要がある。	
○ 英語1(※1)				1年	2単位						
○ 英語2(※1)				1年	2単位						
○ 語学科目(前期)(※2)				2年	2単位						
○ 語学科目(※2)				2年	2単位						
全学専門科目							14単位以上	14単位以上			
学部専門教育科目	人文学基盤科目群		○ 哲学概論1			1年	2単位	20単位	卒業に要する単位 124単位以上		
			○ 哲学概論2			1年	2単位				
			○ 人文学概論1			1年	2単位				
			○ 人文学概論2			1年	2単位				
			○ 初年次演習1			1年	2単位				
			○ 初年次演習2			1年	2単位				
			○ フィールドワーク概論			1年	2単位				
			○ 地域学			2年	2単位				
			○ 現場学			2年	2単位				
			○ 社会創造概論			2年	2単位				
	創造実践科目群		○ 社会創造演習			2年	2単位	12単位		4単位以上	左記必修科目に加え、4単位以上を修得すること。
			○ ICT・メディア演習			2年	2単位				
			○ フィールド・スタディーズ1			3年	2単位				
			○ フィールド・スタディーズ2			3年	2単位				
			○ フィールド・スタディーズ3			3年	2単位				
			○ フィールド・スタディーズ4			3年	2単位				
	専門研究科目群(※3)		○ 文学概論	○ 歴史学概論	○ 社会研究概論	2年	2単位	20単位		4単位以上	左記必修科目に加え、4単位以上を修得すること。
			○ 日本文学研究	○ 日本史研究	○ 社会研究	2年	2単位				
			○ 日本語学概論	○ 日本・アジア関係史	○ 現代社会論	2年	2単位				
			○ 文学専門演習1	○ 歴史専門演習1	○ 社会専門演習1	2年	2単位				
			○ 文学専門演習2	○ 歴史専門演習2	○ 社会専門演習2	2年	2単位				
			○ 文学専門演習3	○ 歴史専門演習3	○ 社会専門演習3	3年	2単位				
			○ 文学専門演習4	○ 歴史専門演習4	○ 社会専門演習4	3年	2単位				
			○ 卒業研究演習1	○ 卒業研究演習1	○ 卒業研究演習1	4年	2単位				
			○ 卒業研究演習2	○ 卒業研究演習2	○ 卒業研究演習2	4年	2単位				
		○ 卒業論文	○ 卒業論文	○ 卒業論文	4年	2単位					
	展開科目群							20単位以上		所属する専攻配置科目から10単位以上を含む20単位以上を修得すること。	

【留意事項】

- (※1) 留学生は、「日本語1」(2単位)、「日本語2」(2単位)の2科目4単位を必修とする。ただし、日本語担当教員との相談によっては、母語以外の他の外国語科目を履修することができる。
- (※2) 「語学科目」から上記以外の科目を4単位以上修得すること。
- (※3) 各専攻により科目が異なります。

【進級要件】

- 2年次から3年次:2年次終了までに上表に定める「ことば演習」「発展ことば演習」、ならびに「英語1」「英語2」(留学生は「日本語1」「日本語2」)「その他2年次前期開講語学科目(1科目)」「哲学概論1」「哲学概論2」「人文学概論1」「人文学概論2」「初年次演習1」「初年次演習2」「フィールドワーク概論」「地域学」「現場学」「社会創造演習」の30単位、および文学専攻においては「文学概論」「日本文学研究」「文学専門演習1」「文学専門演習2」、歴史専攻においては「歴史学概論」「日本史研究」「歴史専門演習1」「歴史専門演習2」、社会専攻においては「社会研究概論」「社会研究」「社会専門演習1」「社会専門演習2」のそれぞれ8単位を修得していなければならない。

人文学部 総合人文学科 カリキュラムマップ

人文学基盤科目群 1・2年次必修科目を中心に構成され、人文学の基礎教養を学ぶ科目群			
哲学概論1[★1年] 哲学概論2[★1年]	人文学概論1[★1年] 人文学概論2[★1年] 初年次演習1[★1年] 初年次演習2[★1年]	地域学[★2年] 現場学[★2年] 社会創造概論[★2年]	フィールドワーク概論[★1年] フィールドワーク技法[1・2年]

創造実践科目群 学部共通科目として 様々な方法論を獲得する	専門研究科目群 学部専門教育の柱となる科目群		
	文学専攻	歴史専攻	社会専攻
社会創造演習[★2年] ICT・メディア演習[★2年] 社会起業演習[3・4年] 文章表現演習[3・4年] フィールド・スタディーズ1[★3年] フィールド・スタディーズ2[★3年] フィールド・スタディーズ3[★3年] フィールド・スタディーズ4[★3年] フィールド・スタディーズ5[3年] フィールド・スタディーズ6[3年]	文学概論[★2年] 日本文学研究[★2年] 日本語学概論[★2年] 日本上代文学講読[2・3年] 日本中古文学講読[2・3年] 日本中世文学講読[2・3年] 日本近世文学講読[2・3年] 日本近現代文学講読[2・3年] 文学専門演習1[★2年] 文学専門演習2[★2年] 文学専門演習3[★3年] 文学専門演習4[★3年] 卒業研究演習1[★4年] 卒業研究演習2[★4年] 卒業論文[★4年]	歴史学概論[★2年] 日本史研究[★2年] 日本・アジア関係史[★2年] 日本古代史特講[2・3年] 日本中世史特講[2・3年] 日本近世史特講[2・3年] 日本近現代史特講[2・3年] 歴史専門演習1[★2年] 歴史専門演習2[★2年] 歴史専門演習3[★3年] 歴史専門演習4[★3年] 卒業研究演習1[★4年] 卒業研究演習2[★4年] 卒業論文[★4年]	社会研究概論[★2年] 社会研究[★2年] 現代社会論[★2年] 現代社会特講1(政治)[2・3年] 現代社会特講2(経済)[2・3年] 現代社会特講3(思想)[2・3年] 現代社会特講4(文化)[2・3年] 社会専門演習1[★2年] 社会専門演習2[★2年] 社会専門演習3[★3年] 社会専門演習4[★3年] 卒業研究演習1[★4年] 卒業研究演習2[★4年] 卒業論文[★4年]

展開科目群 [2～4年] 所属専攻を横断して履修でき、自らの関心領域を広げるための科目群		
文学専攻	歴史専攻	社会専攻
日本文学史 説話・伝承史 南島文学論 日本語学特講 比較文学 世界文学 口承文学 言語文化論 漢文学 書誌学 神話学 美学 詩歌論 歌謡論 批評理論 アイヌ文学論 書道 古典文法 哲学特講	考古学特講 地理学 民俗学概論 民俗学特講 古文書解読 日本の美術 アジアの美術 日本文化史 日本芸能史 日本服飾史 日本建築史 日本宗教史 日本景観史 日本思想史 京都の歴史1 京都の歴史2 歴史地理学	メディアと社会 国際関係論 環境社会論 国家論 社会階層論 南北問題 社会調査法 経済学概論 経済学特講 企業論 宗教社会学 多文化共生論 科学技術と社会 社会学概論 社会学特講 スポーツ社会学 コミュニティと社会 ジェンダーと社会 地域社会論 芸術と社会 社会支援論 子ども支援論

★=必修

人文学部 総合人文学科 専門教育科目 科目一覧

人文学基盤科目群・創造実践科目群

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
人文学基盤科目群	HCH30011	人文学概論1	必修	講義	2	1	●		●				●
	HCH30021	人文学概論2	必修	講義	2	1	●		●				●
	HCH30111	哲学概論1	必修	講義	2	1	●	●	●		●		●
	HCH30121	哲学概論2	必修	講義	2	1	●	●	●		●		●
	HCH30211	初年次演習1	必修	演習	2	1	●		●	●	●	●	●
	HCH30221	初年次演習2	必修	演習	2	1	●		●	●	●	●	●
	HCH30311	フィールドワーク概論	必修	講義	2	1	●		●				●
	HCH30331	フィールドワーク技法	選択	講義	2	1・2		●	●				●
	HCH30352	地域学	必修	講義	2	2	●		●		●		●
	HCH30372	現場学	必修	講義	2	2		●	●		●		●
HCH30392	社会創造概論	必修	講義	2	2	●		●				●	
創造実践科目群	HCH41112	社会創造演習	必修	演習	2	2		●	●	●	●	●	●
	HCH41132	ICT・メディア演習	必修	演習	2	2		●	●	●	●	●	●
	HCH41152	社会起業演習	選択	演習	2	2・3・4		●	●	●	●	●	●
	HCH41332	文章表現演習	選択	演習	2	3・4		●	●	●	●	●	●
	HCH41213	フィールドスタディーズ1	必修	学外実習	2	3		●	●	●	●	●	●
	HCH41223	フィールドスタディーズ2	必修	学外実習	2	3		●	●	●	●	●	●
	HCH41233	フィールドスタディーズ3	必修	学外実習	2	3		●	●	●	●	●	●
	HCH41243	フィールドスタディーズ4	必修	学外実習	2	3		●	●	●	●	●	●
	HCH41253	フィールドスタディーズ5	選択	学外実習	2	3		●	●	●	●	●	●
HCH41263	フィールドスタディーズ6	選択	学外実習	2	3		●	●	●	●	●	●	

専門研究科目群

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
文学 専攻	HCH32012	文学概論	必修	講義	2	2	●	●	●				●
	HCH32032	日本文学研究	必修	講義	2	2	●	●	●				●
	HCH32052	日本語学概論	必修	講義	2	2	●	●	●				●
	HCH32072	日本上代文学講読	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH32092	日本中古文学講読	選択	講義	2	2・3・4		●	●	●			●
	HCH32112	日本中世文学講読	選択	講義	2	2・3・4		●	●	●			●
	HCH32132	日本近世文学講読	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH32152	日本近現代文学講読	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH42012	文学専門演習1	必修	演習	2	2		●	●		●	●	●
	HCH42022	文学専門演習2	必修	演習	2	2		●	●		●	●	●
	HCH42033	文学専門演習3	必修	演習	2	3		●	●		●	●	●
	HCH42043	文学専門演習4	必修	演習	2	3		●	●	●	●	●	●
	HCH42114	卒業研究演習1	必修	演習	2	4		●	●	●	●	●	●
	HCH42124	卒業研究演習2	必修	演習	2	4		●	●	●	●	●	●
	HCH92014	卒業論文	必修	演習	2	4		●	●	●	●	●	●
歴史 専攻	HCH33012	歴史学概論	必修	講義	2	2	●	●	●	●			●
	HCH33032	日本史研究	必修	講義	2	2	●	●	●	●			●
	HCH33052	日本・アジア関係史	必修	講義	2	2	●	●	●	●			●
	HCH33072	日本古代史特講	選択	講義	2	2・3・4		●	●	●			●
	HCH33092	日本中世史特講	選択	講義	2	2・3・4		●	●	●			●
	HCH33112	日本近世史特講	選択	講義	2	2・3・4		●	●	●			●
	HCH33132	日本近現代史特講	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH43012	歴史専門演習1	必修	演習	2	2		●	●		●	●	●
	HCH43022	歴史専門演習2	必修	演習	2	2		●	●		●	●	●
	HCH43033	歴史専門演習3	必修	演習	2	3		●	●		●	●	●
	HCH43043	歴史専門演習4	必修	演習	2	3		●	●		●	●	●
	HCH43114	卒業研究演習1	必修	演習	2	4		●	●		●	●	●
	HCH43124	卒業研究演習2	必修	演習	2	4		●	●		●	●	●
	HCH93014	卒業論文	必修	演習	2	4		●	●		●	●	●

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
社会 専 攻	HCH34012	社会研究概論	必修	講義	2	2	●	●	●				●
	HCH34032	社会研究	必修	講義	2	2	●	●	●				●
	HCH34052	現代社会論	必修	講義	2	2	●	●	●				●
	HCH34112	現代社会特講1	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH34122	現代社会特講2	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH34132	現代社会特講3	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH34142	現代社会特講4	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH44012	社会専門演習1	必修	演習	2	2		●	●	●	●	●	●
	HCH44022	社会専門演習2	必修	演習	2	2		●	●	●	●	●	●
	HCH44033	社会専門演習3	必修	演習	2	3		●	●	●	●	●	●
	HCH44043	社会専門演習4	必修	演習	2	3		●	●	●	●	●	●
	HCH44114	卒業研究演習1	必修	演習	2	4		●	●	●	●	●	●
	HCH44124	卒業研究演習2	必修	演習	2	4		●	●	●	●	●	●
	HCH94014	卒業論文	必修	演習	2	4		●	●	●	●	●	●

展開科目群

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
文学 専 攻	HCH35012	日本文学史	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35032	日本語学特講	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH35052	説話・伝承史	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35072	言語文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35092	比較文学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35132	世界文学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35172	口承文学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35192	漢文学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35212	書誌学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35232	神話学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35252	詩歌論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35272	歌謡論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35292	批評理論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35312	南島文学論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35332	アイヌ文学論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35352	古典文法	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35392	哲学特講	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH35412	美学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH35432	書道	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●	●			●

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	必修/ 選択	授業 形態	単 位 数	配 当 年 次	ディプロマ・ポリシーとの相関						
							1 知識・理解・技能		2 思考・判断・表現			2 思考・判断・表現	
							1	2	1	2	3	1	2
歴史専攻	HCH36012	考古学特講	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36032	地理学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36052	歴史地理学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36092	民俗学概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36112	民俗学特講	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH36132	古文書解読	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36172	日本文化史	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36192	日本芸能史	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36212	日本の美術	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36232	アジアの美術	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36252	日本思想史	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36272	日本服飾史	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36292	日本建築史	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36312	日本宗教史	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36332	日本景観史	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH36372	京都の歴史1	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
HCH36392	京都の歴史2	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●	
社会専攻	HCH37032	社会学概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37052	社会学特講	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH37072	国家論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37112	社会階層論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37132	社会調査法	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37152	南北問題	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37172	国際関係論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37212	経済学概論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37232	経済学特講	選択	講義	2	2・3・4		●	●				●
	HCH37252	企業論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37312	メディアと社会	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37332	宗教社会学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37352	多文化共生論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37372	科学技術と社会	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37392	環境社会論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37412	スポーツ社会学	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37432	コミュニティと社会	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37452	ジェンダーと社会	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37472	地域社会論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
	HCH37492	芸術と社会	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●
HCH37512	社会支援論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●	
HCH37532	子ども支援論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●				●	

7 大学院

PI39 大学院での学修について

PI43 博士前期課程・修士課程

PI53 博士後期課程

← GRADUATE SCHOOL

教育方針

大学院での学修について

大学院における2年間ないし3年間の課程では、「何を学び、何を身につけるか」という基本的な研究テーマと姿勢をもち、自ら研究計画を立て、取り組んでいく必要があります。

博士前期課程・修士課程

博士前期課程・修士課程の授業は、京都精華大学大学院の理念・目標を実現するために、2年間で体系的に修学できるように科目が配置されています。従って、どの授業科目をどの学年で履修するかをよく考えて履修計画を立てることが必要です。

博士後期課程

前期課程で養われた芸術分野への幅広い視野と専門分野への深い洞察を基盤として、3年間の課程における自らの研究計画を遂行します。制作と理論とのバランスがとれた調和ある研究をめざし、各分野において豊富な経験を有する指導教員から、博士論文作成および作品制作における指導を受けます。

人文学研究科 修士課程 教育の方針

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

認知的領域	知識・理解	研究課題を人文科学の基礎概念と展開の中で位置づけ、研究領域に必要な知識を理解している。
	思考・判断	既存の枠組みを超える新しい視点を想起することができる。
技能表現領域	技能・表現	状況に応じた、実践的な言語・文章表現技術を修得している。
情意的領域	関心・意欲	既存の知の水準を乗り越える構想を準備するための姿勢を身につけている。
	態度	社会の一員としての自覚を持ち、文化的状況を把握しながら、世界と人類の未来を考えようとする態度を身につけている。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)

人文学領域特有の広範な研究対象から、学生が独自の観点と問題意識を持ちテーマを深めることを支援するよう教育課程を編成する。また自らの専門領域を越え、異なる立場の多様な知見を吸収できる体制を整える。

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

人文学研究科の研究領域に強い関心を持ち、将来その領域において研究・実践を行う明確な意志を持つ者。

芸術研究科 博士前期課程 教育の方針

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

認知的領域	知識・理解	諸芸術及び文化表現の歴史と現在の動向を正確に理解している。
	思考・判断	独創的かつ普遍的な表現領域の可能性を探索し、それによってどのようなメッセージを発信できるかを考察できる。
技能表現領域	技能・表現	自らの表現意図に沿って、適切な素材とテーマを選択し、状況に応じた柔軟で応用力のある制作技術、理論構築力を獲得している。
情意的領域	関心・意欲	「人間とはどのような存在であるのか」を常に問い、自らの芸術表現と時代・社会との関係性を意識し続けることができる。
	態度	自ら設定したテーマを、自分に相応しい表現方法と発表形式で具体化しようとする努力を怠らない。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)

専門知識・技能を体系的に履修するとともに、批評や議論、プロジェクトなど制作以外の活動を通して、学際的な分野への対応能力を含めた専門応用能力を培うよう教育課程を編成する。

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

芸術研究科の各専門領域に強い関心を持ち、将来その領域において研究・実践を行う明確な意志を持つ者。

芸術研究科 博士後期課程 教育の方針

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

専ら理論研究を行う者については、多様性に開かれた芸術領域において、学術的見識を高め、専門性に基づく独創的な理論研究を行い芸術の発展に貢献することが求められる。
芸術・表現の実践、デザイン提案・制作等を行う者については、個々の専門領域における特殊性や高度な技能、技術、メディア等についての実践的研究を行うとともに、併行してそれらに関連する理論研究を行うことが求められる。
また、それにより新たな芸術・表現、及びデザイン研究の発展の可能性やその深化に貢献することが求められる。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)

幅広い芸術研究領域を以下の3つの領域と研究目的に整理し、学生はいずれかに所属して各自の研究を深化させる。

ファインアーツ領域	古典的・近代的・今日的な芸術表現を対象に研究する。あるいは新たな芸術作品の可能性を追求する。
デザイン領域	現実社会との関係を持ちながら物や情報の美的性質や機能的合理性などを研究する。 あるいはデザイン提案・制作を追求する。
メディア領域	意識や身体性の拡張を促す多様なメディア表現の研究を行う。 あるいは新たなメディア芸術・表現の可能性を追求する。

学生に対する指導体制は、各自が所属する専門領域から選ばれる主査と専門領域の内外から選ばれる副査、および理論科目担当教員から選ばれる副査による合同指導体制とする。学生は実践と理論の両面から指導を受けることで見識を高める機会を得るとともに、現在における芸術・表現、およびデザイン領域における個々の課題が内包する多様な側面を複合的に捉え、自らの研究を深化させる。

学生はそれぞれの領域に関する実践や理論研究において、国内外での研究水準を見据えるとともに、対外的な場における高度かつ専門的な実践、提案・制作等を試み、あるいは理論研究の発表を行うことによりその検証を目指す。

博士論文の執筆において、学生は個々の理論研究およびそれぞれの領域に関する実践を踏まえたうえで、高度な専門性の理論化と独創性を追求し、専門領域の発展に資する内容を目指す。

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

芸術領域、デザイン領域、メディア領域の研究に強い関心を持ち、将来学術研究者として新たな研究の領域を摸索していくことに強い意志を持つ者、研究・制作面において自立的に活動を実践するための能力を有する者、を広く国内外から受け入れる。

デザイン研究科 修士課程 教育の方針

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

認知的領域	知識・理解	デザイン領域の歴史と世界的動向を理解し、専門知識と理論の両面を身につけている。
	思考・判断	社会や環境動向に深い関心を持ち、さまざまな領域を関連付けて考え、的確に判断し表現することができる。
技能表現領域	技能・表現	最新のテクノロジーを身につけ、研究を通して得られた知識や技術を融合し、高度な表現で提案できる。
情意的領域	関心・意欲	国際感覚および鋭敏な情報受容力を持ち、積極的に情報を発信し続ける意欲と関心を持っている。
	態度	社会の一員としての自覚を持ち、創造的なコミュニケーションがとれ、常に時代を牽引しようとする努力を怠らない。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

デザイン専攻	デザイン領域における高度な専門知識・技能を体系的に履修するとともに、デザイナー志向、プロデューサー志向および研究者志向に実践的に対応した教育課程を編成する。
建築専攻	建築領域における高度な専門知識・技能を体系的に履修するとともに、建築家および空間デザイナー志向に実践的に対応した教育課程を編成する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

デザイン研究科デザイン専攻あるいは建築専攻の専門領域に強い関心を持ち、将来その領域において研究・実践を行う明確な意志を持つ者。

マンガ研究科 博士前期課程 教育の方針

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

理論系	認知的領域	知識・理解	国内外におけるマンガ・アニメ研究の知識とその分析力をもち、日本語とITスキルの面での発表能力を有している。
		思考・判断	常にマンガ・アニメという視点から表現・文化・社会の学術的探求を進め、その成果を他分野や他国に対して発表する能力を有している。
	技能表現領域	技能・表現	マンガ・アニメ文化とその研究の現状に応じた形で研究問題を設定し、他分野に通じる根拠のある研究成果を発表している。
		関心・意欲	研究の学術性を尊重する姿勢と、最先端の問題提起を行おうとする意欲を併せ持ち、それに必要な学習を自主的に行い続けている。
実技系	認知的領域	知識・理解	国内外のマンガとその環境についての知識を制作活動に応用すると同時に、制作を発表する日本語力とITスキルを有している。
		思考・判断	マンガに対する知識を制作と理論の両面から融合させ、他分野や他国の作家と交流することによって自らの視野を広げている。
	技能表現領域	技能・表現	高度な技能と構想力に基づき、グローバル化と情報化の下で変容しつつあるマンガ文化に貢献できる制作活動をしている。
		関心・意欲	既存のマンガ表現の枠に収まらない表現欲求と創造力を併せ持ち、常にその向上を目指している。
情意的領域	態度	制作現場と読者との対話を重視しながら、マンガ・アニメ文化をめぐる幅広い社会的交流を促進している。	
	態度	チームワークを尊重しながら、世界的な視野から国内外のマンガ文化に積極的に貢献する姿勢を示している。	

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)

マンガ領域における高度な専門知識・技能を体系的に履修するとともに、実技・研究の両面において、「作家志向」、「研究者志向」および「高度専門職業人志向」に実践的に対応した教育課程を編成する。

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理論系	マンガ・アニメーションの先行研究をめぐる基礎知識、および学術論文の作成能力を持つ者。 広義のマンガ領域に強い関心を持ち、将来その領域において研究・実践を行う明確な意志を持つ者。
実技系	マンガ領域における専門知識・技能について理解する能力があり、作品制作において高い構想力を持つ者。 将来その領域において研究・実践を行う明確な意志を持つ者。

マンガ研究科 博士後期課程 教育の方針

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

修士の学位に必要な条件に加えて、一層高度な専門性を身につけ、研究者や表現者として独創的な活動を行える能力を身につけていること。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)

- マンガ領域における高度な専門知識と表現技術の両方にかかわる問題意識と研究視野を備えさせるために、制作現場での経験が豊富な作家と人文・社会科学の研究者の協働による研究指導を実施する。
- 学生の自律的研究を強化するために、学生が積極的に参加できるゼミ形式の授業を行う。
- 学生の個性と研究テーマの独創性を尊重する指導を行う。
- 研究の持続と発展に不可欠なコミュニケーション能力と、客観的かつ広範な学識を身につけさせるために、国内外での発表の機会を積極的に教育課程に取り入れる。

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

- マンガ・アニメーションに関する高度な表現の技術や理論を研究しようとする人。
- 学術論文を執筆するための基礎学力とマンガ・アニメーションの先行研究における幅広い知識を持ち、他領域との接続や融合による多角的な視点で研究する能力を有する人。
- 自立して創作、研究活動を持続し、文化の創造と発展に寄与しようとする人。

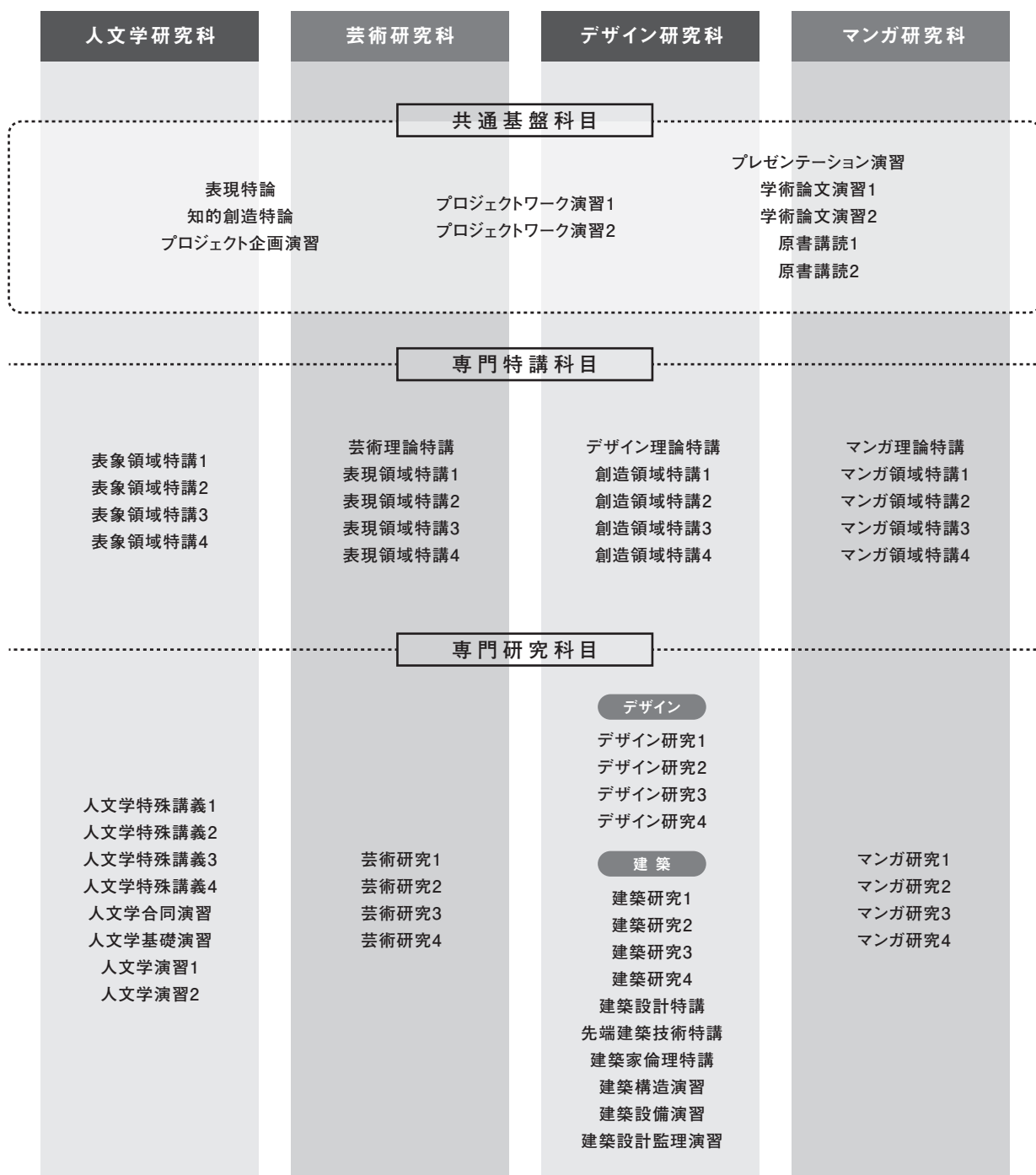
博士前期課程・修士課程

カリキュラム構成

京都精華大学大学院の教育課程の大きな特長は、研究科や領域、そして作家／研究者の違いも超えて、立場の異なる者が交流しながら学べることです。

まず、4研究科を横断する「共通基盤科目」では、表現の根本思想・哲学を学ぶ「表現特論」、表現の創造過程を学び多様なイメージ形成能力の育成をはかる「知的創造特論」のほか、社会に展開するプロジェクトを運営するための企画力を養う科目、実際に学外団体とのコラボレーションを行う実践的な科目など、社会と連携したプログラムが設置されています。

また、各研究科の専門的な講義科目である「専門特講科目」においては、個々の研究テーマに沿って他研究科の科目を受講することができます。「専門研究科目」では、各領域において各自の研究テーマに沿った作品制作、理論研究を行います。



博士前期課程（修士課程）修了要件

人文学研究科／芸術研究科デザイン研究科／マンガ研究科

授業科目群	備考	修了要件
共通基盤科目	必修2単位を含め6単位以上	30単位以上修得および 修士作品または修士論文を提出し 学位審査に合格すること
専門特講科目	所属する研究科から4単位以上および 他研究科から2単位以上、計8単位以上	
専門研究科目	必修16単位 ※人文学研究科(必修8単位を含め16単位以上)	

博士前期課程・修士課程 学位審査スケジュール

2年次後期に学位審査を行います。審査に向けた1年間のスケジュールは以下を目安にしてください。
各年度の初めに具体的な日程をお知らせします。

人文学研究科

実施時期	
7月下旬	修士論文 中間報告会(前期)
10月下旬	修士論文 中間報告会(後期)
12月下旬	「学位申請書(修士論文最終題目届)」提出
1月中旬	修士論文および論文要旨提出
1月下旬	修士論文 最終報告会
2月上旬	修士論文および論文要旨(和文・英文とも)【完成版】提出
2月上旬～中旬	修士論文 学位審査会
3月21日	学位授与

芸術研究科／デザイン研究科

実施時期	
8月	修士論文・修士作品中間報告会
12月	「学位申請書(修士論文・修士作品最終題目届)」提出
1月	「修士論文・作品の要旨」「修士論文・作品」の2種類を提出
1月下旬	修了発表会
1月下旬	修士論文・修士作品 学位審査会
2月中旬	修了制作展
3月21日	学位授与

マンガ研究科

実施時期	
7月	修士論文・修士作品 構想報告会
11月	修士論文・修士作品 中間報告会
12月	「学位申請書(修士論文・修士作品最終題目届)」提出
1月	「修士論文・作品の要旨」「修士論文・作品」の2種類を提出
1月	修士論文・修士作品 学位審査会
2月中旬	修了制作展
3月21日	学位授与

共通基盤科目および専門特講科目 科目一覧

共通基盤科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	備考
全研究科共通	GMC50015	表現特論	選択	講義	2	1・2	
	GMC50115	知的創造特論	必修	講義	2	1	
	GMC50215	プロジェクト企画演習	選択	演習	2	1・2	
	GMC50315	プロジェクトワーク演習1	選択	演習	2	1・2	
	GMC50325	プロジェクトワーク演習2	選択	演習	2	1・2	
	GMC50415	プレゼンテーション演習	選択	演習	2	1・2	
	GMC50515	学術論文演習1	選択	演習	2	1・2	
	GMC50525	学術論文演習2	選択	演習	2	1・2	
	GMC50615	原書講読1	選択	講義	2	1・2	
	GMC50625	原書講読2	選択	講義	2	1・2	

専門特講科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	備考
人文学研究科	GMH50115	表象領域特講1	選択	講義	2	1・2	
	GMH50125	表象領域特講2	選択	講義	2	1・2	
	GMH50135	表象領域特講3	選択	講義	2	1・2	
	GMH50145	表象領域特講4	選択	講義	2	1・2	
芸術研究科	GMA50015	芸術理論特講	必修	講義	2	1	芸術研究科生のみ履修可
	GMA50115	表現領域特講1	選択	講義	2	1・2	
	GMA50125	表現領域特講2	選択	講義	2	1・2	
	GMA50135	表現領域特講3	選択	講義	2	1・2	
	GMA50145	表現領域特講4	選択	講義	2	1・2	
デザイン研究科	GMD50015	デザイン理論特講	必修	講義	2	1	デザイン研究科生のみ履修可
	GMD50115	創造領域特講1	選択	講義	2	1・2	
	GMD50125	創造領域特講2	選択	講義	2	1・2	
	GMD50135	創造領域特講3	選択	講義	2	1・2	
	GMD50145	創造領域特講4	選択	講義	2	1・2	
マンガ研究科	GMM50015	マンガ理論特講	必修	講義	2	1	マンガ研究科生のみ履修可
	GMM50115	マンガ領域特講1	選択	講義	2	1・2	
	GMM50125	マンガ領域特講2	選択	講義	2	1・2	
	GMM50135	マンガ領域特講3	選択	講義	2	1・2	
	GMM50145	マンガ領域特講4	選択	講義	2	1・2	

専門研究科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	備考
人文学研究科	GMH51115	人文学特殊講義1	選択	演習	2	1・2	
	GMH51125	人文学特殊講義2	選択	演習	2	1・2	
	GMH51135	人文学特殊講義3	選択	演習	2	1・2	
	GMH51145	人文学特殊講義4	選択	演習	2	1・2	
	GMH51155	人文学特殊講義5	選択	演習	2	1・2	
	GMH51165	人文学特殊講義6	選択	演習	2	1・2	
	GMH51215	人文学合同演習	必修	演習	2	1	
	GMH51315	人文学基礎演習	必修	演習	2	1	
	GMH51416	人文学演習1	必修	演習	2	2	
	GMH51426	人文学演習2	必修	演習	2	2	
芸術研究科	GMA60015	芸術研究1	必修	実習	4	1	
	GMA60025	芸術研究2	必修	実習	4	1	
	GMA60036	芸術研究3	必修	実習	4	2	
	GMA60046	芸術研究4	必修	実習	4	2	
デザイン専攻科	GMD60015	デザイン研究1	必修	実習	4	1	
	GMD60025	デザイン研究2	必修	実習	4	1	
	GMD60036	デザイン研究3	必修	実習	4	2	
	GMD60046	デザイン研究4	必修	実習	4	2	
デザイン研究科 建築専攻	GMD65015	建築研究1	必修	実習	4	1	
	GMD65025	建築研究2	必修	実習	4	1	
	GMD65036	建築研究3	必修	実習	4	2	
	GMD65046	建築研究4	必修	実習	4	2	
	GMD55015	建築設計特講	選択	講義	2	1・2	
	GMD55115	先端建築技術特講	選択	講義	2	1・2	
	GMD55215	建築家倫理特講	選択	講義	2	1・2	
	GMD65115	建築構造演習	選択	演習	2	1・2	
	GMD65215	建築設備演習	選択	演習	2	1・2	
	GMD65315	建築工事監理演習	選択	演習	4	1・2	
マンガ研究科	GMM60015	マンガ研究1	必修	演習	4	1	
	GMM60025	マンガ研究2	必修	演習	4	1	
	GMM60036	マンガ研究3	必修	演習	4	2	
	GMM60046	マンガ研究4	必修	演習	4	2	

人文学研究科 修士論文提出要領

- (1) 本要領は京都精華大学大学院人文学研究科修士課程に在籍する学生の学位論文に関する研究指導等について、本学大学院学則および本学大学院学位規程に基づき、実施に必要な要項を定める。
- (2) 修士課程の学生は、第1年次においては修了要件として定められた授業科目の履修をおこなう。
- (3) 論文は大学院の研究指導を担当する教員を持って指導教員とする。
- (4) 修士論文は在学期間内に提出し、審査を受けなくてはならない。
- (5) 修士論文は、指定された期日までに、指定された窓口へ提出する。
- (6) 指定の期日までに、指定の窓口へ提出された修士論文について、学位審査委員会を設ける。
- (7) 審査委員会は、提出された修士論文の内容に関する研究分野の指導教員(主査)と、研究科委員会において認定された2名以上の教員等(副査)により組織する。
- (8) 研究科委員会が必要と認めた場合は、本学教員・他大学教員・研究所の所員等で当該論文の審査に適当と認められたものを審査委員に加えることができる。
- (9) 修士論文は、審査に先立ち、その成果を内外に発表するため、研究発表会において発表されなければならない。
- (10) 最終試験は、修士論文を提出した者に対し、提出された論文を中心として口頭または筆記によりおこなう。
- (11) 修士論文の審査および最終試験は審査委員がおこない、その可否は審査委員会の報告に基づいて、研究科委員会の議を経て、当該研究科委員長が決定する。
- (12) 修士論文は、学生の独自性と当該専門分野についての広い理解とを示すものでなければならない。
- (13) 修了審査に合格した修士論文は、修士論文集という形で社会に公表し、また情報館において永久保存する。

修士論文提出時の注意

(1) 使用言語

- 修士論文の執筆用語は原則日本語とする。但し、指導教員が適当と認めた場合、当該研究科委員会の承認を経て、日本語以外の言語を用いることができる。

(2) 書式

- 白紙A4サイズに黒インクで印刷のこと。
- マイクロソフトWord形式での提出を原則とする。
- 横書き(1頁の字数は40字×40行を基本とする)を基本とし、必要に応じて縦書きを認める。
- 枚数の制限は設けない。
- 外表紙、中表紙および本文の形式については様式2・4(P.152)を参照のこと。
- 副本はコピー機による複写を可とする。
- 複写は片面とし、鮮明で支障なく読めるものであること。
- 正本、副本ともにフラットファイルに綴じられていること。
- 指導教員の署名は提出時に必要。
- 以上の書式以外で作成された論文は受け付けない。

(3) 提出について

- 提出時には正本、副本(2部)を提出すること。
- 提出期限は1月末を基本とし、その度研究科委員会で決定し、通知する。
- 修士論文集に掲載するためデータ(USBメモリ)も同時に提出すること。
- 所定の期限を過ぎた論文は受け付けない。

(4) 修士論文要旨提出時の注意

- 要旨は和文・英文双方で作成する。和文は1,000字、英文は300words程度とする。
- 表紙および本文は様式3・4(P.152)を参照し、本文は修士論文と同一の書式とする。
- 要旨は修士論文とは別紙にし、修士論文と同時に提出する。
- 提出時には要旨およびそのデータ(USBメモリ、修士論文本文と同一のものでかまわない)を提出すること。

芸術研究科／デザイン研究科 修士論文・修士作品提出要領

(1) 修士論文・作品の提出について

【修士論文】

① 使用言語

論文の執筆用語は原則として日本語とする。ただし、研究分野の性質上、あるいは研究成果を発表するうえでの必要性に鑑み、研究科委員会において認められた場合のみ英語での論文執筆を可とする。英語で論文を執筆する場合は、論文提出時に必ず日本語訳を添付すること。

② 書式

- 白紙A4サイズに黒インクで印刷のこと。
- PC使用可。
- 横書き(特に和文の縦書きを希望する場合は、研究指導教員と協議のうえ、研究科長に届けること)。
- 使用言語を日本語とする場合は400字詰め原稿50枚以上(注釈・資料を除く)、またはPC使用の場合はA4用紙で20,000字以上(10.5ポイント、1行40字、40行、注釈・資料を除く)とすること。
- 使用言語を英語とする場合は原則 PCを使用し、11,000words以上(注釈・資料を除く)とすること。またA4用紙にダブルスペースにより作成すること。
- 目次の頁を設けること。
- 本文には下段中央に頁数を付与すること。ただし、目次、参考文献、資料等には頁数を付与しないか、別立てで頁数を付与すること。
- 脚注は各頁毎、あるいは各章毎、あるいは本文の最後にまとめる形式のいずれかにすること。本文と注は通しで頁数を付与すること。
- 表紙および本文の形式については、様式2・4(P.152)を参照すること。
- 表紙には研究指導教員の署名・捺印を必要とする。
- 副本は、複写を可とする。
- 複写は片面または両面いずれも可とする。ただし、鮮明で支障なく読めるものであること。
- 以上の書式以外で作成された論文は受け付けない。

③ 提出について

- 正本1部、副本3部をファイリングして提出すること。あわせてそのデータ(USBメモリ等)を提出すること(データ提出の際は本人および研究科長の印は必要としない)。
- 所定の期限を過ぎた論文および関係書類は受け付けない。

【修士作品】

- 所定の期日までに以下3点を提出すること。
 1. 表紙(様式2):1部
 2. 修士作品の概要がわかるもの(右記、参考例を参照):1部
 - ※1、2は白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。
 - ※1には研究指導教員の署名・捺印を必要とする。

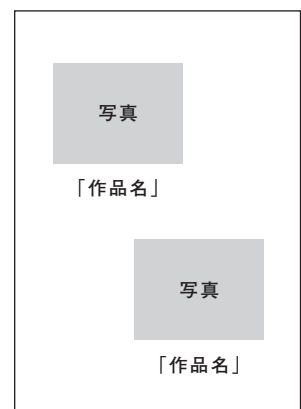
(2) 要旨の提出について

【修士論文・修士作品】

- 要旨の表紙は「様式3」、要旨の本文は「様式4」の書式に従うこと。
- 要旨の本文の文字数は以下の通りとする。

修士論文要旨:日本語2,000字程度または英語1,100words程度
修士作品要旨:日本語800字程度または英語440words程度
- 所定の期日までに以下3点を提出すること。
 1. 表紙(様式3):1部
 2. 本文(様式4):1部
 3. USBメモリ等に保管したデータ:1点
 - ※1、2は白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。
 - ※USBメモリ等は返却する。

参考例



※写真の掲載数は任意とする。
写真の下部にはタイトル、サイズ等を掲載。

マンガ研究科 修士論文・修士作品提出要領

(1) マンガ研究科修士論文・修士作品の学位審査基準

① 修士論文の学位審査基準

- 当該論文が独創的な問題設定があり、当該領域の先行研究を踏まえたうえで、当該領域の学術的發展に貢献すること。
- 当該論文が調査研究や資料の把握において学問の倫理に従うこと。
- 当該論文が(アニメーションやその他の隣接ジャンルを含む)広義のマンガ文化を主な研究対象としながら、他研究領域に対して開かれた論述をすること。

② 修士作品の学位審査基準

- 当該作品が独創的または普遍的な表現領域の可能性を探索し、社会に対して自らの深い思考が具体化されていること。
- 当該作品が表現方法・内容において社会に対して明確なコンセプトを持ち、それに沿ったテーマと素材、技法を選択し、制作されていること。
- 当該作品が多角的視点と想像力に基づき、柔軟で応用力のある制作技術や高度な作法を用い、十分な完成度が認められること。

(2) 修士論文の提出について

① 使用言語

- 論文の執筆言語は原則として日本語とする。ただし、研究分野の性質上、あるいは研究成果を発表する上での必要性に鑑み、研究科委員会において認められた場合のみ英語での執筆を可とする。

② 書式

- 白紙A4サイズに黒インクで印刷のこと。
- PC使用が望ましい。
- 横書き(特に和文の縦書きを希望する場合は、研究指導教員と協議の上、研究科長に届け出ること)。
- 使用言語を日本語とする場合は400字詰め原稿50枚以上(注釈・資料を含む)、またはPC使用の場合はA4用紙で20,000字以上(11ポイント、注は9ポイント1行40字、40行、注釈・資料を含む)とすること。
- 使用言語を英語とする場合は原則PCを使用し、11,000words以上(注釈・資料を含む)とすること。
また、フォントはTimesNewRomanを使用し、12ポイントとし、A4用紙1ページあたり35行で作成すること。
- 目次の頁を設けること。
- 本文には下段中央に頁数を付与すること。目次、参考文献、資料等にも頁数を付与すること。
- 図版にはキャプションを付ける。その中には、通し番号と出典(ページ数も含む)を挙げる。
キャプションに加え、「参考文献」一覧の直後に、キャプションの全データを含む「図版一覧」を載せる。
- 注記は、脚注または文末注のいずれかにすること。本文と注は通しで頁数を付与すること。
注記の書式、参考文献一覧、引用の方法については[マンガ研究科修士論文執筆細則]を参照。
- 表紙および本文の形式については、様式2・4(P.152)を参照すること。表紙には研究指導教員の署名・捺印を必要とする。
- 副本は、コピー機による複写を可とする。
- 複写は片面または両面いずれも可とする。ただし、鮮明で支障なく読めるものであること。
- 以上の書式以外で作成された論文は受け付けない。

③ 提出について

- 正本1部、副本3部をファイリングして提出すること。あわせてそのデータ(USBメモリ等)を提出すること。データのフォーマットはマイクロソフトWordまたはリッチテキスト形式を指定する。Word形式以外の図版などに関しては、提出前、問い合わせること。
- 所定の期限を過ぎた論文および関係書類は受け付けない。
- 修士論文および修士論文要旨の公開に応じる場合は許諾書を記入すること。

④ 修士論文要旨の提出について

- 修士論文要旨を1部提出すること。
- 要旨は日本語で作成すること。ただし、英語での論文執筆の場合、英語の要旨に加え、日本語の要旨をも作成すること。
- 和文の場合は2,000字程度、英文の場合は1,100words程度とし、A4用紙を使用すること。
- 要旨は複写でもよい。
- 表紙および本文は様式3・4(P.152)を参照し、本文は修士論文と同一の書式とする。
- 要旨は修士論文とは別に指定された期日までに提出すること。
- 所定の期限を過ぎた要旨は受け付けない。
- 提出時には要旨とあわせてそのデータ(USBメモリ等)を提出すること。データはWordで作成すること。

(3) 修士作品の提出について

① 修士作品の提出

- 所定の期日までに以下2点を提出すること。

1. 表紙(様式2):1部
2. 修士作品の概要がわかるもの(右記、参考例を参照):1部

※1、2は白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。

※1には研究指導教員の署名・捺印を必要とする。

※学位審査に必要な作品本体(マンガ原本、デジタルデータなど)の提出方式は別途、教務チームより連絡する。

② 修士作品の要旨の提出

- 要旨の表紙は「様式3」、要旨の本文は「様式4」の書式に従うこと。

- 要旨の本文の文字数は以下の通りとする。

修士作品要旨:日本語800字程度または英語440words程度

- 所定の期日までに以下3点を提出すること。

1. 表紙(様式3):1部
2. 本文(様式4):1部
3. USBメモリ等に保管したデータ:1点

※1、2は白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。

※USBメモリ等は返却する。

参考例



※写真の掲載数は任意とする。

写真の下部にはタイトル、サイズ等を掲載。

マンガ研究科 修士論文執筆細則

(1) 本文

章、節、等々の項目を分けた構成とする。
本文中の見出しは左揃えを原則とする。

(2) 語句の表記・表示

- ① 文章は、原則として常用漢字を用い、かなづかい
現代かなづかいと新送りがなに従うものとする。
ただし、特別の事由(引用など)があるときは、この限りではない。
- ② 句読点は、‘、’ および ‘。’ とする。
- ③ カギカッコの用法は以下のとおり。
「 」:(マンガ)作品名、論文名あるいは引用文の表示に用いる。
『 』:文中における書名、(マンガ誌を含む)誌(紙)名の表示に用いる。
- ④ 数字、ローマ字は半角文字とする。
- ⑤ 外国の固有名詞:文中初出の人名は、必要に応じてフルネームをカタカナ書きし(ミドルネームの頭文字は原語のままよい)、その後に()で原綴りを付記する。地名、研究機関名等もこれに準ずる。

(3) 文献の直接・間接引用

引用は、目的上正当な範囲内に限ること。また必ず出典を(頁数に至るまで)明示すること。本文中および注の文中に下記のように入れる。

[著者名または編者名□刊行年:頁数]

例: 吉村 2001:299;
例: ベルント編 2010:2

同一文献から何度も引用する場合も、ibid、上掲書などとせず、上記方式の表記をくりかえす。

(4) 注

注は脚注の機能を使って本文中の当該事項の後に表記し、番号順にする。なお、本文と注とではポイントが異なり、本文を11p、注を9pとする。注には、(本文中行う)出典表記以外の情報を入れる。(例えば、「～参照」、また補足的解説など)

(5) 図表

図表に番号を付けて、この番号を本文中にも、図表のキャプションにもあげる。本文中で図版の説明をする際、対応する図版を明示する。「図1」、「表3」のように表す。図表のタイトルはキャプションの形で、図の場合は図の下に、表の場合は表の上につける。他の文献から図版を引用する場合には、キャプションの末尾に出典を必ず明示する。出典の記載法は、引用文献の場合に準ずる(引用は公正な慣行に従い、引用の目的上正当な範囲内に限ること)。

表記例) 番号、タイトル、出典(頁数を含む)

図版のキャプション(番号、タイトル、出典を含む一覧)は、一括して原稿の最後(つまり文献一覧後)にまとめ、番号順に記載する。

(6) 参考文献

(この参考文献という言葉を用いる。参考文献、引用文献、文献等は不可。)

参考文献一覧は論文末に一括して作成する。参考文献とは、本文中または注において引用などの形で使用したもの(文献、ウェブサイトなど)を指す。マンガ作品を別の一覧にする。

- ① 文献の配列は著者姓名のアルファベット順か、五十音順とする。
外国人についても姓名とする。

例: Berndt, Jaquelineまたは
ベルント、ジャクリーヌ[ベルント・ジャクリーヌは不可]

- ② 記載は以下のようにする。
外国語の雑誌および単行本は題名をイタリックとする。

- a) 雑誌論文の場合、著者名(改行)、年号、「論文名」、「誌名」、巻(号)、頁数の順とする。

馬淵東一
1935「高砂族の系譜」『民族学研究』1(1),pp.1-16.
HOWELL, Signe
1985FormalSpeechActasOneDiscourse.In:Man, 21(1),pp.79-101.

- b) 論文集に掲載されている論文の場合、
著者名(改行)、年号、「論題」、「論文集名」、編者名、出版社、頁数(最初～最終)の順とする。

蒲生正男
1949「奄美の民俗・社会」『日本民族学大系』12、大間知篤三、岡正雄、桜田勝徳、関敬吾、最上孝敬編、平凡社、pp.7-21.
MEAD, Margaret
1955ImplicationofInsight-II.In:ChildhoodinContemporary Cultures.Margaret
MEADandMarthaWOLFENSTEIN,eds,pp.449-461.
UniversityofChicagoPress.

- c) 単行本の場合、著者名(改行)、年号、「書名」、出版社の順とする。

岩淵功一
2001『トランスナショナル・ジャパン』岩波書店
IWABUCHIKoichi
2002RecenteringGlobalization:PopularCultureandJapanese Transnationalism,DukeUniversityPress

- d) マンガ作品の場合、マンガ家または原作者・作画者、「題名」『連載雑誌名』(初出年号)、論文に使用した単行本版の出版社、出版年の順とする。

二ノ宮和子「のだめカンタービレ」『KISS』(2001-2010)、全25巻、講談社(コミックスKiss)、2002年～2010年

様式見本

様式1 学位申請書(最終題目届)見本

_____年____月____日

京都精華大学大学院
_____研究科長殿

学位申請書
(修士論文・修士作品最終題目届)

研究科: _____ 専攻: _____ 分野(領域): _____
入学年月日: _____年4月 修了予定年月日: _____年3月
学籍番号: _____ 氏名: _____ 印

修士論文・修士作品題目
「 _____ 」

概略(作品にあっては、その解説も記入すること)

学位審査委員:
_____ 印 _____ 印 _____ 印 _____ 印
(主となる指導教員名を記入)
※学位審査委員は2名以上の専任教員(専任指導教員を含む)とし、それ以外に研究科委員会が必要と認めた場合、当該研究科に所属しない者(学外者等)を審査委員とすることができる(原則1名)。

様式2 論文・作品題名(表紙)見本

論文・作品題名

京都精華大学大学院 研究科 専攻 分野(領域)

提出日付: _____

学籍番号: _____

氏名: _____ 印

研究指導教員名: _____ 印

様式3 要旨・(表紙)見本

修士論文・作品要旨

論文・作品題名

京都精華大学大学院 研究科 専攻 分野(領域)

提出日付: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

様式4 本文見本

※約2.5cm

※Title,Chapter,etcの区切りに当たる場合の上端余白は、
和文では3.5cm
英文では、5.0cmを目安とする。

※約2.5cm

(ページ番号)

※約2.5cm

博士後期課程

博士後期課程について

京都精華大学大学院・博士後期課程では、芸術、デザイン、マンガといったさまざまな領域で展開される表現を対象に、各自の研究テーマを深く追究するための課程です。各々の研究領域において新たな展開を生み出すこと、また制作者と理論研究者が互いの思考を獲得しあうことを目的に、制作と理論の指導研究員による合同指導体制をとっています。

博士後期課程 博士論文提出までの流れ

年次	時期	芸術研究科	マンガ研究科
1年	4月	「研究指導教員グループ申請書」提出	「研究指導教員グループ申請書」提出
	5月		
	6月		
	7月	「研究計画書」提出	「研究計画書」提出 ◆研究計画に関する報告会開催 「研究計画書－修正版－」提出
	8月		
	9月		
	10月		
	11月		
	12月		「1年次公開報告会のための要旨」提出
	1月	「1年次公開報告会のための要旨」提出	
	2月	公開報告会実施	◆公開報告会
	2年	4月	
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			◆博士後期課程中間報告会(業績&研究)
11月		「学位審査予備審査申請書」提出	
12月		「学位審査予備審査論文」提出	
1月			
2月	予備審査会		
3年	4月		
	5月		
	6月		
	7月		「学位審査予備審査申請書」提出 「学位審査予備審査論文」提出
	8月		
	9月		
	10月		◆予備審査会 ◆業績審査会
	11月	「学位申請書」を提出(*予備審査合格者対象)	「学位申請書」を提出(*予備審査合格者対象)
	12月	「学位請求論文」提出	
	1月		「学位請求論文」提出
	2月	学位審査会	◆学位審査会

※報告会・審査・試験の日程は変更の可能性があります。変更する場合はメール等で通知します。

芸術研究科 博士後期課程カリキュラム

(1) 開講科目および修了要件

「表現研究計画演習」(1年次／前期／2単位／担当:理論担当教員)

授業の概要および目的	各々の研究範囲とその研究テーマに応じて、指導教員との面談を重ねながら、博士後期課程3年間における研究計画を立案する。総合的な芸術表現の視点を獲得するため、研究方法に対する理解を深め、制作と理論のバランスがとれた調和ある研究計画の設定を行う。
授業計画	週1回、博士後期課程1年次全員が集まり、理論的な文献の講読、自らの作品の分析、あるいは研究に関する発表等を行い、各々にふさわしい理論的支持を行う。状況に応じてレポートを課すこともある。研究計画の立案が必須となり、「研究計画書」を提出する。7月中旬に主指導教員、副指導教員を交えて学生の3年間の研究計画に関する面談を行う。その後、研究計画書を作成し、メールへの添付ファイルの形で主指導教員・副指導教員・教務チームへ提出する。
成績評価	授業への参加度

「表現総合研究1」(1年次／通年／4単位／担当:主指導教員)

授業の概要および目的	主指導教員1名と副指導教員3名が、学生の研究領域のテーマに応じて分担または合同で研究指導を行う。次年度に設定される「表現総合研究2」の指導の前提となる研究である。
授業計画	各院生の研究テーマを考慮した上、決定する。
成績評価	授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など) 授業中の口頭発表

「表現総合研究2」(2年次／通年／4単位／担当:主指導教員)

授業の概要および目的	主指導教員の指導を中心としながら、各自の制作・研究を徹底的に進めて行く。 前期・後期を通じて、学位審査予備審査論文の作成を指導する。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考していけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。 「表現総合研究2」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受けるごとに、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。指導、助言はメールや電話などを含む。
成績評価	授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など)、 授業中の口頭発表、予備審査論文の内容および予備審査会での口述諮問の内容。

「表現総合研究3」(3年次／通年／4単位／担当:主指導教員)

<p>授業の概要および目的</p>	<p>主指導教員・副指導教員を中心に「表現総合研究1」・「表現総合研究2」における研究の成果を踏まえ、各学生の制作・研究の集大成を目的に指導にあたる。これは学位(博士)申請に関わる論文と作品の審査に直結し、学生の修了要件として単位化される。</p>
<p>授業計画</p>	<p>各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考していけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。 「表現総合研究3」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受けるごとに、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。指導、助言はメールや電話などを含む。</p>
<p>成績評価</p>	<p>授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など)、授業中の口頭発表、学位請求論文の内容および学位審査会の口述諮問の内容。</p>

修了要件

「芸術研究計画演習」2単位および「芸術総合研究1～3」12単位(4単位×3科目)、合わせて14単位以上修得し、かつ博士論文を提出し、審査および試験に合格すること。

※修了要件を充足した者に、博士(芸術)の学位を授与する。

(2) 研究指導体制について

① 指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

② 指導体制

主指導教員1名 + 副指導教員(理論)1名 + 副指導教員(領域不問)2名 = 計4名の指導体制

③ 論文指導チューター

週に1日、博士後期課程共同研究室に論文指導チューターが在室し、研究に必要な資料の探し方、論文の構成、また留学生の場合には日本語の添削などを補助します。

在室日程:原則的に毎週木曜日14:00～19:00 場所:博士後期課程共同研究室

(3) 各種書類 提出物について

1年次

①「研究指導教員グループ申請書」 提出締切: 4月予定 提出先: 教務チーム

※日程詳細はオリエンテーションにて案内します。

②「研究計画書」 提出締切:7月予定 提出先:教務チーム

提出先:メールにファイルを添付し、主指導教員、副指導教員、教務チームへ提出

③「研究記録書」 提出締切: 前期分>7月予定 後期分>1月予定 提出先:教務チーム

④「1年次公開報告会のための要旨」 提出締切: 12月予定 提出先: 教務チーム

2年次

①「研究記録書」 提出締切: 前期分>7月予定 提出締切: 後期分>1月予定 提出先: 教務チーム

②「学位審査予備審査申請書」 提出締切: 11月予定 提出先: 教務チーム

③「学位申請予備審査論文」 提出締切: 1月予定 提出先: 教務チーム

3年次

①「研究記録書」 提出締切: 前期分>7月予定 提出締切: 後期分>1月予定 提出先: 教務チーム

②「学位申請書」(予備審査合格者対象) 提出締切: 11月 提出先: 教務チーム

③「学位請求論文」 提出締切: 1月予定 提出先: 教務チーム

(4) 博士前期課程科目の履修について

希望により、博士前期課程に開設される基礎理論関係科目及び学部開設される専門講義科目の履修を認める。

履修に関しては教務チームと相談のうえ、科目登録を行う。

マンガ研究科 博士後期課程カリキュラム

(1)カリキュラム構成と修了要件について

「マンガ研究計画演習」(1年次／前期／2単位／担当:理論担当教員)

授業の概要および目的	各々の研究範囲とその研究テーマに応じて、指導教員との面談を重ねながら、博士後期課程3年間における研究計画を立案する。総合的なマンガ表現の視点を獲得するため、研究方法に対する理解を深め、制作と理論のバランスがとれた調和ある研究計画の設定を行う。
授業計画	週1回、博士後期課程1年次全員が集まり、理論的な文献の講読、自らの作品の分析、あるいは研究に関する発表等を行い、各々にふさわしい理論的支持を行う。状況に応じてレポートを課すこともある。研究計画の立案が必須となり、「研究計画書」を提出する。7月中旬に主指導教員、副指導教員を交えて学生の3年間の研究計画に関する報告会を開催する。その後、報告会を踏まえた上で、研究計画書を作成し直し、メールへの添付ファイルの形で主指導教員・副指導教員・教務チームへ提出する。
成績評価	出席・積極的参加 30% 研究計画書の内容 30% 報告会の発表内容 40%

「マンガ総合研究1」(1年次／通年／4単位／担当:主指導教員)

① 授業の概要および目的	主指導教員1名と副指導教員3名が、学生の研究領域のテーマに応じて分担または合同で研究指導を行う。これは、次年度に設定される「マンガ総合研究2」の指導の前提となる研究である。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く考えていけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。「マンガ計画演習」「マンガ総合研究1」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受ける毎に、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。指導、助言はメールや電話等を含む。また、後期に公開シンポジウム形式の研究計画報告会を開催し、自身の研究計画についてプレゼンテーションを行う。
成績評価	授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など) 50% 授業中の口頭発表 50%

「マンガ総合研究2」(2年次／通年／4単位／担当:主指導教員)

授業の概要および目的	主指導教員の指導を中心としながら、各自の制作・研究を徹底的に進めて行く。 博士論文資格試験のための予習も行う。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く考えていけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。7月には、予備審査の受審資格を問う「博士論文資格試験」を実施する。10月にこれまでの業績について報告する「業績報告会」を開催する。「マンガ総合研究2」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受けるごとに、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。
成績評価	授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など) 50% 授業中の口頭発表、予備審査論文の内容および予備審査会での口述質問の内容 50%

「マンガ総合研究3」(3年次／通年／4単位／担当:主指導教員)

<p>授業の概要および目的</p>	<p>主指導教員・副指導教員を中心に「マンガ総合研究1」・「マンガ総合研究2」における研究の成果を踏まえ、各学生の制作・研究の集大成を目的に指導にあたる。これは学位(博士)申請に関わる論文と作品の審査に直結し、学生の修了要件として単位化される。</p>
<p>授業計画</p>	<p>各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考できるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。10月上旬には学位請求論文の提出要件を満たしているかどうかを審査する「業績審査会」を開催する。また、「予備審査」を経て「学位審査」を行う。「マンガ総合研究3」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受けるごとに、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。</p>
<p>成績評価</p>	<p>授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など) 50% 授業中の口頭発表、学位請求論文の内容および学位審査会の口述諮問の内容 50%</p>

修了要件

「マンガ研究計画演習」2単位および「マンガ総合研究1～3」12単位(4単位×3科目)、合わせて14単位以上修得し、かつ博士論文を提出し、審査および試験に合格すること。

※修了要件を充足した者に、博士(芸術)の学位を授与する。

(2) 研究指導体制について

① 指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

② 指導体制

主指導教員1名 + 副指導教員1名 + 副指導教員1名 + 副指導教員1名 = 計4名の指導体制

③ 論文指導チューター

週に1日、博士後期課程共同研究室に論文指導チューターが在室し、研究に必要な資料の探し方、論文の構成、また留学生の場合には日本語の添削などを補助します。

在室日程:原則的に毎週木曜日14:00～19:00 場所:博士後期課程共同研究室

(3) 各種書類 提出物について

1年次

①「研究指導教員グループ申請書」 提出締切:4月予定 提出先: 教務チーム

※日程詳細はオリエンテーションにて案内します。

②「研究計画書」 【1回目提出】 提出締切: 7月予定 提出先: 教務チーム

【2回目-修正版-提出】 提出締切: 7月予定 提出先: メールにファイルを添付し、主指導教員、副指導教員、教務チームへ提出

③「研究記録書」 提出締切: 前期分>7月予定 後期分>1月予定 提出先: 教務チーム

④「1年次公開報告会のための要旨」 提出締切: 12月予定 提出先: 教務チーム

2年次

①「研究記録書」 提出締切: 前期分>7月予定 提出締切: 後期分>1月予定 提出先: 教務チーム

3年次

①「研究記録書」 提出締切: 前期分>7月予定 提出締切: 後期分>1月予定 提出先: 教務チーム

③「学位審査予備審査申請書」 提出締切: 7月 提出先: 教務チーム

④「学位申請予備審査論文」 提出締切: 7月 提出先: 教務チーム

⑤「学位申請書」 (予備審査合格者対象) 提出締切: 4月、11月 提出先: 教務チーム

⑥「学位請求論文」 提出締切: 6月、1月 提出先: 教務チーム

(4) 博士前期課程科目の履修について

希望により、博士前期課程に開設される基礎理論関係科目及び学部開設される専門講義科目の履修を認める。

履修に関しては教務チームと相談のうえ、科目登録を行う。

QUALIFICATION COURSE

8 資格課程

資格課程の概要

1. 京都精華大学で取得できる資格

ここでは、定められた授業科目を履修することで取得できる資格について説明します。取得できる資格は入学年度、所属学部・学科・コースによって異なります。建築士(一級、二級、木造)の受験資格については、P.96以降のライフクリエイションコース、建築コースのページで確認してください。教職、博物館学芸員、図書館司書の課程については「資格課程ハンドブック(「セイカ・ポータル掲載」)」も読んでください。

芸術・デザイン・マンガ・ポピュラーカルチャー学部生が取得できる資格

学部	学科	コース	教職			博物館学芸員	図書館司書	一級建築士 (受験資格)	二級・木造建築士 (受験資格)
			中一種免許 美術	高一種免許 美術	高一種免許 工芸				
芸術	造形学科(2017年度以降入学生)		○	○	○	○	○	-	-
デザイン	イラスト	イラスト	○	○	-	○	○	-	-
	ビジュアルデザイン	グラフィックデザイン	○	○	-	○	○	-	-
		デジタルクリエイション	-	-	-	○	○	-	-
	プロダクトデザイン	プロダクトコミュニケーション	○	○	○	○	○	-	-
		ライフクリエイション	○	○	○	○	○	-	○
建築	建築	-	-	-	-	-	○	○	
マンガ	マンガ	カートゥーン	○	○	-	○	○	-	-
		ストーリーマンガ	○	○	-	○	○	-	-
		キャラクターデザイン	○	○	-	○	○	-	-
		新世代マンガ	○	○	-	○	○	-	-
	アニメーション	アニメーション	○	○	-	○	○	-	-
ポピュラーカルチャー	ポピュラーカルチャー	音楽	-	-	-	○	○	-	-
		ファッション	-	-	-	○	○	-	-

人文学部生が取得できる資格

学部	学科	専攻	教職							博物館学芸員	図書館司書
			中一種免許			高一種免許					
			国語	英語	社会	国語	英語	公民	地理歴史		
人文	総合人文学科	文学	○	-	-	○	-	-	-	○	○
		歴史	-	-	○	-	-	-	○	○	○
		社会	-	-	○	-	-	○	-	○	○

2. 課程登録について

資格を取得するためには2年次に必ず課程登録をしてください。

課程登録手続きは次の通りです。

- (1) 教務チーム窓口で登録カードをもらい必要事項を記入する。
- (2) 証明書自動発行機で所定の課程登録料を納付する。
- (3) 登録カードに顔写真を貼付のうえ登録料納付書を添えて教務チーム窓口へ提出する。

課程名	登録料	登録時期
教職課程	30,000円	2年次の4月中
博物館学芸員課程	20,000円	
図書館司書課程	10,000円	

必ず課程登録をしてもらう理由について

資格課程受講に際して授業以外に実習や諸団体への届出等さまざまな手続きが必要です。卒業時に無事資格を取得できるように資格課程担当は希望者を把握しておかなければなりません。登録料は課程を運営する中で必要となる授業や授業以外の諸活動の費用の一部としています。

教職課程

1. 履修の心得

教職課程は中学校、高等学校教員として働くのに必要な免許状を取得するために設置された課程です。

人間の発達段階において、中学生、高校生の時期は感性や豊かな人間性を養う重要な時期であると言えます。

本学の教職課程では、そのような重要な時期を担う中学校、高等学校で教職に就く人財として、京都精華大学の教育目標とも共通する「人間を尊重し多様な価値観・文化を受容し」「広い視野と論理的思考に基づき」「多様な人々と共生・協働」できる教師を育成することをめざします。これら方針を理解したうえで、下に記すような熱意ある学生の履修を望みます。

- 教育に関心があり、教員になりたいと思っている人
- 人と関わる仕事がしたいと思っている人
- 粘り強く、継続して学び続ける姿勢を持っている人
- 芸術、文化を通して、地域や社会に役立ちたいと思っている人

2. 教職課程の4年間の流れ

年次	時期	事項
1年	4月 初旬	教職に関する科目(前期)履修開始／教科に関する科目(前期)履修開始
	10月 初旬	教職に関する科目(後期)履修開始／教科に関する科目(後期)履修開始
2年	3月 下旬	資格課程ガイダンス
	4月 中旬	課程登録手続き(～5月初旬) ※登録料が必要
	9月 下旬	介護等体験事前指導実施(中学校一種希望者のみ)
	10月 初旬	介護等体験先府県決定
3年	4月 初旬	資格課程ガイダンス／教育実習予定校へ訪問、内諾依頼(～9月)
	5月	介護等体験(前期)開始(～8月)
	10月	介護等体験(後期)開始(～3月)
4年	4月 初旬	資格課程ガイダンス／教育実習受入依頼書の発送(教務チームから発送)
	5月	教育実習(前期)開始
	10月 中旬	教育実習(後期)開始 教員免許状申請説明会(第1回)開催
	11月 下旬	教員免許状申請説明会(第2回)開催
	3月 下旬	教育職員免許状取得

教職課程を履修しようかどうか悩んでいる場合、1年生の間は検討期間になります。教職に関する科目の中で1年次から履修できる科目を履修してみて、自分に向いているか、4年生まで続けられそうか、考えてみましょう。

2年生の4月に「課程登録」手続きを行います。この手続きによって、「教職課程を履修する」という正式な意思表示をすることになります。

教育実習は、中学校一種免許希望者は3週間以上、高校一種免許のみ希望者は2週間以上行います。

3. [2020・2019年度入学生] 教員免許状を取得するために必要な要件

教職課程は、みなさんが所属する学部・学科・コースのカリキュラム(教育課程)とはまったく別のカリキュラムとなります。
教員免許状を取得するためには、卒業に必要な単位以外に、教職課程の専門科目の単位を修得する必要があります。

(1) [2020・2019年度入学生] 教職に関する科目一覧(全学部共通)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	配当年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	CQT500130	教職論		★	★	講義	2		○	○		※下記参照
	CQT501110	教育原論		★	★	講義	2	○				
	CQT502110	教育心理学		★	★	講義	2	○	○			
	CQT503110	教育制度論		★	★	講義	2	○	○			
	CQT504120	教育課程論		★	★	講義	2		○	○		
	CQT503520	特別支援教育論		★	★	講義	1		○	○		
道徳、総合的な学習の時間、教育相談に関する科目	CQT510120	道徳教育論		★		講義	2		○	○		
	CQT511120	特別活動論		★	★	講義	2		○	○		
	CQT512120	教育方法論		★	★	講義	2		○	○		
	CQT513120	生徒・進路指導論		★	★	講義	1		○	○		
	CQT514120	教育相談		★	★	講義	2		○	○		
	CQT510520	総合的な学習の時間の指導論		★	★	講義	1		○	○		
教科及び教科の指導法に関する科目	CQT5031301	美術科教育法I	(1)/(2)	★	★	講義	2			◎		指定されたクラスを受講すること
	CQT5052301	美術科教育法II	(1)/(2)	★	★	講義	2			◎		
	CQT5061301	美術科・工芸科教育法I		★	★	講義	2			◎		
	CQT5062301	美術科・工芸科教育法II		★	★	講義	2			◎		
	CQT5041301	社会科公民科教育法I		★	★	講義	1			◎	社会科、公民科、地理歴史科希望者	
	CQT5092301	社会科公民科教育法II		★	★	講義	2			◎	社会科、公民科、地理歴史科希望者	
	CQT5091301	社会科地歴科教育法I		★	★	講義	2		◎		社会科、公民科、地理歴史科希望者	
	CQT5092301	社会科地歴科教育法II		★	★	講義	2		◎		社会科、公民科、地理歴史科希望者	
	CQT5071201	国語科教育法I		★	★	講義	2		◎		国語科希望者	
	CQT5072201	国語科教育法II		★	★	講義	2		◎		国語科希望者	
	CQT5073301	国語科教育法III		★	★	講義	2			◎	国語科希望者	
	CQT5074301	国語科教育法IV		★	★	講義	2			◎	国語科希望者	
教育実践に関する科目	CQT600140	事前・事後指導		★	★	演習	1				◎	指定されたクラスを受講すること
	CQT900140	教育実習I		★	★	学外実習	2				◎	
	CQT900240	教育実習II		★	●	学外実習	2				◎	
	CQT521140	教職実践演習		★	★	演習	2				◎	

[必修/選択必修の見方: ★ 必修、● 選択必修]

※教職論について

人文学部生は2年次前期に「教職論A」を、その他の学部生は3年次前期に「教職論B」を履修してください。

[介護等体験] 中学校教諭一種免許状希望者のみ対象(2年次6月下旬に対象者に案内します)

科目区分	科目ナンバリングコード	事項名	クラス	★印参加必須		授業形態	単位数	実施年次				担当者名	専任/兼任	実施時期	曜日	講時	受着科目	備考	
				中	高			1年	2年	3年	4年								
	-	介護等体験事前指導		★	-	講義	なし		○				特別講師	-	9月下旬	-	-		
	-	介護等体験(学校2日間・施設5日間)		★	-	講義	なし			○			各体験先	-	前期/後期	-	-		

「教科に関する科目」、「教科又は教職に関する科目」、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」については、所属学科・コース、取得を希望する免許教科ごとに異なるため、P.165以降の各学科・コースの科目一覧を参照してください。

【履修上の注意】

3年次終了までに以下の科目を修得済みでないと、4年次に「教育実習」「教職実践演習」を履修することはできません。

対象科目

「教職論」、「教育原論」、「教育心理学」、「教育制度論」、「教育課程論」、「教科教育法」、「道徳教育論」(中学校のみ)、「特別活動論」、「教育方法論」、「生徒・進路指導論」、「教育相談」

※1 取得を希望する免許教科、所属コースに応じた「教科教育法」を履修してください。

詳細は「(1) [2020・2019年度入学生] 教職に関する科目一覧(全学部共通)」を参照してください。

※2 教育実習3週間以上の場合のみ「教育実習II」も履修。

4. [2018・2017年度入学生] 教員免許状を取得するために必要な要件

教職課程は、みなさんが所属する学部・学科・コースのカリキュラム(教育課程)とはまったく別のカリキュラムとなります。
教員免許状を取得するためには、卒業に必要な単位以外に、教職課程の専門科目の単位を修得する必要があります。

(1) [2018・2017年度入学生] 教職に関する科目一覧(全学部共通)

科目 ナンバリング コード	科目名	クラス	必修/ 選択必修		授業 形態	単位数	配当年次				備考
			中	高			1年	2年	3年	4年	
CQT500130	教職論		★	★	講義	2		○	○		
CQT501110	教育原論		★	★	講義	2	○				
CQT502110	教育心理学		★	★	講義	2	○	○			
CQT503110	教育制度論		★	★	講義	2	○	○			
CQT504120	教育課程論		★	★	講義	2		○	○		
CQT505130I	美術科教育法I	1 / 2	★	★	講義	2			◎		指定されたクラスを 受講すること
CQT505230I	美術科教育法II	1 / 2	★	★	講義	2			◎		
CQT506130I	美術科・工芸科教育法I		★	★	講義	2			◎		
CQT506230I	美術科・工芸科教育法II		★	★	講義	2			◎		
CQT509130I	社会科公民科教育法I		★	★	講義	2			◎		社会科、公民科、 地理歴史科希望者
CQT509230I	社会科公民科教育法II		★	★	講義	2			◎		社会科、公民科、 地理歴史科希望者
CQT509530I	社会科地歴科教育法I		★	★	講義	2		◎			社会科、公民科、 地理歴史科希望者
CQT509630I	社会科地歴科教育法II		★	★	講義	2		◎			社会科、公民科、 地理歴史科希望者
CQT507120I	国語科教育法I		★	★	講義	2		◎			国語科希望者
CQT507220I	国語科教育法II		★	★	講義	2		◎			国語科希望者
CQT507330I	国語科教育法III		★	★	講義	2			◎		国語科希望者
CQT507430I	国語科教育法IV		★	★	講義	2			◎		国語科希望者
CQT510120	道徳教育論		★		講義	2		○	○		芸術
CQT511120I	特別活動論		★	★	講義	2		○	○		
CQT512120I	教育方法論		★	★	講義	2		○	○		
CQT513120	生徒指導論(生徒・進路指導論)		★	★	講義	2		○	○		
CQT514120	教育相談		★	★	講義	2		○	○		デザイン、マンガ、人文
CQT600140	事前・事後指導		★	★	演習	1				◎	指定されたクラスを 受講すること
CQT900140	教育実習I		★	★	学外 実習	2				◎	
CQT900240	教育実習II		★	●	学外 実習	2				◎	
CQT521140	教職実践演習		★	★	演習	2				◎	

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

[介護等体験] 中学校教諭一種免許状希望者のみ対象

科目 ナンバリング コード	事項名	クラス	★印 参加必須		授業 形態	単 位 数	実施年次				担当者名	専任/ 兼任	実 施 時 期	曜 日	講 時	抽 選 科 目	備 考	
			中	高			1年	2年	3年	4年								
	介護等体験事前指導		★	—	講義	なし		○				特別講師	—	9月 下旬	—	—		
	介護等体験 (学校2日間・施設5日間)		★	—	—	なし			◎			各体験先	—	前期/ 後期	—	—		

「教科に関する科目」、「教科又は教職に関する科目」、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」については、所属学科・コース、取得を希望する免許教科ごとに異なるため、P.165以降の各学科・コースの科目一覧を参照してください。

【履修上の注意】

3年次終了までに以下の科目を修得済みでないと、4年次に「教育実習」「教職実践演習」を履修することはできません。

対象科目

「教職論」、「教育原論」、「教育心理学」、「教育制度論」、「教育課程論」、「教科教育法」、
「道徳教育論」(中学校のみ)、「特別活動論」、「教育方法論」、「生徒・進路指導論」、「教育相談」

※1 取得を希望する免許教科、所属コースに応じた「教科教育法」を履修してください。

詳細は「(1)[2018・2017年度入学生]教職に関する科目一覧(全学部共通)」を参照してください。

※2 教育実習3週間以上の場合のみ「教育実習II」も履修。

5. [2020～2017年度入学生] 学部・学科・コース別 教科に関する科目一覧

芸術学部 造形学科

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修			授業形態	単位数	配当年次				備考		
				中	高				1年	2年	3年	4年			
				美術	美術	工芸									
教科に関する科目	(※1)	絵画基礎		★	★		実習	3	◎					指定されたクラスを履修すること	
	AFA4147201	映像メディア表現3		●	●		講義	2		○	○	○		2単位以上 選択必修	
	AFA4149301	映像メディア表現4		●	●		講義	2			○	○			
	(※1)	彫刻基礎		★	★		実習	3	◎					指定されたクラスを履修すること	
	(※1)	デザイン基礎		★	★	★	実習	3	◎					指定されたクラスを履修すること	
	AFA4143201	映像メディア表現1		●	●		講義	2		○	○	○		2単位以上 選択必修	
	AFA4145201	映像メディア表現2		●	●		講義	2		○	○	○			
	(※1)	工芸基礎		★		★	実習	3	◎					指定されたクラスを履修すること	
	AFA4129201	工芸1		●		●	講義	2		○	○	○		2単位以上 選択必修	
	AFA4131201	工芸2		●		●	講義	2		○	○	○			
	AFA4133201	工芸3		●		●	講義	2		○	○	○			
	AFA4135201	工芸4		●		●	講義	2		○	○	○			
	AFA4137301	図法製図				★	講義	3				○	○		
	(※1)	美術史			★	★	★	講義	2	○	○	○	○		ABクラスのいずれかを履修すること
	CET1003101	美学概論	A/B		★	★		講義	2	○	○	○	○		
	AFA3027201	アートマネジメント論			★	★	★	講義	2		○	○	○		
	CET1015101	デザイン論			★	★	★	講義	2	○	○	○	○		
	(※1)	日本美術史			★	★		講義	2	○	○	○	○		ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	東洋美術史			★	★		講義	2	○	○	○	○		ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	西洋美術史	A/B		★	★		講義	2	○	○	○	○		ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	芸術学	A/B		★	★		講義	2	○	○	○	○		ABクラスのいずれかを履修すること
	CET1013101	工芸概論	A/B				★	講義	2	○	○	○	○		
	CMI3203201	京都の伝統工芸講座1	A/B				★	講義	2		○	○	○		
	CMI3205201	京都の伝統工芸講座2					★	講義	2		○	○	○		
	AFA3011101	美術工芸史1					★	講義	2	○	○	○	○		
	AFA3013101	美術工芸史2					★	講義	2	○	○	○	○		
	CET1043101	素材論					★	講義	2	○	○	○	○		
	(大学が独自に設定する科目)	CQT5307101	学校安全論		●	●	●	講義	2	○	○	○	○		6単位以上 選択必修
CQT5301201		人権教育論		●	●	●	講義	2		○	○	○			
CQT5303101		現代学校論		●	●	●	講義	2	○	○	○	○			
CQT5305101		障がい者理解		●	●	●	講義	2	○	○	○	○			
CQT6001201		学校ボランティア		●	●	●	講義	2	○	○	○	○			
第66条の6に定める科目	(※1)	日本国憲法	A/B	★	★	★	講義	2	○	○	○	○		ABクラスのいずれかを履修すること	
	(※1)	スポーツ実習1	K1/K2	★	★	★	実習	1	○	○	○	○		2単位以上 選択必修	
	(※1)	スポーツ実習2	K1/K2	★	★	★	実習	1	○	○	○	○			
	(※1)	英語1		★	★	★	演習	2	◎					指定されたクラスを履修すること	
	(※1)	英語2		★	★	★	演習	2	◎						
	(※1)	情報リテラシー	A~F	★	★	★	演習	1	○	○	○	○		A~Fクラスのいずれかを履修すること	
	(※1)	ビジネスソフト演習	A~F	★	★	★	演習	1	○	○	○	○		A~Fクラスのいずれかを履修すること	

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

[必修/選択必修の見方：★ 必修 ● 選択必修]

デザイン学部 イラストコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	配当年次				備考	
				中	高			1年	2年	3年	4年		
				美術	美術								
教科に関する科目	(※1)	イメージ表現3	A/B	★	★	実習	3		○				
	(※1)	イメージ表現4	A/B	★	★	実習	3		○				
	DIL4131301	絵本1		●	●	演習	2			○		4単位以上選択必修	
	DIL4132301	絵本2		●	●	演習	2			○			
	DIL4151301	ビジュアルアート1		●	●	演習	2			○			
	DIL4152301	ビジュアルアート2		●	●	演習	2			○			
	(※1)	デッサン1	A/B	★	★	実習	3	○					
	(※1)	デッサン2	A/B	★	★	実習	3	○					
	(※1)	水墨画	A/B	★	★	実習	3	○					
	(※1)	日本画	A/B	★	★	実習	3	○					
	(※1)	立体表現1	A/B	●	●	実習	3	○				3単位以上選択必修	
	(※1)	立体表現2	A/B	●	●	実習	3	○					
	DGS4011201	基礎立体・彫塑			★	★	演習	2		○			
	DIL4141301	イラストレーション1			●	●	演習	2			○		8単位以上選択必修
	DIL4142301	イラストレーション2			●	●	演習	2			○		
	DIL4143301	イラストレーション3			●	●	演習	2			○		
	DIL4144301	イラストレーション4			●	●	演習	2			○		
	DIL4161301	ビジュアルデザイン1			●	●	演習	2			○		
	DIL4162301	ビジュアルデザイン2			●	●	演習	2			○		
	DIL4163301	ビジュアルデザイン3			●	●	演習	2			○		
	DIL4164301	ビジュアルデザイン4			●	●	演習	2			○		
	DIL4101301	デザイン演習1			★	★	演習	2			○		
	DIL4102301	デザイン演習2			★	★	演習	2			○		
	DGS4012201	工芸			★		実習	2		○			
	CET1003101	美学概論			★	★	講義	2		○	○	○	
	(※1)	美術史	A/B		★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	日本美術史	A/B		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	(※1)	東洋美術史	A/B		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	(※1)	西洋美術史	A/B		★	★	講義	2	○	○	○	○	
	(※1)	芸術学	A/B		★	★	講義	2	○	○	○	○	
DGS3300101	アートマネジメント論			★	★	講義	2			○	○		
DGS3300301	現代美術概論			★	★	講義	2		○	○	○		
設けられた科目(文学部)	教科又は教職に関する科目	CQT5303101	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
		CQT5301201	人権教育論		●	●	講義	2		○	○	○	
第66条の6に定める科目	(※1)	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	(※1)	スポーツ実習1	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○	2単位以上選択必修	
	(※1)	スポーツ実習2	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○		
	(※1)	英語1			★	★	演習	2	○			指定されたクラスを履修すること	
	(※1)	英語2			★	★	演習	2	○				
	(※1)	CG演習1	F(A)/F(B)		●	●	実習	2		○		2単位以上選択必修 ※ただし各科目ABクラスは同じ授業内容	
	(※1)	CG演習2	F(A)/F(B)		●	●	実習	2		○			

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

デザイン学部 グラフィックデザインコース

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業 形態	単 位 数	配当年次				備 考	
				中	高			1年	2年	3年	4年		
				美術	美術								
教科 に 関 す る 科 目	DVD4001101	ビジュアルデザイン基礎1		★	★	実習	2	◎					
	DVD4002101	ビジュアルデザイン基礎2		★	★	実習	2	◎					
	DVD4003101	ビジュアルデザイン基礎3		★	★	実習	2	◎					
	DGS4011201	基礎立体・彫塑		★	★	演習	2		◎				
	DGD4001201	グラフィックデザイン1		★	★	実習	3		◎				
	DGD4002201	グラフィックデザイン2		★	★	実習	3		◎				
	DGD4003201	グラフィックデザイン3		★	★	実習	3		◎				
	DGD4004201	グラフィックデザイン4		★	★	実習	3		◎				
	DGS4012201	工芸		★		実習	2		◎				
	CET1003101	美学概論			★	★	講義	2		○	○	○	
	(※1)	美術史	A/B		●	●	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	日本美術史	A/B		●	●	講義	2	○	○	○	○	
	(※1)	東洋美術史	A/B		●	●	講義	2	○	○	○	○	
	(※1)	西洋美術史	A/B		●	●	講義	2	○	○	○	○	
(※1)	芸術学	A/B		●	●	講義	2	○	○	○	○		
教科又は教職 に関する科目 (大学が独自に 規定する科目)	CQT5303101	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修	
	CQT5301201	人権教育論		●	●	講義	2		○	○	○		
第66条の6に定める科目	(※1)	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	(※1)	スポーツ実習1	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○	2単位以上選択必修	
	(※1)	スポーツ実習2	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○		
	(※1)	英語1		★	★	演習	2	◎				指定されたクラスを履修すること	
	(※1)	英語2		★	★	演習	2	◎					
	(※1)	デザインスキル1		●	●	実習	2		○			2単位以上選択必修	
	(※1)	デザインスキル2		●	●	実習	2		○				

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

デザイン学部 プロダクトコミュニケーションコース

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	クラス	必修/選択必修			授業 形態	単 位 数	配当年次				備 考
				中	高				1年	2年	3年	4年	
				美術	美術	工芸							
教科 に 関 す る 科 目	DPC4021101	絵画基礎		★	★		実習	3	◎				
	DPC4031101	立体構成		★	★	★	実習	3	◎				
	DPC4061201	立体造形1		★	★	★	実習	3		◎			
	DPC4062201	立体造形2		★	★	★	実習	3		◎			
	DPC4071201	デザインマテリアル1		●	●	●	実習	3		◎			6単位以上選択必修
	DPC4072201	デザインマテリアル2		●	●	●	実習	3		◎			
	DPC4073201	デザインマテリアル3		●	●	●	実習	3		◎			
	DPC4074201	デザインマテリアル4		●	●	●	実習	3		◎			
	DPC4001101	基礎デザイン1		★	★	★	実習	3	◎				
	DPC4002201	基礎デザイン2		★	★	★	実習	3		◎			
	DPC4003201	基礎デザイン3		★	★	★	実習	3		◎			
	DPD4001101	工芸1	DR(1) /(2)	●		●	実習	3	◎				3単位以上選択必修
	DPD4002101	工芸2	DR(1) /(2)	●		●	実習	3	◎				
	(※1)	美術史	A/B	★	★	●	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	CET1003101	美学概論		★	★		講義	2	○	○	○	○	
	CET1013101	工芸概論		★	★	★	講義	2		○	○	○	
	CET1015101	デザイン論				★	講義	2	○		○	○	
	(※1)	日本美術史	A/B	●	●		講義	2	○		○	○	2単位以上選択必修
	(※1)	東洋美術史	A/B	●	●		講義	2	○		○	○	
	(※1)	西洋美術史	A/B	●	●		講義	2	○		○	○	
(※1)	芸術学	A/B	●	●		講義	2	○	○	○	○		
CMI3203201	京都の伝統工芸講座1				●	講義	2		○	○	○	2単位以上選択必修	
CMI3205201	京都の伝統工芸講座2				●	講義	2		○	○	○		
教科 又 は 教 職 員 に 関 す る 科 目 (大学 教育 法 第 66 条 の 6 に 定 め る 科 目)	CQT5303101	現代学校論		●	●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	CQT5301201	人権教育論		●	●	●	講義	2		○	○	○	
第 66 条 の 6 に 定 め る 科 目	(※1)	日本国憲法	A/B	★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	(※1)	スポーツ実習1/2	K1/K2	●	●	●	実習	1	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	(※1)	英語1		★	★	★	演習	2	◎				指定されたクラスを履修すること
	(※1)	英語2		★	★	★	演習	2	◎				
	(※1)	デザインテクノロジー1		★	★	★	実習	2		◎			

[必修/選択必修の見方: ★ 必修、● 選択必修]

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

デザイン学部 ライフクリエイションコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修			授業形態	単位数	配当年次				備考
				中	高				1年	2年	3年	4年	
				美術	美術	工芸							
教科に関する科目	DLC4021101	絵画基礎		★	★		実習	3	◎				
	DLC4031101	立体構成		★	★	★	実習	3	◎				
	DLC4051101	京都デザイン		★	★	★	実習	3	◎				
	DLC4071201	デザインマテリアル1		●	●	●	実習	3		◎			6単位以上選択必修
	DLC4072201	デザインマテリアル2		●	●	●	実習	3		◎			
	DLC4073201	デザインマテリアル3		●	●	●	実習	3		◎			
	DLC4074201	デザインマテリアル4		●	●	●	実習	3		◎			
	DLC4001101	基礎デザイン1		★	★	★	実習	3	◎				
	DLC4002201	基礎デザイン2		★	★	★	実習	3		◎			
	DLC4003201	基礎デザイン3		★	★	★	実習	3		◎			
	DPD4001101	工芸1	DR(1)/(2)	●	●	●	実習	3	◎				3単位以上選択必修
	DPD4002101	工芸2	DR(1)/(2)	●	●	●	実習	3	◎				
	(※1)	美術史	A/B	★	★	●	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	CET1003101	美学概論	A/B	★	★		講義	2	○	○	○	○	
	CET1013101	工芸概論				★	講義	2		○	○	○	
	CET1015101	デザイン論	A/B			★	講義	2	○	○	○	○	
	(※1)	日本美術史	A/B	●	●		講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	(※1)	東洋美術史	A/B	●	●		講義	2	○	○	○	○	
	(※1)	西洋美術史		●	●		講義	2	○	○	○	○	
	(※1)	芸術学	A/B	●	●		講義	2	○	○	○	○	
	CMI3203201	京都の伝統工芸講座1				●	講義	2		○	○	○	2単位以上選択必修
CMI3205201	京都の伝統工芸講座2				●	講義	2		○	○	○		
教科又は教職(全学が独自に設定する科目)	QQT5303101	現代学校論		●	●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	QQT5301201	人権教育論		●	●	●	講義	2		○	○	○	
第66条の6に定める科目	(※1)	日本国憲法	A/B	★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	(※1)	スポーツ実習1/2	K1/K2	●	●	●	実習	1	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	(※1)	英語1		★	★	★	演習	2	◎				指定されたクラスを履修すること
	(※1)	英語2		★	★	★	演習	2	◎				
	(※1)	デザインテクノロジー1		★	★	★	実習	2		◎			

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

マンガ学部 カートゥーンコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	配当年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				美術	美術							
教科に関する科目	MCT4001101	デッサン1		★	★	実習	3	◎				
	MCT4002101	デッサン2		★	★	実習	3	◎				
	MCT4011101	絵画技法1		★	★	実習	3	◎				
	MCT4012101	絵画技法2		★	★	実習	3	◎				
	MGS4315201	基礎立体・彫塑		★	★	実習	2		◎			
	MGS4211101	マンガデザイン1		★	★	演習	2	◎				
	MGS4212101	マンガデザイン2		★	★	演習	2	◎				
	MGS4317201	工芸		★		実習	2		◎			
	CET1003101	美学概論		★	★	講義	2		○	○	○	
	(※1)	美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	日本美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	東洋美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	西洋美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	芸術学	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
教科又は教職に関する科目 (大学が指定した 指定する科目)	CQT5303101	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	CQT5301201	人権教育論		●	●	講義	2		○	○	○	
第66条の6に定める科目 教育職員免許法施行規則	(※1)	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	スポーツ実習1	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	(※1)	スポーツ実習2	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○	
	(※1)	英語1		★	★	演習	2	◎				指定されたクラスを履修すること
	(※1)	英語2		★	★	演習	2	◎				
	(※1)	基礎デジタル演習1	A/B	●	●	演習	2	◎				2単位以上選択必修 ※ただし各科目ABクラスは 同じ授業内容
(※1)	基礎デジタル演習2	A/B	●	●	演習	2	◎					

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

マンガ学部 ストーリーマンガコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	配当年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				美術	美術							
教科に関する科目	MSM4001101	マンガデッサン1		★	★	実習	3	◎				
	MSM4002101	マンガデッサン2		★	★	実習	3	◎				
	MSM4011101	絵画技法1		★	★	実習	3	◎				
	MSM4012101	絵画技法2		★	★	実習	3	◎				
	MSM4031201	カラー実習1		★	★	実習	3		◎			
	MSM4032201	カラー実習2		★	★	実習	3		◎			
	MGS4315201	基礎立体・彫塑		★	★	実習	2		◎			
	MGS4211101	マンガデザイン1		★	★	演習	2	◎				
	MGS4212101	マンガデザイン2		★	★	演習	2	◎				
	MGS4317201	工芸		★		実習	2		◎			
	CET1003101	美学概論		★	★	講義	2		○	○	○	
	(※1)	美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	日本美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	東洋美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	西洋美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
(※1)	芸術学	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
教科又は教職に関する科目 (本学が指定する科目)	CQT5303101	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	CQT5301201	人権教育論		●	●	講義	2		○	○	○	
第66条の6に定める科目 教育職員免許法施行規則	(※1)	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	スポーツ実習1	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	(※1)	スポーツ実習2	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○	
	(※1)	英語1		★	★	演習	2	◎				指定されたクラスを履修すること
	(※1)	英語2		★	★	演習	2	◎				
	(※1)	基礎デジタル演習1	A/B	●	●	演習	2	◎				2単位以上選択必修
(※1)	基礎デジタル演習2	A/B	●	●	演習	2	◎					

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

マンガ学部 キャラクターデザインコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	配当年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				美術	美術							
教科に関する科目	(※1)	基礎デッサン1	A/B	★	★	実習	2		○	○	○	
	(※1)	基礎デッサン2	A/B	★	★	実習	2		○	○	○	
	MCD4011101	絵画技法1		★	★	実習	3	◎				
	MCD4012101	絵画技法2		★	★	実習	3	◎				
	MGS4315201	基礎立体・彫塑		★	★	実習	2		○	○	○	
	MCD4021101	デザイン1		★	★	実習	3	◎				
	MCD4022101	デザイン2		★	★	実習	3	◎				
	MCD4023201	マンガデザイン1		★	★	演習	2		◎			
	MCD4024201	マンガデザイン2		★	★	演習	2		◎			
	MGS4317201	工芸		★		実習	2		○	○	○	
	CET1003101	美学概論		★	★	講義	2		○	○	○	
	(※1)	美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	日本美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	東洋美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	西洋美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	芸術学	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
教科又は教職 に関する科目 (本学が独自に 設定する科目)	CQT5303101	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	CQT5301201	人権教育論		●	●	講義	2		○	○	○	
第66条の6に定める科目 教育職員免許法施行規則	(※1)	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	スポーツ実習1	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	(※1)	スポーツ実習2	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○	
	(※1)	英語1		★	★	演習	2	◎				指定されたクラスを履修すること
	(※1)	英語2		★	★	演習	2	◎				
	(※1)	基礎デジタル演習1		●	●	演習	2	◎				2単位以上選択必修
(※1)	基礎デジタル演習2		●	●	演習	2	◎					

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

マンガ学部 新世代マンガコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	配当年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				美術	美術							
教科に関する科目	(※1)	基礎デッサン1	A/B	★	★	実習	2		○	○	○	
	(※1)	基礎デッサン2	A/B	★	★	実習	2		○	○	○	
	MNG4031201	制作実習1		★	★	実習	3		◎			
	MNG4032201	制作実習2		★	★	実習	3		◎			
	MNG4001101	絵画技法1		★	★	実習	3	◎				
	MNG4002101	絵画技法2		★	★	実習	3	◎				
	MGS4315201	基礎立体・彫塑		★	★	実習	2		○	○	○	
	MGS4211101	マンガデザイン1		★	★	演習	2	○	○	○	○	
	MGS4212101	マンガデザイン2		★	★	演習	2	○	○	○	○	
	MGS4317201	工芸		★		実習	2		○	○	○	
	CET1003101	美学概論		★	★	講義	2		○	○	○	
	(※1)	美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	日本美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	東洋美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	西洋美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	芸術学	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
教科又は教職(本学が独自に設定する科目)	CQT5303101	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
	CQT5301201	人権教育論		●	●	講義	2		○	○	○	
第66条の6に定める科目	(※1)	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	スポーツ実習1	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○	2単位以上選択必修 K1、K2クラスのいずれかを履修すること
	(※1)	スポーツ実習2	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○	
	(※1)	英語1		★	★	演習	2	◎				指定されたクラスを履修すること
	(※1)	英語2		★	★	演習	2	◎				
	MGS4001106	基礎デジタル演習1		●	●	演習	2	◎				2単位以上選択必修
MGS4002106	基礎デジタル演習2		●	●	演習	2	◎					

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

マンガ学部 アニメーションコース

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	配当年次				備考	
				中	高			1年	2年	3年	4年		
				美術	美術								
教科に関する科目	MAN4101101	アクションドローイング基礎1		★	★	演習	2	◎					
	MAN4102101	アクションドローイング基礎2		★	★	演習	2	◎					
	MAN4011101	アニメーション造形基礎実習1		★	★	実習	3	◎					
	MAN4012101	アニメーション造形基礎実習2		★	★	実習	3	◎					
	MGS4315201	基礎立体・彫塑		★	★	実習	2		◎				
	MAN4001101	アニメーションモーション基礎演習1		★	★	演習	2	◎					
	MAN4002101	アニメーションモーション基礎演習2		★	★	演習	2	◎					
	MAN4031201	アニメーション分析演習1		★	★	演習	2		◎				
	MAN4032201	アニメーション分析演習2		★	★	演習	2		◎				
	MGS4317201	工芸		★		実習	2		◎				
	CET1003101	美学概論		★	★	講義	2		○	○	○		
	(※1)	美術史	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	MAN3001101	アニメーション基礎研究1		★	★	講義	2	◎					
	MAN3002101	アニメーション基礎研究2		★	★	講義	2	◎					
	MAN3011201	アニメーション演出論1		★	★	講義	2		◎				
	MAN3012201	アニメーション演出論2		★	★	講義	2		◎				
	教科又は教職に関する科目 (大学が独自に設定する科目)	CQT5303101	現代学校論		●	●	講義	2	○	○	○	○	2単位以上選択必修
		CQT5301201	人権教育論		●	●	講義	2		○	○	○	
第66条の6に定める科目	(※1)	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	(※1)	スポーツ実習1	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○	2単位以上選択必修	
	(※1)	スポーツ実習2	K1/K2	●	●	実習	1	○	○	○	○		
	(※1)	英語1		★	★	演習	2	◎				指定されたクラスを履修すること	
	(※1)	英語2		★	★	演習	2	◎					
	MAN4021101	アニメーションCG演習1		★	★	演習	2	◎					
MAN4022101	アニメーションCG演習2		★	★	演習	2	◎						

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

人文学部 文学専攻

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	配当年次				備考
				中	高			1年	2年	3年	4年	
				国語	国語							
教科に関する科目	HCH3205201	日本語学概論		★	★	講義	2		◎	○	○	
	HCH3503201	日本語学特講		★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3613201	古文書解読		★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3535201	古典文法		★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3203201	日本文学研究		★	★	講義	2		◎			
	HCH3201201	文学概論		★	★	講義	2		◎			
	HCH3207201	日本上代文学講読		●	●	講義	2		○	○	○	4単位以上選択必修
	HCH3209201	日本中古文学講読		●	●	講義	2		○	○	○	
	HCH3211201	日本中世文学講読		●	●	講義	2		○	○	○	
	HCH3213201	日本近世文学講読		●	●	講義	2		○	○	○	
	HCH3215201	日本近現代文学講読		●	●	講義	2		○	○	○	
	HCH3501201	日本文学史		★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3505201	説話・伝承史		★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3517201	口承文学		★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3521201	書誌学		★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3617201	日本文化史		★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3519201	漢文学		★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3543201	書道		★		講義	2		○	○	○	
(大学が独自に設定する科目)	HCH3711201	社会階層論		★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3745201	ジェンダーと社会		★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3735201	多文化共生論		★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3753201	子ども支援論		★	★	講義	2		○	○	○	
第66条の6に定める科目	(※1)	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	スポーツ実習1	K1/K2	★	★	実習	1	○	○	○	○	2単位以上選択必修 K1、K2クラスのいずれかを履修すること
	(※1)	スポーツ実習2	K1/K2	★	★	実習	1	○	○	○	○	
	(※1)	英語1		★	★	演習	2	◎				指定されたクラスを履修すること
	(※1)	英語2		★	★	演習	2	◎				
HCH4113201	ICT・メディア演習		★	★	演習	2		◎				

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

人文学部 歴史専攻

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	配当年次				備考	
				中	高			1年	2年	3年	4年		
				社会	地歴								
教科に関する科目	CHU1013101	日本史		★	★	講義	2	○	○	○	○		
	CHU1017101	西洋史		★	★	講義	2	○	○	○	○		
	CHU1015101	東洋史		★	★	講義	2	○	○	○	○		
	HCH3303201	日本史研究			★	講義	2		◎				
	HCH3301201	歴史学概論			★	講義	2		◎				
	HCH3305201	日本・アジア関係史			★	講義	2		◎	○	○		
	HCH3621201	日本の美術			●	講義	2		○	○	○	6単位以上選択必修	
	HCH3617201	日本文化史			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3633201	日本景観史			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3637201	京都の歴史1			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3639201	京都の歴史2			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3601201	考古学特講			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3307201	日本古代史特講			●	講義	2		○	○	○	4単位以上選択必修	
	HCH3309201	日本中世史特講			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3311201	日本近世史特講			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3313201	日本近現代史特講			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3603201	地理学			★	★	講義	2		○	○	○	
	HCH3035201	地域学			★	★	講義	2		◎			
	HCH3605201	歴史地理学			★	★	講義	2		○	○	○	
	CSS1003101	法学			★		講義	2	○	○	○	○	
	CSS1001101	政治学			★		講義	2	○	○	○	○	
	HCH3703201	社会学概論			★		講義	2		○	○	○	
	HCH3721201	経済学概論			★		講義	2		○	○	○	
	HCH3011101	哲学概論1			★		講義	2	◎	○			
	HCH3012101	哲学概論2			★		講義	2	◎	○			
	CHU1029101	倫理学			★		講義	2	○	○	○	○	
	CHU1001101	宗教史			★		講義	2	○	○	○	○	
	入学が独自に設定する科目	HCH3711201	社会階層論		★	★	講義	2		○	○	○	
HCH3745201		ジェンダーと社会		★	★	講義	2		○	○	○		
HCH3735201		多文化共生論		★	★	講義	2		○	○	○		
HCH3753201		子ども支援論		★	★	講義	2		○	○	○		
第66条の6に定める科目	(※1)	日本国憲法	A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
	(※1)	スポーツ実習1	K1/K2	★	★	実習	1	○	○	○	○		
	(※1)	スポーツ実習2	K1/K2	★	★	実習	1	○	○	○	○		
	(※1)	英語1		★	★	演習	2	◎				指定されたクラスを履修すること	
	(※1)	英語2		★	★	演習	2	◎					
	HCH4113201	ICT・メディア演習			★	★	演習	2		◎			

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

人文学部 社会専攻

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	配当年次				備考	
				中	高			1年	2年	3年	4年		
				社会	公民								
教科に関する科目	CHU1013101	日本史		★		講義	2	○	○	○	○		
	CHU1017101	西洋史		★		講義	2	○	○	○	○		
	CHU1015101	東洋史		★		講義	2	○	○	○	○		
	HCH3603201	地理学		★		講義	2		○	○	○		
	HCH3035201	地域学		★		講義	2		◎				
	HCH3605201	歴史地理学		★		講義	2		○	○	○		
	CSS1003101	法学		★	★	講義	2	○	○	○	○		
	CSS1001101	政治学		★	★	講義	2	○	○	○	○		
	HCH3703201	社会学概論		★	★	講義	2		○	○	○		
	HCH3721201	経済学概論		★	★	講義	2		○	○	○		
	HCH3403201	社会研究			★	講義	2		◎				
	HCH3405201	現代社会論			★	講義	2		◎	○	○		
	HCH3411201	現代社会特講1			●	講義	2		○	○	○	4単位以上選択必修	
	HCH3412201	現代社会特講2			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3413201	現代社会特講3			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3414201	現代社会特講4			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3733201	宗教社会学			●	講義	2		○	○	○	2単位以上選択必修	
	HCH3717201	国際関係論			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3739201	環境社会論			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3715201	南北問題			●	講義	2		○	○	○		
	HCH3011101	哲学概論1			★	★	講義	2	◎	○			
	HCH3012101	哲学概論2			★	★	講義	2	◎	○			
	CHU1029101	倫理学			★	★	講義	2	○	○	○	○	
CHU1001101	宗教史			★	★	講義	2	○	○	○	○		
(※1)	心理学		A/B		★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること	
(大学が独自に設置する科目)	HCH3711201	社会階層論		★	★	講義	2		○	○	○		
	HCH3745201	ジェンダーと社会		★	★	講義	2		○	○	○		
	HCH3735201	多文化共生論		★	★	講義	2		○	○	○		
	HCH3753201	子ども支援論		★	★	講義	2		○	○	○		
第66条の6に定める科目	(※1)	日本国憲法		A/B	★	★	講義	2	○	○	○	○	ABクラスのいずれかを履修すること
	(※1)	スポーツ実習1		K1/K2	★	★	実習	1	○	○	○	○	
	(※1)	スポーツ実習2		K1/K2	★	★	実習	1	○	○	○	○	
	(※1)	英語1			★	★	演習	2	◎				指定されたクラスを履修すること
	(※1)	英語2			★	★	演習	2	◎				
	HCH4113201	ICT・メディア演習			★	★	演習	2		◎			

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

6. 専修免許状の取得について(大学院生対象)

専修免許状とは、一種免許状(学部を卒業することで取得できる免許状)を基礎にして、大学院で所定の単位を修得し、修了することで取得できる免許状です。現在の教員採用試験において必要とされる免許状は一種免許状がほとんどですが、一方で高等学校を中心に指導教科に関する専門的な知識や力量が求められる傾向が高まりつつあります。一種免許状を基礎に、修士課程、博士前期課程での高度な学修を通して得た知見を教員として活かしたいと思うみなさんに必要な免許状と言えます。

専修免許状を取得するための条件

- 前提となる一種免許状を取得していること
例) 中学校教諭専修免許状(美術)の取得を希望する場合 → 中学校教諭一種免許状(美術)を取得していることが条件
- 修士の学位を有すること(修士課程・博士前期課程を修了すること)
- 以下の「教科又は教職に関する科目」を24単位以上修得すること

芸術研究科

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修			授業形態	単位数	備考
				中専	高専				
				美術	美術	工芸			
教科又は教職に関する科目 (大学が独自に設定する科目)	GMC5001501	表現特論		★	★	★	講義	2	4単位以上選択必修
	GMA5001501	芸術理論特講		★	★	★	講義	2	
	GMA5011501	表現領域特講1		●	●	●	講義	2	
	GMA5012501	表現領域特講2		●	●	●	講義	2	
	GMA5013501	表現領域特講3		●	●	●	講義	2	
	GMA5014501	表現領域特講4		●	●	●	講義	2	
	(※1)	芸術研究1		★	★	★	実習	4	
	(※1)	芸術研究2		★	★	★	実習	4	
	(※1)	芸術研究3		★	★	★	実習	4	
	(※1)	芸術研究4		★	★	★	実習	4	

デザイン研究科

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修			授業形態	単位数	備考
				中専	高専				
				美術	美術	工芸			
教科又は教職に関する科目 (大学が独自に設定する科目)	GMC5001501	表現特論		★	★	★	講義	2	4単位以上選択必修
	GMD5001501	デザイン理論特講		★	★	★	講義	2	
	GMD5011501	創造領域特講1		●	●	●	講義	2	
	GMD5012501	創造領域特講2		●	●	●	講義	2	
	GMD5013501	創造領域特講3		●	●	●	講義	2	
	GMD5014501	創造領域特講4		●	●	●	講義	2	
	(※1)	デザイン研究1		★	★	★	実習	4	
	(※1)	デザイン研究2		★	★	★	実習	4	
	(※1)	デザイン研究3		★	★	★	実習	4	
	(※1)	デザイン研究4		★	★	★	実習	4	

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

[必修/選択必修の見方: ★ 必修、● 選択必修]

マンガ研究科

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	備考
				中専	高			
				美術	美術			
教科又は教職に関する科目 (大学が独自に設定する科目)	GMC5001501	表現特論		★	★	講義	2	
	GMM5001501	マンガ理論特講		★	★	講義	2	
	GMM5011501	マンガ領域特講1		●	●	講義	2	4単位以上選択必修
	GMM5012501	マンガ領域特講2		●	●	講義	2	
	GMM5013501	マンガ領域特講3		●	●	講義	2	
	GMM5014501	マンガ領域特講4		●	●	講義	2	
	(※1)	マンガ研究1		★	★	実習	4	
	(※1)	マンガ研究2		★	★	実習	4	
	(※1)	マンガ研究3		★	★	実習	4	
	(※1)	マンガ研究4		★	★	実習	4	

人文学研究科

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業形態	単位数	備考
				中専	高			
				社会	公民			
教科又は教職に関する科目 (大学が独自に設定する科目)	GMH5011501	表象領域特講1		★	★	講義	2	
	GMH5012501	表象領域特講2		★	★	講義	2	
	GMH5013501	表象領域特講3		★	★	講義	2	
	GMH5014501	表象領域特講4		★	★	講義	2	
	GMH5111501	人文学特殊講義1		★	★	講義	2	
	GMH5112501	人文学特殊講義2		★	★	講義	2	
	GMH5113501	人文学特殊講義3		★	★	講義	2	
	GMH5114501	人文学特殊講義4		★	★	講義	2	
	(※1)	人文学合同演習		★	★	講義	2	
	(※1)	人文学基礎演習		★	★	講義	2	
	(※1)	人文学演習1		★	★	講義	2	
	(※1)	人文学演習2		★	★	講義	2	

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

[必修/選択必修の見方：★ 必修、● 選択必修]

博物館学芸員課程

1. 博物館学芸員課程履修の心得

博物館法に基づき、博物館において資料の収集や保管、展示、調査研究をおこなう専門的職員を一般に博物館学芸員といいます。「博物館」と呼ばれるものにも様々な館種があり、歴史・自然科学・民族などの博物館だけではなく、動物園、水族館、植物園などにおいても専門職としての職域が開かれています。本学では『博物館法』に定める科目を取得する中で、博物館学芸員に必要な資質・能力を積極的に身につけたいと考える右記のような熱意ある学生の履修を望みます。

- 博物館に興味があり、博物館学芸員になりたい人
- 一成人としてマナーを守り、謙虚な気持ちで博物館実習に臨める人
- 生涯学習に関心がある人

2. 博物館学芸員資格を取得するために必要な条件とは

博物館学芸員課程は、みなさんが所属する学部・学科・コースのカリキュラム(教育課程)とはまったく別のカリキュラムとなります。博物館学芸員資格を取得するためには、卒業に必要な単位以外に、博物館学芸員課程で定めた科目の単位を修得する必要があります。

博物館学芸員資格を取得するための条件

- (1) 博物館学芸員課程の課程登録を済ませていること(資格課程ハンドブック参照)。
- (2) 学士の学位を有すること(卒業することが条件)。
- (3) 博物館学芸員課程で定めた科目の単位を修得すること。

3. 博物館実習とは

博物館業務の基本は、資料を収集・保管・展示し、そのための調査研究、整理、分類、作品解説等を行うことです。授業科目の「博物館実習」では、博物館活動の基礎知識ならびに初歩的技術を修得するために、博物館施設において本学担当教員および博物館学芸員から実地で指導を受け、博物館実務の理論と実践を学びます。

本学の博物館学芸員課程では、3年次後期に実習先の博物館施設を学生各自が選択し、4年次に館務実習を行います。

(1) 学内実習

学内において、担当教員から収集・保管・資料管理等についての指導を受ける。

(2) 見学実習

担当教員の引率・指導のもと、もしくは学生各自で博物館施設における展示および文化財などの見学(年間を通じて10館程度)を行う。

(3) 館務実習

博物館・美術館において、現職の博物館学芸員から実務指導を受ける。館務実習は原則として、夏期休暇期間中に1週間程度実施する。

4. 博物館学芸員課程の4年間の流れ

4年間の流れ

1年	4月	学芸員資格に関する科目履修開始				
2年	4月	資格課程ガイダンス(課程登録手続き)				
3年	4月	資格課程ガイダンス	11月	博物館実習予備登録説明会		
4年	4月	資格課程ガイダンス	8月頃	博物館実習	3月下旬	学芸員資格取得(卒業式)

5. 博物館学芸員課程 履修科目一覧

- 【4年次「博物館実習」履修条件】①「博物館実習」を除くA群必修科目の単位をすべて修得済みであること。
②B群選択科目のうち、B1からB5(B6)までの5(6)系列の中から2系列以上にわたり、2科目4単位以上を修得済みであること。

芸術・デザイン・マンガ・ポピュラーカルチャー学部 履修科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次				備考
							1年	2年	3年	4年	
A群	CQG5001102	生涯学習概論	B	必修	講義	2	◎	○	○		前期Aクラスの代替可
	CQM5001101	博物館概論		必修	講義	2	◎	○			
	CQM5011301	博物館経営論		必修	講義	2			◎		
	CQM5021301	博物館資料論		必修	講義	2			◎		
	CQM5031301	博物館資料保存論		必修	講義	2			◎		
	CQM5041201	博物館展示論		必修	講義	2		◎	○		
	CQM5051201	博物館教育論		必修	講義	2		◎	○		
	CQM5061201	博物館情報・メディア論		必修	講義	2		◎	○		
	CQM6001401	博物館実習		必修	実習	3				◎	
B1群	(※1)	美術史	A/B	選択	講義	2	○	○	○		B1～B5までのB群5系列の中から、2系列以上にわたり、2科目4単位以上を選択必修
	(※1)	西洋美術史	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
	(※1)	日本美術史	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
	(※1)	東洋美術史	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
B2群	CHU1019101	考古学		選択	講義	2	○	○	○		
B3群	(※1)	民俗学	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
B4群	(※1)	自然科学概論	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
B5群	(※1)	生物学	A/B	選択	講義	2	○	○	○		

人文学部 総合人文学科 履修科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次				備考
							1年	2年	3年	4年	
A群	CQG5001102	生涯学習概論	B	必修	講義	2	◎	○	○		前期Aクラスの代替可
	CQM5001101	博物館概論		必修	講義	2	◎	○			
	CQM5011301	博物館経営論		必修	講義	2			◎		
	CQM5021301	博物館資料論		必修	講義	2			◎		
	CQM5031301	博物館資料保存論		必修	講義	2			◎		
	CQM5041201	博物館展示論		必修	講義	2		◎	○		
	CQM5051201	博物館教育論		必修	講義	2		◎	○		
	CQM5061201	博物館情報・メディア論		必修	講義	2		◎			
	CQM6001401	博物館実習		必修	実習	3				◎	
B1群	HCH3617201	日本文化史		選択	講義	2		○	○		B1～B6までのB群6系列の中から、2系列以上にわたり、2科目4単位以上を選択必修
	HCH3505201	説話・伝承史		選択	講義	2		○	○		
B2群	HCH3621201	日本の美術		選択	講義	2		○	○		B1～B6までのB群6系列の中から、2系列以上にわたり、2科目4単位以上を選択必修
	HCH3623201	アジアの美術		選択	講義	2		○	○		
B3群	HCH3601201	考古学特講		選択	講義	2		○	○		
B4群	HCH3609201	民俗学概論		選択	講義	2		○	○		
B5群	(※1)	自然科学概論	A/B	選択	講義	2	○	○	○		
B6群	(※1)	生物学	A/B	選択	講義	2	○	○	○		

(※1) 科目ナンバリングコードについては、P59～のカリキュラムページで確認してください。

図書館司書課程

1. 図書館司書課程履修の心得

図書館とはこれまで生きてきた人びとが積み重ねてきた表現活動資料が蓄積された場です。図書館司書はこのような資料を守り、人びととつなげる役割を果たす人たちのことです。現在の図書館は、情報技術のめざましい発展により、図書館相互のネットワーク機能や館内の検索機能、所蔵品データベースの多機能化、情報の発信などさまざまな機能が向上しています。一方で多様な人びとが利用できるようなサービスの向上などが社会からより一層求められるようになっていきます。

図書館司書となる資格を得るためには『図書館法』第5条第1項および本学が定めた規定に基づく条件を満たす必要がありますが、同時にこのような現在の社会状況を認識し、対応できる人材とならなくてはなりません。

本学図書館司書課程では以下のような熱意ある学生の履修を望みます。

- 生涯学習に関心がある人
- 資料収集・分析に取り組むことができる人
- 粘り強く、継続して学び続ける姿勢を持っている人
- コミュニケーション能力のある人
- 芸術、文化などの面で自らの知識を伸ばし、地域や社会に役立ちたいと思っている人

2. 図書館司書資格を取得するために必要な条件とは

図書館司書課程は、みなさんが所属する学部・学科・コースのカリキュラム(教育課程)とはまったく別のカリキュラムとなります。図書館司書資格を取得するためには、卒業に必要な単位以外に、図書館司書課程で定めた科目の単位を修得する必要があります。

図書館司書資格を取得するための条件

- (1) 図書館司書課程の課程登録を済ませていること(資格課程ハンドブック参照)。
- (2) 学士の学位を有すること(卒業することが条件)。
- (3) 図書館司書課程で定めた科目の単位を修得すること。

3. 図書館司書課程 履修科目一覧

【履修条件】次の科目には履修順序や履修条件の指定があります。

①情報サービス系

「情報サービス演習1」「情報サービス演習2」は同一学期に履修すること。なお、「情報サービス演習1」「情報サービス演習2」の履修は、「情報サービス論」の単位修得を前提条件とする。

②情報資源組織系

「情報資源組織演習1」「情報資源組織演習2」は同一学期に履修すること。なお、「情報資源組織演習1」「情報資源組織演習2」の履修は、「情報資源組織論」の単位修得を前提条件とする。(人文学部生は、3年次前期に「フィールドスタディーズ」を履修するため、情報資源組織系3科目は4年次に履修してください。再履修のチャンスはありません)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次				備考
							1年	2年	3年	4年	
全学部対象履修科目一覧	CQG5001101	生涯学習概論(生涯学習概論I)	A	必修	講義	2	◎	○	△	△	後期Bクラスの代替履修可
	QQL5000101	図書館概論		必修	講義	2	◎	○	△	△	
	QQL5001301	図書館制度・経営論		必修	講義	2			○	○	
	QQL5011301	図書館情報技術論		必修	講義	2			○	○	
	QQL5021201	図書館サービス概論		必修	講義	2		○	○	○	
	QQL5031201	児童サービス論		必修	講義	2		○	○	○	
	QQL5041201	図書館情報資源概論		必修	講義	2		○	○	○	
	QQL5051201	情報サービス論		必修	講義	2		○	○	○	同一年次に履修すること
	QQL6001201	情報サービス演習1		必修	演習	1		○	○	○	
	QQL6002201	情報サービス演習2		必修	演習	1		○	○	○	
	QQL5061301	情報資源組織論		必修	講義	2			○	○	同一年次に履修すること
	QQL6011301	情報資源組織演習1	A/B	必修	演習	1			○	○	
	QQL6012301	情報資源組織演習2	A/B	必修	演習	1			○	○	
	QQL5101301	図書館サービス特論		選択必修	講義	2			○	○	3科目のうち2科目以上を選択必修
QQL5111301	図書館情報資源特論		選択必修	講義	2			○	○		
QQL5121201	図書・図書館史		選択必修	講義	2			○	○		

9

諸 規 程

SCHOOL REGULATIONS →

※2021年2月末時点の情報です。変更される場合がありますので、最新情報は大学Webサイトで確認してください。

第1章 総則

[目的]

第1条 本学は学校教育法および教育基本法の規定するところに従い、大学教育を施し、広く知識を授けるとともに、深奥な学問芸術を研究・教授し、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

[自己評価等]

第2条 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的および社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表する。

- 2 前項の点検および評価を行うため、委員会を設ける。
- 3 委員会に関する規程は、これを別に定める。
- 4 点検、評価の項目等については、別にこれを定める。

[学部、学科、入学定員および収容定員]

第3条 本学に次の学部・学科をおく。

芸術学部

造形学科

デザイン学部

イラスト学科

ビジュアルデザイン学科

プロダクトデザイン学科

建築学科

マンガ学部

マンガ学科

アニメーション学科

メディア表現学部

メディア表現学科

国際文化学部

人文学科

グローバルスタディーズ学科

2 前項の学部・学科の入学定員および収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
芸術学部	造形学科	112人	448人
デザイン学部	イラスト学科	64人	256人
	ビジュアルデザイン学科	64人	256人
	プロダクトデザイン学科	72人	288人
	建築学科	56人	224人
マンガ学部	マンガ学科	232人	928人
	アニメーション学科	80人	320人
メディア表現学部	メディア表現学科	168人	672人
国際文化学部	人文学科	160人	640人
	グローバルスタディーズ学科	90人	360人

[人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的]

第3条の2 前条の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は次のとおりとする。

芸術学部

人間の多様性を理解した上で、幅広い視野から適切な表現方法を用いてコミュニケーションをとることができ、さらに芸術によって培われる専門性と創造力で人類社会の諸課題に取り組みることができる主体性をもった人間形成を目的とする。

造形学科

伝統的造形芸術の知識技法にとどまらず、多角的な観察と自立した思考力によって新たな表現を創造する能力と造形芸術を開拓できる資質を備えた人材の養成を行う。

デザイン学部

デザイン領域において高度な技法知識を修得し新たな可能性を探究すること、および自立した思考によってグローバル社会および地域社会に現実的に貢献するデザイナー・プランナーの資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

イラスト学科

デザインやアートといった多様なフィールドで展開が可能となるイラスト領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

ビジュアルデザイン学科

情報技術の発展によってその目的および手法が飛躍的に拡大した視覚デザインの領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

プロダクトデザイン学科

社会活動や生活に使用される道具、器具、装置などのデザインの領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

建築学科

環境、建築、居住空間などのデザイン・設計の領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

マンガ学部

マンガ文化の再評価とともに重要視されるマンガやアニメーションの制作と理論について多角的な教育研究を行い新たな可能性を探究すること、およびマンガ文化の継承と発展に貢献する資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

マンガ学科

マンガの作品史、表現などについての理論および技法の修得にとどまらず、実践によってマンガ表現の発展に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

アニメーション学科

アニメーションの作品史、表現などについての理論および技法の修得にとどまらず、実践によってアニメーションの発展に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

メディア表現学部

メディアと情報に関する広範な知識と専門的な表現技能を活用した豊かな人間性を育む文化表現を通して、コンテンツの制作やメディアの活用、新しいビジネスモデルの構想などによって次世代の産業界の発展に貢献する資質を備えた、人間形成を行うことを目的とする。

メディア表現学科

技術革新が進む人類社会において、急激に変化し続けるメディアと産業システムの動向をふまえたうえで、豊かな文化の発展にも寄与し、時代の先端を切り開くコンテンツ、メディア、新たなビジネスモデルを創造できる人材の養成を目的とする。

国際文化学部

アフリカ・アジアの文化、京都を中心とした日本の歴史や文化、そして世界の相関を理解し、現在の社会が抱える多様な課題の解決に貢献し、より良い共生社会の実現と世界の発展に寄与できる人間形成を行うことを目的とする。

人文学科

日本の「文学」、「歴史」、「社会」、「文化」を研究対象とし、日本を基点とした世界の文化と社会を多角的に捉え、課題の解決に貢献し、より良い共生社会の実現と世界の発展に寄与できる人材の養成を目的とする。

グローバルスタディーズ学科

著しい発展と同時に多様な課題を抱え、世界が目指すアフリカ・アジア地域に学びの場を重点化し、世界の新しい関係性や構造をグローバルな視点で捉え、課題の解決に貢献し、より良い共生社会の実現と世界の発展に寄与できる人材の養成を目的とする。

[大学院]

第4条 本学に大学院をおく。

2 大学院の学則は、別に定める。

[修業年限]

第5条 本学の修業年限は4年とする。ただし、8年を超えて在学することはできない。

2 学長が有益と認めるときは、他の大学等における修学期間を修業年限に算入することができる。ただし、修業年限については1年を超えて算入することはできない。

3 前項の規定は、外国の大学における修学期間についても準用する。

第2章 学年・学期および休業日

[学年]

第6条 本学の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

[学期および授業日数]

第7条 1学年の授業日数は定期試験の日数を含めて35週、210日を下らないものとし、1学年を分けて次の学期とする。

- ① 第1クォーター
- ② 第2クォーター
- ③ 第3クォーター
- ④ 第4クォーター

2 第1クォーター、第3クォーターの開始日はそれぞれ4月1日、10月1日とし、第2クォーター・第4クォーターの開始日は、学長が年度ごとに定める。

3 第2クォーター、第4クォーターの終了日はそれぞれ9月30日、3月31日とし、第1クォーター・第3クォーターの終了日は、学長が年度ごとに定める。

4 学長が必要と認めるときは、クォーターの開始日・終了日を変更することができる。

[休業日]

第8条 休業日は次のとおりとする。

- ① 日曜日
- ② 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- ③ 春季・夏季・秋季・冬季の休業期間は、学長が年度ごとに定める。

2 学長が必要と認めるときは、臨時に休業日を設け、または休業日を変更することができる。

3 学長が必要と認めるときは、休業日に授業を行うことができる。

第3章 教育課程・単位・教育課程の履修

[教育課程の編成]

第9条 本学は、学部および学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。

[授業科目および単位数]

第10条 本学の授業科目および単位数は別表I、別表II、別表III、および別表IVのとおりとする。

2 学長は他学部および他学科が開設する授業科目の中から学部交流科目および学科交流科目を定め、当該学部および学科の卒業に必要な単位とすることができる。

[授業の方法]

第10条の2 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。

2 学長が教育上有益と認めるときは、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で授業を行うことができる。

3 前項により与えることができる単位数は60単位を超えないものとする。

4 第2項の規定により実施する授業科目については、学長が定め学生に通知するものとする。

5 第1項の授業の一部を、本学の校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

[単位計算方法]

第11条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の各号の基準によって計算する。

(1)講義および演習については、15時間から30時間までの範囲で定められた時間の授業をもって1単位とする。

(2)実験、実習および実技等の授業については、30時間から45時間までの範囲で定められた時間の授業をもって1単位とする。ただし、個人指導による実技の授業については、相応の時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業制作、学外学修・個別課題学習等の授業科目および公の技能審査等による認定を受けた者については、これらの学修の成果を評価して適切な単位を授与することができる。

[教育課程の履修]

第12条 学生は原則として、別表Iに定める教育課程に従い、各年次に配当された授業科目を履修する。

2 学生が各年次所定の授業科目を履修しない場合、または所定の単位を修得しない場合は、次学年に進級することができない。進級に関する事項は別にこれを定める。

3 卒業に必要な単位は、124単位とする。

[他の大学または短期大学における授業科目の履修等]

第13条 学長が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学または短期大学の授業科目を履修することを認める。

2 前項の規定に基づいて学生が履修した単位は60単位を超えない範囲で、本学で修得したものとみなすことができる。

3 前項の規定は、学生が外国の大学に留学する場合に準用する。

4 留学に関する規程は、別にこれを定める

[大学以外の教育施設等における学修]

第14条 学長が本学における教育水準を有し、教育上有益と認めるときは、学生が行う高等専門学校の専攻科における学修、修業年限2年以上の専修学校専門課程における学修、文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修を本学における履修とみなし単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第2項の規定による単位数とあわせて60単位を超えないものとする。

[入学前の既修得単位等の認定]

第15条 学長が教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位を本学で修得したものとみなすことができる。

2 学長が教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学、転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第13条第2項および前条第2項の規定による単位数とあわせて60単位を超えないものとする。

[特別聴講生]

第16条 他の大学等の学生で、当該他の大学等との協議に基づき、本学において授業科目を履修することを志願する者については特別聴講生として、学長がこれを許可することがある。

2 特別聴講生に関する規程は本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[履修登録]

第17条 学生は履修しようとする授業科目を毎学期始め、所定の期日までに届け出なければならない。

2 学生は当該学部が定める登録上限単位数の範囲内で履修登録しなければならない。

[資格の取得]

第18条 学に教育職員免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく。

本学において教育職員免許状の取得を希望する者は、教育職員免許法および教育免許法施行規則に基づき、本学が別表IIに定める教職および教科に関する専門科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

本学における教育職員免許状の教科および種類は、以下の表に掲げるとおりとする。

学部	学科	免許状の種類(教科)
芸術学部	造形学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(工芸)
	イラスト学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)
デザイン学部	ビジュアルデザイン学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)
	プロダクトデザイン学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(工芸)
マンガ学部	マンガ学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)
	アニメーション学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)
国際文化学部	人文学科	中学校教諭一種免許状(国語) 中学校教諭一種免許状(社会) 高等学校教諭一種免許状(国語) 高等学校教諭一種免許状(地理歴史) 高等学校教諭一種免許状(公民)
	グローバルスタディーズ学科	中学校教諭一種免許状(社会) 高等学校教諭一種免許状(公民)

2 図書館司書の資格を取得しようとする者は、図書館法および図書館法施行規則に基づき、本学が別表Ⅲに定める図書館司書課程に関する授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。図書館司書課程を設置する学部および学科は、以下の表に掲げるとおりとする。

学 部	学 科
芸術学部	造形学科
	イラスト学科
デザイン学部	ビジュアルデザイン学科
	プロダクトデザイン学科
マンガ学部	マンガ学科
	アニメーション学科
メディア表現学部	メディア表現学科
国際文化学部	人文学科
	グローバルスタディーズ学科

3 図書館司書の資格を取得しようとする者は、図書館法および図書館法施行規則に基づき、本学が別表Ⅲに定める図書館司書課程に関する授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。図書館司書課程を設置する学部および学科は、以下の表に掲げるとおりとする。

学 部	学 科
芸術学部	造形学科
	イラスト学科
デザイン学部	ビジュアルデザイン学科
	プロダクトデザイン学科
マンガ学部	マンガ学科
	アニメーション学科
メディア表現学部	メディア表現学科
国際文化学部	人文学科
	グローバルスタディーズ学科

第4章 教育課程修了の認定・単位の授与・卒業および称号

[教育課程修了の認定]

第19条 教育課程修了の認定は授業科目の試験、研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、教授会の審議を経て学長が行う。

2 成績の評価はS(100点～90点)、A(89点～80点)、B(79点～70点)、C(69点～60点)、F(59点以下)、K(評価対象外)とし、S、A、B、Cをもって合格とする。

3 成績の評価をせず単位の認定のみを行う場合はN(認定)を用いる。

4 総合成績評価としてGPAを用いる場合は、第2項の成績評価のSを4、Aを3、Bを2、Cを1、FおよびKを0の評点に置き換え、履修科目の単位数で乗じた点数の合計を、総履修科目単位数で除して算出する。なおNの評価を受けた授業科目はGPA算出の対象外とする。

[単位の授与]

第20条 学長は、別表IからIVに定める授業科目を履修した学生に対し、当該授業科目の試験および研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、教授会の審議を経て、相当する数の単位を与える。

[卒業]

第21条 学長は本学の学部で4年以上在学し、第12条に規定する卒業に必要な単位を修得し、かつ学費等納入金について大学への諸債務を滞納していない者について、教授会の審議を経て卒業を認定する。

2 学長は卒業を認定した者に対し、学位記を授与する。

[学位の授与]

第22条 本学の芸術学部、デザイン学部およびマンガ学部を卒業した者に、学士(芸術)の学位を授与する。

2 本学のメディア表現学部を卒業した者に、学士(メディア表現)の学位を授与する。

3 本学の国際文化学部を卒業した者に、学士(文化)の学位を授与する。

第5章 入学・編入学・転入学・休学・復学・退学・転学・除籍および再入学

[入学]

第23条 本学の入学は学年の始めとする。

2 前項の規定にかかわらず、国際文化学部については、外国人留学生・帰国生徒の第3クォーターよりの入学を認めることができる。

[入学資格]

第24条 学の第1年次に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- ① 高等学校を卒業した者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)
- ③ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- ④ 文部科学大臣の指定した者
- ⑤ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- ⑥ 大学入学資格検定規程により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- ⑦ 相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があるものと本学が認めた者

[入学志願手続および合否判定]

第25条 入学を志願する者は、本学所定の出願書類に別表Vに定める入学検定料を添えて提出しなければならない。

2 提出の方法、時期、同時に提出すべき書類等については別に定める。

3 学長は入学を志願する者に対して入学試験を実施する。

4 学長は入学試験を受験した者に対して、教授会における合否判定の審議を経て、結果を通知する。

[入学手続金の納入および入学許可]

第26条 入学試験に合格した者は、学長が指定する期日までに所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の規定により所定の納付金を納入し、必要書類を提出した者に対して、入学を許可する。

[編入学]

第27条 本学の第3年次および第2年次に編入学を希望する者については、選考のうえ、学長はこれを許可することがある。

2 第3年次に編入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- ① 大学を卒業した者、または大学に2年以上在学した者
- ② 短期大学または高等専門学校を卒業した者
- ③ 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第132条の規定により大学に編入学できる者

3 第2年次に編入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- ① 大学に1年以上在学した者
- ② 短期大学または高等専門学校を卒業した者

4 前2項の規定により入学を許可された者がすでに履修した科目および単位の取扱いについては、別にこれを定める。

[転入学]

第28条 他の大学に1年以上在学してから、本学の学部へ転入学しようとする者について、選考のうえ、既に在学していた大学および履修した授業科目の内容と成績とを考慮して、学長は入学を許可することがある。

2 本条により入学を許可された者の修学年限は、他大学における在学年数が1年であった者は3年、2年以上であった者は2年とし、それぞれ6年、4年を超えて在学することはできない。

3 転入学を許可された者が既に履修した授業科目および単位の取扱いについては、別に定めるところによる。

[転学部、転学科]

第28条の2 転学部および転学科に関する規程は、別にこれを定める。

[休学]

第29条 学生が疾病その他の事由によって1ヶ月以上就学することができないときは、保証人と連署のうえ、所定の様式により願ひ出て、休学することができる。

2 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。

3 前項の定めに関わらず、学長が特別な理由があると認めるときは、休学期間を延長することができる。

4 休学の期間は通算して4年を超えることができない。

5 休学の期間は、第5条に定める修業年限および在学年限に算入しない。

6 休学期間中の学費は、1クォーター10,000円、通年40,000円とし、納入等に関する規定は第34条による。

7 休学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[復学]

第30条 休学者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願ひ出て、学長の許可を得たうえ復学することができる。

2 復学は、学期の始めからとする。

3 復学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[退学および転学]

第31条 疾病、その他の事由によって退学または転学しようとする者は、保証人連署のうえ、所定の様式により退学願または転学願を提出しなければならない。

2 退学および転学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

3 懲戒による退学に関する規程は、第50条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[除籍]

第32条 学長は、学生が各号のいずれかに該当するときは、学生を除籍する。

- ① 第5条に規定する在学年限を超えた者
- ② 第29条第2項および第3項に規定する休学年限を超えた者
- ③ 所定の授業料等学費の納付を怠り、その督促を受けてもこれを納付しない者
- ④ 第30条の復学手続きのない者
- ⑤ 本学での就学の意思のない者
- ⑥ 本人が死亡したとき
- ⑦ その他、学長が相当の理由を認めた者

2 除籍に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[再入学]

第33条 退学または除籍となった者が、保証人連署のうえ、所定の様式により再入学を願ひ出たときは、教授会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

2 再入学を願ひ出ることのできる期間は、退学または除籍の日より2年以内とする。

3 再入学は学期の始めからとする。

4 再入学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第1節 入学検定料、入学金および授業料

[学費等納付金および手数料]

第34条 入学検定料、入学金および授業料は、別表Vの①のとおりとする。

2 前項に規定する既納の入学検定料、入学金および授業料等の学費は、原則として返還しない。

3 前項の規定にかかわらず、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学手続の取り消しを願ひ出た者については、入学金またはこれに相当する金額を除く学費を返還する。

4 入学検定料以外の手数料については、別にこれを定める。

5 学費納入等に関する規定は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第2節 職員組織および教授会

[職員組織]

第35条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他の職員をおく。

2 学長は本学則に定める職務を行い、所属職員を統督する。

3 副学長は、学長の職務を助ける。

4 教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他の職員の職務は、学校教育法、その他の法令および本学諸規程の定めるところによる。

[教授会]

第36条 本学の教育研究に関する事項を審議するために教授会をおく。

2 教授会は、これを分けて全学教授会と学部教授会とする。

3 教授会に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[全学教授会]

第36条の2 全学教授会は、学長、専任の教授・准教授および講師を構成員として、これを組織する。

2 全学教授会は、前項に定める者の他、必要に応じ他の教職員などの出席を求めることができる。

3 全学教授会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- ① 全学に関する重要事項
- ② 各学部間の連絡調整に関する事項
- ③ 全学共通の教育課程の編成に関する事項
- ④ 全学共通の授業科目の担当に関する事項
- ⑤ 教員の人事に関する事項
- ⑥ その他学長が必要と認める事項

[学部教授会]

第36条の3 学部教授会は、各学部に所属する専任の教授・准教授および講師を構成員として、これを組織する。

2 学部教授会は、前項に定める者の他、必要に応じ他の教職員などの出席を求めることができる。

3 学部教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- ① 学生の入学（編入学・転入学を含む）、卒業および課程の修了
- ② 学位の授与
- ③ 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学部教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

4 学部教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下、この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるることができる。

第3節 聴講生・科目等履修生・委託生・研究生・外国人留学生・帰国生徒および社会人

[聴講生]

第37条 本学の教職課程科目のうち「教職に関する専門科目」について聴講しようとする者があるときは、本学の教育・研究に支障のない場合に限り教授会の審議を経て、学長がこれを許可する。

2 聴講を許可する授業科目は1年度につき12単位とし、在学年限は1年以内とする。

3 学長は、特定の授業科目を履修し、その単位を修得した聴講生に対して、単位修得証明書を交付することができる。

4 聴講料等の納付金については、別表Vの③に定めるところによる。

5 聴講生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[科目等履修生]

第38条 本学の学生以外の者が本学の特定の授業科目を履修しようとするときは、本学の教育・研究に支障がない限り、教授会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

2 履修を許可する授業科目の単位数は、1年度につき12単位とし、在学年限は1年以内とする。

3 学長は、特定の授業科目を履修し、その単位を修得した科目等履修生に対し、単位修得証明書を交付することができる。

4 科目等履修の納付金については、別表Vの④に定めるところによる。

5 科目等履修生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[委託生]

第39条 公共団体その他の機関から本学の特定の学科に修学を委託されたときは、選考のうえこれを受託し、委託の目的に合致する特定の授業科目の履修について、学長がこれを許可することができる。

2 前項の特定の授業科目の履修およびその単位は、委託者の希望を考慮し教授会の審議を経て、学長が決定する。

3 学長は、特定の授業科目を聴講し、その単位を修得した委託生に対し、単位修得証明書を交付することができる。

4 委託生の委託料は、別表Vの①に規定する授業料相当額とする。

5 委託生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[研究生]

第40条 本学の専任教員のもとで研究しようとする者があるときは、教授会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

2 研究生の授業料等の学費は、別表Vの⑤に定めるところによる。

3 研究生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[外国人留学生]

第41条 勉学の目的をもった外国人で、第24条に定める要件を充足する者が本学への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[帰国生徒]

第42条 長期間の海外生活を経験した者で、第24条に定める要件を充足する者が本学への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

2 帰国生徒に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[社会人]

第43条 社会的経験を有する者で、第24条に定める要件を充足する者が本学への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

2 社会人に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第4節 公開講座および履修証明プログラム

[公開講座]

第44条 本学に公開講座をおくことができる。

2 公開講座は、一般市民に対し本学の教育を公開し、学問・芸術の研究向上に資することを目的とする。

3 公開講座に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[履修証明プログラム]

第44条の2 本学に履修証明プログラムをおくことができる。

2 履修証明プログラムは、本学および他大学の学生以外の社会人等を対象として、体系的な知識、技術等の習得を目指す課程とする。

3 履修証明プログラムに関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第5節 情報館

[情報館]

第45条 本学に情報館をおき、教育および研究活動に必要な図書、文献、画像、視聴覚資料および研究資料を収集管理し、教職員、学生および一般市民の利用に供する。

2 情報館に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第6節 保健施設および学生寮

[保健施設]

第46条 本学に教職員および学生の保健衛生を管理するために、保健室をおく。

2 学生は、毎年定められた時期に健康診断を受けなければならない。

[学生寮]

第47条 本学に学生寮をおく。

2 学生寮に関する規程は、別にこれを定める。

第7節 育英奨学制度

[育英奨学制度]

第48条 本学に育英奨学制度を設ける。

2 育英奨学制度に関する規程は、別にこれを定める。

第8節 賞罰

[表彰]

第49条 学長は、品行・学業とも優秀で他の模範となる学生に対して、表彰を行うことがある。

[懲戒]

第50条 学長は学則または規則に違反し、その他学生の本人に背く行為のあった学生に対して、教授会の審議を経て懲戒する。

2 懲戒は訓告、停学および退学とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

① 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

② 正当の理由なく、出席が常でない者

③ 大学の秩序を乱し、その他学生の本人に背く者

4 学生の懲戒に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

附則

(略)

第39項 この学則は、2021(令和3)年4月1日から実施する。ただし、第10条の2に規定する授業の方法については、2020(令和2)年4月以前入学者に対しても一斉に適用するものとする。

※別表I～Vは省略

第1章 総則

[目的]

第1条 京都精華大学大学院(以下「本大学院」という。)は、学術の理論および応用を研究・教授し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。

[自己評価等]

第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、本大学院の目的および社会的使命を達成するため、本大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表する。

- 前項の点検および評価を行うため、委員会を設ける。
- 委員会に関する規程は、これを別に定める。
- 点検、評価の項目等については、これを別に定める。
- 本大学院は、第1項の点検および評価の結果について、本大学院の教職員以外の者による検証を行うものとする。

[研究科]

第3条 本大学院に次の研究科をおく。

芸術研究科
デザイン研究科
マンガ研究科
人文学研究科

[課程]

第4条 本大学院に博士課程および修士課程をおく。

- 博士課程は、前期2年の課程(以下「博士前期課程」という。)および後期3年の課程(以下「博士後期課程」という。)に区分する。
- 博士前期課程は、修士課程として取り扱うものとする。
- 博士前期課程および修士課程は、広い視野にたって精妙な学識を修め、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うものとする。
- 博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその高度な専門的業務に従事するに必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

[専攻および収容定]

第5条 研究科の専攻ならびにその入学定員および収容定員は、別表第1のとおりとする。

[人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的]

第5条の2 本大学院の研究科・専攻の人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

芸術研究科 芸術専攻 博士前期課程

専門領域にとらわれない多角的視点と柔軟な想像力を養い、芸術表現のさらなる探究を目的とし、新しい芸術文化の発信と高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

芸術研究科 芸術専攻 博士後期課程

多種多様な芸術表現のジャンルを整理・融合させながら専門応用能力を養い、制作と理論との調和を軸に、高度に洗練された芸術表現手法と芸術理論の探究を目的とし、新しい芸術文化の発信と活性化に貢献できる人材の養成を目的とする。

デザイン研究科 デザイン専攻 修士課程

デザイン分野の社会動向に広い視野と見識を備え、デザイン受容者の潜在的ニーズの分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

デザイン研究科 建築専攻 修士課程

社会動向に広い視野と見識を持ち、建築分野において多様な側面から分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

マンガ研究科 マンガ専攻 博士前期課程

国際的にも注目されるマンガ・アニメーション分野において、体系的な学術研究を深め、次代を担う新しい文化の発展に貢献できる高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

マンガ研究科 マンガ専攻 博士後期課程

国内外の様々な要請に対応可能なマンガ・アニメーション分野について、多角的視点から学術研究を行い、制作および理論に関する特に高度な能力を有した人材の育成を目的とする。

人文学研究科 人文学専攻 修士課程

人文諸科学を総合する学際的なアプローチにて、現代社会が直面する現実課題の探求を体系化し、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

[研究科委員会および博士後期課程委員会]

第6条 本大学院に研究科委員会および博士後期課程委員会をおく。

- 研究科委員会は、研究科の授業を担当する教授、准教授、講師および助教をもって組織し、研究科長がこれを招集し、その議長となる。
- 研究科の責任者を研究科長とする。ただし、学部長との兼任を妨げない。
- 博士後期課程委員会は、当該研究科博士後期課程の担当教員をもって組織し、研究科長がこれを招集し、その議長となる。

[研究科委員会および博士後期課程委員会の審議事項]

第7条 研究科委員会は、博士前期課程および修士課程に関し、また博士後期課程委員会は博士後期課程に関し、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- 学生の入学(転入学を含む)、および課程の修了
- 学位の授与
- 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会または博士後期課程委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 研究科委員会は、学長及び研究科長(以下この項において「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

[学費等納付金および手数料]

第8条 入学検定料、入学金および授業料等の学費は、別表第2の通りとする。

- 前項に規定する既納の入学検定料、入学金および授業料等の学費は、原則として返還しない。
- 前項の規定にかかわらず、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学手続の取り消しを願った者については、入学金またはこれに相当する金額を除く学費を返還する。
- 入学検定料以外の手数料については、別にこれを定める。
- 学費納入に関する規程は、本条に定めるものの他、別にこれを定める。

第2章 学年・学期・休業日・修業年限等

[学年]

第9条 大学院の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

[学期および授業日数]

第9条の2 1学年の授業日数は定期試験の日数を含めて35週、210日を下らないものとし、1学年を分けて次の学期とする。

- 前期 4月1日より9月30日まで
- 後期 10月1日より3月31日まで

[休業日]

第9条の3 休業日は次のとおりとする。

- 日曜日
- 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- 春季・夏季・冬季の休業期間は、各年度ごとに定める
- 学長が必要と認めるときは、臨時に休業日を設け、または休業日を変更することができる。
- 学長が必要と認めるときは、休業日に授業を行うことができる。

[修業年限]

第10条 博士前期課程および修士課程の標準修業年限は、2年とする。

2 博士後期課程の標準修業年限は、3年とする。

[在学年限]

第11条 博士前期課程および修士課程の学生は、4年を超えて在学することができない。

- 博士後期課程の学生は、6年を超えて在学することができない。
- 学長が有益と認めるときは、他の大学院研究科等における修学期間を修業年限に算入することができる。ただし、他の大学院研究科等における修学期間については1年を超えて算入することはできない。

第3章 入学・休学・退学等

[入学の時期]

第12条 入学の時期は、学年の始めとする。

[入学資格]

第13条 博士前期課程および修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- 1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により、学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 日本において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であること、その他の文部科学が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
- (9) 大学に3年以上在学した者であって、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められたもの
- (10) 外国において15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、または日本において外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められたもの
- (11) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの

2 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- (1) 修士の学位または専門職学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したものの
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
- (6) 日本において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
- (7) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (8) 外国の学校、第6号の指定を受けた教育施設または国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験および審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (9) 大学を卒業した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院において当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本大学院が認められた者

[入学者の選考]

第14条 入学志願者に対しては、入学試験を行う。

2 入学試験に関し必要な事項は、別にこれを定める。

[入学許可等]

第15条 入学試験に合格した者は、学長が指定する期日までに所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の規定により所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出した者に対し、入学を許可する。

[再入学]

第16条 退学した者または除籍となった者が、保証人連署のうえ、所定の様式により再入学を願ったときは、研究科委員会または博士後期課程委員会の審議を経て、学長はこれを許可することができる。

- 2 再入学を願ったことのできる期間は、退学の日または除籍の日より2年以内とする。
- 3 再入学の時期は学期の始めからとする。
- 4 再入学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[転入学]

第17条 他の大学院に1年以上在籍した後、本大学院の研究科に転入学しようとする者については、選考のうえ、既に在学した大学院において履修した授業科目の内容と成績等を考慮し、学長は入学を許可することができる。

[休学]

第18条 学生が疾病その他の事由によって3ヶ月以上就学することができないときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願って、休学することができる。

- 2 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。
- 3 休学の期間は通算して、博士前期課程および修士課程にあっては2年、博士後期課程にあっては3年を超えることができない。
- 4 休学の期間は、第10条および第11条に定める修業年限および在学年限に算入しない。
- 5 休学期間中の学費は、半期10,000円、通年20,000円とし、納入等に関する規定は第8条による。
- 6 休学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[復学]

第19条 休学者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願って、学長の許可を得て復学することができる。

- 2 復学の時期は学期の始めからとする。
- 3 復学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[退学]

第20条 疾病、その他の事由によって退学または転学しようとする者は、保証人連署のうえ、所定の様式により願って出なければならない。

- 2 退学および転学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。
- 3 懲戒による退学に関する規程は、第37条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[除籍]

第21条 学長は、学生が次の各号のいずれかに該当するときは、研究科委員会または博士後期課程委員会の審議を経て、学生を除籍する。

- (1) 第11条に規定する在学年限を超えた者
- (2) 第18条第2項および第3項に規定する休学年限を超えた者
- (3) 所定の授業料等学費の納付を怠り、その督促を受けてもこれを納入しない者
- (4) 第19条に規定する復学手続きのない者
- (5) 本大学院での就学の意思のない者
- (6) 本人が死亡したとき
- (7) その他、学長が相当の理由を認めるとき

2 除籍に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第4章 授業

[授業科目および単位数]

第22条 本大学院の芸術研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-1に定める。

- 2 本大学院のデザイン研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-2に定める。
- 3 本大学院のマンガ研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-3に定める。
- 4 本大学院の人文科学研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-4に定める。

[学部開設科目等の履修]

第22条の2 学長は、教育研究上の必要に応じて、学生に授業科目を指定して、学部、本大学院の他研究科、他専攻および他課程が開設する授業科目を履修させることができる。

[単位の認定]

第23条 学長は、授業科目を履修した学生に対して、当該授業科目の試験および研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、研究科委員会の審議を経て、相当する数の単位を与える。

[他の大学院との交流]

第24条 学長は、教育上有益と認めるときは、他の大学院との協定に基づき、その大学院(以下「交流協定校」という。)との間に学生を交流し、学生に必要な授業科目を履修させ、または研究指導を受けさせることができる。

- 2 前項の規定に基づいて学生が履修した単位は、10単位を超えない範囲で、本大学院で履修したものとみなすことができる。
- 3 交流協定校の認定、交流協定校における学生の履修した授業科目の単位の認定、その他、他の大学院との交流に関する重要事項については、研究科委員会の審議を経て学長が決定する。
- 4 本条第2項の規定は、外国の大学院において授業科目を履修した場合においても準用する。
- 5 他の大学院との交流に関して実施上必要とされる具体的措置については、別にこれを定める。

〔研究指導〕

第25条 本大学院に在学する学生は、担当教員による研究指導を受けなければならない。

2 学長が教育上有益と認めるときは、学生は他の大学院または研究所等において必要な研究指導を受けることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は、博士前期課程および修士課程の学生にあっては1年を超えないものとする。

〔入学前の既修得単位等の認定〕

第26条 学長が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院入学前に他大学院において履修した授業科目について修得した単位を本大学院で修得したものとみなすことができる。ただし、学部学生として履修した科目については認めない。

2 前項の規定により修得したものとみなし、博士前期課程および修士課程の修了要件である単位数に算入することのできる単位数は、第24条第2項に定めるものとは別に、10単位を超えないものとする。

第5章 課程の修了および学位

〔博士前期課程および修士課程の修了〕

第27条 博士前期課程および修士課程に2年以上在学し、修了の要件となる単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文または修士作品についての研究成果の審査および最終試験に合格し、かつ学費等納入金について大学への諸債務を滞納していない者に対し、研究科委員会の審議を経て、学長が修了を認定する。

2 前項の審査および最終試験については、別にこれを定める。

3 在学期間については、優れた研究業績をあげた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

〔博士後期課程の修了〕

第27条の2 博士後期課程に3年以上在学し、修了の要件となる単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格し、かつ学費等納入金について大学への諸債務を滞納していない者に対し、博士後期課程委員会の審議を経て、学長が修了を認定する。

2 前項の審査および最終試験については、別にこれを定める。

3 在学期間については、優れた研究業績をあげた者については、博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した場合にあっては、博士後期課程に1年以上、前条第3項の規定による在学期間をもって修了した場合にあっては、博士課程に3年(当該在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

4 前項の規定にかかわらず、第13条第2項第2号から第4号までの規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で優れた研究業績をあげた者の在学期間については、博士後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

〔学位の授与〕

第28条 学長は、博士前期課程および修士課程の修了を認定した者に対して、修士の学位を授与する。

2 学長は、博士後期課程の修了を認定した者に対して、博士の学位を授与する。

3 本学博士後期課程に所定の修業年限以上在籍し、予備審査合格後に所定の単位を修得して退学した者が、第30条に定める研究生として在籍し、かつ退学後5年以内に学位論文の審査に合格した場合、博士の学位を授与することができる。

4 本大学院の行う博士論文の審査に合格し、かつ本学博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有すると認定した者に対して、博士の学位を授与することができる。

5 修士および博士の学位の授与については、学長が定める。

6 本大学院が授与する学位の種類および専攻分野の名称は、次の通りとする。

芸術研究科	博士前期課程 修士(芸術)
	博士後期課程 博士(芸術)
デザイン研究科	修士課程 修士(芸術)
マンガ研究科	博士前期課程 修士(芸術)
	博士後期課程 博士(芸術)
人文学研究科	修士課程 修士(人文学)

7 学位に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第6章 委託生・研究生・特別交流学生・科目等履修生および外国人留学生

〔委託生〕

第29条 本大学院において研修することについて、国・地方公共団体または他の教育機関から委託された者(外国人留学生を除く。)があるときは、本大学院における教授および研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、研究科委員会の審議を経て、委託生として学長が入学を許可することができる。

2 委託生の委託料は、別表第2の①に規定する一般学生の授業料相当額とする。

〔研究生〕

第30条 本大学院の専任教員のもとで研究しようとする者があるときは、研究科委員会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

2 研究生の授業料等の学費は、別表第2の②に定めるところによる。

3 研究生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

〔特別交流学生〕

第31条 第24条に規定する交流協定校の大学院学生が、特別交流学生として特定の授業科目の履修または研究指導を受けることについて、研究科委員会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

2 特別交流学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

〔科目等履修生〕

第32条 本大学院以外のもので1または複数の授業科目を履修することを希望する者があるときは、本大学院における教育および研究に支障がなく、また、本大学院が指定する科目に限り、学長がこれを許可することができる。

2 履修を許可する授業科目の単位数は、1年度につき8単位以内とし、在学期間は1年以内とする。

3 科目等履修料等の納付金については、別表第2の③に定めるところによる。

4 科目等履修生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

〔外国人留学生〕

第33条 勉学の目的を持った外国人で、第13条の要件を充足する者が、本大学院への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

〔教育免許状の取得・種類〕

第34条 中学校教諭1種免許状および高等学校教諭1種免許状授与の所要資格を有する者で、当該免許状同一教科に係る中学校教諭専修免許状および高等学校教諭専修免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法および教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本大学院において当該所要資格を取得できる中学校教諭専修免許状および高等学校教諭専修免許状の免許教科の種類は、中学校教諭専修免許状(美術・社会)および高等学校教諭専修免許状(美術・工芸・公民)とする。

〔学芸員資格の取得〕

第35条 博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法および同法施行規則に定めるところにより、学部において開設する博物館学芸員に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

第7章 賞罰

〔表彰〕

第36条 学長は、人物、学業ともに優秀な学生に対して、これを表彰する。

〔懲戒〕

第37条 学長は、本大学院の学則または規程に違反し、その他学生としての本分に反した者で、研究科委員会または博士後期課程委員会の審議を経て懲戒する。

2 学生の懲戒に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第8章 補則

〔補則〕

第38条 この大学院学則の施行に関して必要な細則は、学長が定める。

附 則

(略)

第20項 この学則は、2021(令和3)年4月1日から施行する。

※別表第1～3は省略

[目的]

第1条 この規程は、京都精華大学学則(以下「大学学則」という。))および京都精華大学大学院学則(以下「大学院学則」という。))の規定に基づき、京都精華大学(以下「本学」という。))が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

[学位の種類]

第2条 本学において授与する学位および付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

- | | |
|------------------|------------|
| (1) 国際文化学部 | 学士(文化) |
| (2) メディア表現学部 | 学士(メディア表現) |
| (3) 芸術学部 | 学士(芸術) |
| (4) デザイン学部 | 学士(芸術) |
| (5) マンガ学部 | 学士(芸術) |
| (6) ポピュラーカルチャー学部 | 学士(芸術) |
| (7) 人文学部 | 学士(人文) |
| (8) 人文学研究科 | 修士(人文学) |
| (9) 芸術研究科 | 修士(芸術) |
| | 博士(芸術) |
| (10) デザイン研究科 | 修士(芸術) |
| (11) マンガ研究科 | 修士(芸術) |
| | 博士(芸術) |

[学位授与の要件]

第3条 学士の学位は、本大学学則の定めるところにより、本学学部の課程を修了した者に授与する。

2 修士の学位は、本大学院学則の定めるところにより、本大学院博士前期課程および修士課程を修了した者に授与する。

3 博士の学位は、本大学院学則の定めるところにより、本大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。

4 前項に定める者のほか、博士の学位は、本大学院学則の規定に基づき、博士論文の審査および試験に合格し、かつ本大学院博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することが認定された者にも授与することができる。

[審査対象]

第4条 本大学院学則に規定する審査を受けるべき博士論文、修士論文、修士作品または特定の課題についての研究の成果は、次の表に掲げるとおりとする。

研究科・課程	審査対象
芸術研究科博士後期課程	博士論文
芸術研究科博士前期課程	修士論文または修士作品
デザイン研究科修士課程	修士論文または修士作品
マンガ研究科博士後期課程	博士論文
マンガ研究科博士前期課程	修士論文または修士作品
人文学研究科修士課程	修士論文または修士作品

[学位論文等の提出]

第5条 修士の学位を得ようとする者は、所定の学位申請書(別表第1)に修士論文または修士作品(以下、「修士論文等」という。))を添え、研究科長に提出しなければならない。

2 博士の学位を得ようとする者は、所定の学位申請書(別表第1)に博士論文、博士論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文を添え、研究科長に提出しなければならない。

3 修士論文等または博士論文の提出の時期および試験の期日、方法については、別に定める。

[学位授与の申請]

第6条 第3条第4項により博士の学位論文を提出して学位の授与を申請する者は、学位申請書に、博士論文、博士論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文、研究業績一覧、履歴書(別表第2)に論文審査料を添えて学長に提出するものとする。

2 本大学院博士課程に所定の修業年限以上在学し所定の単位を修得して退学した者が、大学院学則に定める研究生として在学し、退学後5年以内に博士の学位の授与を申請するときは、前条第2項による学位として取り扱うものとする。

3 前2項における論文審査料については、これを別に定める。

4 提出された博士論文については、博士後期課程委員会の審議を経て、学長が受理する。

5 学長は前項により提出された博士論文の審査を研究科長に付託する。

6 受理した博士論文、博士論文の要旨、参考論文、研究業績一覧、履歴書および論文審査料は返還しない。

[学位論文等の審査]

第7条 研究科長は修士論文等または博士論文(以下「学位論文等」という。))の提出または付託を受けたときは、研究科委員会または博士後期課程委員会にその審査を依頼する。

2 研究科委員会または博士後期課程委員会は、前項の依頼に基づき、学位論文等の審査を行うものとする。

3 研究科委員会または博士後期課程委員会は、学位論文等を審査するため、学位論文等ごとに審査委員会を設ける。

[審査委員会]

第8条 審査委員会は、提出された学位論文等の内容に関する専門分野の指導教員と、研究科委員会において選出された関連分野の教員2名以上を加えて組織する。

2 提出された学位論文等の審査にあたって、審査委員会は研究科長の承認を得て他の大学院または研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

3 審査委員会は、学位論文等の審査および試験を行うものとし、試験は、学位論文等を中心として口頭試問の方法によって行うものとする。

[審査結果の報告]

第9条 審査委員会は、審査および試験の結果について、文書により研究科長に報告しなければならない。

[課程修了および授与資格の審議]

第10条 研究科長は前条の報告に基づき、博士後期課程委員会または研究科委員会に学位論文等の審査および試験の結果を提案し、博士後期課程委員会または研究科委員会はその課程の修了の可否について審議する。

2 第3条第4項により学位の申請のあった者については、学位授与要件の有無について、審議する。

3 本条第1項および第2項に規定する審議は、構成員の3分の2以上が出席する博士後期課程委員会または研究科委員会において行い、出席者の過半数が審議結果に賛成しなければならない。

[審議結果の認定]

第11条 研究科委員会が前条第1項および第2項の審議を行ったときは、研究科長は速やかに文書により学長に報告し、学長がこれを認定する。

[学位の授与]

第12条 学長は、課程の修了または授与資格を認定した者に学位記を授与する。また、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

[学位記の様式]

第13条 学位記の様式は別表第3、別表第4、別表第5および別表第6のとおりとする。

[学位論文、学位作品の保存]

第14条 本大学院で学位を授与された者は、学位論文1部または学位作品写真1部の原本ならびに磁気媒体を本学情報館に提供するものとし、博士の学位を授与された者は、国立国会図書館にも提供しなければならない。

[学位の名称の使用]

第15条 本大学院で学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、当該専攻分野の名称を記し、当該学位を授与した本大学院名を付記するものとする。

[学位授与の報告]

第16条 本大学院において博士の学位を授与したときは、学長は、当該博士の学位を授与した日から3か月以内に、学位授与報告書を文部科学大臣に報告するものとする。

[博士論文要旨の公表]

第17条 本学は、博士の学位を授与したときは、「学位規則」(昭和28年4月1日、文部省令第9号)の定めにより、当該博士の学位を授与した日から3か月以内に、当該博士の学位に係る論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

[博士論文の公表]

第18条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に公表したときは、この限りではない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

[学位の取消]

第19条 長は本学において学位を授与された者に次の事実があったときは、学位を取り消し、学位簿より削除し、学位記を返付せしめ、かつ、その旨を公表する。

(1) 不正な方法によって、学位の授与を受けた事実が判明したとき

(2) 名誉を汚辱する行為があったとき

[雑則]

第20条 本規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

[事務担当部署]

第21条 この規程に関する事務は、教学グループが担当する。

[改廃]

第22条 この規程の改廃は、常務理事会の議を経て、学長が行う。

附則

(略)

8 この規程は、2021(令和3)年4月1日から適用する。

※別表第1～6は省略

第1章 総則

[目的]

第1条 この規程は、京都精華大学学則(以下「大学学則」という。)の規定に基づき、京都精華大学(以下「本学」という。)における入学から卒業までの授業科目(以下「科目」という。)の履修登録、受講、単位修得方法等に関し必要な事項を定める。

第2章 単位の修得

[科目の開講方法]

第2条 科目の開講方法は原則クォーター制とするが、一部の科目はセメスター制とする。

2 本規程におけるクォーター制とは、第1クォーター、第2クォーター、第3クォーター、第4クォーターの各学期をもって各科目を完結させる制度のことをいう。

3 本規程におけるセメスター制とは、前期または後期の各学期をもって各科目を完結させる制度のことをいう。

[授業時間]

第3条 授業時間は次の表に掲げたとおりとする。

1講時	2講時	3講時	4講時	5講時	6講時
9:00 ～10:30	10:40 ～12:10	13:00 ～14:30	14:40 ～16:10	16:20 ～17:50	18:00 ～19:30

[単位の修得]

第4条 当該学期の履修登録を行った科目(以下「履修科目」という。)について単位を修得することができる。

2 履修科目の単位を修得するためには、授業および授業外学修を行い、大学学則第19条の規定に従って60点以上の成績評価を取得しなければならない。

3 単位は、各授業科目のシラバスに基づき、学習意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価し授与されるものとする。

4 原則として、履修科目の授業にはすべて出席しなければならない。

5 代人に受講させる等、授業出席に関して不正行為と判断された場合は、当該科目の成績評価は0点となり、単位を修得できない。

6 学期末試験および授業時間内に実施される中間テストならびに小テスト等の各種試験において、不正行為と判断された場合は、当該科目のみならず、当該学期の全履修科目の成績評価は0点となり、単位を修得できない場合がある。

7 課題レポート・課題作品や卒業論文・卒業制作の作成において、剽窃またはインターネットからのコピー・アンド・ペースト等の不正行為と判断された場合は、当該科目のみならず、当該学期の全履修科目の成績評価は0点となり、単位を修得できない場合がある。

8 前2項における不正行為の判定や成績評価については別に定める。

[履修登録]

第5条 履修登録とは、履修する科目を、自らの責任において、大学の指定した方法により登録することをいう。

第6条 履修登録は原則、学期ごとに行い、所定の期間内に完了しなければならない。

2 所定の期間内に履修登録を行わなかった場合は、当該学期における登録はなかったものとし、授業への出席や各種試験受験等の事実に関わらず、単位を修得できない。

3 やむをえない事情により所定の期間内に履修登録を完了できない場合は、あらかじめ教学グループに申し出て許可を得なければならない。

4 履修登録においては、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載したシラバスを、当該年度に開講する授業科目ごとに作成し、公開する。

5 履修登録は、授業外学修に要する学修時間を考慮するとともに、4年間の学修計画を立て、進級、卒業要件等を自ら確認したうえで慎重に行わなければならない。

6 本規程に定めるもののほか、履修に関わる必要な事項は、別途公示する。

7 履修確認後は、登録した科目の変更や追加等は原則として認められない。やむを得ず科目の変更や追加等の必要がある場合は、指定された期間内に、指示された方法で、自らの責任において履修変更等の手続を行わなければならない。

第7条 履修科目の取消は、原則として認められない。やむを得ず取り消す必要がある場合は、指定された期間内に、指示された方法で、自らの責任において履修取消の手続を行わなければならない。

2 履修取消について指示された方法で手続を行った場合でも、卒業要件や履修者数などの理由で取消が認められない場合がある。

3 手続を行わずに放棄した科目の成績評価については、大学学則第19条第3項に定めるGPAの算出時に算入する。

[履修上限単位]

第8条 各各学期に履修登録できる単位数は、10単位を限度とする。ただし、次の各号に定める科目等の単位数は、これに算入しない。

- (1) 教職に関する科目
- (2) 博物館学芸員に関する科目
- (3) 図書館司書に関する科目
- (4) 大学コンソーシアム京都等による本学が認めた単位互換科目

2 前項の規定にかかわらず、教務委員会が必要と判断した場合は、各学期の限度となる単位を超えた履修を認めることがある。

[配当年次]

第9条 当該科目が履修可能な学年を配当年次という。上級配当年次の科目を、原則として下級年次の学生が履修することはできない。

2 前項の規定にかかわらず、教務委員会が特に教育上有益と判断した場合は、上級配当年次の科目の履修を認めることがある。

[不開講科目]

第10条 年度や学期によって開講されない科目がある。

2 授業開講人数基準については、「京都精華大学授業開講基準」に定める。

3 授業開講人数基準によって不開講となった科目において当該科目の履修者が希望する場合には他の科目を相当単位数分、新たに登録することができる。

[履修者数の制限]

第11条 科目によって、授業を円滑に開講するために履修者数を制限することがある。

2 前項にもとづき、履修登録を行う前に抽選または選考を行うことがある。

3 抽選または選考が必要な科目について、これを経ないで履修登録を行った場合は、当該科目の登録は無効となる。

[既修得科目の履修]

第12条 単位を修得した科目は、再度履修することはできない。

[同一時限の重複履修]

第13条 当該学期の同一時限に重複して科目を履修することはできない。

[再履修]

第14条 不合格になった科目を再度履修登録することを再履修という。

[標準修得標準単位数]

第14条の2 4年間で卒業するための各学年における標準的な修得単位数を標準修得単位数とし、31単位と定める。

[授業料未納者の扱い]

第15条 授業料その他納付金の未納者は、当該学期の履修登録は無効となり、授業への出席や各種試験受験等の事実にかかわらず、単位を修得することができない。

[出席等の取扱]

第16条 授業への出席に際しては、常時、学生証を携帯しなければならない。

2 学生証の不携帯は、担当教員の判断により欠席として扱われることがある。

[公欠]

第17条 当該授業への不参加を欠席として扱わないことを公欠という。当該授業における教授内容(各種の試験やレポートの提出を含む)を免除するものではない。公欠となる欠席の理由については別表第1に定める。

[長期欠席]

第18条 1ヶ月を超えて欠席することを長期欠席という。長期欠席をする学生は、授業担当教員に連絡をするとともに、診断書等を教務チームに提出しなければならない。ただし、本規程第17条に定める公欠には該当しない。

[成績評価]

第19条 履修科目の成績は、学期末試験、期中のテスト等の試験、レポート、授業への参加度等を総合評価する。具体的な評価方法及び評価基準は、履修科目の担当教員がシラバスにて公示する。

[成績通知]

第20条 成績は学期ごとに大学が定める方法によって学生本人および学費支弁者に対して通知する。

[Grade Point]

第21条 履修科目に応じて、相応するGrade Pointを付与する。Grade Pointの付与基準は大学学則第19条第3項に定める。

第22条 学生が学修の成果を自ら検証するための指標として、Grade Point Average(以下「GPA」という)を算出する。

2 GPAを算出するための対象科目(以下「GPA対象科目」という)は、原則として卒業要件単位に算入する全科目とする。ただし、単位認定科目等、成績点数の表記がない科目は除外する。

3 履修取消について指示された方法で手続を行い、取消が認められた科目は、GPAの算出から除外する。

[成績評価]

第23条 成績評価は、次学期における他の科目の履修可否や留学等学内の諸制度の選考における判定基準として利用される。

2 GPAの算出対象科目は、過年度の不合格科目も含めた卒業要件の対象となる全履修科目とする。

3 一旦不合格になった科目を次学期以降に再履修した場合は、当該科目の成績が更新される。

[進級、留年、成績不良による退学勧告]

第23条の2 大学学則第12条第2項に定める進級とは、当該学年での学修を修了し、次学年での学修を開始することをいう。進級するためには、各学年において次の各項の進級要件を充足しなければならない。ただし、本学が派遣する1年以上の長期留学参加者はこの限りではない。

2 1年次生が2年次へ進級するための要件は、別表第2の1に定める。

3 2年次生が3年次へ進級するための要件は、別表第2の2に定める。

4 3年次生が4年次へ進級するための要件は、別表第2の3に定める。

第23条の3 前条に定める進級要件を充足できない者は、大学学則第12条第2項に基づき当該年次に留年となる。

2 留年者に対して当該学部は教員が面談指導を行う。面談結果とGPA等を勘案し、成業の見込みがないと判断した場合は、当該学部運営会議の議を経て、学部長は当該学生に休学及び退学勧奨を行うことができる。

3 面談指導には、学費支弁者等を同伴させることができる。

[編入学]

第24条 大学学則第27条に定める編入学を許可された者が入学する前の大学等において修得した単位のうち、入学する年次において以下の通り定めた範囲で本学において履修し、修得したものとみなすことができる。

2年次編入学者 30単位 3年次編入学者 62単位

第25条 単位認定の手続は、入学までに、次の各号に定める書類を添付して、指定した期日までに本学へ申請しなければならない。

- (1) 出身大学、短期大学、高等専門学校または専修学校の既修得単位を証明する成績証明書または単位修得証明書
- (2) 既修得科目のシラバス

第26条 認定対象科目は、本学科目の中から教務委員会が適当と認める科目とする。

第27条 単位の認定は、申請手続時に提出された成績証明書、講義概要等により判断する。

2 次の各号のいずれかに該当する場合は、単位を認定しないことがある。

- (1) 既修得科目の授業時間数および単位計算方法が本学の基準に準じたものではない場合
- (2) 成績評価が低い場合

第28条 編入学生の修業年限は以下の通りとする。

2年次編入学生 3年 3年次編入学生 2年

第29条 編入学生の在学年限は以下に定める期限を越えることはできない。

2年次編入学生 6年 3年次編入学生 4年

第30条 大学学則第18条第1項から第3項に定める資格においては、本規程第29条に定める修業年限の期間の範囲内で修得できないことがある。

[転入学]

第31条 転入学については大学学則第28条に定める。

[転学部、転学科]

第32条 転学部および転学科に関する規程は、別にこれを定める。

[入学前の既修得単位認定の取扱]

第33条 単位認定の手続は、入学後、指定した期日までに教学グループへ次の各号に定める書類を添えて申請しなければならない。

- (1) 出身大学、短期大学、高等専門学校または専修学校の既修得単位を証明する成績証明書または単位修得証明書
- (2) 既修得科目のシラバス

第34条 認定対象科目は、大学学則第15条の規定にもとづき、大学又は短期大学における既修得単位の認定にあたって、本学が指定する科目とする。

第35条 既修得単位の認定は、60単位を超えない範囲で行う。

第36条 単位の認定は、申請手続時に提出された成績証明書、シラバス等により教務委員会からこれを委託された教務部長がこれを判断する。

2 次の各号のいずれかに該当する場合は、単位を認定しないことがある。

- (1) 既修得科目の授業時間数および単位計算方法が本学の基準に準じたものでない場合
- (2) 成績評価が低い場合

3 教務委員会が必要と判断した科目は、試験等を課すことがある。

[文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修により認定できる単位]

第37条 大学学則第14条により次の各号のいずれかに該当する資格試験(以下「試験」という)で、次項に定める成績基準を満たした場合、本学における全学共通教育科目として開講する授業科目の一部を履修したものとみなし、単位を与えることができるものとする。

- (1) 実用英語技能検定試験(以下「英検」という。)
- (2) TOEFL(Test of English as a Foreign Language)
- (3) TOEIC(Test of English for International Communication)
- (4) IELTS(International English Language Testing System)
- (5) JLPT(日本語能力試験) (6) JPT(日本語能力試験)

2 前項に規定する試験での単位認定の成績基準、授業科目及び認定単位数は、別表第3に定める。ただし、認定時において、当該授業科目の単位を既に修得している場合は、その単位数を控除して認定する。

3 上記第1項による単位認定の手続は、入学後、指定した期日までに教学グループへ次の各号に定める書類を添えて申請しなければならない。

- (1) 当該資格試験に関する認定(合格)通知書又は成績証明書(ただし、原本に限る。)
- (2) 本学が定める所定の単位認定申込書

4 教務委員会は、当該授業科目にあたる「英語」並びに「日本語」について、上記第3項によって申し出があった場合、単位認定にあたり、必要に応じて申請者と面談の上、その適切性を判断する場合がある。

[暴風警報、特別警報、交通機関運休による休校、休講措置]

第38条 次の各号のいずれかに該当する場合は、休校・休講措置をとることとする。その場合の条件は別表第4の1および別表第4の2に基づく。

- (1) 気象庁が発表する気象警報において、「京都府南部」(もしくはその細分区域である「南丹・京丹波」、「京都・亀岡」、「山城中部」、「山城南部」のいずれかの地域)に暴風警報、もしくは特別警報が発令されたとき。
- (2) JR在来線(米原～神戸)、叡山電鉄(鞍馬線)、京都市営地下鉄、および京阪電鉄(本線)、阪急電鉄(京都線)、近畿日本鉄道(京都線)のいずれかが運休になり、なおかつバス等の代替手段がないとき。

2 第1項の規定には、大雨洪水警報ないし大雪警報は含まれない。

3 第1項の規定にかかわらず、災害その他特別の事由がある場合は、学長の判断により臨時に休講の措置を講ずることがある。

[雑則]

第39条 本規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

[事務担当部署]

第40条 この規程に関する事務は、教学グループが担当する。

[改廃]

第41条 この規程の改廃は、常務理事会の議を経て、学長が行う。

附則

(略)

6 2020年11月16日に改定し、2021年4月1日から施行する。

ただし、第8条の規定にかかわらず、2020年度以前入学者のセメスターにおける各学期に履修登録できる単位数は、24単位を限度とする。また、第23条の2の規定にかかわらず、2020年度以前入学者の進級要件は、以下のとおりとする。

1年次生が2年次へ進級するための要件

学部・学科・コース	要件
芸術学部 造形学科	基礎ゼミ 絵画基礎 工芸基礎 彫刻基礎 デザイン基礎 計14単位
デザイン学部 イラスト学科	イメージ表現1 イメージ表現2 計6単位
デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 (全コース)	ビジュアルデザイン基礎1 ビジュアルデザイン基礎2 ビジュアルデザイン基礎3 ビジュアルデザイン基礎4 ビジュアルデザイン基礎5 ビジュアルデザイン基礎6 計12単位 および デザインスキル1 デザインスキル2 デザインスキル3 デザインスキル4 上記より4単位以上
デザイン学部 プロダクトデザイン学科 (全コース)	工芸1 工芸2 基礎デザイン1 絵画基礎 立体構成 デザインテクノロジー1 京都デザイン 計20単位
デザイン学部 建築学科	設計基礎1 設計基礎2 計6単位
マンガ学部 マンガ学科 カートゥーンコース	デッサン1 デッサン2 絵画技法1 絵画技法2 計12単位
マンガ学部 マンガ学科 ストーリーマンガコース	マンガデッサン1 マンガデッサン2 絵画技法1 絵画技法2 計12単位
マンガ学部 マンガ学科 キャラクターデザインコース	デザイン1 デザイン2 絵画技法1 絵画技法2 計12単位
マンガ学部 マンガ学科 新世代マンガコース	ネームドリル実習1 ネームドリル実習2 絵画技法1 絵画技法2 計12単位
マンガ学部 アニメーション学科	アニメーションモーション基礎演習1 アニメーションモーション基礎演習2 アニメーション基礎研究1 アニメーション基礎研究2 アニメーション造形基礎実習1 アニメーション造形基礎実習2 アニメーションCG演習1 アニメーションCG演習2 上記より6科目以上
ポピュラーカルチャー学部 ポピュラーカルチャー学科 (全コース)	基礎実習1 基礎実習2 基礎実習3 基礎実習4 計12単位
人文学部 総合人文学科	進級要件は定めていない

2年次生が3年次へ進級するための要件

学部・学科・コース	要件
芸術学部 造形学科	造形基礎1 造形基礎2 造形基礎3 造形基礎4 計16単位
デザイン学部 イラスト学科	イメージ表現3 イメージ表現4 計6単位
デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 グラフィックデザインコース	グラフィックデザイン1 グラフィックデザイン2 グラフィックデザイン3 グラフィックデザイン4 グラフィックデザイン5 グラフィックデザイン6 計18単位
デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 デジタルクリエイションコース	クリエイション1 クリエイション2 クリエイション3 クリエイション4 クリエイション5 クリエイション6 計18単位
デザイン学部 プロダクトデザイン学科 (全コース)	基礎デザイン2 基礎デザイン3 立体造形1 立体造形2 計12単位 および デザインマテリアル1 デザインマテリアル2 デザインマテリアル3 デザインマテリアル4 上記より6単位以上
デザイン学部 建築学科	設計基礎3 設計基礎4 計6単位
マンガ学部 マンガ学科 カートゥーンコース	クロッキー1 クロッキー2 風刺画1 風刺画2 計12単位
マンガ学部 マンガ学科 ストーリーマンガコース	表現技法1 表現技法2 脚本実習1 脚本実習2 計12単位
マンガ学部 マンガ学科 キャラクターデザインコース	表現技法1 表現技法2 キャラクター造形実習1 キャラクター造形実習2 計12単位
マンガ学部 マンガ学科 新世代マンガコース	脚本実習1 脚本実習2 制作実習1 制作実習2 計12単位
マンガ学部 アニメーション学科	アニメーションモーション基礎演習1 アニメーションモーション基礎演習2 アニメーション基礎研究1 アニメーション基礎研究2 アニメーション造形基礎実習1 アニメーション造形基礎実習2 アニメーションCG演習1 アニメーションCG演習2 アニメーション演出論1 アニメーション演出論2 アニメーション分析演習1 アニメーション分析演習2 上記より10科目以上
ポピュラーカルチャー学部 ポピュラーカルチャー学科 (全コース)	制作実習1 制作実習2 制作実習3 制作実習4 計12単位

3年次生が4年次へ進級するための要件

学部・学科・コース	要件
人文学部 総合人文学科	ことば演習 発展ことば演習 英語1 英語2 (留学生は「日本語1」「日本語2」) その他2年次前期開講語学科目(1科目) 哲学概論1 哲学概論2 人文学概論1 人文学概論2 初年次演習1 初年次演習2 フィールドワーク概論 地域学 現場学 社会創造演習 計30単位
	文学専攻においては、 文学概論 日本文学研究 文学専門演習1 文学専門演習2 歴史専攻においては、 歴史学概論 日本史研究 歴史専門演習1 歴史専門演習2 社会専攻においては、 社会研究概論 社会研究 社会専門演習1 社会専門演習2 それぞれ 計8単位

学部・学科・コース	要件
芸術学部 造形学科	造形実習1 造形実習2 造形実習3 造形実習4 計16単位
デザイン学部 イラスト学科	イラストレーション1 イラストレーション2 イラストレーション3 イラストレーション4 絵本1 絵本2 ビジュアルアート1 ビジュアルアート2 ビジュアルデザイン1 ビジュアルデザイン2 ビジュアルデザイン3 ビジュアルデザイン4 上記より12単位以上
デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 (全コース)	プロジェクト1 プロジェクト2 プロジェクト3 プロジェクト4 プロジェクト5 プロジェクト6 計14単位
デザイン学部 プロダクトデザイン学科 プロダクトコミュニケーション コース	プロダクトコミュニケーション1 プロダクトコミュニケーション2 プロダクトコミュニケーション3 プロダクトコミュニケーション4 プロダクトコミュニケーション5 プロダクトコミュニケーション6 プロダクトコミュニケーション7 プロダクトコミュニケーション8 プロダクトデザイン1 プロダクトデザイン2 上記より12単位以上
デザイン学部 プロダクトデザイン学科 ライフクリエイションコース	ライフクリエイション1 ライフクリエイション2 ライフクリエイション3 ライフクリエイション4 ライフクリエイション5 ライフクリエイション6 ライフクリエイション7 ライフクリエイション8 プロダクトデザイン1 プロダクトデザイン2 上記より12単位以上
デザイン学部 建築学科	設計1 設計2 計12単位
マンガ学部 マンガ学科 カートゥーンコース	カートゥーン1 カートゥーン2 計6単位
マンガ学部 マンガ学科 ストーリーマンガコース	表現技法3 表現技法4 脚本実習3 脚本実習4 計12単位
マンガ学部 マンガ学科 キャラクターデザインコース	キャラクター造形実習3 キャラクター造形実習4 計6単位
マンガ学部 マンガ学科 新世代マンガコース	表現技法1 表現技法2 計6単位
マンガ学部 アニメーション学科	アニメーションモーション基礎演習1 アニメーションモーション基礎演習2 アニメーション基礎研究1 アニメーション基礎研究2 アニメーション造形基礎実習1 アニメーション造形基礎実習2 アニメーションCG演習1 アニメーションCG演習2 アニメーション演出論1 アニメーション演出論2 アニメーション分析演習1 アニメーション分析演習2 アニメーション創作実習1 アニメーション創作実習2 ポストプロダクション実習1 ポストプロダクション実習2 アニメーション造形実践実習1 アニメーション造形実践実習2 アニメーションCG実習1 アニメーションCG実習2 上記より必修12科目かつ選択必修2科目以上
ポピュラーカルチャー学部 ポピュラーカルチャー学科 (全コース)	応用実習1 応用実習2 応用実習3 応用実習4 上記より半期3単位以上、通年で計6単位以上
人文学部 総合人文学科	進級要件は定めない

7 2021年1月18日に改定し、2021年4月1日から施行する。
ただし、第37条第2項の規定にかかわらず、2020年度以前入学者の単位認定の成績基準、授業科目及び認定単位数は、以下のとおりとする。

文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修により認定できる単位

	成績基準(スコア/級)	授業科目及び認定単位数
英語科目	TOEIC 650点以上	「英語1」、「英語2」、「英語3」に加え、「英語4」すなわち8単位を認定する
	TOEFL(PBT) 520点以上	
	(CBT) 190点以上	
	(iBT) 68点以上	
	英検 準1級以上	
	IELTS 6点以上	「英語1」、「英語2」に加え、「英語3」すなわち6単位を認定する
	TOEIC 600点以上	
	TOEFL(PBT) 500点以上	
	(CBT) 173点以上	
	(iBT) 61点以上	
	IELTS 5.5点以上	「英語1」に加え、「英語2」すなわち4単位を認定する
	TOEIC 550点以上	
	TOEFL(PBT) 480点以上	
	(CBT) 157点以上	
	(iBT) 54点以上	
IELTS 5以上	「英語1」すなわち2単位を認定する	
TOEIC 500点以上		
TOEFL(PBT) 470点以上		
(CBT) 150点以上		
(iBT) 32点以上		
IELTS 4.5点以上	申請があった場合、教務委員会で審議の上、学長に提案し、学長が適切と認めた場合、相当数の科目並びに単位を認定する。	
その他の資格試験		
日本語科目	日本語能力試験 N1以上	「日本語1」、「日本語2」すなわち4単位を認定する

注) TOEFLにおける「CBT」はコンピューター方式のテスト、「PBT」はペーパー方式のテスト、「iBT」はインターネット方式のテストを示す。

8 2021年2月15日に改定し、2021年4月1日から施行する。

別表第1(第17条関係)
公欠として認められる事由

事由	要件	日数
忌引	1親等の血族または配偶者	7日
	2親等の直系血族	3日
	1親等の姻族	3日
	上記以外の3親等以内の血族	1日
	2親等以内の姻族	1日
通学経路の交通機関が事故などにより不通になった場合		当該事由が解消されるまで
教育実習、博物館実習、介護等体験、学外実習		当該実習期間
学校感染症	学校保健安全法に定める感染症を罹患した場合	学校保健安全法施行規則に定められた期間
外国人留学生の在留申請等手続き		1日(入国管理局出頭当日)
裁判員制度による裁判への参加		制度により定められた期間

別表第2の1(第23条の2関係)
1年次生が2年次へ進級するための要件

学部・学科・コース	要件
全学部全学科	1年次終了時に総修得単位数(卒業要件に含まない資格課程の単位を除く)が10単位以上に達していること

別表第2の2(第23条の2関係)
2年次生が3年次へ進級するための要件

学部・学科・コース	要件
国際文化学部、メディア表現学部を除くすべての学部・学科	<ul style="list-style-type: none"> ・全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること ・学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること
国際文化学部人文学科	<ul style="list-style-type: none"> ・全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること ・学部専門の1・2年次必修科目の28単位をすべて修得していること
国際文化学部グローバルスタディーズ学科	<ul style="list-style-type: none"> ・全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること ・学部専門の1・2年次必修科目の30単位をすべて修得していること
メディア表現学部メディア表現学科	<ul style="list-style-type: none"> ・全学共通の1年次必修科目の18単位をすべて修得していること ・「プログラミング1」、「プログラミング2」、「プログラミング3」、「プログラミング4」を修得していること ・学部専門の1・2年次必修科目の20単位をすべて修得していること

別表第2の3(第23条の2関係)
3年次生が4年次へ進級するための要件

学部・学科・コース	要件
国際文化学部、 メディア表現学部を除く すべての学部・学科	学部専門の3年次必修科目の 12単位をすべて修得していること
国際文化学部人文学科	学部専門の3年次必修科目の 16単位をすべて修得していること
国際文化学部 グローバルスタディーズ学科	学部専門の3年次必修科目の 20単位をすべて修得していること
メディア表現学部 メディア表現学科	・「インターンシップ1」、「インターンシップ2」から 1科目を修得していること ・学部専門の3年次必修科目の 12単位をすべて修得していること

別表第3(第37条関係)
文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修により認定できる単位

	成績基準(スコア/級)	授業科目及び認定単位数
英語 科目	TOEIC 550点以上	「英語1」、「英語2」、 「英語3」に加え、「英語4」、 すなわち4単位を認定する
	TOEFL(PBT) 480点以上	
	(CBT) 157点以上	
	(iBT) 54点以上	
	IELTS 5以上	
	TOEIC 500点以上	「英語1」に加え、「英語2」、 すなわち2単位を認定する
	TOEFL(PBT) 470点以上	
	(CBT) 150点以上	
	(iBT) 32点以上	
	IELTS 4.5点以上	
	その他の資格試験	申請があった場合、教務委員会で 審議の上、学長に提案し、 学長が適切と認めた場合、相当数の 科目並びに単位を認定する。
日本語 科目	日本語能力試験 JLPT N1以上	「日本語1」、「日本語2」、 「日本語3」、「日本語4」、 すなわち4単位を認定する
	JPT 660点以上	

注) TOEFLにおける「CBT」はコンピューター方式のテスト、「PBT」はペーパー方式の
テスト、「iBT」はインターネット方式のテストを示す。

別表第4の1(第38条関係)
休校・休講の判断基準(気象警報)

基準時刻	条件	休校・休講の措置
午前7時	警報が解除されている	平常授業実施
	警報が解除されていない	午前中休講
午前9時	警報が解除されている	3講時より平常授業実施
	警報が解除されていない	終日休校

9時よりも後に警報発令となった場合は、その時点から休講とする。

別表第4の2(第38条関係)
休校・休講の判断基準(交通機関運行の状況)

基準時刻	条件	休校・休講の措置
午前7時	運行が再開されている	平常授業実施
	運行が再開されていない	午前中休講
午前9時	運行が再開されている	3講時より平常授業実施
	運行が再開されていない	終日休校

9時よりも後に警報発令となった場合は、その時点から休講とする。

【目的】

第1条 この規程は、京都精華大学履修規程第4条第8項の規定および京都精華大学大学院学則に基づき、本学の実施する各種試験およびレポート等における不正行為について、判定や成績評価に関する必要な事項を定めることを目的とする。

【定義】

第2条 この規程において「各種試験」とは、学期末試験、追試験、再試験および授業時間内に実施される中間テストや小テストをいう。

2 各種試験における不正行為とは、次に掲げる行為をいう。

- (1) 私語や態度不正を注意しても改めないとき
- (2) 不正に物品や教科書・ノートの貸し借りをしたとき
- (3) 許可された以外のものを参照したとき。
また、他人のノートのコピーや、コピーを貼りつけたノートを持ち込んだとき
- (4) 代人受験をしたとき、またはそれをさせたとき
- (5) 答案用紙を他の受験者とすり代えたとき、またはそれに応じたとき
- (6) 他の受験者の答案用紙を見たり解答を聞いたりしたとき、またはそれに応じたとき
- (7) 監督者の指示に従わないとき
- (8) その他、教務委員会において不正と判断されたとき

3 この規程において「レポート等」とは、授業内で指示された課題レポート・課題作品や学期末のレポート試験、卒業論文・卒業制作、修士論文・修士作品、博士論文をいう。

4 レポート等における不正行為とは、次に掲げる行為をいう。

- (1) 他人の著作物を剽窃・流用・コピーしたとき
- (2) インターネット上に掲載されている第三者の著作物を、引用元などの記載をせずにそのまま流用したとき
- (3) その他、教務委員会において不正と判断されたとき

【事案の報告】

第3条 科目担当教員等は、不正と疑われる行為が発生した場合は、当該科目の開講学部長等を通して速やかに教務部長に報告するものとする。

【調査委員会】

第4条 教務部長は、前条の報告の後、速やかに教務委員会の下に調査委員会を設置して、事実の確認および当該学生に対する事情聴取を行い、不正行為の判定と成績評価を決定する。

2 調査委員会は、教務部長が委員長となり、当該学生が所属する学部等の教務委員を含む教務部長が指名した4名以上の教員で構成する。また、教学担当副学長は必要に応じて陪席することができる。

3 不正行為と判定した場合、成績評価は行為の重大性や悪質性により、当該科目の成績評価を0点とするか、当該学期の全履修科目の成績評価を0点とするか等を決定する。

【当該学生への通知】

第5条 教務部長は、不正行為の判定や成績評価が決定した場合は、速やかに当該学生に通知するものとする。

【不服申立て】

第6条 当該学生は、不服申立てする場合は7日以内に理由を記した文書を教務部長に提出することができる。

2 教務部長は、不服申立てがあった場合は、再度調査委員会を開催して審議しなければならない。なお、この再度の調査結果に対する不服申立ては認めない。

【事務担当部署】

第7条 この規程に関する事務は、教学グループが担当する。

【改廃】

第8条 この規程の改廃は、常務理事会の議を経て、学長が行う。

附 則

1 この規程は、2020年10月19日に制定し、同日から施行する。

2 2021年2月15日改定・施行

[目的]

第1条 本規則は「京都精華大学大学院学則」および「京都精華大学大学院学位規程」に基づき、京都精華大学(以下、「本学」という。)大学院博士前期課程および修士課程に在籍する学生の修了および修士論文、または修士作品の審査について必要な事項を定めるものである。

[学位取得の要件]

第2条 修士の学位を得ようとする者は、課程に2年以上在学し、かつ修了の要件となる単位を修得しなければならない。

2 修士の学位を得ようとする者は、修了予定学年の指定された期日までに、修士論文あるいは修士作品の審査を受けなければならない。

3 第2項の修士論文あるいは修士作品の審査を受けようとする者は、審査に先立ち、学会、報告会、展覧会等により自らの研究成果を学内外に発表しなければならない。

[最終題目届の提出]

第3条 修士論文あるいは修士作品の審査を受けようとする者は、各研究科が別に定める「修士論文・修士作品提出要領」に基づき、指定された期日までに専任指導教員が署名・捺印の上、研究科長宛に「修士論文・修士作品最終題目届」を提出しなければならない。

[修士論文・修士作品の提出]

第4条 修士論文あるいは修士作品は、各研究科が別に定める「修士論文・修士作品提出要領」に基づき、修士論文要旨、修士作品要旨を添付の上、指定された期日までに研究科長あてに提出しなければならない。

[学位審査委員会]

第5条 研究科長は、研究科委員会の議を経て、学位審査委員会を設置する。

[学位審査委員会の構成]

第6条 学位審査委員会は、第3条の「修士論文・修士作品最終題目届」の内容に沿い、当該学生の専任指導教員と研究科委員会において認められた2名以上の専任教員により構成する。

2 学位審査委員会は、研究科委員会が必要と認めた場合、他学部教員、他大学教員、他研究機関研究員、作家等、当該研究科に所属しない者(以下、「学外者」という。)を審査委員とすることができる。ただし学外者の審査委員は原則1名までとする。

[学位審査基準]

第7条 学位審査は以下の基準により厳正に行うものとする。

(1) 修士論文の学位審査基準

- ① 当該論文が学術的、社会的意義において価値を持ち、関連分野での貢献が期待できる内容であること
- ② 当該論文がテーマ、問題設定、研究内容について独創的であり、明確な結論を導き出していること
- ③ 当該論文がテーマに応じた研究・分析・手法や資料により論述が展開されていること

(2) 修士作品の学位審査基準

- ① 当該作品が独創的または普遍的な表現領域の可能性を探索し、社会に対して自らの深い思考が具体化されていること
- ② 当該作品が表現方法・内容において社会に対して明確なコンセプトを持ち、それに沿ったテーマと素材、技法を選択し、制作されていること
- ③ 当該作品が多角的視点と想像力に基づき、柔軟で応用力のある制作技術や高度な作法を用い、十分な完成度が認められること

[学位審査方法]

第8条 学位審査委員会は、修士論文あるいは修士作品を提出した者に対して、口述試問または筆記試験により審査を行う。

[審査結果の報告と修了の審議]

第9条 学位審査委員会は審査の可否結果を研究科長あてに報告する。研究科長は第2条の学位取得の要件を満たし、かつ第8条の審査に合格した者を研究科委員会に諮り、課程修了の審議を行う。

[位の授与]

第10条 研究科長は、第9条の研究科委員会において課程修了の審議を受けた者について学長に報告し、学長がこれを認定する。

2 学長は前項の認定者に対して学位を授与する。

[修士論文・修士作品の保管]

第11条 第10条で課程修了の認定を受けた者の修士論文は正本として、また修士作品はデジタルデータもしくは図録等写真として本学情報館に永久保存する。

[事務担当部署]

第12条 この規則に関する事務は、教学グループが担当する。

[改廃]

第13条 この規則の改廃は、常務理事会が行う。

附則

(略)

3 2017年3月27日に改定し、2017年4月1日から施行する。

京都精華大学大学院芸術研究科

【目的】

第1条 この規則は、「京都精華大学学位規程」(以下「学位規程」という。)第3条第3項に基づき博士の学位(以下「課程博士」という。)の審査について定めるものである。

【学位審査予備審査】

第2条 京都精華大学大学院芸術研究科博士後期課程(以下「後期課程」という。)に在籍し、学位請求論文を提出しようとするものは、事前に学位審査予備審査に合格しなければならない。

2 予備審査を受けようとする者は博士後期課程委員会が指定する期日までに第3項に定める書類を提出しなければならない。

3 予備審査に際し提出する書類およびその書式は、以下に定めるものとする。

(1) 学位審査予備審査申請書(様式第1号) 1部

(2) 研究業績一覧(様式任意) 1部

(3) 学位申請予備審査論文(以下「予備審査論文」という。) 5部

① 予備審査論文の使用言語は、日本語とする。ただし、指導教員(主査1名・副査3名)ならびに博士後期課程委員会が認めた場合に限り、英語での予備審査論文の提出を可とする。

② 予備審査論文は、「はじめに(序論)」、「本論」、「おわりに(結論)」などの章節およびそれらの題目、すなわち学位請求論文の構成を明確にする目次を記すこと。

③ 予備審査論文は、使用言語を日本語とする場合は、400字詰め原稿用紙25枚以上(引用・資料を除く。)、またはPCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)で、10,000字以上(10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とすること。

使用言語を英語とする場合は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)でダブルスペースにより5,500words以上(1ページ:25行、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、引用・資料を除く。)とすること。

④ 予備審査論文の使用言語を英語とする場合は、予備審査論文とともに日本語の論文要旨を提出すること。日本語の論文要旨は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全文3,000字以上(10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とし、各章(各節)ごとに記すこと。

⑤ 予備審査論文には、それぞれの部分(章・節などについての)概略を簡潔に記すこと。

⑥ 予備審査論文は、中央下にページ番号を記すこと。

【学位審査予備審査会】

第3条 学位審査予備審査会の構成は、以下に掲げる者とする。

(1) 博士後期課程委員会委員長

(2) 当該年度におけるすべての指導教員

(3) 上記の他に、博士後期課程委員会委員長が必要と認めるときは、研究科長と協議のうえ、研究科に所属する教員若干名を構成員とすることができる。

2 学位審査予備審査会委員長は博士後期課程委員会委員長とする。

【審査基準】

第4条 学位審査予備審査(以下「予備審査」という。)における審査は、以下の基準に基づいて厳正に行うものとする。

(1) 本学博士後期課程の修了要件単位の取得(またはその見込み)の確認

(2) 当該予備審査論文が、本学が授与する博士の学位を授与するにふさわしいものとして完成する見込みの有無

(3) 当該予備審査論文の属する研究領域において、独創性ある展開の可能性の有無

(4) 当該予備審査論文の属する研究領域の発展に貢献する可能性の有無

(6) 当該予備審査論文に、他の研究領域を含む学際性ある展開の可能性の有無

【可否の判定】

第5条 予備審査における可否の判定は、学位審査予備審査会構成員の3分の2以上が出席(4週間以上の出張者・欠勤者、休職者および学外研究員を定足数から除外する。)、かつ、出席者の過半数が賛成しなければならない。

【審査結果の通知】

第6条 学位審査予備審査における審査結果については、博士後期課程委員会委員長が当該学生に文書によって通知するものとする。

【博士論文の審査】

第7条 博士論文の審査については、「学位規程」第7条の規定に基づく。

【学位審査会】

第8条 学位審査会は学位請求論文発表会と口頭試問により行うものとする。

2 課程博士の学位を申請することのできる者は、以下に掲げる者とする。

(1) 後期課程に在籍し所定の単位を取得および取得見込みの者で、予備審査において学位請求論文の提出を認められた者

(2) 「京都精華大学大学院芸術研究科特別研究生規程」第2条に定めるところの特別研究生に在籍し、かつ退学後5年以内である者

3 前項第1号および第2号に規定する者が課程博士の学位を申請しようとするときは、以下の書類を研究科長に提出しなければならない。

(1) 学位申請書(様式第2号) 1部

(2) 研究業績一覧(様式任意) 1部

(3) 学位請求論文 表紙(様式第3号)をつけ、レポートファイルに綴じこんだ状態のもの 5部

① 学位請求論文の使用言語は、日本語とする。ただし、指導教員(主査1名・副査3名)ならびに博士後期課程委員会が認めた場合に限り、英語での予備審査論文の提出を可とする。

② 学位請求論文は、「はじめに(序論)」、「本論」、「おわりに(結論)」などの章節およびそれらの題目、すなわち学位請求論文の構成を明確にする目次を記すこと。

③ 学位請求論文の使用言語を日本語とする場合は、400字詰め原稿用紙100枚以上(引用・資料を除く。)、またはPCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)で、40,000字以上(10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とすること。

使用言語を英語とする場合は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)でダブルスペースにより22,000words以上(1ページ:25行、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、引用・資料を除く。)とすること。

④ 学位請求論文は、レポートファイルに、内扉、目次、本文、引用・資料の順に綴り込むこと。

⑤ 学位請求論文は、中央下にページ番号を記すこと。

(4) 論文の要旨(様式任意) 5部

要旨は、学位請求論文の使用言語によって、それぞれ次の要領にて作成、提出すること。

【学位請求論文の使用言語を日本語とする場合】

・要旨はPCを使用し、日本語でA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに1,000字以上、10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)にて作成すること。

・上記、全体の概略を記した要旨(1枚)については、英文(A4用紙横書き550words以上、余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、ダブルスペースにより要約したもの)をあわせて作成、添付すること。

・中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

【学位請求論文の使用言語を英語とする場合】

・要旨はPCを使用し、日本語と英語、それぞれにて作成・提出すること。

日本語においてはA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに1,000字以上、10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)にて作成すること。

英語においてはA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに550words以上、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、ダブルスペースにより要約したもの)を作成すること。

・中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

(5) 研究業績として出版した論文があるときは当該論文の写し 5部

① 参考論文の写しは、ファイルに綴り込み、参考論文の写しごとに見出しをつけること。

② ファイルの表には、参考論文の写しであることを明記するとともに、学籍番号、氏名を記すこと。

(6) 学位請求論文および要旨のデータ

(7) その他、後期課程委員会が必要とする書類

4 (削除)

5 最終学位審査は、学位論文発表会終了後に、学位請求論文の属する研究領域およびその関連する分野に関する知見について、口頭試問によって行うものとする。

6 前項の試験を経て学位審査に合格した者は、指定された期日までに、長期保存に耐えるハードカバー製本を施した学位論文を3部提出するものとする。

[学位審査委員会]

第9条 学位審査委員会の構成については、「京都精華大学学位規程」第8条の規定に基づく。

2 審査委員会に委員長を置き、委員長は、博士後期課程委員会の互選によるものとする。

[審査基準]

第10条 学位審査は、以下の基準に基づいて厳正に行うものとする。

- (1) 当該博士論文が、当該申請者の研究業績をふまえた内容であること
- (2) 当該博士論文の属する研究領域において、独創性が認められること
- (3) 当該博士論文の属する研究領域の発展に資するものであると認められること
- (4) 当該博士論文に、他の研究領域を含む学際性が認められること
- (5) 本学大学院が授与する博士の学位にふさわしいと認められるものであること

[審査結果の報告]

第11条 博士論文審査結果および試験結果については、「京都精華大学学位規程」第9条の規定に基づく。

[可否の審議]

第12条 研究科長は、前条の報告に基づき、後期課程委員会において可否を審議する。

2 前項に規定する可否の審議には、博士後期課程委員会構成員の3分の2以上が出席(4週間以上の出張者・欠勤者、休職者および学外研究員を定足数から除外する。)し、かつ、出席者の過半数が審議結果に賛成しなければならない。

[審議結果の認定]

第13条 審議結果の認定については、「京都精華大学学位規程」第11条の規定に基づく。

[雑則]

第14条 本規則に定めるものの他、必要な事項は別に定める。

[事務担当部署]

第15条 この規則に関する事務は、教学グループが担当する。

[改廃]

第16条 この規則の改廃は、常務理事会が行う。

附 則

(略)

6 2019年2月18日改定・施行

※様式第1～4号は省略

京都精華大学大学院マンガ研究科

[目的]

第1条 この規則は、「京都精華大学学位規程」(以下「学位規程」という。)第3条第3項に基づく博士の学位(以下「課程博士」という。)の審査について定めるものである。

[学位審査予備審査]

第2条 京都精華大学大学院マンガ研究科博士後期課程(以下「後期課程」という。)に在籍し、学位請求論文を提出しようとするものは、事前に学位審査予備審査に合格しなければならない。

2 博士後期課程委員会が指定する期日までに第3項に定める書類を提出しなければならない。

3 予備審査に際し提出する書類およびその書式は、以下に定めるものとする。

- (1) 学位審査予備審査申請書(様式第1号) 1部
- (2) 研究業績一覧(様式任意) 1部
- (3) 学位申請予備審査論文(以下「予備審査論文」という。) 5部

① 学位申請予備審査論文の使用言語は、日本語とする。ただし、指導教員4名(主査1名・副査3名)、ならびに博士後期課程委員会が認めた場合に限り、英語での学位申請予備審査論文の提出を可とする。

② 予備審査論文には、学位請求論文の構成を明確にする目次を付すこと。

③ 予備審査論文は、原則としてA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)で16,000字以上(11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とすること。

使用言語を英語とする場合は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)にダブルスペースにより、9,000words以上(1ページ:25行、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、引用・資料を除く。)とすること。

④ 予備審査論文には、800字程度の論文要旨を付すこと。

⑤ 予備審査論文の使用言語を英語とする場合は、日本語の論文要旨を提出すること。日本語の論文要旨は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全文3,000字以上(11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とし、各章(各節)ごとに記すこと。

⑥ 予備審査論文は、中央下にページ番号を記すこと。

[学位審査予備審査会]

第3条 学位審査予備審査会の構成は、以下に掲げる者とする。

- (1) 博士後期課程委員会委員長
- (2) 当該年度におけるすべての指導教員
- (3) 上記の他に、博士後期課程委員会委員長が必要と認めたときは、研究科長と協議のうえ、研究科に所属する教員若干名を構成員とすることができる。

2 学位審査予備審査会委員長は博士後期課程委員会委員長とする。

[審査基準]

第4条 学位審査予備審査(以下「予備審査」という。)は、以下の基準にて厳正に行うものとする。

- (1) 本学博士後期課程の修了要件単位の取得(またはその見込み)の確認
- (2) 当該予備審査論文が、本学が授与する博士の学位を授与するにふさわしいものとして完成する見込みの有無
- (3) 当該予備審査論文の属する研究領域において、独創性ある展開の可能性の有無
- (4) 当該予備審査論文の属する研究領域の発展に貢献する可能性の有無
- (5) 当該予備審査論文に、他の研究領域を含む学際性ある展開の可能性の有無

[可否の判定]

第5条 予備審査における可否の判定は、学位審査予備審査会構成員の3分の2以上が出席(4週間以上の出張者・欠勤者、休職者および学外研究員を定足数から除外する。)し、かつ、出席者の過半数が賛成しなければならない。

[審査結果の通知]

第6条 学位審査予備審査の審査結果については、博士後期課程委員会委員長が当該学生に文書によって通知するものとする。

[博士論文の審査]

第7条 博士論文の審査については、「学位規程」第7条の規定に基づく。

[学位審査会]

第8条 学位審査会は学位請求者による学位論文発表会と口頭試問により行うものとする。

2 課程博士の学位を申請することのできる者は、以下に掲げる者とする。

(1) 後期課程に在籍し所定の単位を取得および取得見込みの者で、予備審査において学位請求論文の提出を認められた者

(2) (2)〔京都精華大学大学院マンガ研究科特別研究生規程〕第2条の定める特別研究生として在籍し、かつ退学後5年以内である者

3 前項第1号および第2号に規定する者が課程博士の学位を申請しようとするときは、以下の書類を研究科長に提出しなければならない。

(1) 学位申請書(様式第2号) 1部

(2) 研究業績一覧(様式任意) 1部

(3) 学位請求論文表紙(様式第3号)をつけたもの 5部

① 学位請求論文の使用言語は、日本語とする。ただし、指導教員4名(主査1名・副査3名)、ならびに博士後期課程委員会が認めた場合に限り、英語での学位請求論文の提出を可とする。

② 学位請求論文は、使用言語を日本語とする場合は、原則としてA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)で40,000字以上11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とすること。

使用言語を英語とする場合は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)にダブルスペースにより22,000words以上(1ページ:25行、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、引用・資料を除く。)とすること。

③ 学位請求論文は、レポートファイルに、内扉、目次、本文、引用・資料の順に綴り込むこと。

④ 学位請求論文は、中央にページ番号を記すこと。

(4) 論文の要旨(様式任意) 5部

① 要旨は、学位請求論文の使用言語によって、それぞれ次の要領にて作成、提出すること。

【学位請求論文の使用言語を日本語とする場合】

・要旨はPCを使用し、日本語でA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに1,000字以上、11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)にて作成すること。また中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

・上記、全体の概略を記した要旨(1枚)については、英文(A4用紙横書きに550words以上、余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、ダブルスペースにより要約したもの)をあわせて作成、添付すること。

・中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

【学位請求論文の使用言語を英語とする場合】

・要旨はPCを使用し、日本語と英語、それぞれにて作成・提出すること。

日本語においてはA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに1,000字以上、11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)にて作成すること。

英語においてはA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに550words以上、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、ダブルスペースにより要約したもの)を作成すること。

・中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

(5) 研究業績として出版した論文のある場合は当該論文の写し 5

① 論文の写しは、ファイルに綴り込み、論文の写しごとに見出しをつけること。

② ファイルの表には、論文の写しであることを明記するとともに、学籍番号、氏名を記すこと。

(6) 学位請求論文および要旨のデータ

4 最終学位審査は、学位論文発表会終了後に、学位請求論文の属する研究領域およびその関連する分野に関する知見について、口頭試問によって行うものとする

5 学位審査に合格した者は、指定された期日までに、長期保存に耐えるハードカバー製本を施した学位論文を3部提出するものとする。

【学位審査委員会】

第9条 学位審査委員会の構成については、「学位規程」第8条の規定に基づく。

2 審査委員会に委員長を置き、委員長は、博士後期課程委員会の互選によるものとする。

【審査基準】

第10条 学位審査は、以下の基準に基づいて厳正に行うものとする。

(1) 当該博士論文が、当該申請者の研究業績をふまえた内容であること

(2) 当該博士論文の属する研究領域において、独創性が認められること

(3) 当該博士論文の属する研究領域の発展に資するものであると認められること

(4) 当該博士論文に、他の研究領域を含む学際性が認められること

(5) 本学大学院が授与する博士の学位にふさわしいと認められるものであること

【審査結果の報告】

第11条 博士論文審査結果については、「学位規程」第9条の規定に基づく。

【合否の審議】

第12条 研究科長は、前条の報告に基づき、後期課程委員会において合否を審議する。

2 前項に規定する合否の審議には、博士後期課程委員会構成員の3分の2以上が出席(4週間以上の出張者・欠勤者、休職者および学外研究員を定数から除外する。)し、かつ、出席者の過半数が審議結果に賛成しなければならない。

【審議結果の認定】

第13条 審議結果の認定については、「学位規程」第11条の規定に基づく。

【雑則】

第14条 本規則に定めるものの他、必要な事項は別に定める。

【事務担当部署】

第15条 この規則に関する事務は、教学グループが担当する。

【改廃】

第16条 この規則の改廃は、常務理事会が行う。

附則

(略)

5 2020年11月30日改定・施行

※様式第1号～4号 省略

10 施設

← CAMPUS MAP

※2021年2月末時点の情報です。変更される場合があります。

キャンパスマップ



教室の使用申請方法

(1) 講義室の使用

授業以外で講義室を使用する場合は、学生支援チームにある「教室使用台帳」で空き状況を確認し、「施設使用願」を提出してください。

使用可能校舎 黎明館・春秋館

使用可能時間 月～土 9:00～22:00 日・祝日 9:00～17:00

(2) 実習室の使用

芸術学部・デザイン学部・マンガ学部・ポピュラーカルチャー学部の実習室は、授業期間中の9:00から20:00(日曜除く)は、届出不要で利用することができます。その他の時間帯、特別な機材のある実習室については以下の表に従って、必要な「施設使用願」を提出するか、教員・スタッフに開錠を依頼してください。

手続きの流れ

- ① 学生支援チームで「施設使用願」をもらう
- ② 「施設使用願」に記入し、担当教職員の押印を受ける
- ③ 「施設使用願」を警備棟に提出する

利用時間・利用方法

□ 通常の実習室

授業期間中	期間	提出物	
	月～土	9:00～20:00 20:00～22:00	届出不要 担当教員押印済みの「施設使用願」
日・祝日	9:00～17:00		
長期休暇期間中	全曜日	9:00～17:00	学生支援チーム担当職員押印済みの「施設使用願」

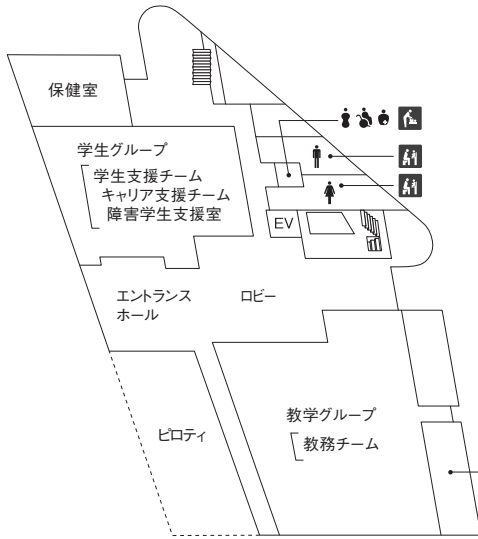
□ 特別な機材のある実習室

教員・スタッフに開錠を依頼する。あるいは担当教員押印済みの「施設使用願」を提出してください。
※教室区分等の詳細については学生支援チームまでお問い合わせください。
※やむを得ない事情で上記の時間外に実習室を利用する場合は、「特別延長願」の提出と担当教員による付き添いが必要となります。

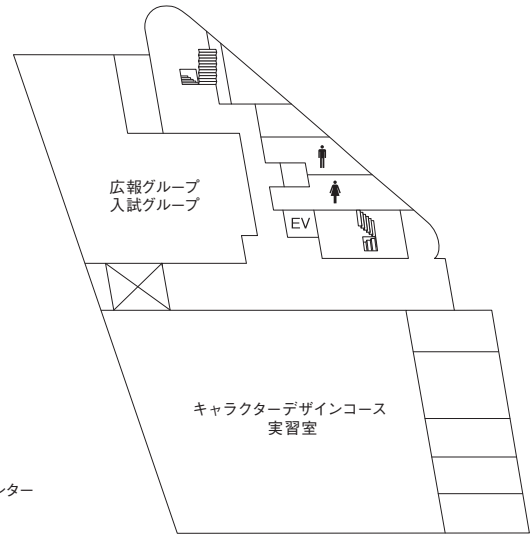
そのほか、全学共通写真スタジオ、春秋館ギャラリーなど、利用申請により使用可能な施設があります。詳細については、大学Webサイトの「在学生ページ」を確認してください。

H 本館

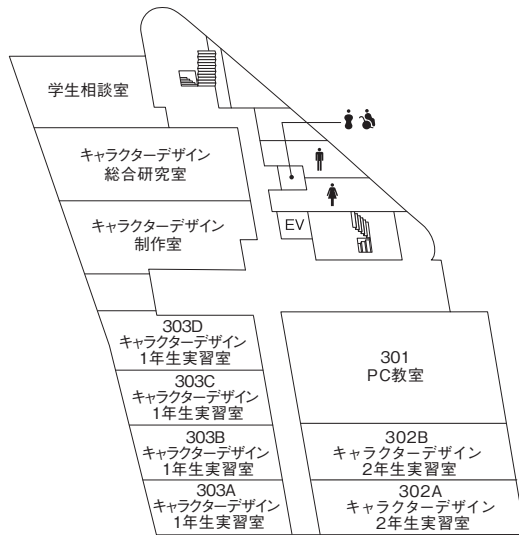
1F



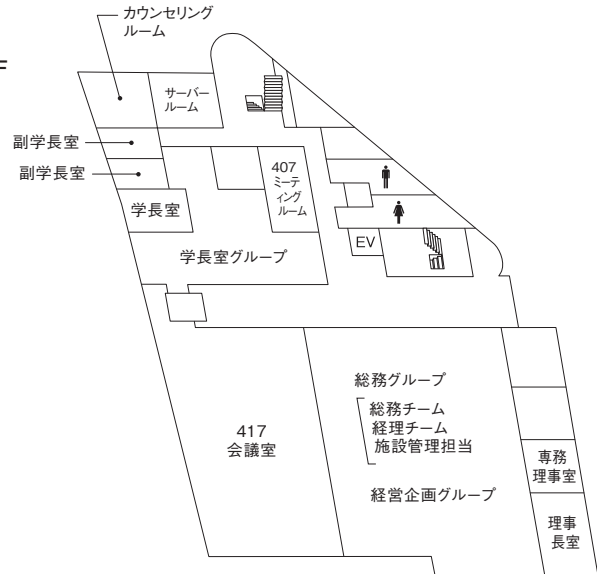
2F



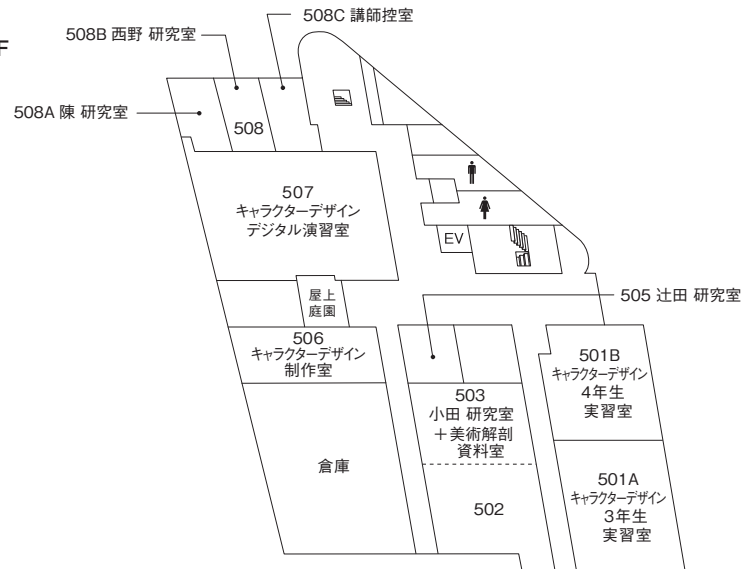
3F



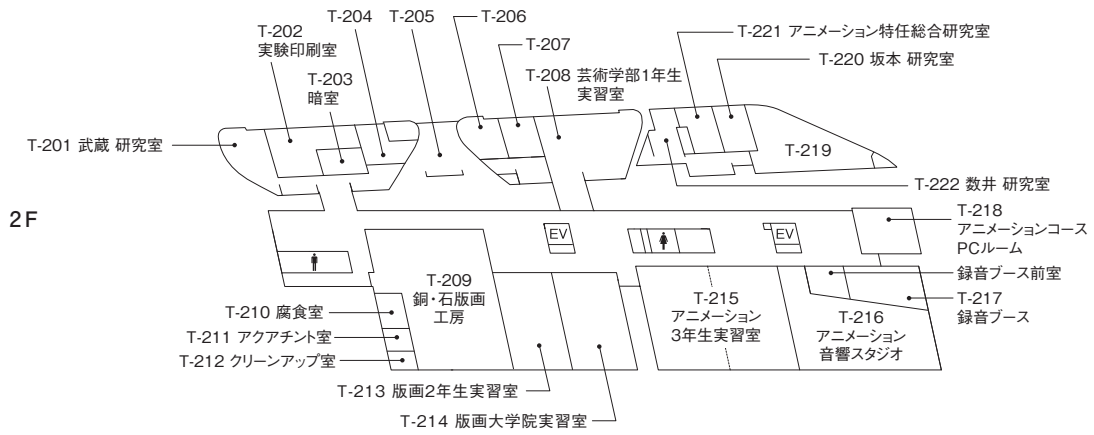
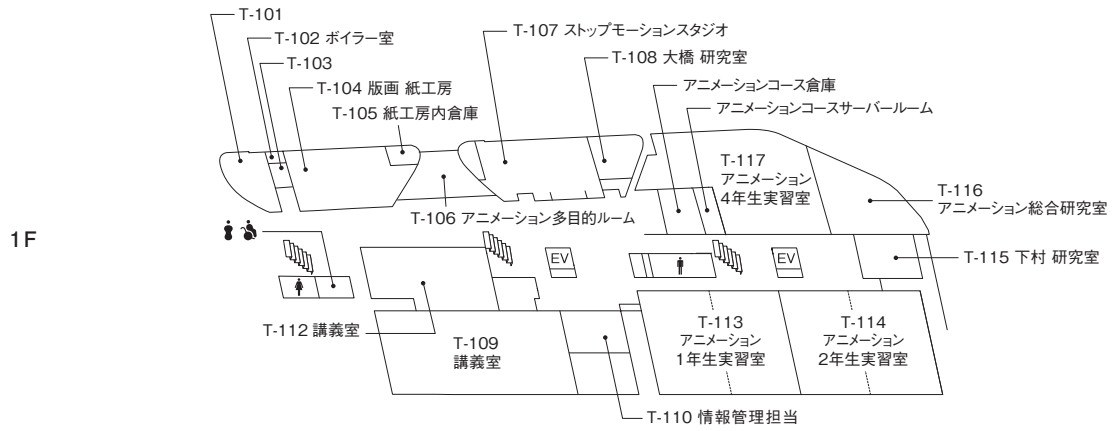
4F



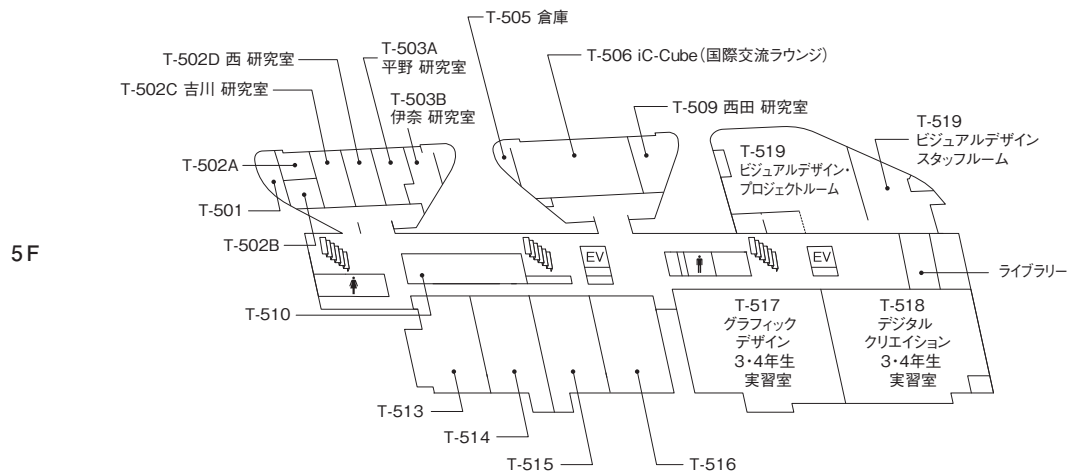
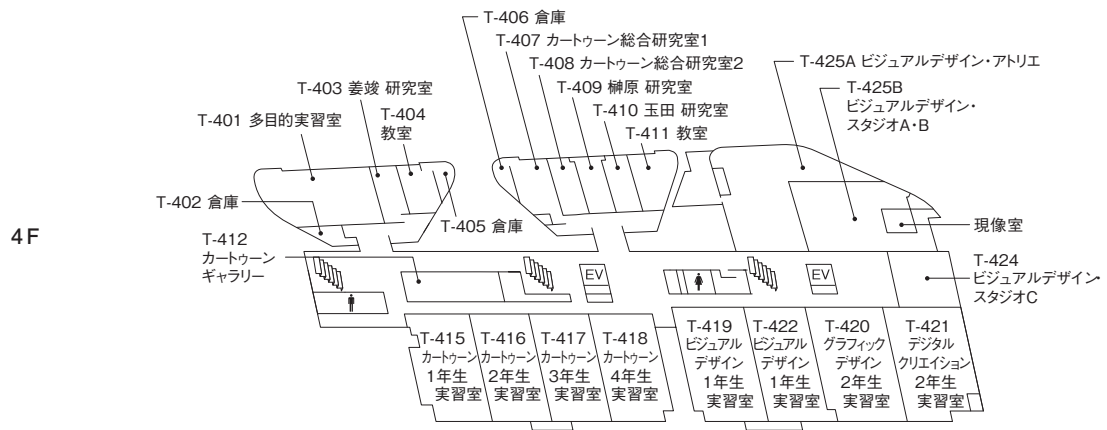
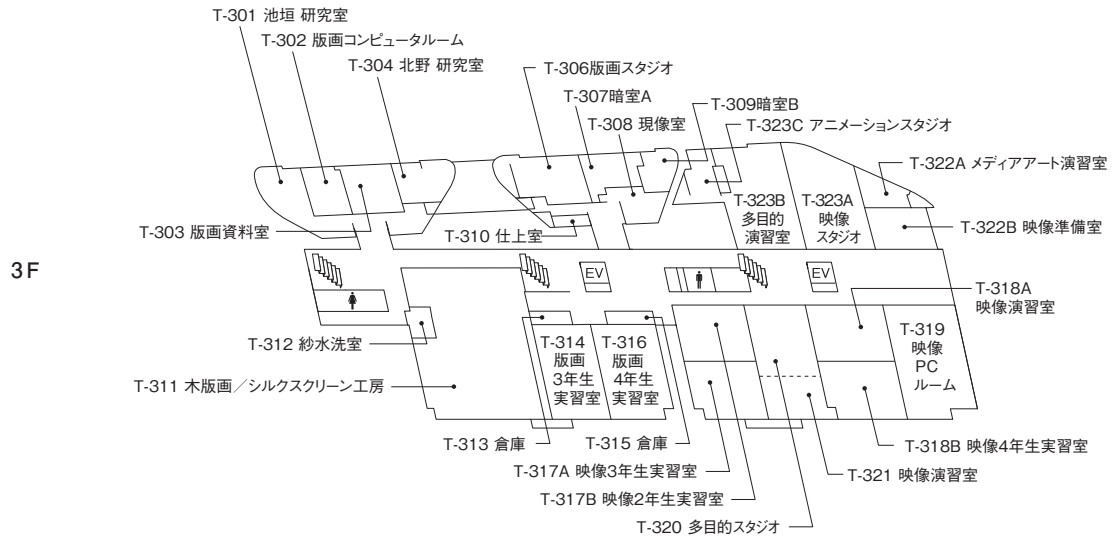
5F



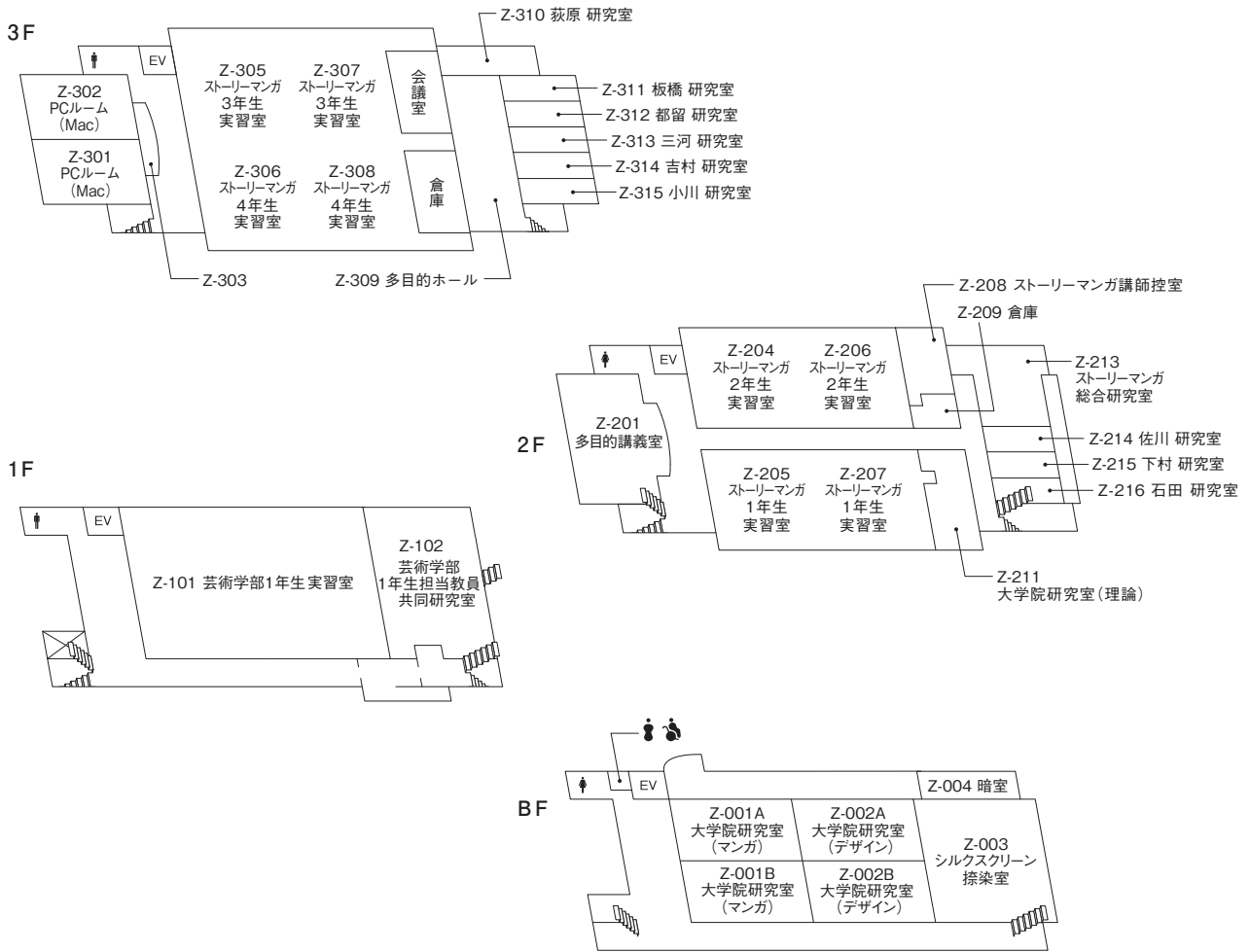
T 対峰館



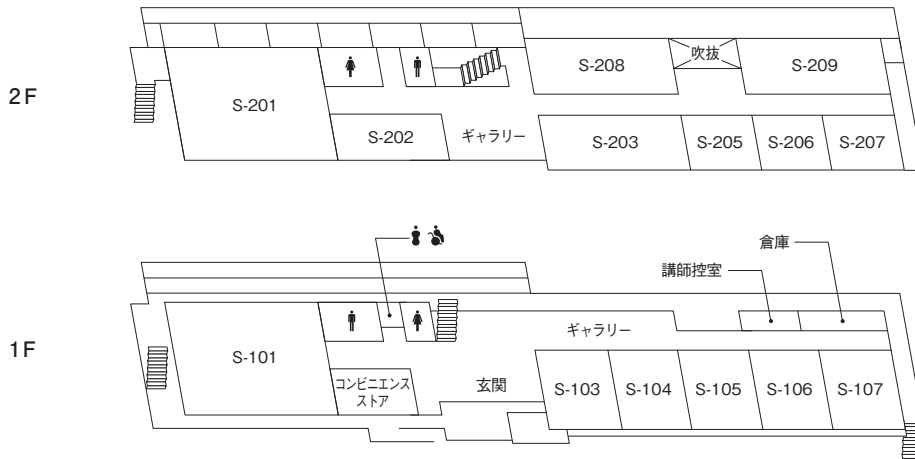
T 対峰館



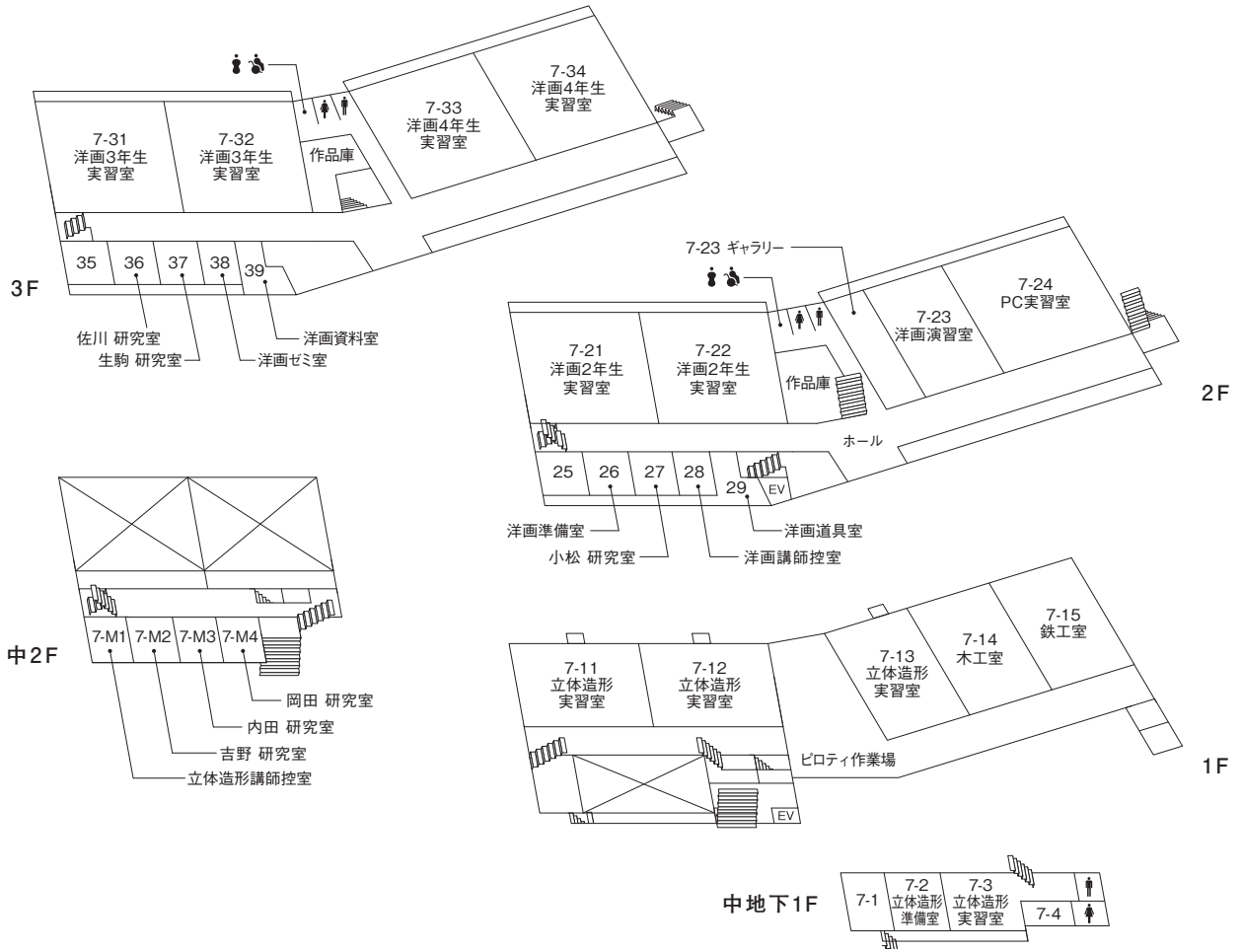
Z 自在館



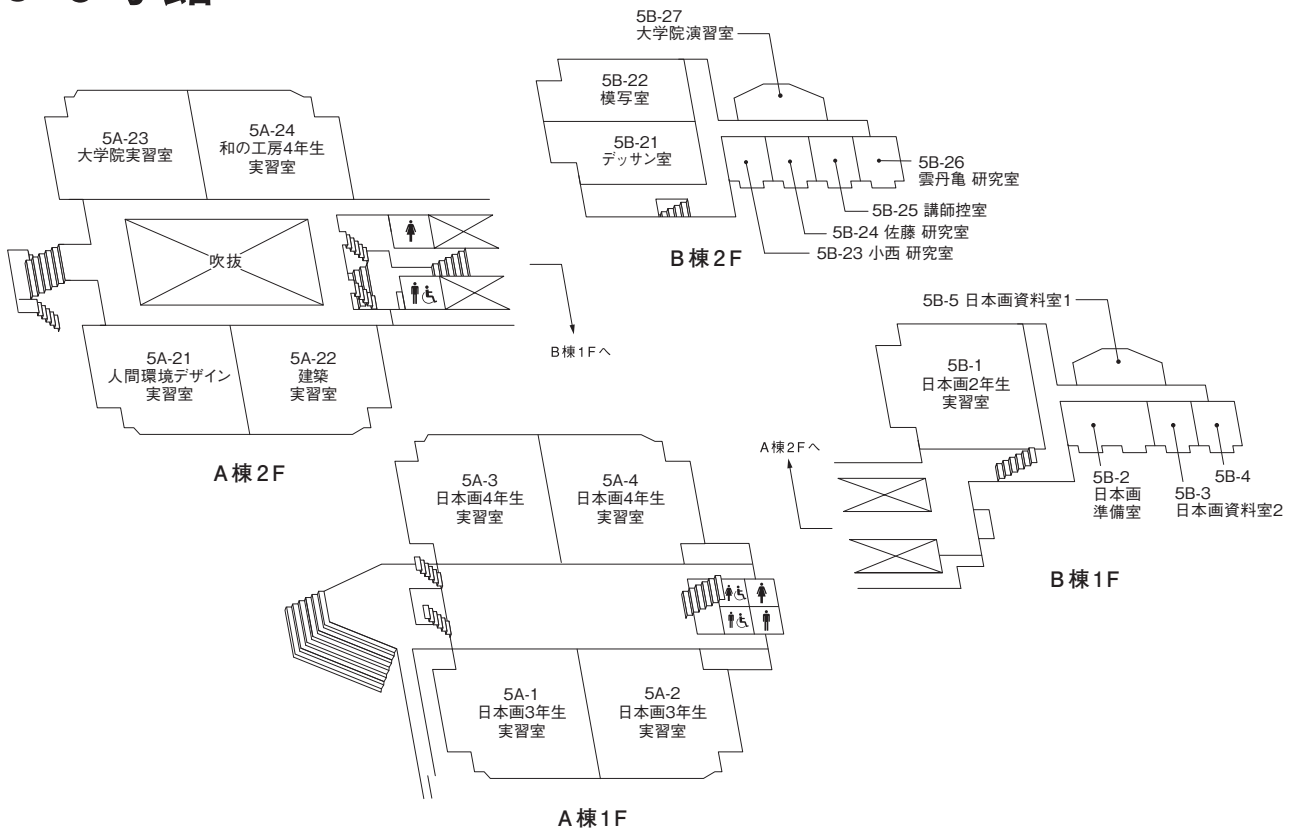
S 春秋館



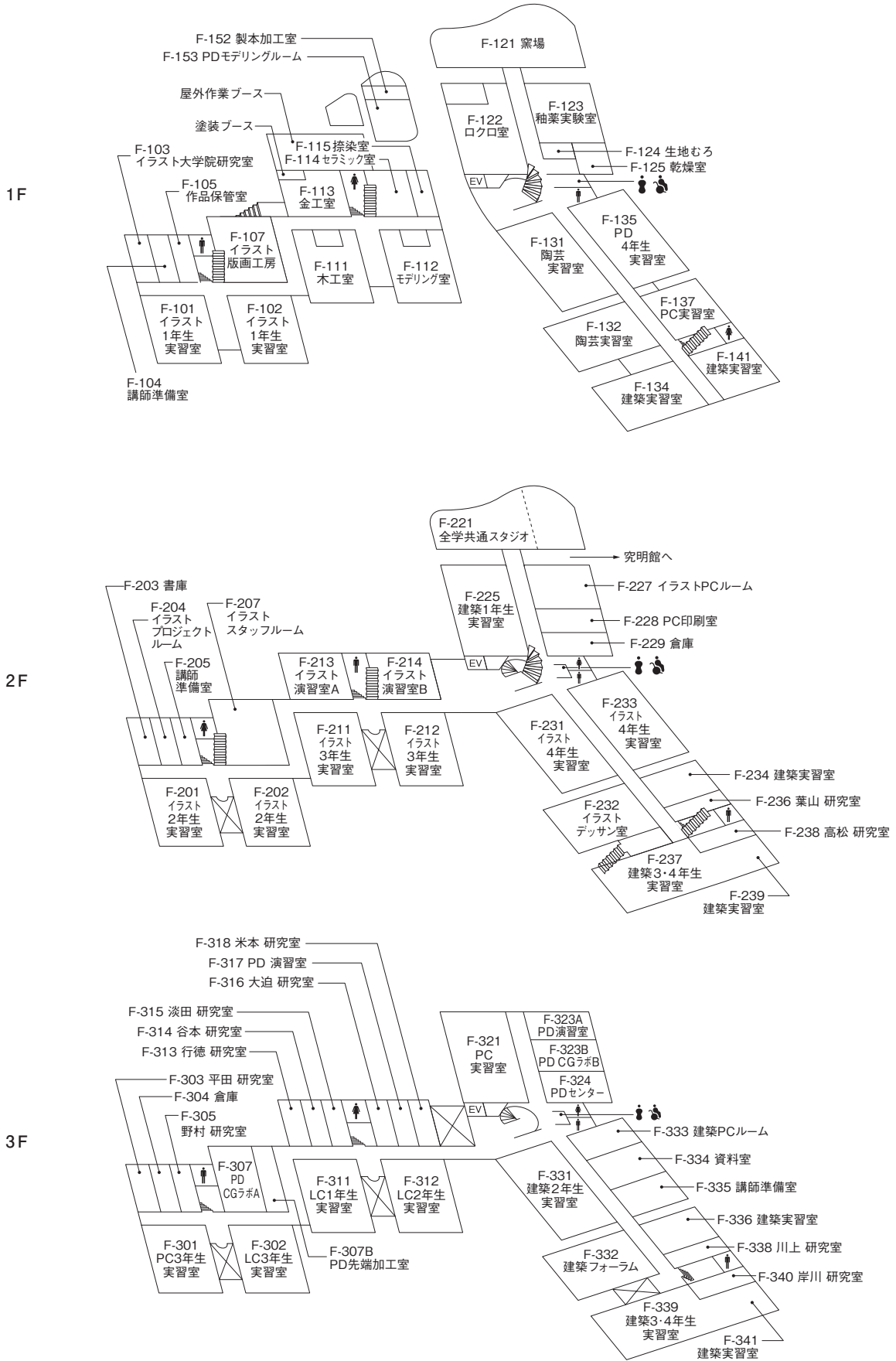
7 7号館



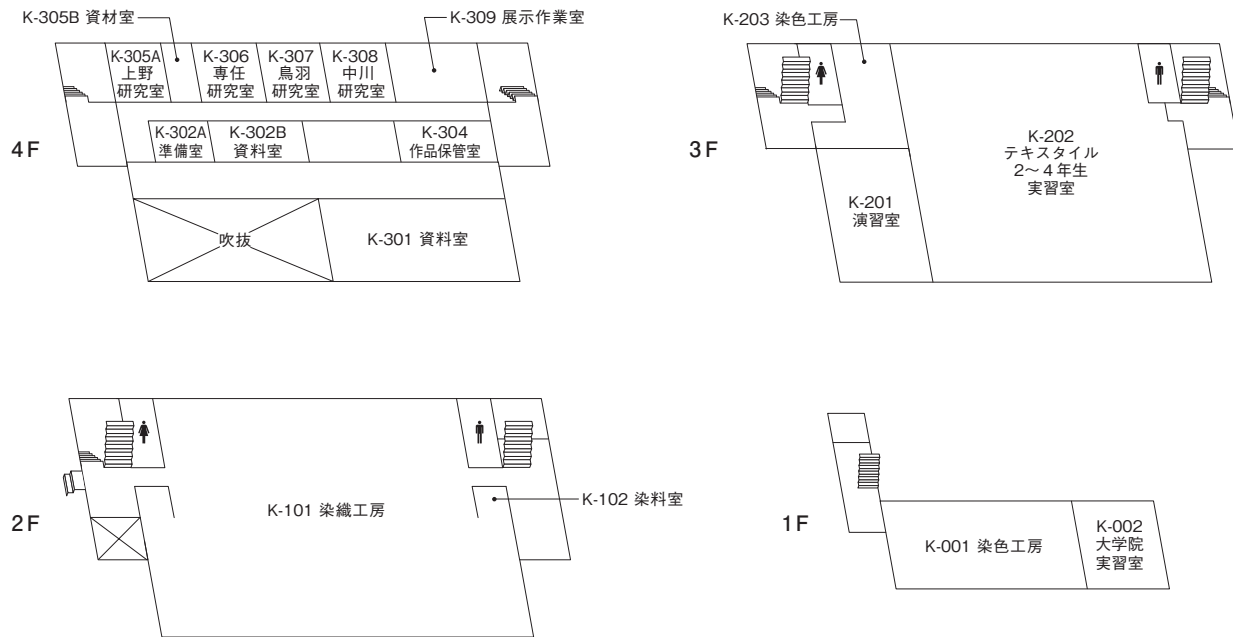
5 5号館



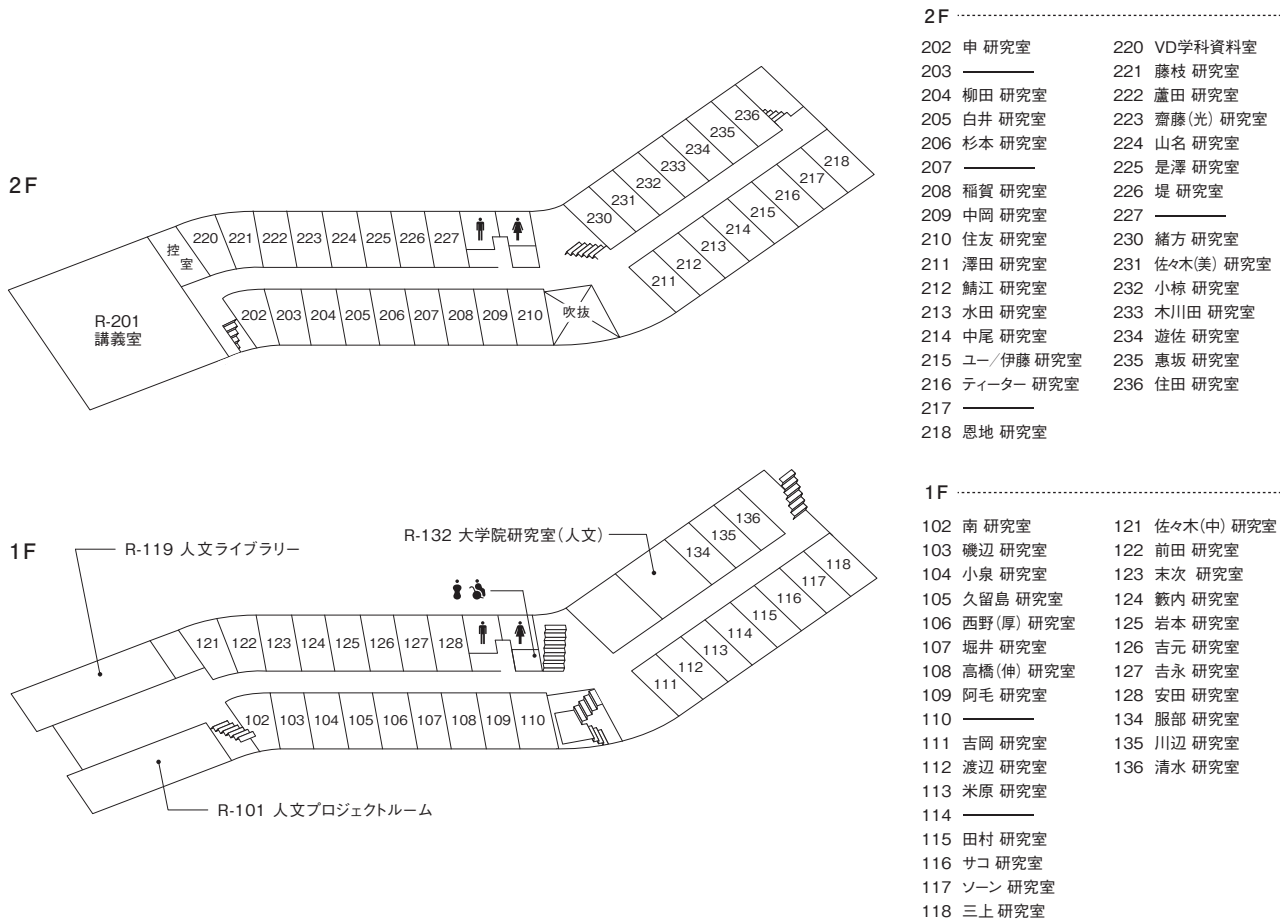
F 風光館



K 光彩館

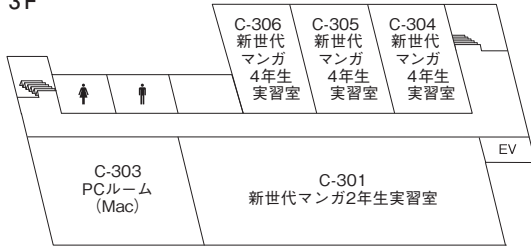


R 流溪館

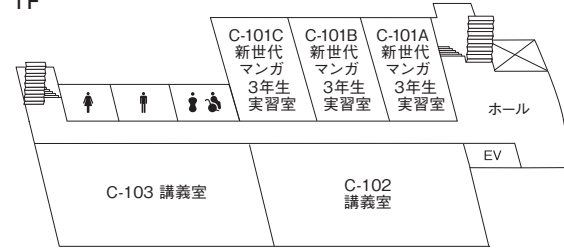


C 清風館

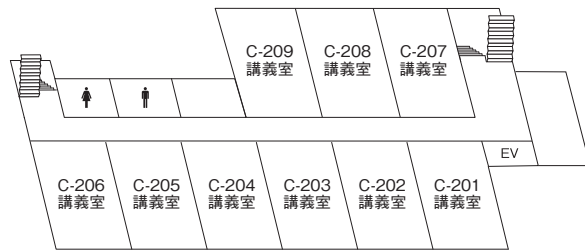
3F



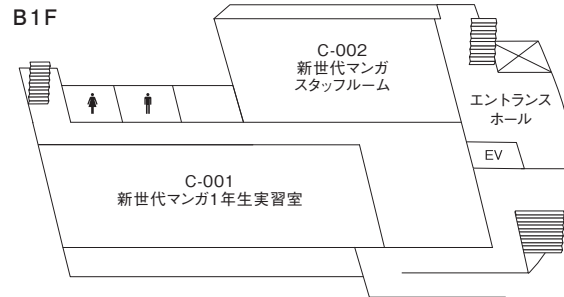
1F



2F

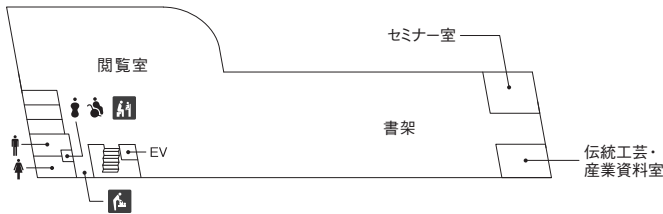


B1F

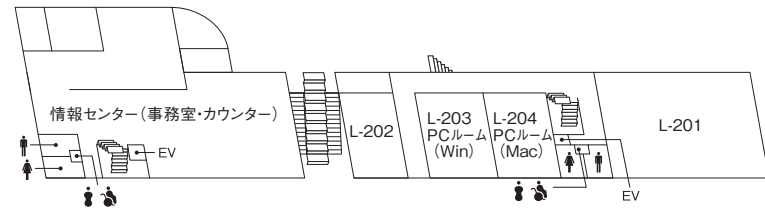


L 黎明館 J 情報館

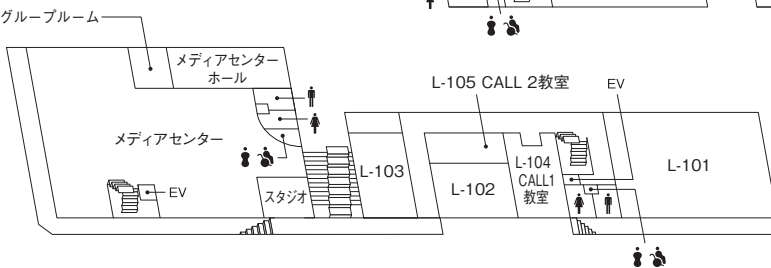
3F



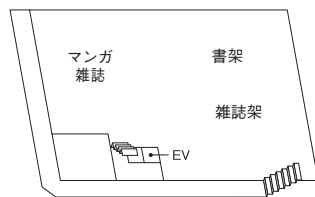
2F



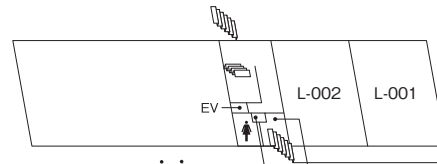
1F



BF

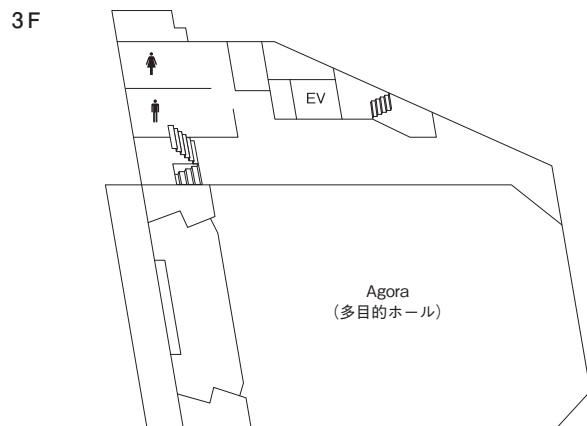
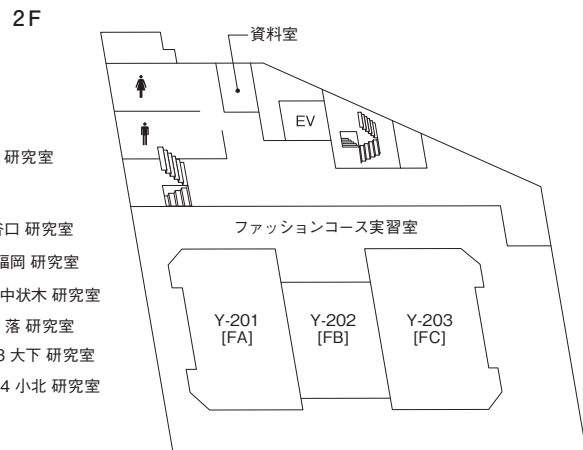
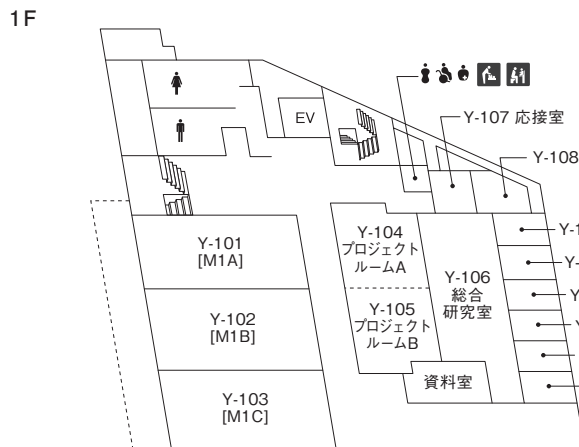
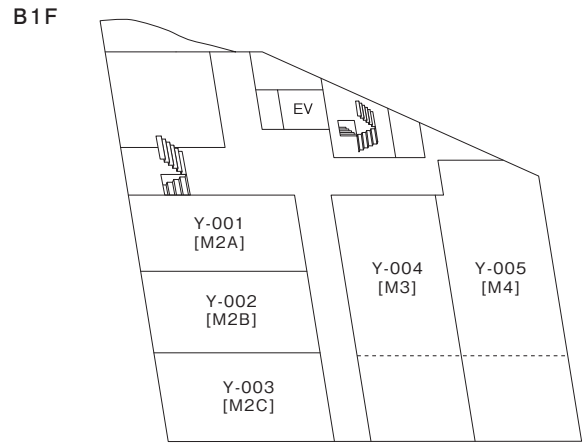
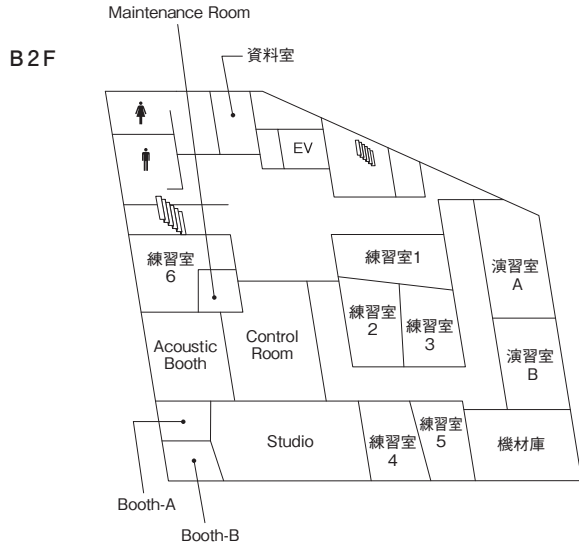


情報館

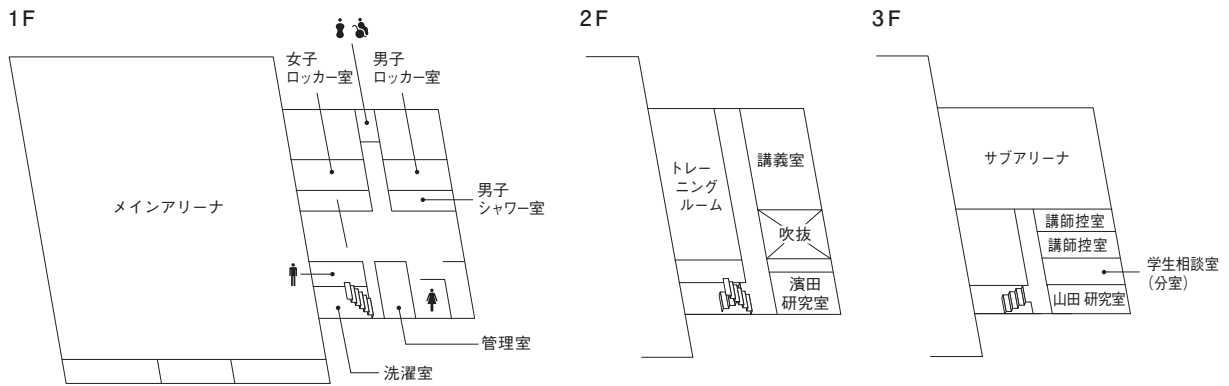


黎明館

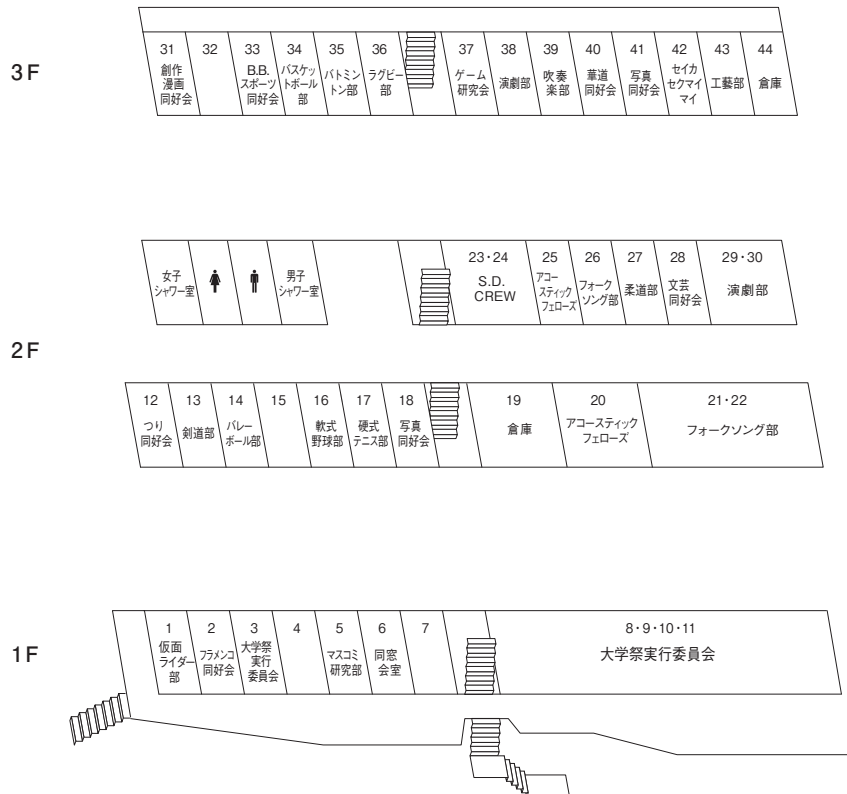
Y 友愛館



G 体育館



E 遠友館



学外施設利用について

学外施設利用について

(1) 京都国際マンガミュージアム

京都精華大学と京都市の共同事業として運営されており、本学在学学生は学生証の提示で入館料が無料となります。「マンガ」の収集・保存・保管・展示およびマンガ文化に関する調査研究及び事業を行うことを目的とした博物館機能と図書館機能を併せもった文化施設です。明治の雑誌や戦後の貸本などの貴重な歴史資料、現在の人気作品や海外の作品まで約30万点を所蔵し、そのうち約5万冊のマンガ単行本が閲覧可能です。

京都国際マンガミュージアム

京都市中京区烏丸通御池上ル(元龍池小学校)
TEL: 075-254-7414 FAX: 075-254-7424
営業時間: 10:00~18:00(最終入館時刻17:30)
休館日: 水曜日、年末年始、メンテナンス期間

(2) 京都精華大学サテライトスペース kara-S(カラス)

四条烏丸にある京都精華大学のサテライトスペース。展覧会やワークショップ、イベントなどを行う「ギャラリー」と、アートグッズの販売を行う「ショップ」の2つのスペースをもち、クリエイティブな活動によって生みだされるアイデアや作品を発信しています。展覧会やワークショップの実施、作品の委託販売ができます。使用については、社会連携センターで確認してください。

京都精華大学サテライトスペース kara-S

京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620番地
COCON KARASUMA 3F
TEL&FAX: 075-352-0844
営業時間: 11:00~20:00
最寄り駅: 地下鉄烏丸線「四条駅」
2番出口より四条烏丸西直結

(3) 丹後学舎(海の家)・朽木学舎(山の家)

在学学生は丹後学舎(海の家)と朽木学舎(山の家)を利用することができ、申し込みは利用日の1ヵ月前から受け付けます(先着順)。予約する際は、学生支援チーム(本館1F)のカウンターにて申込書を記入して予約手続きを行った後、経理チーム(本館4F)にて使用料の支払いをおこなってください。なお、丹後学舎の夏期の使用については申込多数のため抽選を行います。詳細は6月下旬頃に「セイカ・ポータル」等でお知らせします。

丹後学舎

京都府京丹後市丹後町上野894
TEL: 0772-76-0624

朽木学舎

滋賀県高島市朽木古屋472
TEL: 0740-38-5118

利用料金(一人あたり/自炊)

	在学生	在学生の家族	宿泊可能日数
通常期 (10~6月)	1泊500円 /1人	1泊500円 /1人	4泊5日まで
繁忙期 (7~9月)	1泊1,000円 /1人	1泊1,000円 /1人	2泊3日まで
正課授業 での利用	無料	—	授業 スケジュールに 準ずる

※在学生の家族は、同居もしくは同一生計世帯の家族の方に限ります。

(小学生は半額、未就学児は無料)

※チェックインは13:00以降17:00まで、チェックアウトは9:00以降13:00までに行うこと。それ以外の時間に利用を希望する場合は、事前に申込を行い、一泊分の利用料金を追加で支払うこと。

※キャンセルによる返金、人数変更の受付は、利用日の10日前まで受け付けます。

2021年度版

学修のてびき2021

2017～2020年度入学生向け

2021年4月発行

京都精華大学

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

<http://www.kyoto-seika.ac.jp>